

茨城県教育財団文化財調査報告第243集

つな やま
綱 山 遺 跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

下 巻

平成17年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第243集

つな やま
綱 山 遺 跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

下 巻

平成17年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

—下 巻—

第3章 調査の成果	
第3節 遺構と遺物	
5 平安時代の遺構と遺物	
(1) 竪穴住居跡	279
(2) 掘立柱建物跡	360
6 中世の遺構と遺物	403
(1) 地下式墳	403
(2) 土坑	404
7 その他の遺構と遺物	408
(1) 方形竪穴遺構	408
(2) 掘立柱建物跡	409
(3) 炭焼窯跡	414
(4) 井戸跡	417
(5) 火葬土坑	418
(6) 土坑	419
(7) 溝跡	457
(8) ビット群	459
(9) 遺構外出土遺物	469
遺構一覧表	472
第4節 まとめ	478
付 章	494
写真図版	

目 次

—下 巻—

第3章 調査の成果	
第3節 遺構と遺物	
5 平安時代の遺構と遺物	
(1) 竪穴住居跡	279
(2) 掘立柱建物跡	360
6 中世の遺構と遺物	403
(1) 地下式墳	403
(2) 土坑	404
7 その他の遺構と遺物	408
(1) 方形竪穴遺構	408
(2) 掘立柱建物跡	409
(3) 炭焼窯跡	414
(4) 井戸跡	417
(5) 火葬土坑	418
(6) 土坑	419
(7) 溝跡	457
(8) ビット群	459
(9) 遺構外出土遺物	469
遺構一覧表	472
第4節 まとめ	478
付 章	494
写真図版	

第3章 調査の成果

第3節 遺構と遺物

5 平安時代の遺構と遺物

今回の調査で平安時代の竪穴住居跡34軒、掘立柱建物跡32棟を確認した。以下、遺構の特徴と出土遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡(第255・256図)

位置 調査区南部のD3g6区、標高26mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.8mの方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は27~62cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竪 北壁中央部に付設され、壁を55cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで94cm、袖部幅134cmである。右袖は地山を掘り残した上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 濃い褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 明褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 濃い褐色 | 砂質粘土粒子中量、砂少量、ロームブロック炭化粒子微量 | 9 明褐色 | ローム粒子多量、砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 2か所。深さはP1が28cm、P2が61cmで、規模や配置から主柱穴と考えられるが、西側の柱穴は検出されなかった。

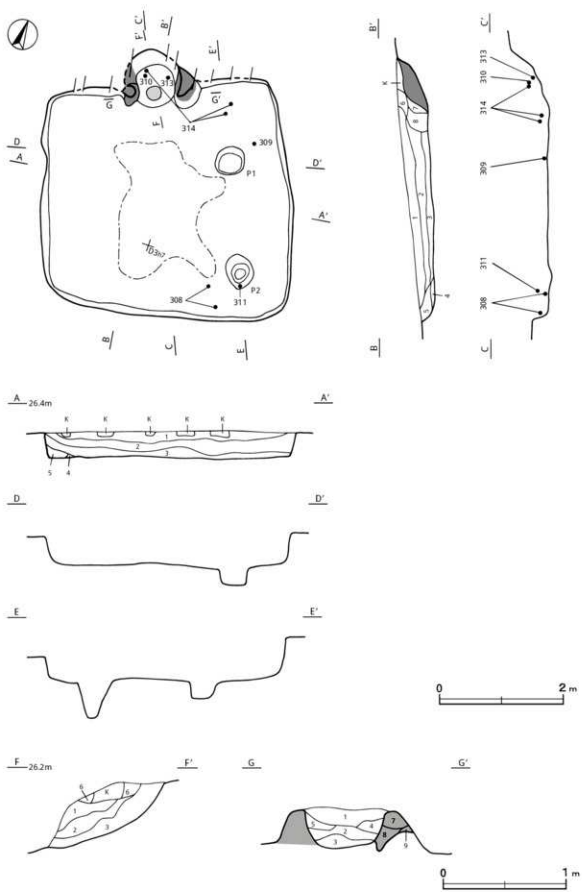
覆土 8層からなる。ローム粒子を多く含むが、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

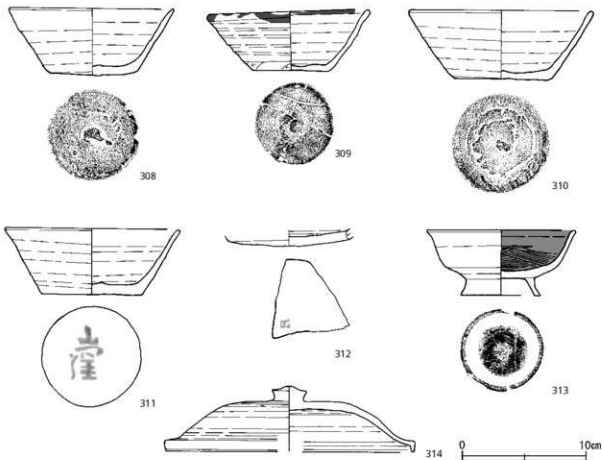
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、炭化物・甍沼ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・甍沼ブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、砂微量 |
| 3 暗褐色 | 甍沼ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、甍沼ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂微量 |

遺物出土状況 土師器片291点(坏類15, 甕類276), 須恵器片204点(坏類144, 甕類37, 蓋19, 盤4)が出土している。309は東壁寄りの覆土下層, 313は竪の覆土下層, 310は竪の覆土中層, 308・311は南壁寄りの覆土中層と下層からそれぞれ出土している。また312は覆土上層, 314は竪の覆土中層から北東コーナー付近の覆土中層にかけて散在した状態で出土しており、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第255图 第1号住居跡実測図



第256図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
308	須恵器	坏	132	5.3	7.0	長石・石英	にぶい黄	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	覆土中層 - 下層	100% PL75
309	須恵器	坏	128	4.9	6.2	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部下縁手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り	覆土下層	7% 口部内面 付着 底部回転 PL75
310	須恵器	坏	147	5.5	7.5	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	60% PL75
311	須恵器	坏	140	5.2	8.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層 - 下層	5% 底縁付着 PL75
312	須恵器	坏	-	(1.4)	9.7	長石・石英	灰黄	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土上層	1% 底縁付着 出 a
313	土師器	高台付坏	118	5.2	6.4	長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ削り後、高台削り付け	覆土下層	80% PL75
314	須恵器	甕	200	5.2	-	長石・石英・針状 鉱物	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ削り付け	覆土中層 - 覆土下層	40%

第2号住居跡 (第257・258図)

位置 調査区南部のD3i6区、標高25mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.8m、短軸3.7mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は14~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、南側に向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。南壁部と南西コーナ一部を除いて壁溝が確認されており、上幅12~14cm、深さ4~5cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を50cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで112cmで、袖部はほとんど遺存していない。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。第6・7層は掘り方の土層である。

土層解説

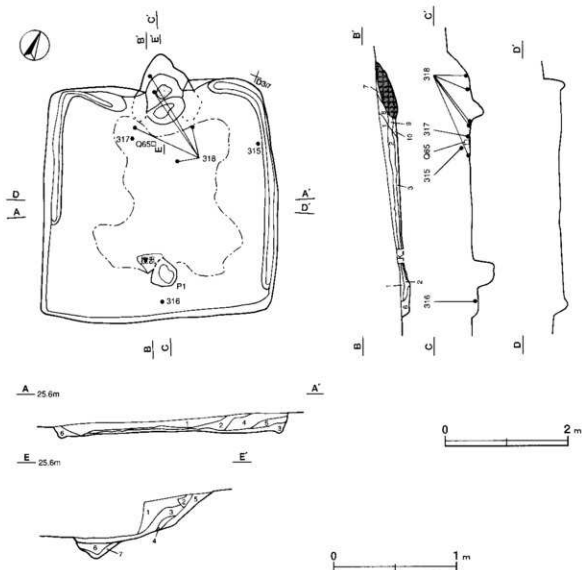
- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量 | 6 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 7 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 褐色 焼土粒子・粘土粒子中量 | |

ピット 1か所。P1は深さ32cmで、規模や配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

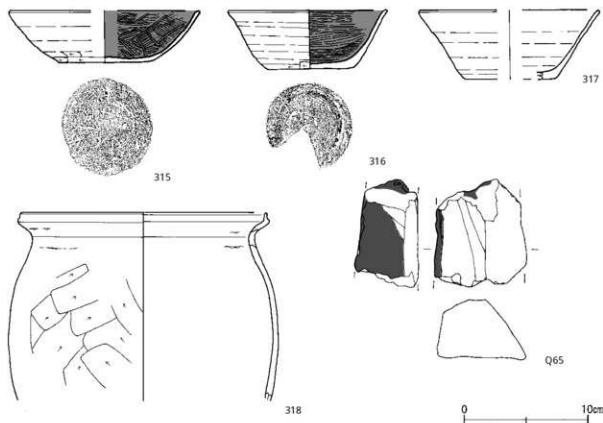
- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ローム粒子・砂微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・砂微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・産卵バミス微量 | 9 褐色 砂少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐色 砂少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | |
| 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |



第257図 第2号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片245点(坏類16, 甕類229), 須恵器片69点(坏類38, 甕類23, 蓋8), 石製品1点(袖材カ)が出土している。315は東壁寄りの覆土中層, 316は南壁寄りの覆土下層, 317・Q65は中央部の覆土下層, また318は甕の覆土下層から中央部の床面に散在して出土しており, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第258図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
315	土師器	坏	152	41	74	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へら磨き, 体部下縁へら削り, 底部回転へら切り	覆土中層	50%
316	土師器	坏	126	47	68	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄橙	普通	体部内面へら磨き, 体部下縁へら削り, 底部回転へら切り	覆土下層	50%
317	須恵器	坏	145	5.5	72	長石・石英・赤色粘土	橙	不良	底部回転へら切り	覆土下層	20%
318	土師器	甕	199	(150)	-	長石・雲母・赤色粘土	橙	普通	口辺部横ナデ, 体部外面へら削り, 内面へらナデ	甕覆土下層-床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q65	袖材カ	(8.6)	7.4	5.1	(165.9)	凝灰岩	厚減面あり, 一部欠損	覆土下層	煤付着

第3号住居跡(第259・260図)

位置 調査区南部のE3a9区, 標高25mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 東壁は調査区域外に延びているため, 全体の規模は不明である。長軸は3.1m, 短軸は1.7mが確認された。方形または長方形と想定され, 主軸方向はN-21°-Wである。壁高は32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され、壁を34cm掘り込んで砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで128cmである。火床部は浅く掘りくぼめられており、煙道部は火床部から緩やかに外傾して立ち上がり、その後には直立している。

竈土層解説

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・微量 | 5 褐色 ローム粒子多量、産卵バミス微量 |
| 2 褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子・砂質粘土微量 |
| 3 に白い褐色 砂質粘土粒子中量、炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 に白い褐色 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 4 に白い褐色 砂質粘土粒子中量、炭化物・焼土粒子少量、ローム粒子微量 | |

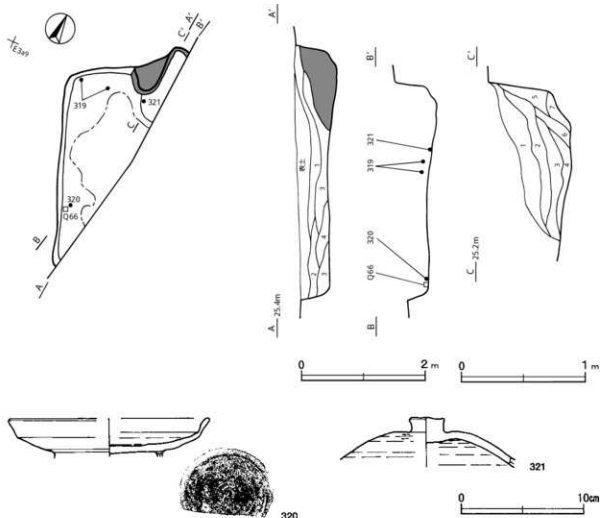
覆土 4層からなり、ロームブロックを多く含み、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

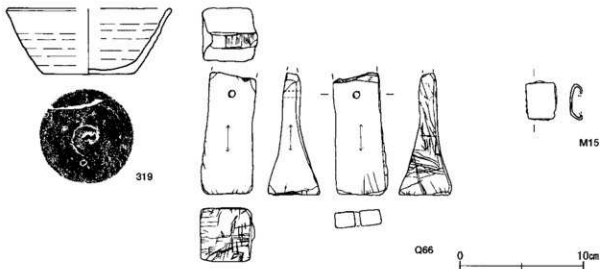
- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量 | 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量 | 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片208点(壺類), 須恵器片41点(坏類28, 蓋11, 盤2), 石器1点(砥石), 鉄製品1点(鍼)が出土している。319は北西コーナー付近の覆土下層, 320, Q66は西壁寄りの床面, 321は竈手前の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第259図 第3号住居跡・出土遺物実測図



第260図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第259・260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
319	須恵器	坏	(130)	52	72	長石・石英・雲母、 鉄酸配物・赤色灰子	にぶい煙	不良	底部回転ヘラ切り後、 一方側のヘラ削り	覆土下層	50% PL75
320	須恵器	甕	(16.1)	(3.0)	-	長石・石英・赤色 灰子	灰赤	普通	体部内外面ロクロナデ、 底部回転ヘラ切り後、 高台貼り付け	床面	30% 底部外面 観察用
321	須恵器	蓋	-	(3.9)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後、 つまみ貼り付け	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q66	磁石	(9.6)	4.1	4.2	(156.8)	凝灰岩	端部を穿孔。紙面3面、溝状痕	床面	PL83
M15	鉢	(2.9)	2.4	(0.9)	(7.1)	鉄	一部欠損	覆土	

第7号住居跡 (第261～265図)

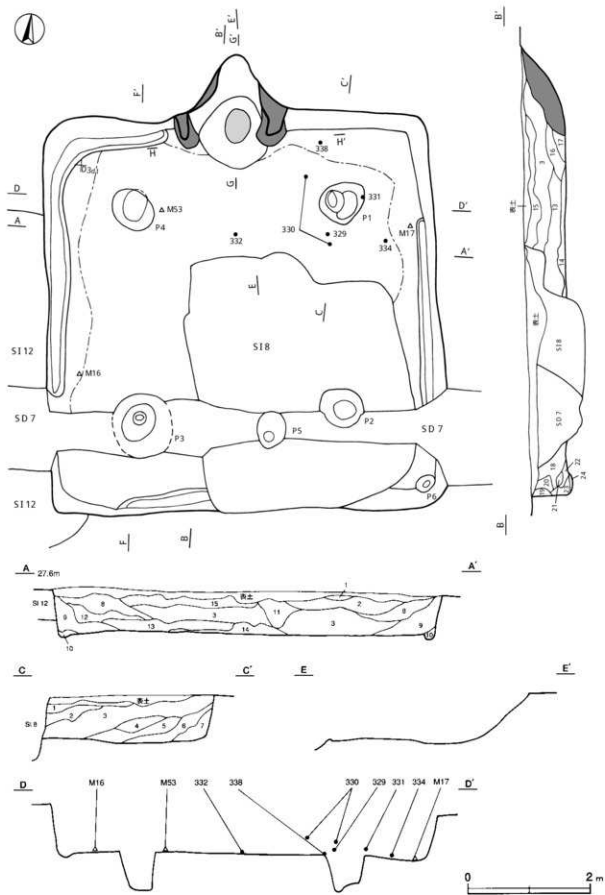
位置 調査区中央部のD3d1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第12号住居跡を掘り込み、第8号住居跡と第7号溝跡に掘り込まれている。

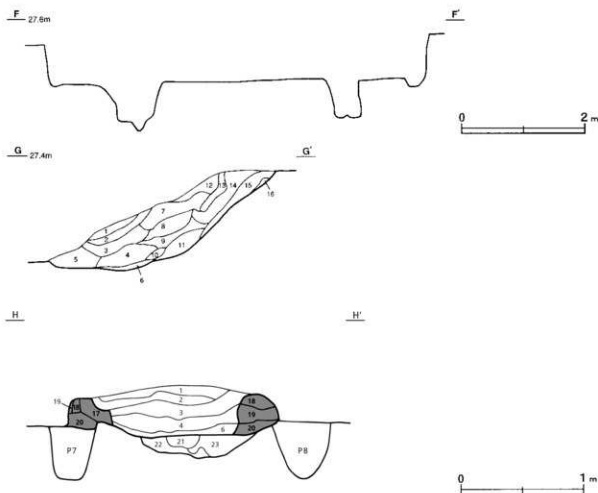
規模と形状 長軸6.4m、短軸6.3mの方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は64～75cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、ルームを用いた貼床であり、壁際以外は踏み固められている。壁溝は、北東・南西コーナー部以外で確認されているが、第8号住居跡に掘り込まれているため明確ではない。上幅は14～24cm、深さ4～14cmで、断面形はU字状を呈している。床面はローンプロックを多く含み、よく締まった貼床である。

竈 北壁中央部に付設され、壁を94cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで184cm、袖部幅174cmである。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がっている。袖部の左右には22～46cmのピットが掘り込まれている。



第261图 第7号住居跡实测图(1)



第262図 第7号住居跡実測図(2)

瓦土层解説

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 におい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・礫微量 | 14 におい褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・礫微量 |
| 2 におい褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子・礫微量 | 15 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化物・礫微量 |
| 3 褐色 | 砂質粘土粒子多量、炭化粒子・砂・礫微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・砂微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、砂少量、粘土ブロック・炭化物微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、礫少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物・砂少量、砂質粘土ブロック・礫微量 | 18 におい褐色 | 砂中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、礫少量、砂質粘土粒子・炭化粒子微量 | 19 におい褐色 | 砂質粘土粒子多量、礫微量 |
| 7 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 20 褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 21 におい褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 9 褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 22 赤褐色 | 焼土ブロック・礫沼バミス少量、ローム粒子微量 |
| 10 におい褐色 | 砂質粘土粒子中量、砂少量、炭化粒子微量 | 23 におい褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | | |
| 12 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 13 褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

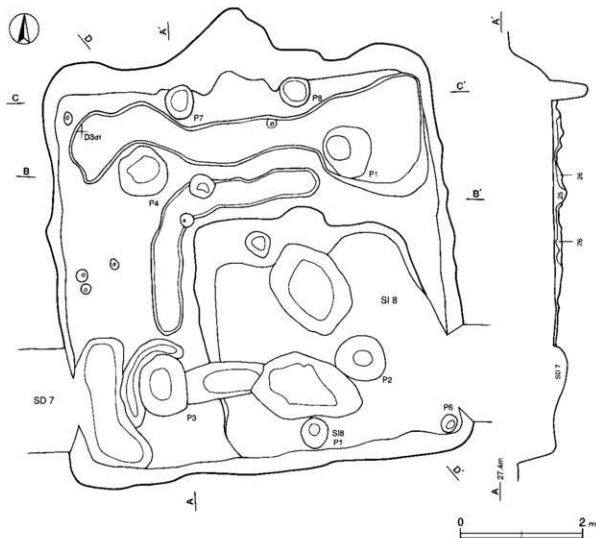
ピット 8か所。P1～P4は深さ58～79cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7・P8は深さ22～46cmであり、竈に伴う柱穴の可能性が考えられる。P6は深さ15cmであるが性格は不明である。

覆土 24層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第25～27層はロームブロックを多量に含み、よく締まった貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
2	褐色	ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物・砂・炭沼パミス微量	14	暗褐色	砂質粘土粒子少量・ロームブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・糠微量	15	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16	灰褐色	砂質粘土粒子少量・ロームブロック・炭化物微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	17	灰褐色	砂質粘土粒子多量・炭化物・砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・糠微量	18	暗褐色	炭化物・ローム粒子微量
7	灰褐色	炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子・砂微量	19	褐色	ローム粒子中量
8	暗褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化物・炭沼パミス・糠微量	20	暗褐色	ローム粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・糠微量	21	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
10	褐色	ローム粒子少量・炭化物微量	22	暗褐色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子微量
11	褐色	ロームブロック・炭化物・炭沼パミス・砂質粘土粒子微量	23	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
12	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	24	褐色	ローム粒子少量
			25	褐色	ロームブロック中量・炭沼ブロック・炭化物微量
			26	褐色	ロームブロック中量・炭沼ブロック・炭化粒子微量
			27	褐色	ロームブロック多量・炭沼パミス微量

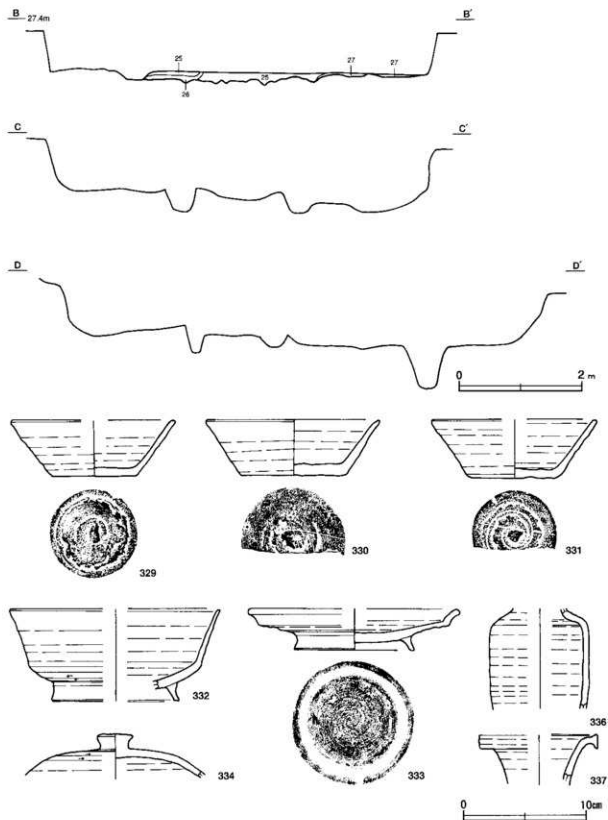
遺物出土状況 土師器片1071点(坏類27, 甕類1044), 須恵器片557点(坏類387, 甕類114, 蓋44, 盤11, 円面硯1), 灰釉陶器片1点(蓋), 土製品1点(球状土錘), 石製品1点(紡錘車), 鉄製品2点(紡錘車, 鎌)が出土している。331は北東コーナー部, 338は竈右側の覆土下層から出土し, 334・M17は東壁寄り, M16は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土し, 廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また, TP20は覆土上層, 330



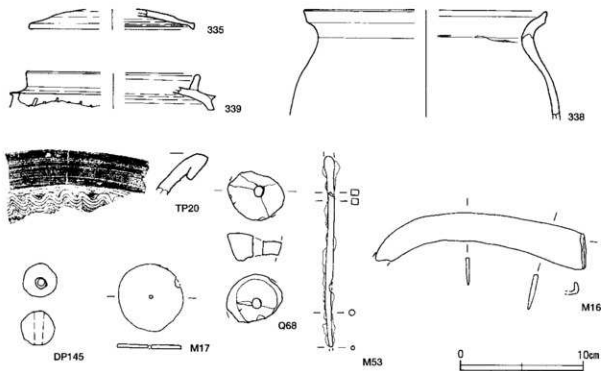
第263図 第7号住居跡実測図(3)

は中央部の覆土中層から下層、333・336は覆土中、335、DP145は覆土中層からそれぞれ出土し、廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第264図 第7号住居跡・出土遺物実測図



第265図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第264・265図)

番号	種別	器種	口径	器高	直径	胎土	色調	硬成	手法の特徴	出土位置	備考
329	須恵器	坏	[130]	4.5	7.0	長石・石英・赤色 粒子・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土下層	30% PL75
330	須恵器	坏	14.0	4.4	8.4	長石・針状鉱物	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、一方のヘラ削り	覆土中層 ～下層	50% 底部残書き「キ」 PL75
331	須恵器	坏	[132]	4.7	6.8	長石・石英・針状 鉱物	にぶい黄褐色	不良	底部回転ヘラ切り	覆土下層	40% 底部残書き「一」 PL75
332	須恵器	高台付坏	[170]	7.4	[103]	長石・石英・針状 鉱物	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	覆土下層	30%
333	須恵器	盤	[16.4]	3.3	9.8	長石・石英・針状 鉱物	灰	普通	体部内・外面ロクロナデ、底部回転ヘラ削り後、高台 盛り付け	覆土	70% PL75
334	須恵器	蓋	-	(3.4)	-	長石・石英	灰	普通	天井部周囲の回転ヘラ削り後、つまみ盛り付け	覆土下層	40%
335	灰陶器	蓋	[13.4]	(1.6)	-	石英	灰白	良好	ロクロナデ、粘着は刷毛塗り	覆土中層	10%
336	須恵器	長頸壺	-	(8.0)	-	長石・黒色粒子	青灰	普通	内外面ともに鋭いロクロ目、体部外面縦方向のナデ 頸部に縦合痕	覆土	20%
337	須恵器	長頸壺	[9.6]	(4.0)	-	長石	灰	不良	体部内・外面ロクロナデ	覆土中層	5%
338	土師器	甕	[19.6]	(8.4)	-	長石・石英・炭化・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ナデ、内面ナデ	覆土下層	5%
339	須恵器	門面甕	[142]	(2.8)	-	長石	灰	普通	肩部外周に隆起型取り付け、胴台部外面棒状工具による 縦位の沈線	覆土下層	10%
TP20	須恵器	甕	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	青灰	良好	頸部外面平行叩き後、5条の衝線波状文	覆土上層	5%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP145	球状土師	2.7	2.7	0.8	18.2	土(長石)	ナデ	覆土中層	
Q68	結晶中	(5.0)	2.2	0.8	(34.2)	乾板岩	断面台形、一部欠損	覆土下層	PL82
M16	鎌	(17.0)	4.7	0.4	(51.6)	鉄	曲刃鎌	覆土下層	PL88

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M17	特種車	5.3	0.3	0.3	(356)	鉄	輪郭欠損	覆土下層	PL88
M53	竈	(15.0)	0.9	0.5	(200)	鉄	長直型扉式ナ、刃先・覆輪・蓋一部欠損	覆土下層	

第 8 号住居跡 (第266図)

位置 調査区中央部のD3d1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第7号住居跡を掘り込み、第7号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.3mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は64~92cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、ロームを用いた貼床であり、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され、壁を58cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅は150cmで、袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、炭沼バミス微量	5 褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒少量、炭化粒子微量
2 暗赤褐色	砂中量、炭化物・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭沼バミス微量	6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂・炭沼バミス微量
3 濃い赤褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子・砂少量、焼土ブロック・炭沼バミス微量	7 濃い赤褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭沼バミス少量
4 黒色	炭化粒子多量、砂中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭沼バミス・糠微量	8 暗褐色	砂質粘土ブロック・炭沼バミス少量、ロームブロック微量

棚状施設 竈の西側に設けられており、中央やや東寄りの部分は、P2により掘り込まれている。規模は奥行65cm、幅96cmの長方形状で、床面から62cmの高さにある。棚状施設は、住居の掘り込み後に掘り込んだものと考えられる。また、砂質粘土を多くを含む構築土を3~7cm壁と竈の掘り込み部分に貼り付けたものと考えられる。

棚状施設土層解説

- 1 濃い黄褐色 砂質粘土粒子中量、砂少量、ローム粒子微量

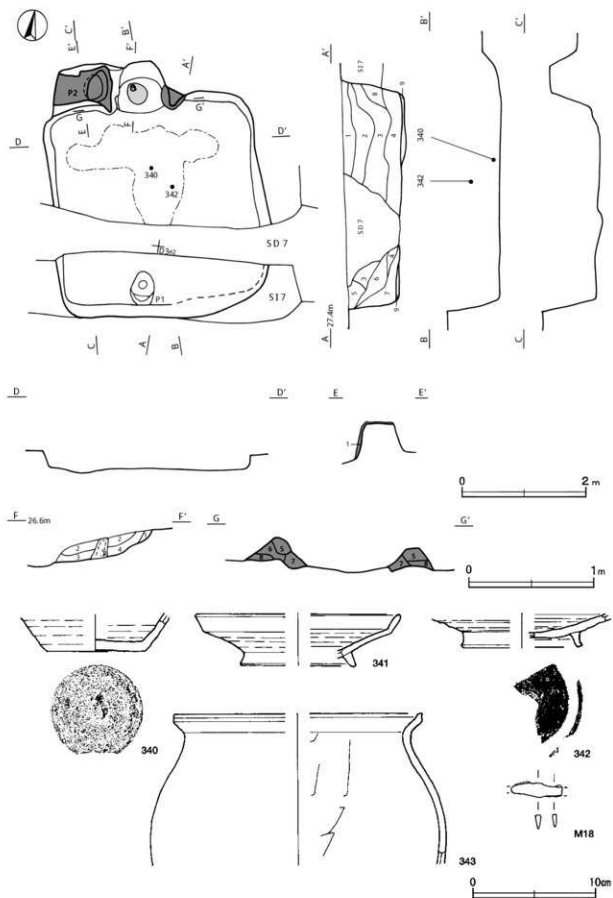
ピット 2か所。P1は深さ25cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ45cmであり、棚状施設に伴うピットである可能性も考えられるが、明確ではない。

覆土 8層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含み、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。第9層は、ロームブロック・粘土粒子を含み、よく締まった貼床の層である。

土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・炭沼バミス微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・炭沼バミス微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭沼バミス微量、炭化物・焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭沼バミス微量
4 褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭沼バミス微量	9 暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭沼バミス微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片216点(坏類4、甕類212)、須恵器片122点(坏類83、甕類21、盤10、蓋8)、灰陶器片6点(壺)、鉄製品1点(釘)が出土している。343は竈の覆土中、340は中央部の覆土下層、341は覆土下層、342は中央部の覆土中層、M18は覆土中からそれぞれ出土し、いずれも廃棄されたものと考えられる。図示できなかったが、竈の火床面からは、土製の支脚が出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。所見 時期は、9世紀前葉に比定される第7号住居跡を掘り込んでいることと、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第266图 第8号住居跡・出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表 (第266図)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
340	須恵器	杯	-	(30)	7.8	長石・石英・針状鉱物	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	覆土下層	20% 底部敷き [×]
341	須恵器	盤	(16.4)	4.1	(9.4)	長石・石英	灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	20%
342	須恵器	盤	-	(27)	(9.8)	長石・石英	灰	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土中層	20%
343	土師器	壺	(200)	(12.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、体部内面ナデ	覆土	5%

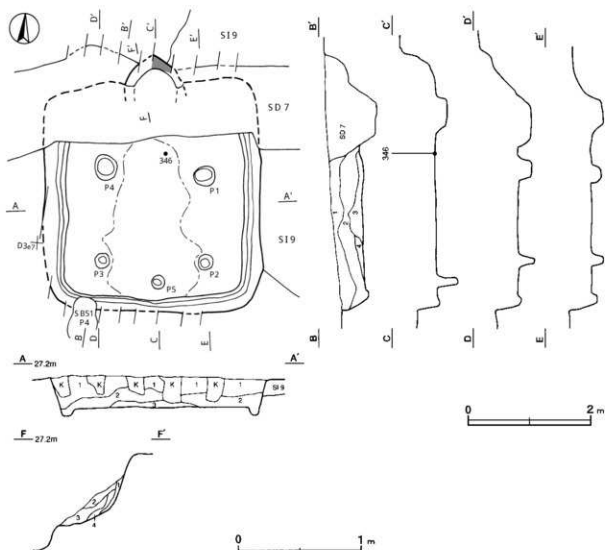
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	刀子	(4.2)	1.1	0.5	(3.2)	鉄	写部、第一節欠損、横区あり	覆土	

第10号住居跡 (第267・268図)

位置 調査区南部のD3d8区、標高27mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第51号掘立柱建物跡及び第7号溝跡に掘り込まれ、第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.5mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は40~50cmで、外傾して



第267図 第10号住居跡実測図

立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周していると考えられるが、第7号溝跡に掘り込まれているため北壁部は不明である。上幅14~18cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設されているが、第7号溝跡に掘り込まれているため、壁外に掘り込んで構築している状況だけが確認できた。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 4 濃い褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、焼上粒子微量 | | |
| 3 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1~P4の深さは20~27cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ36cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

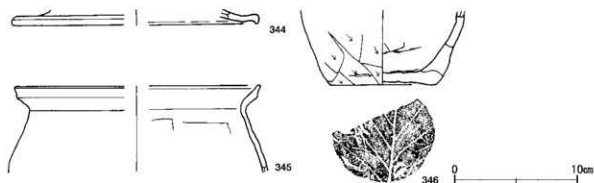
覆土 4層からなり、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片101点(坏類9, 甕類92), 須恵器片23点(坏類20, 甕類1, 蓋2), 土製品4点(支脚)が出土している。345は竈の覆土中, 346は中央部の床面, 344は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第268図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	須恵器	蓋	(20.0)	(1.1)	-	長石・針状鉱物	灰キリープ	普通	産部内外面ロクロナデ	覆土下層	5%
345	土師器	甕	(18.8)	(6.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口辺部内・外表面ナデ, 体部内面ナデ	被覆土	5%
346	土師器	甕	-	(5.9)	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐色	普通	体部内面ナデ, 体部外面下層へう掘り, 底層本葉製	床面	5%

第13号住居跡 (第269・270図)

位置 調査区南部のD2f0区、標高27mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.6m、短軸3.0mの長方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は24~38cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、東へ向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され、壁を42cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ78cmである。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|------|-------------------------|
| 1 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・砂微量 |
| 3 濃い赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 7 褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |

ピット 3か所。P1は深さ26cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ32cm、P3は22cmであり、配置から支柱穴の可能性も考えられるが、明確ではない。

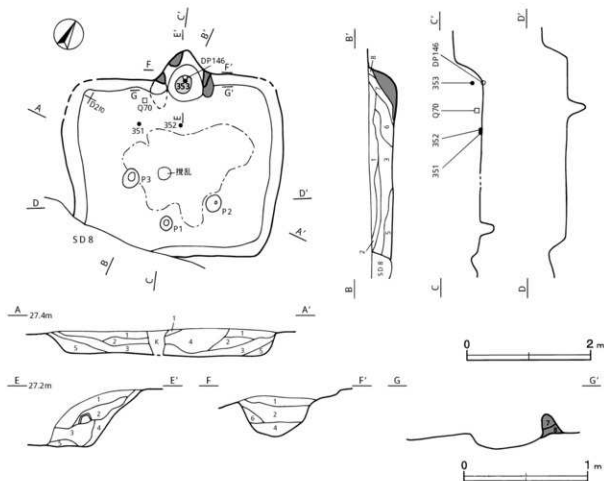
覆土 8層からなり、ローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

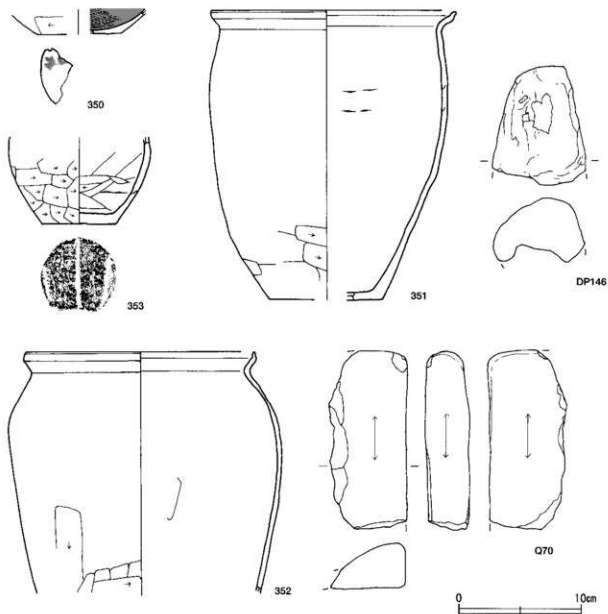
- | | | | |
|-------|-----------------|-------|----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化物微量 | 7 暗褐色 | 砂質焼土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片190点（坏類26，堿類164），須恵器片35点（坏類27，堿類7，高盤1），土製品1点（支脚），石器1点（砥石）が出土している。350は覆土下層，353は竈の覆土中層から逆位で出土し、その下位からDP146が出土している。351・352は中央部の覆土下層，Q70は竈西側の覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第269図 第13号住居跡実測図



第270図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
350	土器器	坏	-	(20)	(67)	長石・石英・雲母・斜状鉱物・赤色胎子	にぶい澄	普通	体部内面へう磨き, 体部外面下縁へう削り, 底部回転へう削り	覆土下層	10% 赤書「井」※
351	土器器	甕	19.8	23.0	(9.2)	長石・石英・雲母	にぶい澄	普通	口辺部内外面横ナデ, 体部内面ナデ, 体部下縁へう削り	覆土下層	70% PL29
352	土器器	甕	18.6	(18.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナデ, 体部内面ナデ, 体部下縁へう削り	覆土下層	60%
353	土器器	甕	-	(7.0)	6.0	長石・石英・雲母	にぶい澄	普通	体部内面へう磨き, 体部外面へう削り, 底部一方向のへう削り, 底部木葉痕	覆土下層 中層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP146	支脚	(9.5)	(7.6)	(5.1)	(104.3)	土(長石)	ナデ, 焼熟痕	覆土下層	
Q70	磁石	(14.2)	(6.3)	3.7	(497.3)	砂岩	紙面3面, 焼熟痕, 一部欠損	覆土下層	

第14号住居跡 (第271図)

位置 調査区南部のD2i8区、標高27mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第311号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.4m、短軸3.2mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は35~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周し、上幅10~12cm、深さ5~6cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 中心部が第311号土坑に掘り込まれているため、袖部のみが残存し、袖部幅は120cmである。

ピット 2か所。P1は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P2は、深さ18cmで、位置と形状から出入口施設に伴うピットとも考えられるが、性格は不明である。

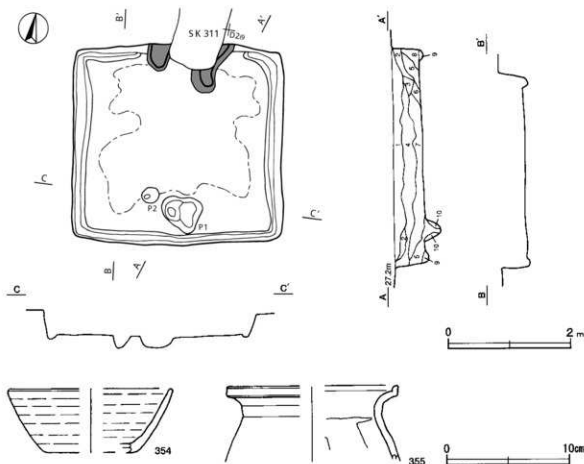
覆土 10層からなり、ロームブロックや焼土ブロックを多く含んだ人為地積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | 砂少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片92点(甕類89、高坏2、器台1)、須恵器片32点(坏類25、甕類6、蓋1)が出土している。355は竈の覆土中、354は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第271図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第271図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特 徴	出土位置	備考
354	須恵器	坏	(133)	51	(74)	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰黄	普通	口辺部、体部内外面クロコナテ	覆土	20%
355	土師器	甕	(138)	(60)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口辺部内外面横ナテ、体部内面ヘラナテ	覆土	5%

第15号住居跡 (第272・273図)

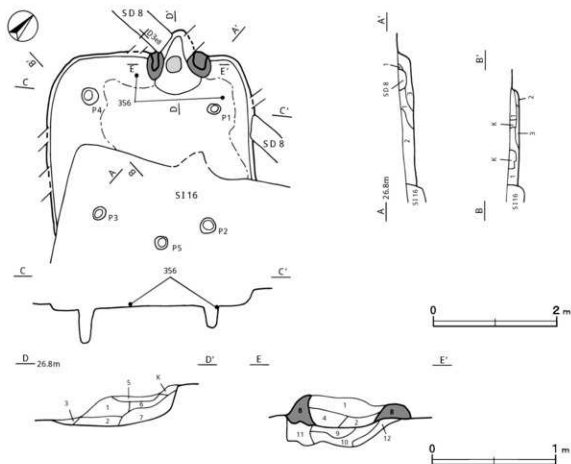
位置 調査区南部のD3f8区、標高26mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第16号住居跡と第8号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が第16号住居跡に掘り込まれているため、長軸3.4m、短軸は2.7mだけが確認できた。平面形は支柱穴と出入口ピットの配列状況から、N-43°-Wを主軸とする長方形と推定される。壁高は8~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、西へ向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部やや北寄りに付設され、壁を38cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで102cm、袖部幅102cmであり、袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。



第272図 第15号住居跡実測図

覆土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	8 褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・砂少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂微量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子・砂微量	12 褐色	ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 灰褐色	砂少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
7 暗褐色	砂少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化物微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ25～56cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ41cmであり、出入口施設に伴うピットと考えられる。

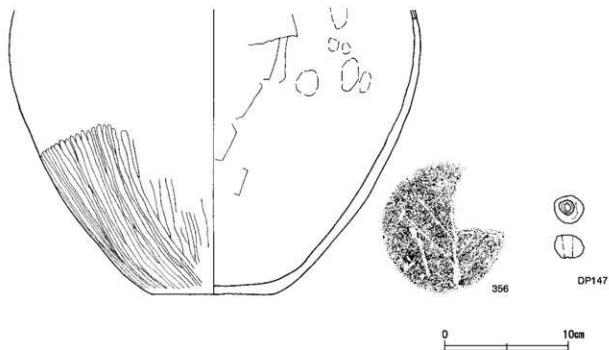
覆土 3層からなり、ロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック多量	3 褐色	ローム粒子多量
2 褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片42点(甕類)、須恵器片1点(坏類)、土製品1点(球状土鍾)が出土している。ほとんどが細片で、図示できたものは竈の左側と北コーナー付近の覆土下層から出土した356と、竈の覆土中から出土したDP147だけである。

所見 時期は、第16号住居跡に掘り込まれていることや出土土器から、9世紀前葉と考えられる。



第273図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表(第273図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
356	土師器	甕	-	(227)	10.0	長石・実砂	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ、体部外面下縁ヘラ巻き、指頭圧成、底部本敷	覆土下層	40%	
番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
DP147	球状土鍾	1.8	2.3	0.8	9.1	十(長石)	ナデ				竈覆土	

第16号住居跡 (第274・275図)

位置 調査区南部のD3f8区、標高26mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

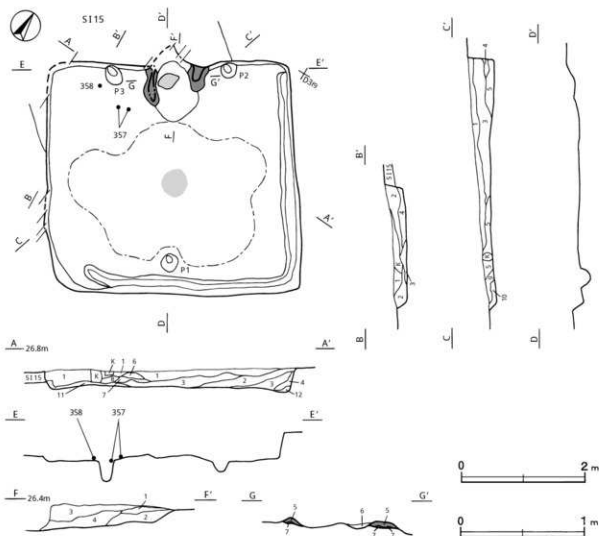
規模と形状 長軸4.0m、短軸3.7mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は12~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央が踏み固められている。壁溝が北東壁際から南東壁際にかけて確認されており、上幅12~23cm、深さ3~4cmで、断面形はU字状である。また、中央部の床面から長径48cm、短径44cmの円状に焼土が確認され、炉の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

竈 北壁中央部に付設され、壁を32cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅は95cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・微量 | 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 3 におい褐色 砂質粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子・微量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | |



第274図 第16号住居跡実測図

ピット 3か所。深さはP1は17cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は19cm, P3が32cmで、いずれも壁際から確認されており、竈に関わるピットと考えられる。

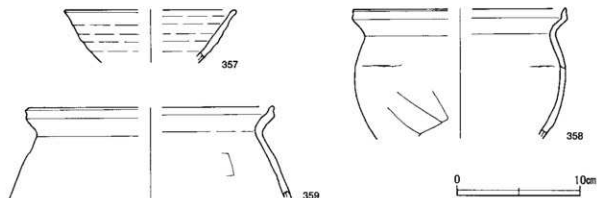
覆土 12層からなり、下層にロームブロックを多量に含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量	7	褐色	ロームブロック・炭化物少量(粘性弱い)
2	暗褐色	ローム粒子多量	8	褐色	ロームブロック中量、炭化物粒子少量
3	褐色	ロームブロック多量	9	暗褐色	ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック中量	10	褐色	ローム粒子中量
5	暗褐色	ロームブロック少量	11	褐色	ロームブロック中量(粘まり弱い)
6	褐色	ロームブロック・炭化物少量	12	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片78点(坏類8, 須恵類70), 須恵器片19点(坏類14, 須恵類4, 蓋1)が出土している。ほとんどが細片のため図示できたものは、北西コーナー部の床面から出土した358, 竈左側の覆土下層から出土した357, 覆土上層から出土した359だけである。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第275図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表(第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	須恵器	坏	[13.6]	(4.2)	-	長石・針状鉱物	灰	普通	口辺部、体部内外面クロクナテ	覆土下層	20%
358	土師器	壺	[17.1]	(10.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい煙	普通	口辺部内外面黒ナテ、体部内外面ヘラナテ	床面	10%
359	土師器	壺	[19.8]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	煙	普通	口辺部内外面黒ナテ、体部内外面ヘラナテ	覆土上層	5%

第17号住居跡(第276~280図)

位置 調査区南部のD3f2区、標高27mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第27号住居跡を掘り込み、第40号掘立柱建物跡、第8・9号溝跡及び第245号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m, 短軸4.6mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は44~72cmで、外傾して立ち上がっている。

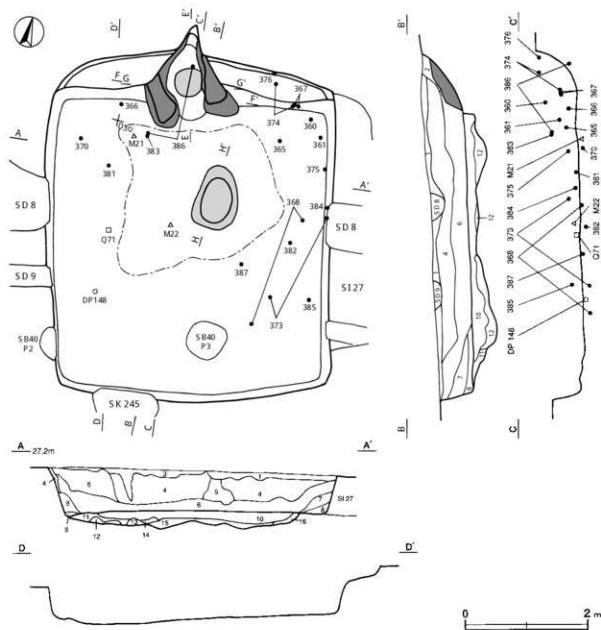
床 ロームを用いた貼床で、南へ向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され、壁を44cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで147cmで、袖部幅は142cmである。袖部は掘り方上に構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾し、上部で階段状に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・砂少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・砂少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 濃い赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂少量、炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | 16 褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子微量 |
| 8 褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 17 褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子中量 |
| 9 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス多量 |

竈 中央部に位置し、長径104cm、短径75cmほどの不整楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床竈であり、竈床面は火を受けて赤変している。



第276図 第17号住居跡実測図(1)

伊土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 濃い赤褐色 | 砂質粘土粒子・焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物 | 3 灰褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量 | | |

棚状施設 竈の両側に設けられており、規模は奥行50cm前後、幅195cm前後である。左右ともほぼ同じ大きさで、床面から56cmの高さにある。棚状施設は、住居の掘り込み後に掘り込んだものと考えられる。

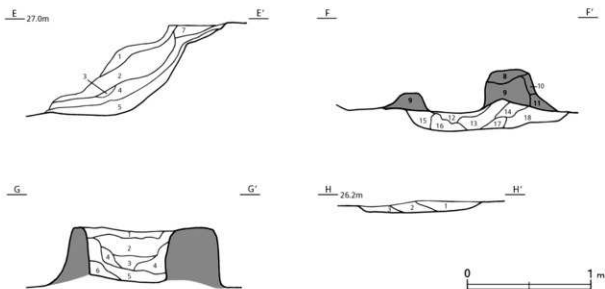
覆土 9層からなり、ロームブロックを多量に含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。また、第10～16層はロームブロックを多量に含み、締まりのある貼床の構築土である。

土層解説

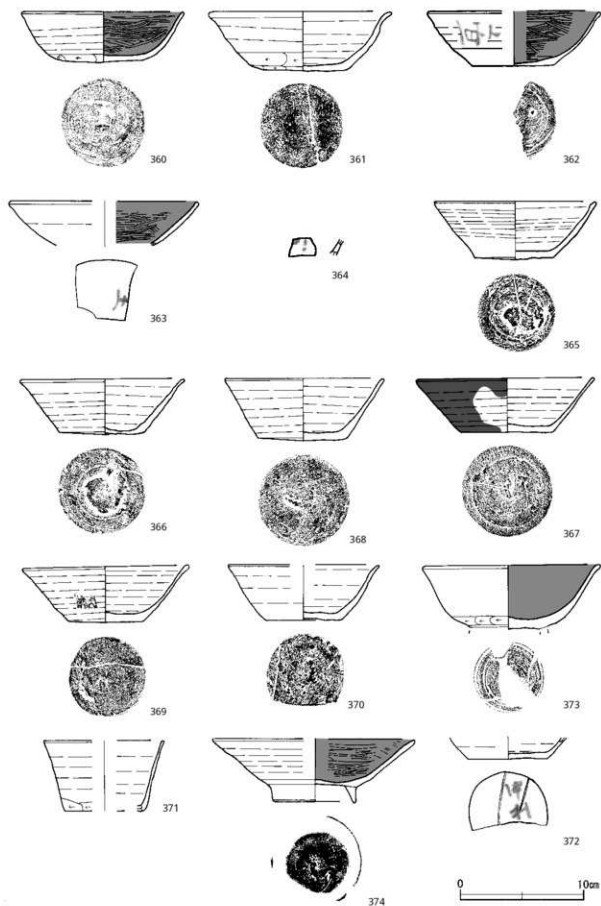
- | | | | |
|-------|-----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 13 明褐色 | ローム粒子多量、焼土パミス少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 褐色 | 焼土パミス少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 16 薄い褐色 | ローム粒子・焼土パミス少量 |

遺物出土状況 土師器片1367点（坏類237、皿3、高坏2、甕類1124、瓶1）、須恵器片477点（坏類330、皿3、蓋15、高盤2、壺2、甕類114、瓶11）、灰釉陶器片5点（短頸壺）、土製品1点（紡錘車）、石器1点（磨石）、鉄製品4点（刀子1、鎌1、釘2）が出土している。360は北東コーナー部の覆土上層、361は東壁際、365・367は北東コーナー部、383は竈西側の覆土中層、386は竈西側の覆土中層と下層から出土している。373は東壁際の下層から中央部の床面にかけて破片で点在し、366は竈ノ西側、373・384・385は東壁際の覆土下層、381は北西コーナー部、DP148は西壁寄りの床面、Q71、M22は中央部の覆土下層、M21は竈西側の床面から出土し、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また、374・376は北東部の棚状施設の覆土上層と北東コーナー部の覆土中層、368・370・382・387は貼床の構築土からそれぞれ出土している。

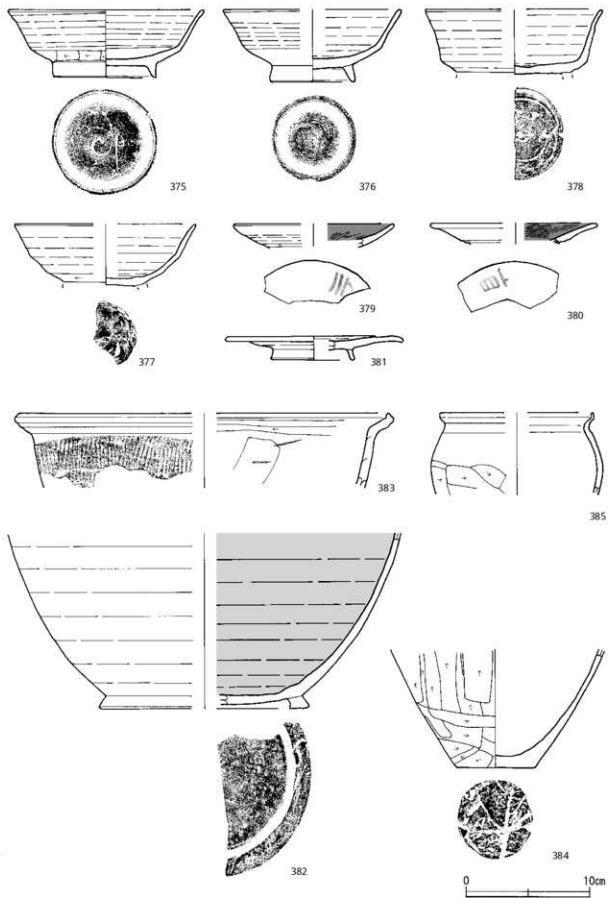
所見 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



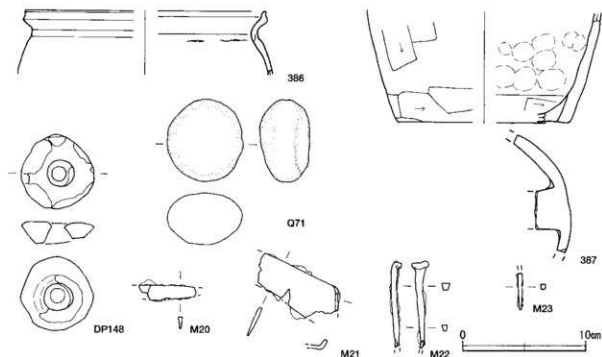
第277図 第17号住居跡実測図(2)



第278图 第17号住居跡出土遺物実測図(1)



第279图 第17号住居跡出土物实测图(2)



第280図 第17号住居跡出土遺物実測図(3)

第17号住居跡出土遺物観察表(第278~280図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色裏	焼成	手法の特徴	出土層	備考
360	土師器	坏	130	41	66	長石・石英・雲母・針状鉱物・赤色粒子	明褐色	普通	底部内面ヘラ磨き、底部下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り	覆土上層	95% PL76
361	土師器	坏	147	48	66	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部内外両口クロナチ、底部下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り	覆土中層	70% PL76
362	土師器	坏	136	44	(64)	長石・雲母・針状鉱物	にぶい黄	普通	底部内面ヘラ磨き、底部下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り	覆土上層	30% 墨書□ PL80
363	土師器	坏	152	(35)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	底部内面ヘラ磨き	覆土上層	90% 墨書「L」+
364	土師器	坏	-	(15)	-	長石・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	底部内面ヘラ磨き	覆土下層	5% 墨書□
365	須恵器	坏	129	47	65	長石・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り、底部下縁ナゲ	覆土下層	90% 底部裏書き「x」PL76
366	須恵器	坏	134	44	69	長石・石英	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	90% PL76
367	須恵器	坏	142	44	74	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	8% 底部内外両口クロナチ、底部裏書き「-」PL76
368	須恵器	坏	127	50	73	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、方向ヘラ磨り	跡取 機軸土	70% 底部裏書き「キ」PL76
369	須恵器	坏	132	46	60	長石・石英・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、一方のヘラ磨り	覆土中層	60% 墨書□ PL76
370	須恵器	坏	(122)	44	61	長石・石英・針状鉱物・黒色粒子	暗灰色	普通	底部回転ヘラ切り後、一方のヘラ磨り	跡取 機軸土	50% 底部裏書き「-」
371	須恵器	コブ土器	(98)	56	(66)	長石・石英	灰	普通	底部内外両口クロナチ	覆土上層	20%
372	須恵器	坏	-	(37)	64	長石	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り	覆土上層	3% 墨書中社「真部」裏書き「二」PL80
373	土師器	高台付坏	141	(50)	-	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中層 ~中層	80%
374	土師器	高台付坏	(160)	50	69	長石	灰	普通	底部内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土上層 ~中層	50%
375	須恵器	高台付坏	158	55	84	長石・石英・針状鉱物	にぶい赤黄	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	100% PL76
376	須恵器	高台付坏	(144)	58	68	長石・針状鉱物	灰黄濁	不良	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土上層	40% 底部裏書き「C」
377	須恵器	高台付坏	(148)	(50)	-	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土下層	40% 底部裏書き「C」
378	須恵器	高台付坏	(140)	(51)	-	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	35%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
379	土師器	甌	〔130〕	〔18〕	-	針状鉱物	にぶい橙	普通	体部内面へう磨き、体部下端磨削り	覆土下層	10% 番号「□」
380	土師器	高台付皿	〔132〕	〔17〕	-	灰石・石英・雲母・針状鉱物	明赤褐色	普通	体部内面へう磨き、体部下端へう磨り	覆土下層	10% 番号「Ⅸ」
381	須恵器	高台付皿	139	19	66	灰石・石英・針状鉱物	黄灰	普通	底部回転へう切り後、高台磨り付け	床面	60%
382	灰輪陶器	短頸缶	-	〔139〕	〔170〕	灰石・黑色粒子	灰黄褐色	良好	体部内外面ロクロナデ、底部回転へう切り後、高台磨り付け	灰積層土	20%
383	須恵器	鉢	〔300〕	〔60〕	-	灰石・石英・雲母	黄灰	普通	口辺部内外面ロクロナデ、体部内面磨き具痕	覆土中層	5%
384	土師器	甌	-	〔92〕	64	灰石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面へうラナデ、体部外面へう磨り、灰層木炭痕	覆土下層	20%
385	土師器	甌	〔124〕	〔65〕	-	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面磨きナデ、体部外面へう磨り	覆土下層	20%
386	土師器	甌	〔193〕	〔51〕	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口辺部内外面磨きナデ、体部内面へうラナデ、輪積み痕	覆土中層 ～覆土土	10%
387	須恵器	甌	-	〔87〕	〔140〕	灰石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	不良	体部内面磨削気、体部外面へう磨り	灰積層土	10%

番号	器種	最大径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP148	粘土車	〔39〕	1.8	1.2	〔50.1〕	土（灰石・石英）	磨削・底面ナデ、両面穿孔、一部欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q71	磨石	6.5	6.0	4.0	200	安山岩	全側面を使用	覆土下層	PL87
M60	刀子	〔46〕	1.2	〔0.3〕	〔5.2〕	鉄	刃部、基一部欠損	掘り方	
M1	鎌	〔6.8〕	〔4.7〕	0.3	〔20.8〕	鉄	刃部、基部一部欠損	床面	PL88
M22	釘	〔6.7〕	1.3	0.5	〔9.5〕	鉄	角釘	覆土下層	
M23	釘	〔3.0〕	〔0.4〕	〔0.4〕	〔1.3〕	鉄	角釘、先端部のみ残存	覆土中層	

第21号住居跡（第281・282図）

位置 調査区中央部のC37区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第22号住居跡を掘り込み、第82号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.5m、短軸4.3mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は22～45cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、ロームを用いた貼床であり、中央部が踏み固められている。北西コーナー部を除いて壁溝が確認され、上幅24～28cm、深さ8～12cmで、断面形はU字状である。また、中央部の床面から長さ55cm、短径44cmの楕円状に焼上が確認されたが、詳細は不明である。

竈 北壁中央部に付設され、壁を58cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで105cm、袖部幅120cmで、砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------|
| 1 褐色 砂少量、ローム粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 ローム粒子・砂質粘土ブロック・砂微量 |
| 2 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子・砂少量、ローム粒子・炭化物微量 | 6 暗赤褐色 焼上粒子・砂少量、炭化物微量 |
| 3 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子中量、砂少量 | 7 褐色 ローム粒子中量、焼上粒子・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子・砂微量 | |

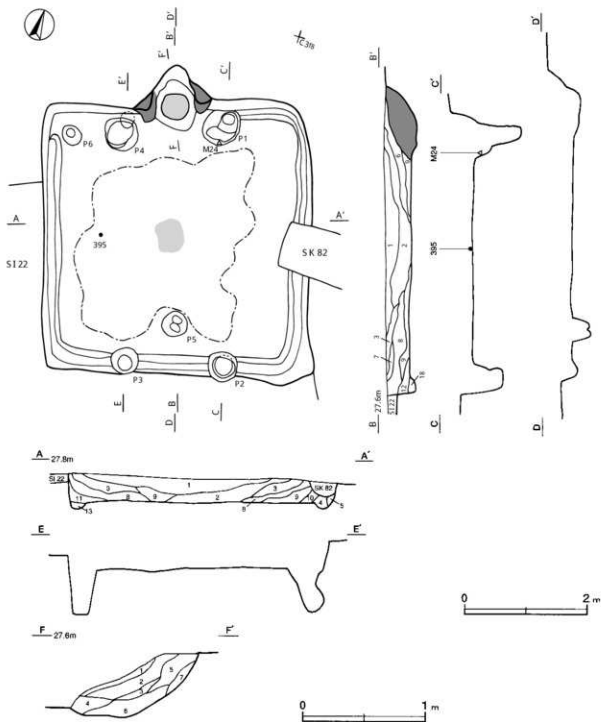
ピット 6か所。P1～P4は深さ50～72cmで壁際に位置しているが、規模及び配置から主柱穴と考えられる。

P5は深さ31cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ12cmであるが性格は不明である。

覆土 13層からなり、下層にロームブロック・粒子を多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第14～18層はロームブロックを多量に含み、よく締まった貼床の構築土である。

土層解説

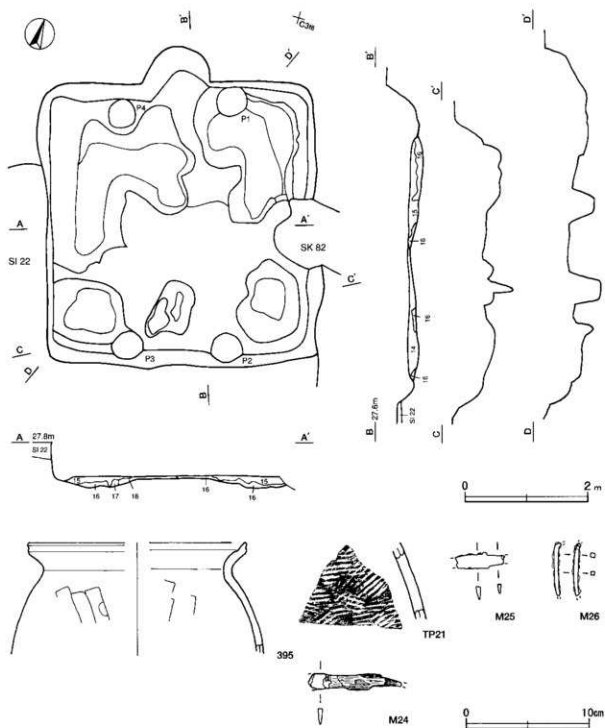
- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------|----|------|---------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・砂少量, 焼土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子多量 | 14 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 | 暗褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 | 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂少量, 焼土粒子微量 | 17 | 濃い褐色 | ロームブロック少量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 18 | 褐色 | ロームブロック少量 |



第281図 第21号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片287点（坏類3，甕類284），須恵器片34点（坏類14，蓋6，壺1，甕類13），鉄製品3点（刀子1，釘2）が出土している。M24はP1，TP21はP3の覆土中，M25は覆土中層，M26は底の覆土からそれぞれ出土しており，廃棄されたものと考えられる。また，395は西壁寄りの床面から出土しており，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は，住居の形態や主軸方向，出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第282図 第21号住居跡・出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表 (第282図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	土師器	甕	(17.6)	(8.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口辺部横ナデ、体部外面へう割り横ナデ、体部内面へうナデ	床面	10%
TP21	須恵器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英・燐礫	にぶい黄褐色	普通	体部外面平行明き	P 3 覆土	3%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	刀子	(7.5)	(1.3)	0.4	(9.7)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損。両区 茎に新の木付が残存	P 1 覆土	
M25	刀子	(4.0)	1.3	0.3	(1.2)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損。両区	覆土中層	PL86
M26	釘	(4.2)	0.4	0.4	(1.8)	鉄	角釘。一部欠損	覆土層	

第24号住居跡 (第283～285図)

位置 調査区中央部のD3a6区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込み、第166・167号土坑、第1・6号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.4m、短軸4.5mの長方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は18～38cmである。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北壁から西壁にかけて確認され、上幅18cm、深さ10cmで、断面形はU字状を呈している。また、中央部の床面から長径56cm、短径46cmの楕円状に焼土が確認されたが、詳細は不明である。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設され、壁を60cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、軸部幅137cmである。軸部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は、浅い皿状に掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は火床部から階段状に立ち上がっている。

覆土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子・砂少量、炭化粒子・炭化粒微量
2	褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・砂少量、炭化粒子微量	9	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・砂中量、ロームブロック少量
3	褐色	砂少量、ロームブロック・炭化粒微量	10	褐色	ロームブロック・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	砂少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	黄褐色	砂質粘土粒子多量、炭化物微量
5	褐色	砂中量、炭化粒少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	12	褐色	砂質粘土粒子多量、炭化物微量
6	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂少量、ローム粒子微量	13	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	14	暗赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物微量

棚状施設 竈の両側に設けられており、規模は奥行46～66cm、幅188～198cmである。左右ともほぼ同じ大きさで、床面から38cmほどの高さにある。

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ43～53cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ22cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ18～50cmで、位置から棚状施設に伴う可能性も考えられるが明確でない。P 9は深さ27cmで、性格は不明である。

覆土 16層からなり、ロームブロック・粒子を多く含む、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

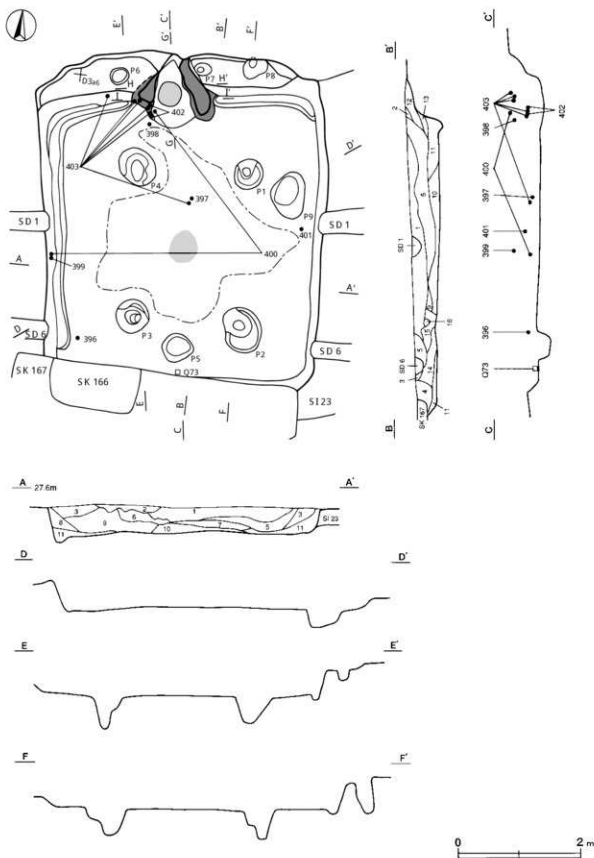
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック微量	11	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	12	褐色	粘土ブロック・砂少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ローム粒子多量、炭化粒微量
7	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	16	褐色	ローム粒子多量
8	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			
9	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

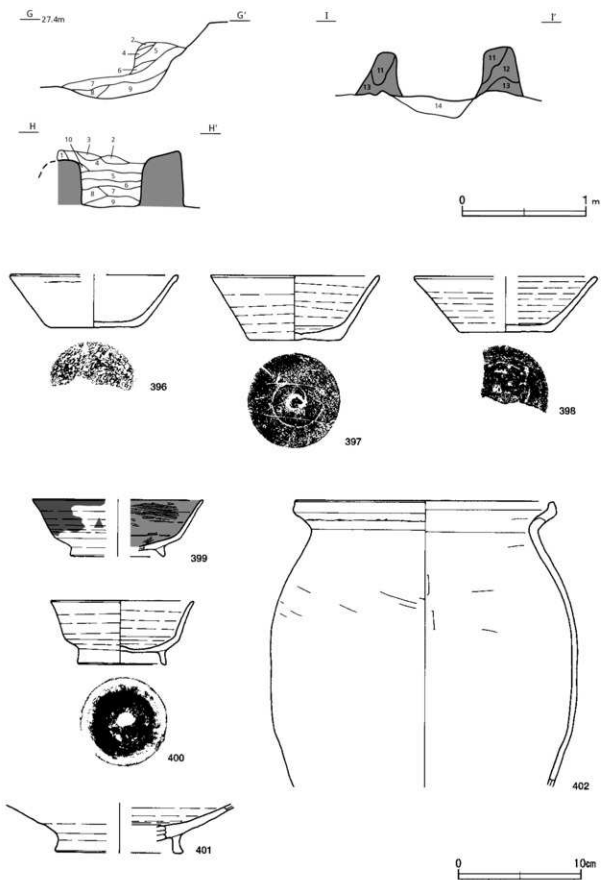
遺物出土状況 土師器片234点(坏類9, 器台1, 甕類224), 須恵器片78点(坏類41, 蓋5, 壺5, 甕類25, 甌1), 灰軸陶器片2点(不明)が出土している。398・399は覆土上層, 400・403は覆土上層から中層,

396・397・401・402は覆土中層、Q73は南壁際の床面からそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

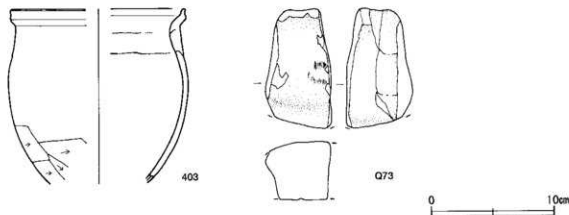
所見 時期は、出土土器から9世紀前半と考えられる。



第283図 第24号住居跡実測図



第284图 第24号住居跡・出土遺物実測図



第285図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第284・285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
396	土師器	坏	[13.6]	4.2	7.0	長石・石英・赤色粒子	黄	普通	底部回転ヘラ切り後、体部内外面ナデ	覆土中層	33%
397	須恵器	坏	13.6	5.2	7.4	長石・石英・微塵	灰黄褐	不良	底部回転ヘラ切り後、ナデ	覆土中層	96% 底部塗布跡、PL76
398	須恵器	坏	[14.6]	4.4	[7.4]	長石・石英・雲母・微塵	暗灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	覆土中層	40%
399	土師器	高台付坏	[13.8]	4.5	[7.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラ磨き、体部下端ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、高台貼付	覆土上層	40%
400	須恵器	高台付坏	11.5	5.2	7.1	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼付	覆土上層 ～中層	80% PL76
401	須恵器	壺	-	(40)	[10.2]	長石・針状鉱物・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ切り後、高台貼付	覆土中層	15%
402	土師器	甕	21.0	(22.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口沿部焼ナデ、体部内外面ヘラナデ	覆土中層	35%
403	土師器	甕	[14.1]	(13.9)	-	長石・石英・雲母・微塵	明赤褐	普通	体部内面ナデ、体部外面下端ヘラ削り	覆土上層 ～中層	35%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q73	磨石	(9.5)	(5.3)	4.6	(348.7)	砂岩	1面を使用	床面	

第26号住居跡 (第286・287図)

位置 調査区南部のE3e3区、標高25mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第216号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.9m、短軸5.8mほどの方形と推定され、主軸方向はN-14°-Eである。壁は残りの良い北壁部分では20cmで、東西南壁は現存していない。

床 はほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設され、壁を掘り込んで構築されていたと考えられるが、第216号土坑に右袖部を掘り込まれ、また左袖部も残存していない。火床部は火を受けて赤変硬化している。

覆土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ40cm、P2は72cmで、規模や配置から主柱穴と考えられるが、対応する柱穴は確認されなかった。

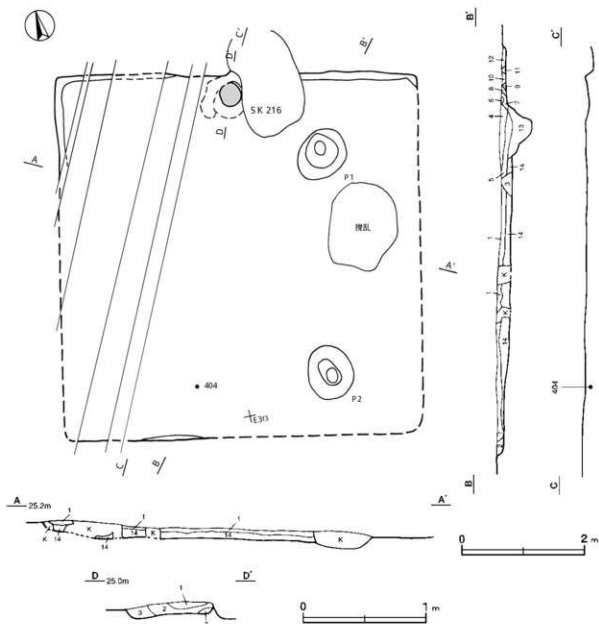
覆土 14層からなり、ロームブロック・砂質粘土粒子を多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

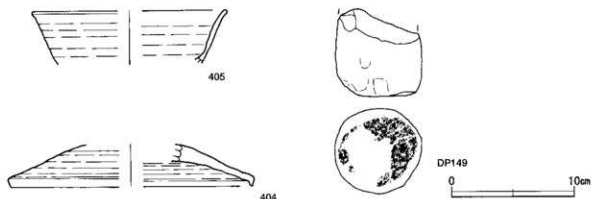
- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子・砂微量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量、鹿沼バミス微量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス微量 | 10 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子・砂微量 | 11 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量、礫微量 |
| 5 極暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | 炭化粒子・砂微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 7 明褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 14 明褐色 | ロームブロック多量、鹿沼ブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 上師器片28点(甕類)、須恵器片13点(坏類11、蓋2)、土製品1点(支脚)、鉄製品1点(不明)が出土している。405は竈の覆土中、DP149は覆土中、404は床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第286図 第26号住居跡実測図



第287図 第26号住居跡出土遺物実測図

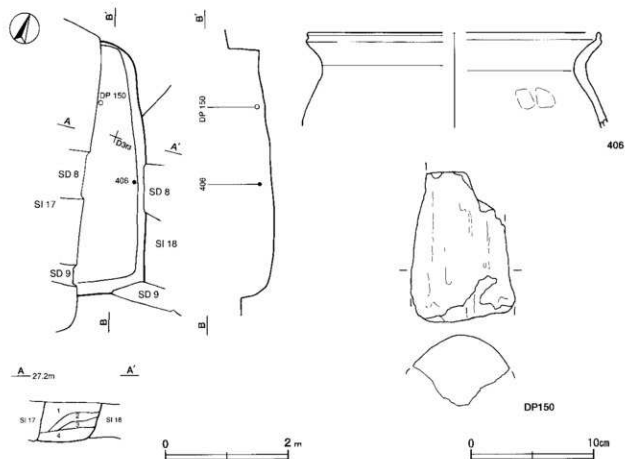
第26号住居跡出土遺物観察表 (第287図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
405	磁器器	杯	(15.7)	(4.2)	-	長石	浅黄	普通	体部内外白クロナデ	庭覆上	20%
404	磁器器	蓋	(19.6)	(3.3)	-	長石・石英	灰	普通	天井部凹軋ヘラ削り	床前	25%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
DP149	支脚	(6.9)	7.0	6.8	(279.8)	土(赤褐色)	ナデ		覆土	

第27号住居跡 (第288図)

位置 調査区南部のD3f3区、標高27mほどの台地緩斜面部に位置している。



第288図 第27号住居跡・出土遺物実測図

重複関係 第18号住居跡を掘り込み、第17号住居跡、第8・9号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸4.0m、東西軸は1.1mほどが確認されたが、全体の形状は不明である。主軸方向はN-23°-Wである。壁高は50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

覆土 4層からなり、ロームブロックを多量に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭屑パミス少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片25点（坏類3，甕類22），須恵器片4点（坏類3，甕類1），土製品1点（支脚）が出土している。406は東壁際の覆土下層，DP150は北東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 9世紀中葉から後葉に比定される第17号住居跡に掘り込まれ、8世紀後葉に比定される第18号住居跡を掘り込んでいることから、時期は9世紀前葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表（第288図）

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
406	土師器	甕	(23.6)	(7.5)	-	石灰・鉄質・赤色粒子	赤	普通	口辺部破ナデ、体部内面ナデ、指痕痕	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP150	支脚	(11.9)	(8.5)	(5.6)	(398.7)	土（磁種）	ナデ、一部欠損	覆土下層	

第29号住居跡（第289～291図）

位置 調査区中央部のC3h1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第33号住居跡と第34号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺4.8mの方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は47～60cmで、外傾して立ち上がっている。

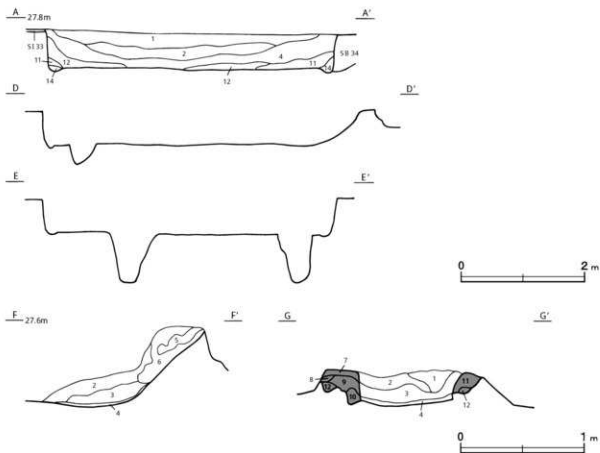
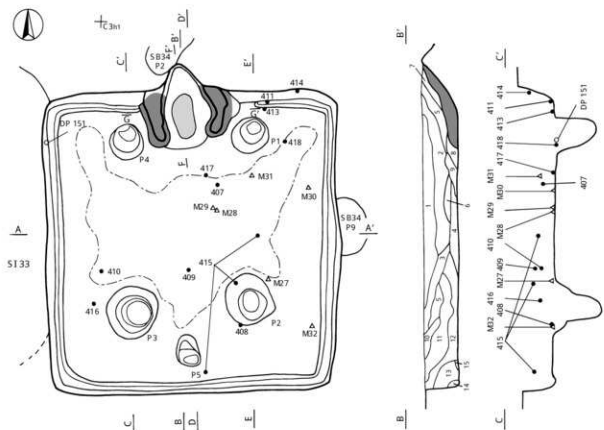
床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周し、上幅12～26cm、深さ4～6cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を40cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅164cmである。袖部は地山を掘り残した上に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|--|
| 1 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・砂少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・砂少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭屑パミス・砂少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 褐色 | 砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | 砂質粘土ブロック・砂少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・砂中量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 6 褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子・砂微量 | 12 褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ67～77cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ32cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

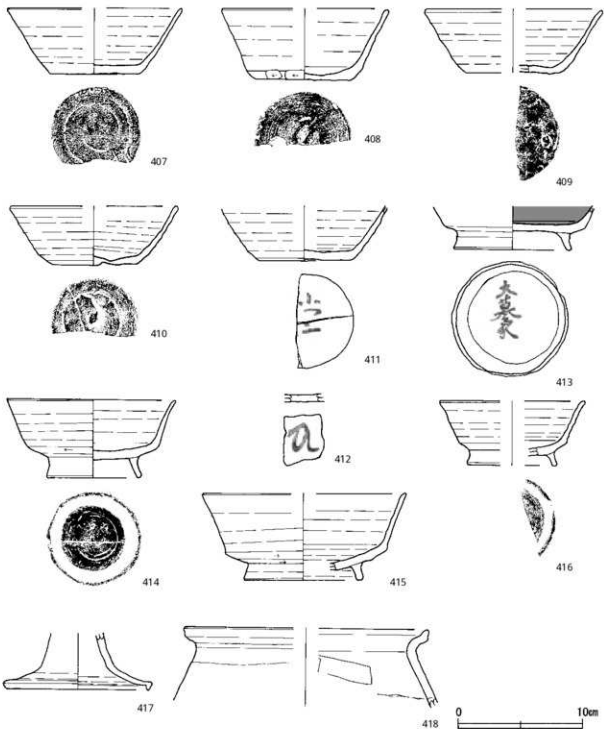


第289图 第29号住居迹实测图

覆土 15層からなり、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

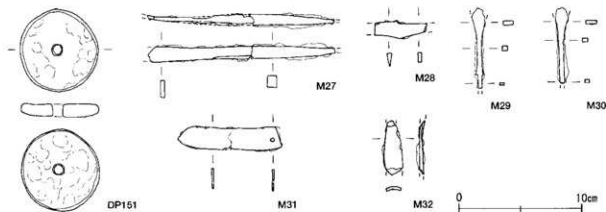
- | | | | |
|---------|---------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | 砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子少量 |
| 7 褐色 | 砂少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 15 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 8 におり褐色 | 砂・産卵パミス少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |



第290図 第29号住居跡出土遺物実測図(1)

遺物出土状況 上師器片323点(高台付坏2, 高坏1, 器台1, 堯類319), 須恵器片97点(坏類61, 盤2, 高盤8, 蓋5, 堯類21), 土製品6点(支脚1, 不明5), 鉄製品6点(鉈2, 刀子1, 鉄鍬2, 手鎌1)が出土している。414は北壁際の覆土上層, 407・409・410・412・415・416・M31は覆土中層から出土している。また, 408はP2南側の覆土下層, 411は北壁際の壁溝の覆土下層, 418は北東コーナー部の覆土下層, DP151は西壁際の覆土下層, 413は北壁際の床面, M30・M32は東壁寄りの床面からそれぞれ出土しており, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第291図第29号住居跡出土遺物実測図(2)

第29号住居跡出土遺物観察表(第290・291図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
407	須恵器	坏	(140)	5.2	7.1	長石・針状鉱物・微塵	赤黒	不良	底部回転ヘラ切り後, ナデ	覆土中層	45% 底部残書き「x」
408	須恵器	坏	(134)	5.6	7.7	長石・微塵	黒灰	不良	体部外面下端ヘラ削り, 底部回転ヘラ切り後, 手持ちヘラ削り	覆土下層	40%
409	須恵器	坏	(142)	5.0	(7.4)	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, ナデ	覆土中層	40% 底部残書き「-」
410	須恵器	坏	(134)	4.7	6.7	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	35%
411	須恵器	坏	-	(4.2)	7.4	長石・針状鉱物・微塵	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, ナデ	覆土下層	30% 遺書「小口」
412	須恵器	坏	-	(0.7)	-	長石・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	5% 遺書「J」
413	土師器	高台付坏	-	(3.5)	9.3	長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り後, 高台起り付け	床面	40% 遺書「大壺家」PL80
414	須恵器	高台付坏	13.6	6.2	7.5	長石・石英・微塵	灰黄赤	不良	体部外面下端ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り後, 高台起り付け	覆土上層	80% 底部残書き「-」PL77
415	須恵器	高台付坏	[16.2]	6.9	9.4	長石・針状鉱物	灰	普通	体部下端ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り後, 高台起り付け	覆土中層	50% PL77
416	須恵器	高台付坏	[13.6]	5.1	(7.2)	長石・微塵	灰	良好	底部回転ヘラ削り後, 高台起り付け	覆土中層	25%
417	須恵器	高盤	-	(4.4)	11.4	長石・石英・針状鉱物・微塵	灰	普通	側部外縁クロコナデ	床面	50%
418	土師器	堯	[19.5]	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色砂子	明赤黒	普通	口内磨削ナデ, 体部外面ナデ, 体部内面ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP151	鉄鉢半	6.3	1.1	0.9	51.5	土(長石)	ナデ, 凹部に指痕あり	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	鉈	(15.1)	1.3	0.7	(38.5)	鉄	刃は柄に対してわずかに反りを持つ	覆土下層	PL88
M28	刀子	(4.2)	1.4	0.4	(4.2)	鉄	切先・刃部・茎一部欠損。縁区 刀身の研ぎ減りが顕著	覆土下層	
M29	鍬	(6.4)	0.9	0.4	(4.5)	鉄	長鋤型式。刀先・茎一部欠損	覆土下層	PL88
M30	鍬	(6.0)	(1.1)	0.3	(6.0)	鉄	長鋤型式。刀先・茎一部欠損	床面	PL88
M31	手鎌	(8.4)	1.9	0.1	(6.1)	鉄	端に径0.35cmの目釘あり	覆土中層	PL88
M32	鉈	(4.2)	1.8	0.3	(5.4)	鉄	反りを持つ	床面	

第32号住居跡 (第292～294図)

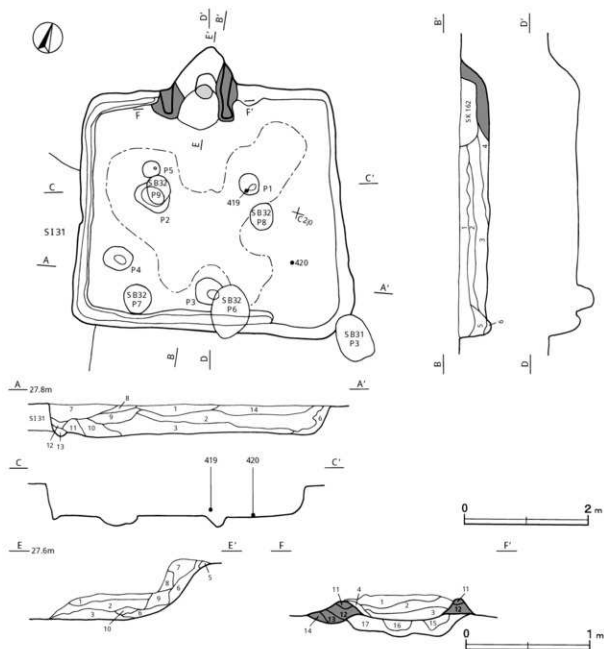
位置 調査区中央部のC2j9区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第31号住居跡を掘り込み、第31・32号掘立柱建物跡及び第162号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.5m、短軸4.0mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は45～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。東壁と北東・南東コーナー部を除いて壁溝が確認されている。上幅10～20cm、深さ4～6cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を68cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅139cmである。左袖部は地山をわずかに掘り込んで構築され、右袖部は掘り方上に構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。



第292図 第32号住居跡実測図(1)

雑土層解説

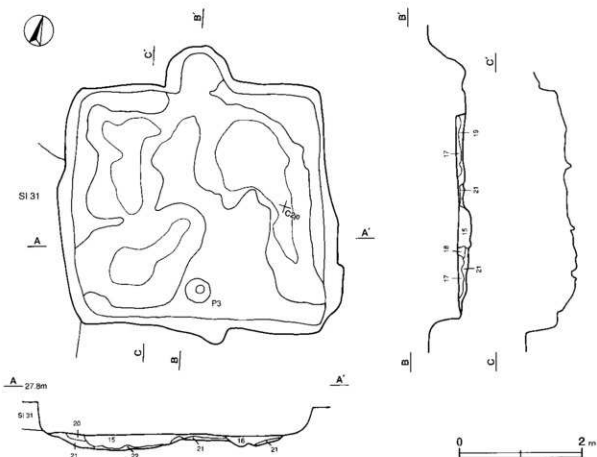
- | | | | |
|---------|--------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子・砂微量 | 10 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、炭化物微量 | 11 濃い赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・砂質粘土粒子・砂微量 | 12 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 濃い赤褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 濃い赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・砂少量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 16 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 17 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1は深さ17cm、P2は16cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ25cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P4・P5は深さ17cm~24cmであるが、性格は不明である。

覆土 22層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

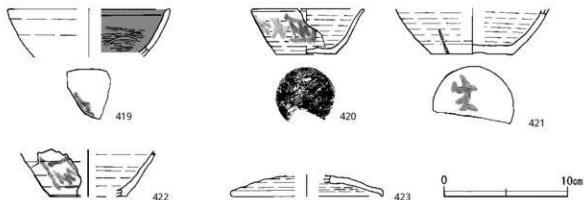
- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 14 褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック微量 | 16 褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 19 褐色 | ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 褐色 | ロームブロック微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子微量 | 21 褐色 | ローム粒子多量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子微量 | 22 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |



第293図 第32号住居跡実測図(2)

遺物出土状況 土師器片63点(坏類2, 高坏1, 甕類60), 須恵器片49点(坏類24, 蓋4, 甕類21), 灰釉陶器片1点(蓋)が出土している。422・423は覆土上層, 421は甕の覆土中, 419は中央部の覆土下層, 420は南東コーナー寄りの床面からそれぞれ出土しており, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第294図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表 (第294図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	坏	130	(38)	-	長石・針状鉱物	橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土下層	5% 甕類「ロ」
420	須恵器	坏	90	35	48	長石・針状鉱物・鉄燧	黄橙	普通	底部回転へラ切り後, ナデ	床面	60% 甕類「羅ロ」 PL77
421	須恵器	坏	-	(35)	65	長石	灰	普通	底部回転へラ切り	覆土中	35% 甕類「生カ」 PL80
422	須恵器	坏	-	(38)	62	長石・針状鉱物	灰黄	普通	体部内外面ロクロナデ	覆土上層	5% 甕類「羅ロ」 PL80
423	灰釉陶器	蓋	122	(18)	-	黒色粒子	灰白, 灰オリーブ	良好	ロクロナデ, 釉薬は刷毛塗り	覆土上層	5%

第34号住居跡 (第295図)

位置 調査区中央部のC314区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第40・41号住居跡及び第7号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.2m, 短軸2.8mの長方形で, 主軸方向はN-15°-Wである。壁高は17~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 は平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設され, 壁を22cm掘り込んで構築されている。規模は竈口部から煙道部まで90cm, 袖部幅は70cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで, 火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 濃い赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 濃い褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 3 暗赤褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 濃い赤褐色 | 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ14cm, P2は28cmでいずれも出入口施設に伴うピットと考えられる。

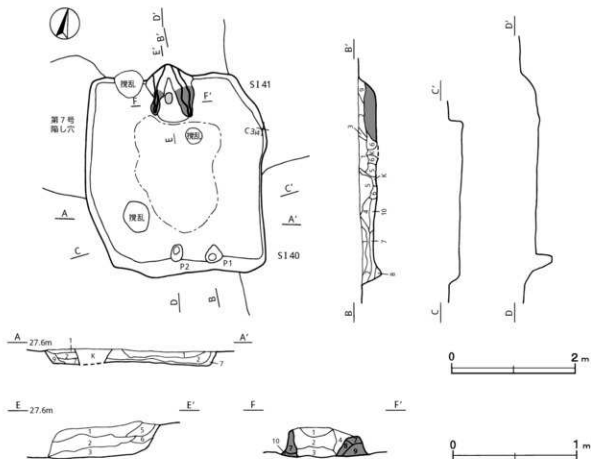
覆土 10層からなる。下層にロームブロックを多く含み, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片42点（坏類4，甕類38），須恵器片2点（坏類，蓋）が出土しており，ほとんどが細片である。

所見 時期は，古墳時代前期に比定される第40・41号住居跡を掘り込んでいることや住居の形態，主軸方向などから，9世紀代と考えられる。



第295図 第34号住居跡実測図

第45号住居跡（第296・297図）

位置 調査区中央部のC3f9区，標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込み，第82・83号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.6m，短軸3.3mの方形で，主軸方向はN-2°-Wである。壁高は35～54cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南壁中央部は台形状に高くなっており，位置から出入口施設に伴うものと考えられる。壁溝が北西コーナー部と南壁中央部を除いて確認されており，上幅16～22cm，深さ5～10cmで，断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を70cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅132cmである。袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 濃い褐色 | 砂質粘土粒子多量、炭化粒子・礫微量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子・礫微量 | 7 灰褐色 | 砂少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 濃い暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 明褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 9 濃い暗褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・砂少量、ローム粒子微量 |
| 5 褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・礫微量 | | |

出入口施設 南壁の中央部に位置する。長径79cm、短径59cm、高さ6～12cmで、断面形は台形状である。

出入口施設土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|-------|---------|
| 1 濃い褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック少量、砂微量 | | |

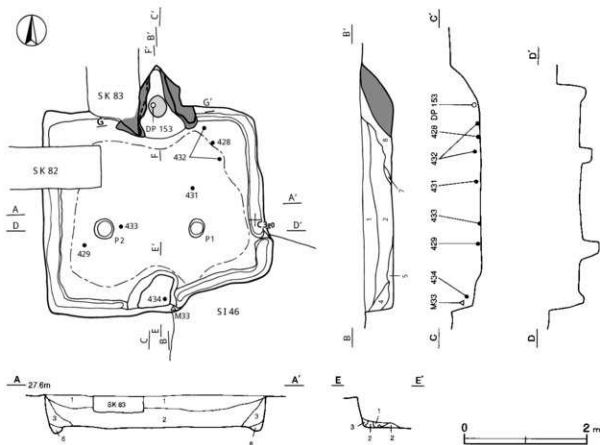
ピット 2か所。P1は深さ20cm、P2は32cmで規模や配置から支柱穴と考えられる。

覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

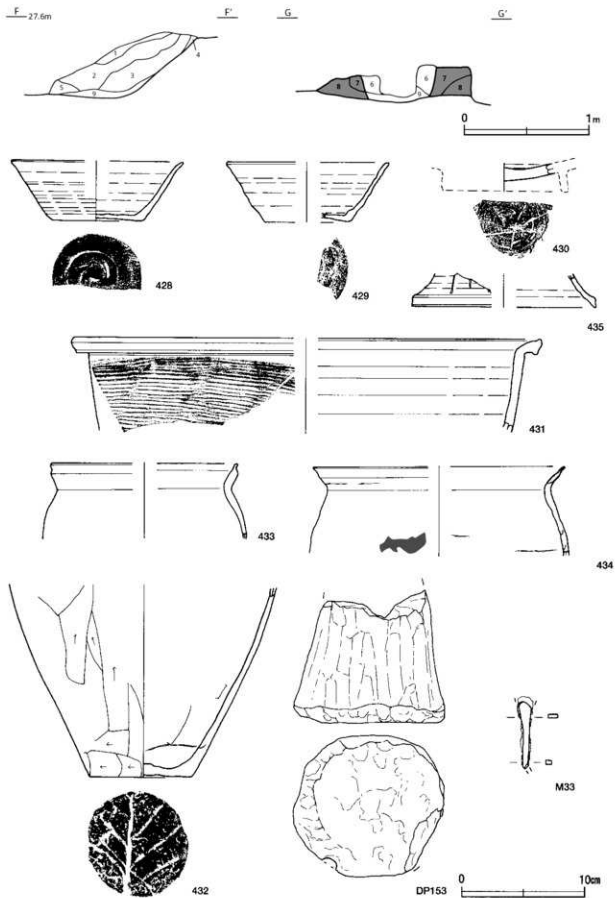
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 4 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片259点(坏類12, 甕類247), 須恵器片50点(坏類31, 鉢1, 甕類17, 円面硯1), 灰釉陶器片4点(壺類), 土製品1点(支脚), 鉄製品1点(鐵)が出土している。430・435は覆土上層, 434・M33は南壁際の覆土中層から出土しており、埋没過程で投棄されたものと考えられる。428・432は北東コーナー



第296図 第45号住居跡実測図



第297图 第45号住居跡・出土遺物実測図

部の覆土下層, 429は西壁寄りの覆土下層, 431・433は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また、DP153は竈の覆土下層から出土しており、遺棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。

第45号住居跡出土遺物観察表 (第297図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	須恵器	杯	(138)	4.8	7.3	長石・石英・微塵	灰赤	不良	瓦部回転ヘラ切り	覆土下層	30%
429	須恵器	杯	(129)	4.7	(6.8)	長石・石英・封状 炭物・微塵	灰	普通	瓦部回転ヘラ切り後、ナデ	覆土下層	25%
430	須恵器	壺	-	(14)	-	長石・黒色粒子	暗灰黄	普通	瓦部回転ヘラ切り	覆土下層	5% 北壁寄り 一部断面破損
431	須恵器	鉢	(376)	(7.4)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	灰黄	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面横ナデ	覆土下層	5%
432	土加器	壺	-	(15.2)	8.2	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ、体部外面下層ヘラ削り、底部木炭 痕	覆土下層	30%
433	土加器	壺	(15.2)	(5.9)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口辺部横ナデ、体部内外面ナデ	覆土下層	10%
434	土加器	壺	(21.9)	(7.7)	-	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	暗	普通	口辺部横ナデ、体部内面ヘラナデ	覆土中層	10% 体部外 面破損
435	須恵器	円筒甕	-	(2.2)	(14.8)	長石・石英	灰褐	不良	甕台部外向棒状工具による縦位の凹痕、発露部欠損	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP153	支脚	(10.6)	12.2	11.3	(110.9)	土(長石・石英)	ナデ、指痕後、被熱痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	甕	(5.8)	1.2	0.3	(5.0)	熟	長短鑿筋式。刀先・茎一部欠損	覆土中層	PL88

第47号住居跡 (第298・299図)

位置 調査区中央部のC4g1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第46号住居跡を掘り込み、第81号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.2m、短軸4.1mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は54~63cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が南壁中央部を除いてほぼ全周する。上幅12~20cm、深さ3~8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を64cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで152cm、袖部幅147cmである。左袖部は床面に、右袖部は床面をわずかに掘り込んで砂質粘土で構築されている。火床部は皿状に掘りくはめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 褐色 | 砂質粘土ブロック中層、ローム粒子少量、焼土粒・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒・炭化粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒・炭化粒子・併・微量 | | |
| 5 褐色 | 砂質粘土ブロック中層、ローム粒子・焼土粒・炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所。P1は深さ21cm、P2は26cmで規模と配置から主柱穴と考えられるが、対応する柱穴は確認されなかった。P3は深さ23cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。

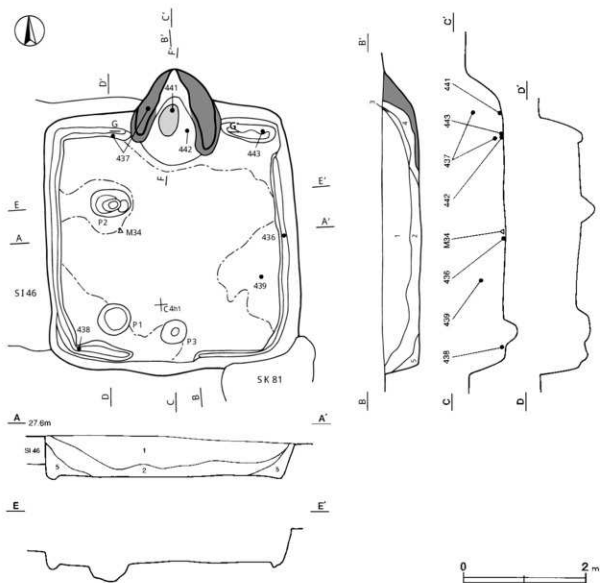
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

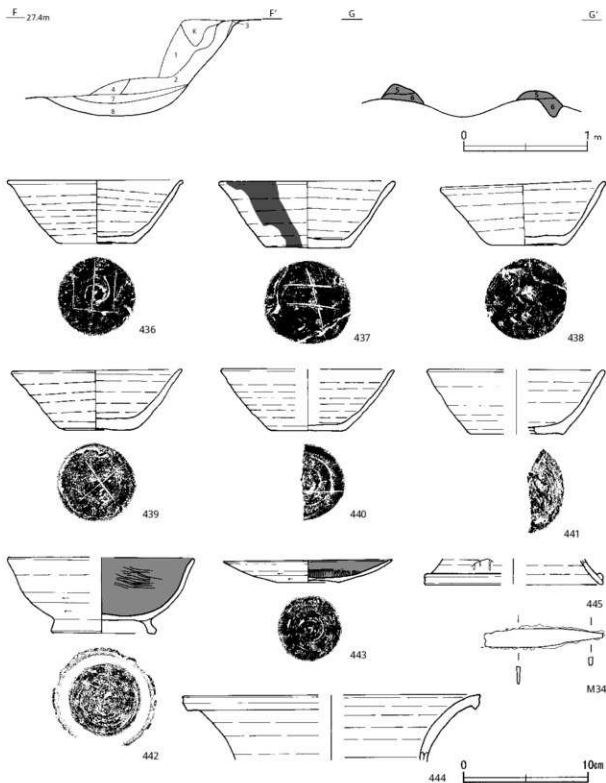
- | | | | |
|------|-------------------------|------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片401点(坏類49, 皿1, 甕類351), 須恵器片131点(坏類97, 高坏3, 蓋4, 円面硯1, 甕類26), 灰軸陶器片3点(坏・皿類), 土製品1点(不明), 鉄製品1点(刀子)が出土している。439・445は覆土上層, 437は北壁際の覆土上層から下層にわたり出土し, 440・444は覆土中から出土している。また, 441・442は竈の覆土下層, 436は東壁際の覆土下層, 438は南西コーナー部の覆土下層, 443は北東コーナー部の覆土下層, M34は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており, 廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後半と考えられる。



第298図 第47号住居跡実測図



第299図 第47号住居跡・出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表 (第299図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
436	須恵器	坏	139	50	65	長石・石英・燧石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	壇土下層	90% 底部磨き「山」 PL.77
437	須恵器	坏	138	53	68	長石・石英・赤色砂子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	壇土上層 - 底部に煤付着 - 下層	底部磨き「キ」 PL.77

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼域	手法の特徴	出土位置	備考
438	須臾器	杯	133	5.1	6.5	長石・燧燗	灰	普通	底部回転ヘウ切り後、多方向ヘウ削り	覆土下層	70% PL77
439	須臾器	杯	136	4.9	6.2	長石・石英・燧燗	灰黄	普通	底部回転ヘウ切り後、一方方向ヘウ削り	覆土上層	70% 底部残書き「×」PL77
440	須臾器	杯	(138)	4.9	6.0	長石・石英・燧燗	灰	普通	底部回転ヘウ切り後、ナデ	覆土	40% 底部残書き「-」
441	須臾器	杯	(141)	5.1	(7.5)	長石・石英・燧燗	灰白	普通	底部回転ヘウ切り後、ナデ	覆土下層	25% 底部残書き「-」
442	土師器	高台付杯	(149)	6.0	8.3	長石・石英・雲母・斜状炭屑	にぶい橙	普通	体部内面ヘウ磨き、体部外面下層ヘウ削り、底部回転ヘウ切り後、高台磨り付け	覆土下層	40%
443	土師器	盃	135	1.9	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下層一底部ヘウ削り、体部内面ヘウ磨き	覆土下層	70% PL77
444	須臾器	盃	(238)	(5.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	不良	Li道内外面クロナデ	覆土	5%
445	須臾器	円蓋碗	-	(2.0)	(14.2)	長石・燧燗	灰黒	不良	胴台部外面荒状工具による履位の沈着、縦断面欠損	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	刀子	(96)	1.5	0.3	(12.5)	鉄	切先、刃部、茎一部欠損、刃区	覆土下層	PL88

第49号住居跡 (第300・301区)

位置 調査区中央部のC3h0区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第19号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.9mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は38-40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、西壁の一部を除いて、ほぼ全周している。土幅18~28cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を62cmほど掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで131cm、袖部幅158cmで、ほぼ床面に粘土とローム土で構築されている。火床部は浅く掘りこぼれられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 にぶい褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、砂少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 褐色 | 砂質粘土中量、ローム粒子少量 |
| 6 にぶい褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 15 にぶい褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子中量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック微量 | 16 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量 |
| | | 17 暗褐色 | ローム粒子少量 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ53~65cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ30cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

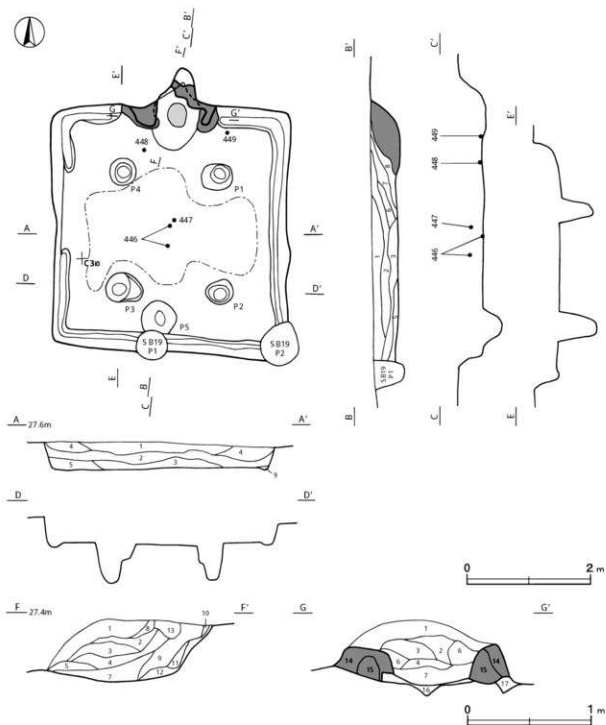
覆土 9層からなり、周囲から土砂が流入した様相を示した自然堆積である。また、覆土中層と床面の土器が接合していることから、比較的短期間で埋没したのと考えられる。

土層解説

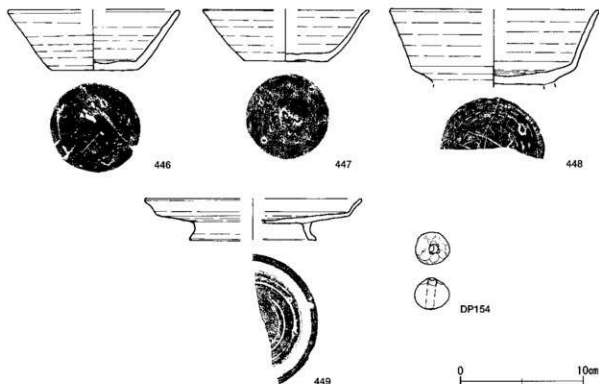
- | | | | |
|--------|----------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・砂少量、ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片185点（坏類6，甕類177，甌2），須恵器片74点（坏類55，甕11，蓋6，甕類2），土製品1点（球状土錘）が出土している。DP154は覆土中より出土し，447は中央部の覆土中層，446は中央部の覆土中層から床面にわたって破片で点在しており，埋没過程で投棄されたものと考えられる。448は竈前の床面，449は北壁際の床面からそれぞれ出土しており，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀前半と考えられる。



第300図 第49号住居跡実測図



第301図 第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表 (第301図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
446	須恵器	坏	[13.6]	4.8	7.0	長石・石英・燧石	灰	普通	底縁回転ヘタ切り後、ナデ	覆土中層 〜床面	70% 底形残 書き「×」 PL77
447	須恵器	坏	[13.4]	4.1	6.7	長石・燧石	灰	普通	底縁回転ヘタ切り後、ナデ	覆土中層	60% PL77
448	須恵器	高台付坏	[16.6]	(5.9)	-	長石・石英・燧石	灰	普通	底縁回転ヘタ切り後、高台彫り付け	床面	59% 底形残 書き「キ」
449	須恵器	甕	[17.4]	3.2	[10.2]	長石・石英	赤灰	普通	外縁内外面クロコナデ、底縁回転ヘタ切り後、高台彫り付け	床面	45% 底形残 書き「一」

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP154	球状土跡	2.8	2.5	0.6	17.6	土 (長石・石英)	ナデ、厚欠損	覆土	

第52号住居跡 (第302・303図)

位置 調査区中央部のC4j4区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第51・53号住居跡を掘り込み、第21号掘立柱建物跡及び第47・48号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.1m、短軸4.8mの方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は20~42cmで、外傾して立ち上がっている。

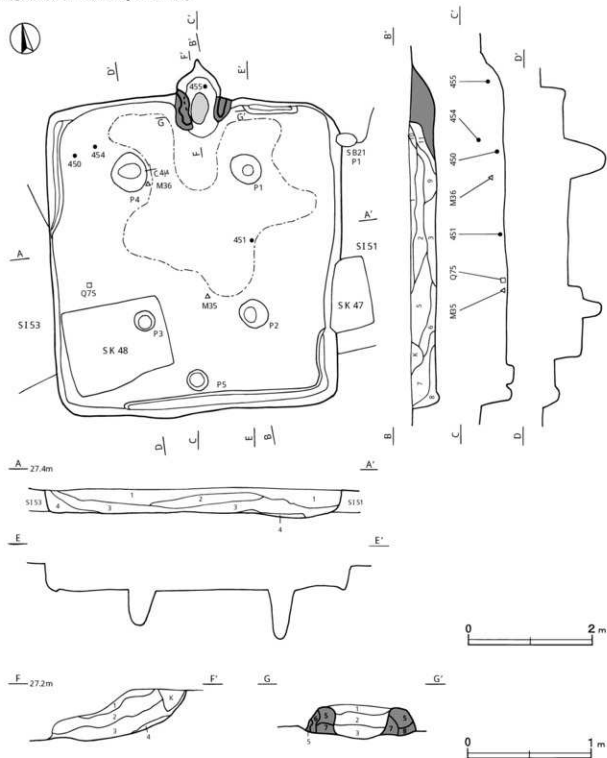
床 はほぼ平坦であるが、南側に向かって緩やかに傾斜している。竈周辺と中央部が踏み固められている。壁溝が西壁・北壁の一部と南東コーナー部で確認され、上幅12~20cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を58cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで122cm、袖部幅92cmで、袖部は床面とはほぼ同じ高さに砂質粘土を主体に構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 褐色 | 砂質粘土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化ブロック微量 | 8 褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子少量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ54～79cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ13cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。



第302図 第52号住居跡実測図

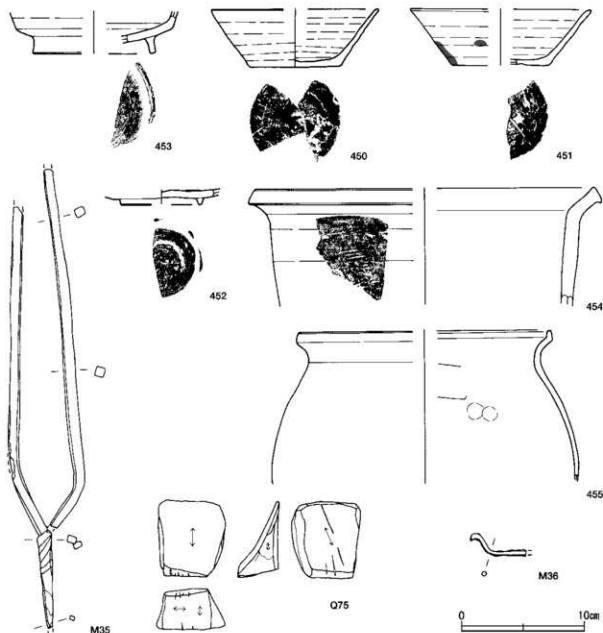
覆土 11層からなり、ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量（しまり弱い） |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片288点（坏類19、甕類269）、須恵器片107点（坏類68、皿2、高盤5、蓋8、甕類15、瓶9）、石製品1点（砥石）、鉄製品4点（箆カ1、不明3）が出土している。453・454は覆土上層、452・M36は覆土中層、455は甕の覆土中層、450は北西コーナー部の覆土下層、451・M35は中央部の覆土下層、Q75は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第303図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表 (第303図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
450	須恵器	坏	[134]	4.6	7.4	長石・燐礫	灰オリーブ	普通	底面回転ヘラ切り後、ナデ	覆土下層	40%	
451	須恵器	坏	[146]	4.5	[7.8]	長石・燐礫	灰黄	普通	底面回転ヘラ切り	覆土下層	20% 外部表面 一部に黒付着 裏面黒書「×」	
452	土師器	高台付坏	-	[12]	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内部内面ヘラ磨き、底面回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土中層	10%	
453	須恵器	高台付坏	-	[3.3]	[9.9]	長石	灰	普通	底面回転ヘラ切り後、高台貼り付け	覆土上層	5%	
454	須恵器	鉢	[27.6]	[9.3]	-	長石・石英・燐礫	灰白	普通	口辺部内外面境ナデ、体部外面境の平行研ぎ	覆土上層	3%	
455	土師器	甕	[20.3]	[12.0]	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口辺部内外面境ナデ、体部内外面ナデ	体部内面指痕痕	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	灰石	6.0	5.6	3.3	93.3	凝灰岩	縦面5面、縁状痕	覆土下層	PL83

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	漆	(26.4)	6.1	1.2	(136.1)	鉄	断面方形	覆土下層	PL88
M36	不明遺物	(4.5)	1.8	0.1	(32)	鉄	把手状、断面形は楕円方形	覆土中層	器具の一部

第58号住居跡 (第304図)

位置 調査区中央部のC47区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第59号住居跡を掘り込み、第14号掘立柱建物跡、第44号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.2m、短軸2.8mの長方形で、主軸方向はN-8°-Eである。壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北西と南東コーナー部を除いて確認され、上幅10~18cm、深さ3~6cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部のやや東寄りに行設され、壁を62cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅87cmで、砂質粘土で構築されている。覆土が薄く、煙道部の立ち上がりの形状は不明である。

覆土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂微量 | 3 にぶい赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・燐微量 | 4 明赤褐色 砂少量、炭化物・焼土粒子微量 |

ピット 1か所。P1は深さ9cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

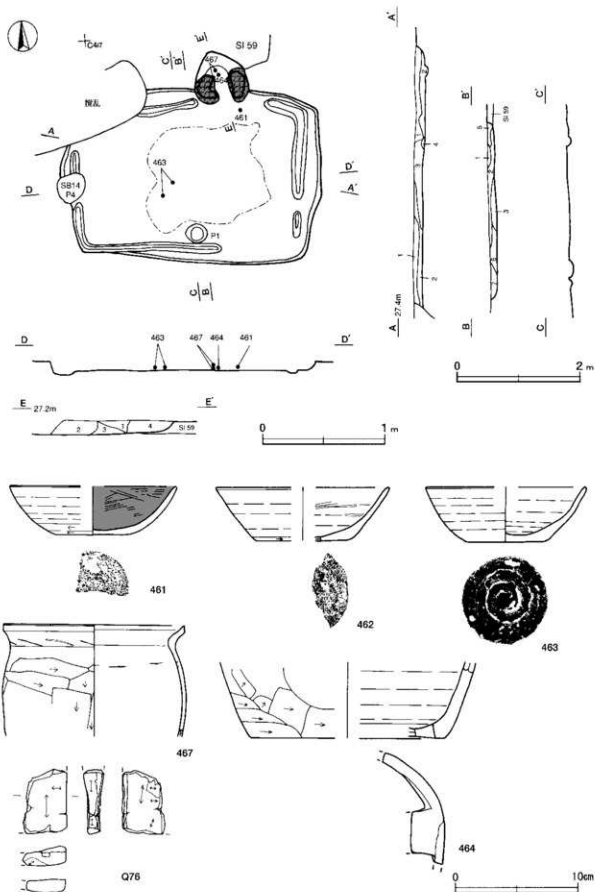
覆土 7層からなり、ロームブロック・炭化物を多く含んだ人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 灰褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・燐少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片92点(坏類29, 甕類63), 須恵器片33点(坏類22, 皿1, 蓋2, 甕類5, 甌3), 石器1点(砥石)が出土している。462・Q76は覆土上層, 463は中央部の覆土下層, 461は竈前の覆土下層, 464・467は竈の覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第304图 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第304図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
461	土師器	坏	(134)	3.9	(5.6)	長石・石英・雲母	にぶい壁	普通	体部内面へう磨き、体部外面下層へう削り、底部回転へう切り	覆土下層	35%
462	土師器	坏	(136)	4.2	(7.4)	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部内面へう磨き、体部外面下層へう削り、底部回転へう切り後、ナデ	覆土上層	25%
463	須恵器	坏	(130)	4.4	6.4	長石・石英	灰白	不灰	底部回転へう切り	覆土下層	40%
467	土師器	甕	14.6	(8.9)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口沿部横ナデ、体部外面へう削り後ナデ、体部内面へうナデ	覆土下層	20%
464	須恵器	甕	-	(6.1)	(15.8)	長石・石英	灰	普通	体部外面下位へう削り	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	磁石	(5.1)	(3.5)	1.7	(29.5)	磁灰岩	表面4面、一部欠損	覆土上層	

第67号住居跡 (第305図)

位置 調査区中央部のC3c7区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.3m、短軸3.2mの方形で、主軸方向はN-24°-Eである。壁高は25-35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、中央部やや東壁寄りが踏み固められている。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設され、壁を22cm掘り込んで構築されている。規模は竈口部から煙道部まで114cmで、右袖はほとんど遺存していない。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

1 褐色	砂少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9 にぶい褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量
2 にぶい褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、砂少量	10 にぶい褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・砂少量
3 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・砂少量、炭化粒子微量	11 赤褐色	焼土ブロック・砂中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 にぶい褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	12 褐色	砂多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい褐色	ローム粒子少量	13 褐色	砂多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 にぶい褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい褐色	焼土ブロック・砂少量、ロームブロック・炭化粒子微量	15 褐色	砂中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐色	ロームブロック・砂少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	16 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂少量、焼土粒子微量

ピット 3か所。P1は深さ19cmで出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ12cm、P3は15cmであるが、性格は不明である。

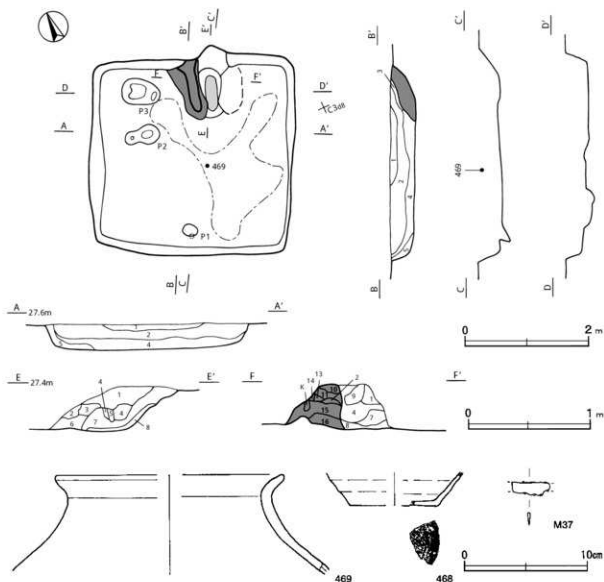
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 灰黄褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片181点(坏類4、高坏1、埴1、甕類175)、須恵器片2点(坏類)、土製品1点(不明)、鉄製品1点(刀子)が出土している。469は中央部の覆土上層、M37は覆土上層から出土している。468は覆土下層から出土しており、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第305図 第67号住居跡・出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表(第305図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	梗成	手法の特徴	出土位置	備考
468	須恵器	坏	—	(27)	(72)	長石・斜状鉱物・炭粒	黄灰	普通	底部列転ヘタ切り後、ナデ	覆土下層	5%
469	土師器	甕	[18.4]	(79)	—	長石・石英	に灰い橙	普通	口辺部横ナデ、体部内・外面ナデ	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備考	出土位置	備考
M37	刀子	(3.1)	(1.2)	0.3	(1.9)	鉄	切先欠損、刃部・茎一部欠損、両刃		覆土上層	

第80号住居跡(第306・307図)

位置 調査区西部のC1b0区、標高27mほどの台地縁辺部寄りに位置している。

規模と形状 長軸3.7m、短軸3.2mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は40~47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ロームを用いた貼床で、北西コーナー部に向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。北西

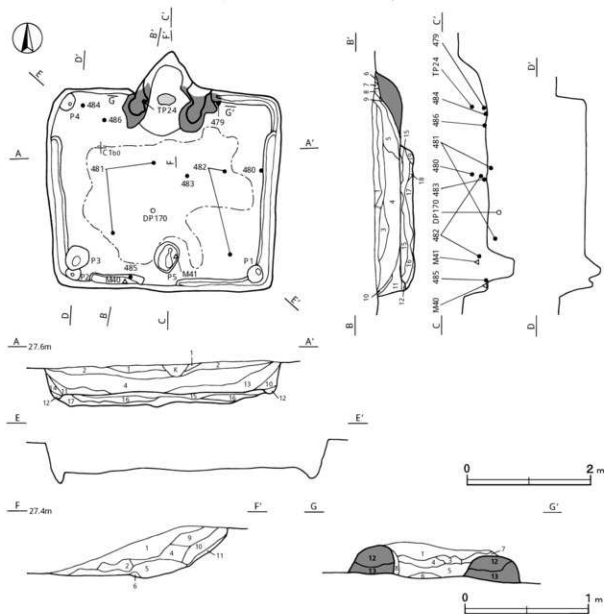
コーナー部と南壁中央部を除いて、壁溝が確認されている。上幅14~18cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

竈 北壁中央部に付設され、壁を60cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで131cm、袖部幅155cmで、袖部は粘土とローム土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

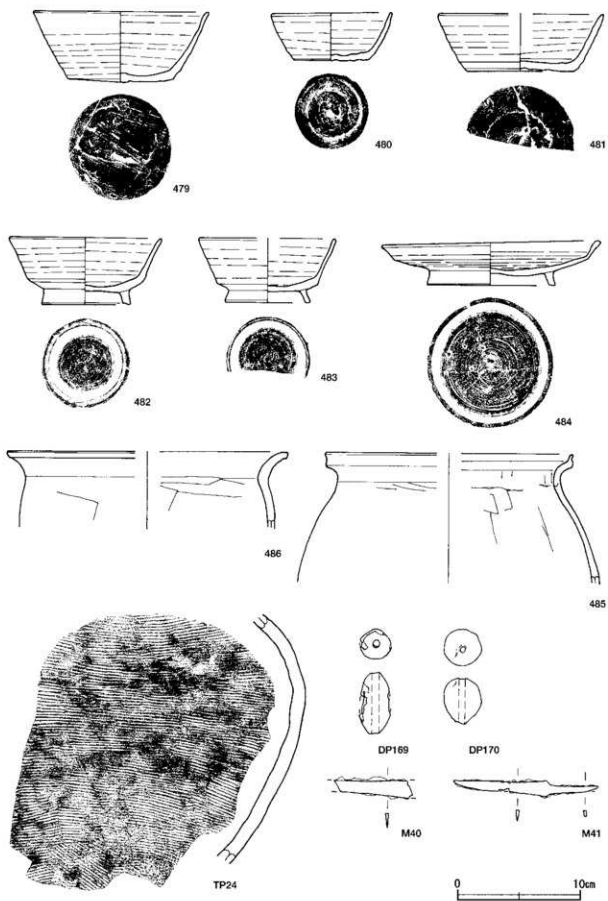
遺土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1 灰褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 | 9 におい褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 におい褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック、炭化粒子・粘土粒子微量 | 12 におい褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子・粘土粒子微量 | 13 におい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂少量 |
| 7 褐色 | 粘土ブロック・焼土粒子微量 | | |

ピット 5か所。P1~P4は深さ14cm~30cmで、規模や配置から主柱穴と考えられるが、北東コーナー部には確認されていない。P5は深さ50cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。



第306図 第80号住居跡実測図



第307图 第80号住居跡出土遺物実測図

覆土 14層からなり、第1～3層はロームブロック・粒子を多く含んだ人為堆積、第4～14層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第15～19層はロームブロックを主体とした貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	12	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	13	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	14	褐色	ローム粒子多量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	15	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	16	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量	17	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
7	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	18	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・
8	褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	19	褐色	炭化粒子・粘土粒子・炭屑パミス少量、ロームブロック・
9	暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量			焼土粒子微量
10	褐色	ローム粒子中量			
11	褐色	ロームブロック・炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片414点(坏類16, 高坏1, 増2, 甕類394, 甌1), 須恵器片212点(坏類155, 盤28, 高盤1, 蓋4, 甕類23, 甌1), 土製品13点(球状土錘1, 管状土錘1, 不明11) 鉄製品2点(刀子)が出土している。480・482・DP169は覆土中層, TP24は甕の覆土上層, M41はP5直上の覆土中層から出土している。479は北壁際の覆土下層, 483は中央部の覆土下層, 484・486は北西コーナー部の床面, 485・M40は南壁際の床面からそれぞれ出土し, いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。また481・DP170は中央部の貼床の構築土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。

第80号住居跡出土遺物観察表(第307図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	須恵器	坏	14.1	5.6	8.5	長石・微塵	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後, 一方のナデ	覆土下層	90% PL78
480	須恵器	坏	9.6	3.9	6.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中層	90% PL78
481	須恵器	坏	(13.2)	4.6	8.6	長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	貼床構築土	40%
482	須恵器	高台付坏	12.2	3.3	7.1	長石・針状炭物・微塵	灰	普通	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土中層	70% PL78
483	須恵器	高台付坏	(10.8)	5.1	6.7	長石・微塵	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	覆土上層	50%
484	須恵器	盤	17.4	3.6	10.4	長石・石英・微塵	灰	普通	体部内外面回転ナデナデ, 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け	床面	85% PL78
485	土師器	甕	(19.8)	(10.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい裡	普通	口辺部内外面横ナデ, 体部内外面ヘラナデ	床面	5%
486	土師器	甕	(22.8)	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ, 体部内外面ヘラナデ	床面	5%
TP24	須恵器	甕	-	(19.8)	-	長石・石英・微塵	黄灰	普通	体部外面横位の平行引き, 体部内面当て具痕	甕覆土上層	10%

番号	器種	最大径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP169	管状土錘	(2.5)	4.9	0.6	(30.8)	土(長石)	ナデ, 一部欠損	覆土中層	
DP170	球状土錘	3.0	3.6	0.5	28.4	土(長石)	ナデ	貼床構築土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	刀子	(6.4)	(1.4)	0.2	(7.8)	鉄	切先・刃部・基部欠損, 刃区あり	床面	PL88
M41	刀子	11.8	1.2	0.3	(8.4)	鉄	刃部・基部欠損, 刃区	覆土中層	PL88

第83号住居跡(第308・309図)

位置 調査区西部のB2h1区, 標高27mほどの台地縁辺部寄りに位置している。

規模と形状 長軸3.6m, 短軸3.5mの方形で, 主軸方向はN-0°である。壁高は66~68cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北東・南東コーナー部と西壁の一部で壁溝が確認され, 上

幅8~14cm、深さ4~10cmで、断面形はU字状を呈している。中央部には、砂質粘土が敷金しており、竈を破壊する際に投棄されたものと想定される。

竈 北壁中央部のやや西寄りに付設され、壁を55cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで143cm、袖部幅94cmで、袖部は床面に構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は確認されていない。

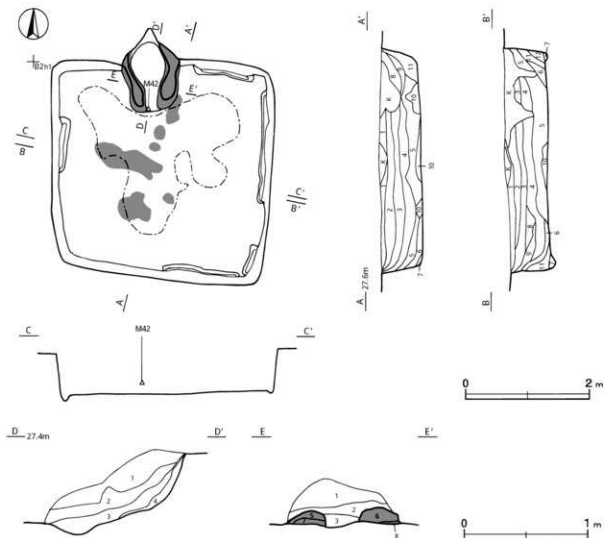
覆土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 移暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にい・黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 にい・黄褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 灰黄褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| | | 7 褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

覆土 12層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

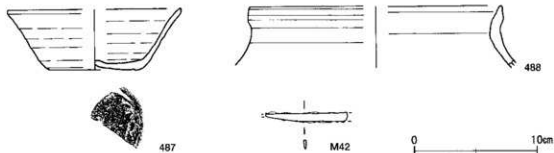
- | | | | |
|-------|------------------------------------|----------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭沼ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭沼ブロック・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 にい・褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・炭沼パミス微量 | 11 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・炭沼パミス微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |



第308図 第83号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片200点(坏類5、高坏3、甕類192)、須恵器片83点(坏類48、盤10、蓋14、壺類11)、土製品2点(不明)、鉄製品1点(刀子)が出土している。487は覆土上層、488は覆土中層、M42は甕の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、住居の形態や主軸方向、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第309図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表(第309図)

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
487	須恵器	坏	140	4.7	174	長石・針状鉱物	灰	普通	底部部転へた切り残、ナデ	覆土上層	20%
488	土師器	甕	202	5.0	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口辺部内外面横ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M42	刀子	6.7	0.7	0.2	3.2	鉄	切先・半欠損、刃部 部欠損	覆土中層	

第89号住居跡(第310・311図)

位置 調査区西部のA2j4区、標高27mほどの台地縁辺部寄りに位置している。

規模と形状 長軸4.6m、短軸4.5mの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁高は37-50cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周し、上幅16-24cm、深さ4-10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を42cm掘り込んで構築されている。規模は焚口部から煙道部まで145cm、袖部幅120cmである。袖部は地山を掘り込み、砂質粘土を主体に構築されている。火床部は皿状に掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 1 褐色 焼土粒少量 | 12 褐色 砂質粘土粒子多量、焼土粒少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒少量 | 13 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 褐色 焼土粒中量 | 14 暗赤褐色 砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒中量 | 15 におい褐色 砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 焼土粒中量、粘土粒少量 | 16 褐色 ローム粒子多量、焼土粒微量 |
| 6 におい褐色 粘土粒中量、焼土粒少量 | 17 黒褐色 ロームブロック・焼土粒微量 |
| 7 暗褐色 粘土粒中量 | 18 黒褐色 炭化粒多量、ロームブロック・砂質粘土粒微量 |
| 8 褐色 粘土粒中量、焼土粒少量 | 19 褐色 ロームブロック中量、焼土粒微量 |
| 9 黒褐色 焼土粒・粘土粒少量 | |
| 10 褐色 焼土粒・粘土粒少量 | |
| 11 褐色 粘土粒多量、焼土粒少量 | |

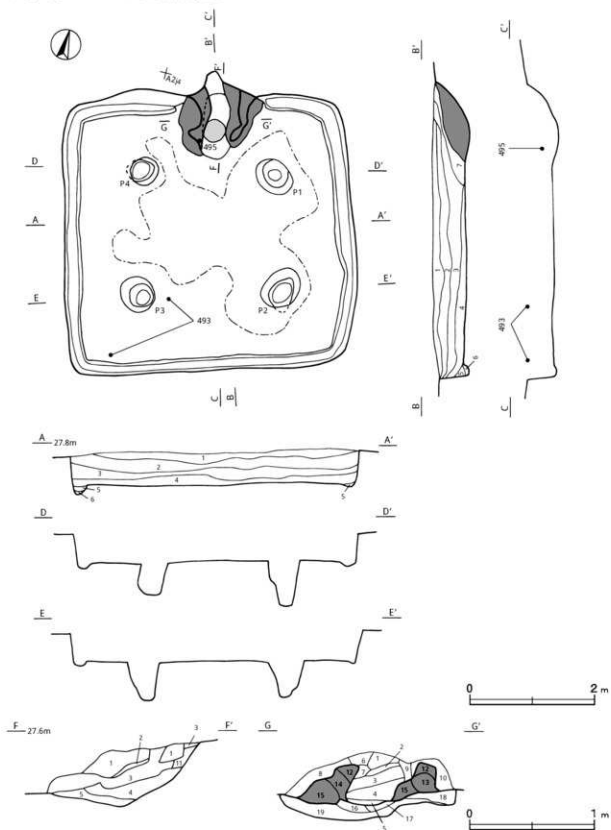
ピット 4か所。P1~P4は深さ54-73cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。

覆土 7層からなり、上層から下層にかけてロームブロック・炭化物を多く含んだ人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

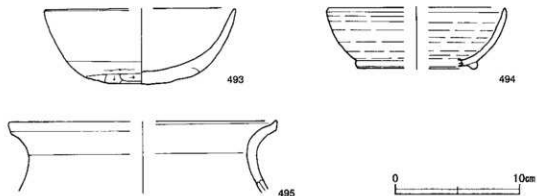
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 灰褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・粘土粒子少量



第310図 第89号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片117点（坏類13，甕2，器台1，甕類101），須恵器片3点（高台付椀1，甕類2），土製品7点（不明）が出土している。493は南壁寄りの覆土上層から出土している。また，495は竈の覆土中層，494は覆土下層から出土しており，廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，住居の形態や出土土器から9世紀代と考えられる。



第311図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表（第311図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
493	土師器	坏	(15.2)	6.0	-	灰石・雲母・微塵	にぶい橙	普通	体部外面ナテ，底部ヘラ掘り，体部内面ナテ	覆土上層	50%
494	須恵器	高台付椀	(14.0)	4.8	(9.6)	長石	灰	普通	体部内外面口ロナテ，底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け	覆土下層	15%
495	土師器	甕	(21.6)	(5.7)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部内外面ナテ	覆土中層	5%

第102号住居跡（第312図）

位置 調査区北部のA4j5区，標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第79号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.3m，短軸2.9mの長方形で，主軸方向はN-6°-Eである。壁高は16~25cmで，外傾して立ち上がっている。

床 東側に向かって緩やかに傾斜し，中央部から北東コーナー部にかけて踏み固められている。壁溝は南壁際から西壁際にかけて確認され，上幅10~19cm，深さ4~6cmで，断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設され，壁を30cm掘り込んで構築されている。焚口部から煙道部まで86cm，袖部幅80cmで，袖部は床面に砂質粘土を主体に構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ，火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 暗赤褐色 ローム粒子少量，砂質粘土粒子・砂微量 |
| 2 赤褐色 砂質粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック中層，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂微量 | 6 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量 |

ピット 3か所。P1は深さ20cm，P2は35cmで，規模や配置から主柱穴と考えられるが，対応する柱穴は検出されていない。P3は深さ19cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。

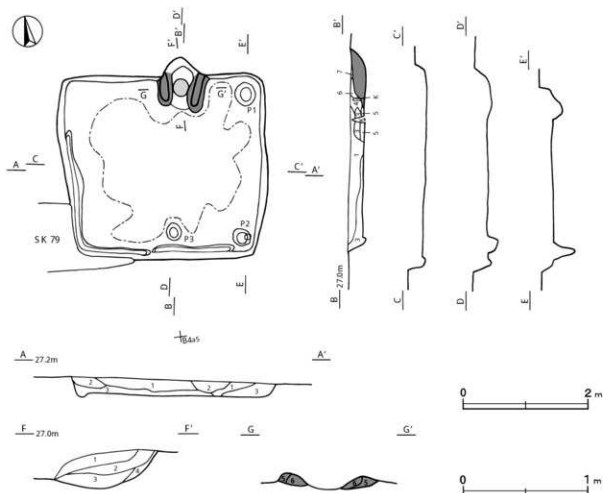
覆土 7層からなり，ロームブロックを多く含み，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|-----------------------|
| 1 樹色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂少量 |
| 4 褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器片5点(坏類3, 甕類2), 須恵器片8点(盤)が出土しているが、すべて細片である。

所見 時期は、出土土器、住居の形態や主軸方向から9世紀代と考えられる。



第312図 第102号住居跡実測図

第104号住居跡 (第313~315図)

位置 調査区北部のB4d1区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.3m, 短軸4.1mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は40~55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 西側に向かって緩やかに傾斜し、中央部が踏み固められている。壁溝が、南壁と西壁の一部と東壁部に確認されている。上幅14~26cm, 深さ4~9cmで、断面形はU字状を呈している。

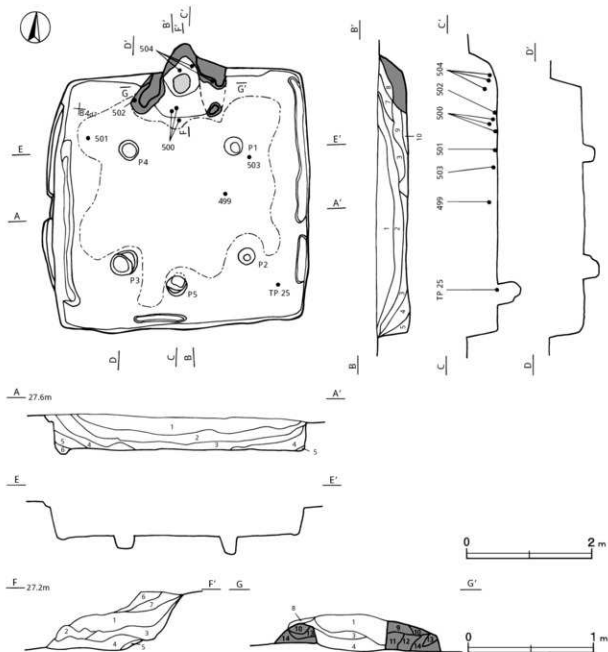
竈 北壁中央部に付設され、壁を46cm掘り込んで構築されている。焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅156cmで、袖部は床面に砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒少量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒少量 | 9 褐色 | 砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒少量 |
| 4 黒色 | 炭化粒多量、砂質粘土ブロック・焼土粒子微量 | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒少量 | 12 褐色 | 砂質粘土粒中量、砂少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 13 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 14 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子・微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ24cm～29cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ38cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状を示した自然堆積である。



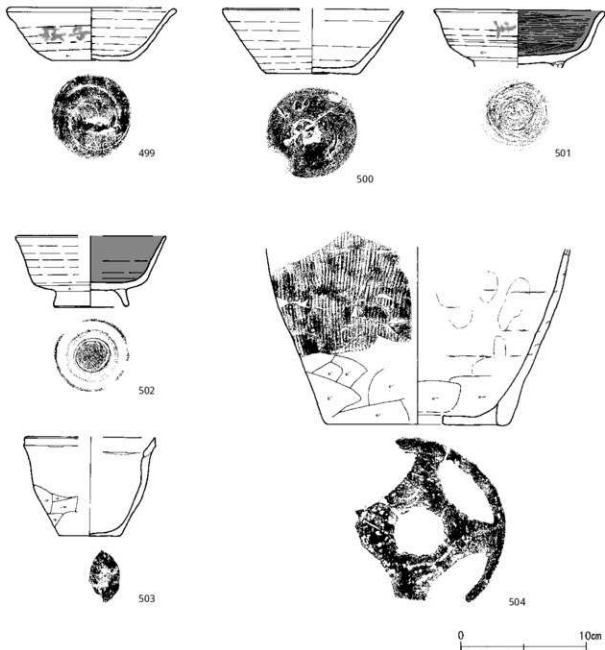
第313図 第104号住居跡実測図

土層解説

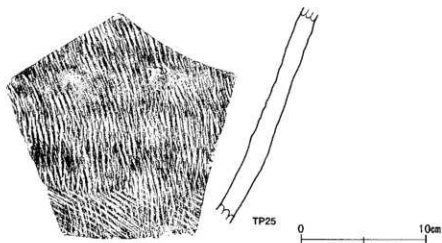
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

- 7 褐色 ロームブロック少量、砂微量
- 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子・砂微量
- 9 暗褐色 砂質粘土粒子・砂少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黒色 砂中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片147点（坏類14，甕類133），須恵器片44点（坏類28，盤5，甕類3，甗8）が甕の覆土中層から下層にかけて集中して出土している。499は中央部の覆土下層，504は甕の覆土中層，TP25は南東コーナー部の覆土下層，500は甕前の覆土下層，501は北西コーナー部の覆土下層から逆位で，502は甕左抽脇の覆土下層から正位で，503は中央部の覆土下層からそれぞれ出土しており，廃絶時に廃棄されたものである。所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第314図 第104号住居跡出土遺物実測図(1)



第315図 第104号住居跡出土遺物実測図(2)

第104号住居跡出土遺物観察表(第314・315図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手造の特徴	出土位置	備考
499	須恵器	坏	132	4.2	6.4	長石・石英・雲母	灰白	不良	体部外面下端へウ割り、底部回転へウ割り	履土下層	70% 華書「口子」の PL78
500	須恵器	坏	[144]	5.1	7.4	長石・石英・針状鉱物	灰黄	普通	底部回転へウ割り	履土下層	60% PL78
501	土師器	高台付坏	132	(4.5)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面へウ割き、体部外面下端へウ割り、底部回転へウ割り後、高台貼り付け	履土下層	70% 華書「生」 PL78
502	土師器	高台付坏	[120]	5.6	6.0	長石・石英	橙	普通	体部内面へウ割き、体部外面下端へウ割り、底部回転へウ割り後、高台貼り付け	履土下層	70% 体部内面に厚肌
503	土師器	壺	(103)	7.8	[49]	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部内外面横十字、体部外面下半へウ割り、体部内面輪積み痕を残すナガ	履土下層	35% 体部内面に輪積み痕
504	須恵器	瓶	-	(140)	[146]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き、体部外面下位へウ割り、体部内面肩で具敷、体部内面下位へウ割ナガ	履土中層	20% 5孔式
TP25	須恵器	壺	-	(17.3)	-	長石・石英	灰	良好	体部外面縦位及び斜位の平行叩き	履土下層	5%

第110号住居跡(第316~318図)

位置 調査区北部のB3e1区、標高28mほどの台地上に位置している。

重複関係 第23・34号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.0m、短軸3.7mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は55~68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、ロームを用いた貼床であり、中央部が踏み固められている。壁溝が全周し、上幅17~30cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部に付設され、壁を88cm掘り込んで構築されている。袖部幅は142cmで、袖部は床面とほぼ同じ高さに砂質粘土で構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

履土層解説

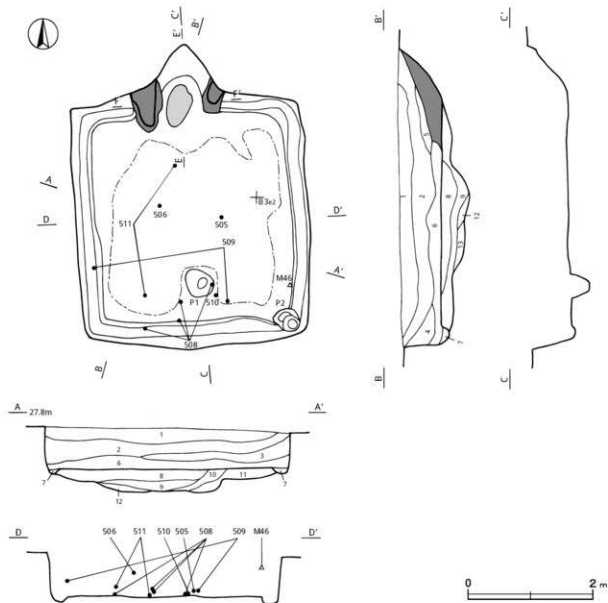
1 稀 褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	10 稀 色	砂質粘土粒子多量
2 暗 褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	11 稀 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 赤 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 稀 色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土粒子・炭化粒子・砂少量、ローム粒子・焼土粒子微量	13 稀暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子中量
5 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗赤褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 明 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量	15 稀 色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
7 黒 褐色	砂多量、ロームブロック・炭化粒子微量	16 稀 色	砂質粘土ブロック多量、ローム粒子・砂少量、焼土粒子微量
8 明 褐色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子微量	17 稀 色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
9 暗 褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	18 稀 色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量

ピット 2か所。P1は深さ32cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ24cmであるが、性格は不明である。

覆土 7層からなり、ロームブロックを多めに含む人為堆積である。第8～13層はロームブロック・粒子を多量に含み、よく締まった助床の構築土である。

土層解説

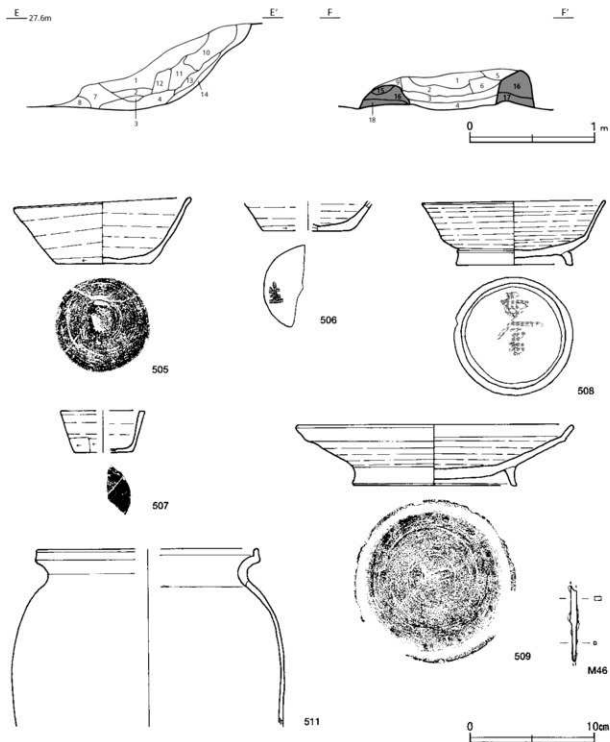
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 13 褐色 | ローム粒子中量、焼土・パミス少量 |



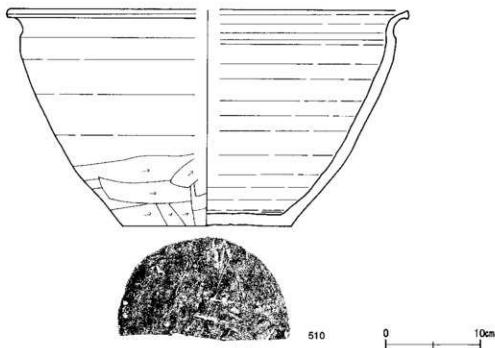
第316図 第110号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片167点（坏類8，蓋2，甕類157），須恵器片179点（坏類112，盤8，高盤1，蓋8，短頸壺2，甕類48）が中央部の覆土中層から下層を中心に出土している。510は南壁寄りの覆土下層，508は南壁寄りの覆土下層に破片で点在している。511は竈前と南壁寄りの覆土下層から破片で出土し，いずれも廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器や住居の形態などから9世紀前葉と考えられる。



第317図 第110号住居跡・出土遺物実測図



第318図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表 (第317・318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
505	須恵器	杯	14.3	5.3	7.6	長石・燧礫	灰	普通	体部外面下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り	覆土下層	95% 口辺部内外面自然釉 PL78
506	須恵器	杯	-	(2.3)	(7.0)	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下面ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、ナデ	覆土中層	30% 雲母「生」
507	須恵器	杯	(68)	3.3	(4.8)	長石・石英	にぶい焼	普通	体部外面下縁ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、ヘラ削り	覆土中層 →土層	30% 底縁自然釉「生」
508	須恵器	高台付杯	14.6	5.1	9.4	長石・燧礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台削り付け	覆土下層	80% 雲母「口青」 PL78
509	須恵器	盤	22	4.9	13.1	長石・針状鉱物・燧礫	黄灰	普通	体部内外面ロクロナデ、底部回転ヘラ削り後、高台削り付け	覆土中層 →土層	80% PL78
510	須恵器	鉢	(42.2)	2.3	17.8	長石・燧礫	明灰	良好	体部外面下縁ヘラ削り、体部内面ナデ	覆土下層	55%
511	土師器	甕	(17.8)	(14.0)	-	長石・石英・雲母・燧礫	にぶい焼	普通	口辺部内外面ナデ、体部外面ヘラ削り後、ナデ 底部内面に輪痕あり	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	鐵	(6.1)	(0.7)	0.3	(3.3)	鉄	長頸壺形式、刃先欠損、底縁・茎一部欠損	覆土上層	

第122号住居跡 (第319～321図)

位置 調査区北部のB3h3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第5号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.5m、短軸4.4mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は14～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 西側に向かって緩やかに傾斜を示す。ロームを用いた貼床であり、中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が全周し、上幅10～18cm、深さ6～10cmで、断面形はU字状を呈している。

竈 2か所確認されている。竈1は竈2を掘り込んで北壁中央部に付設され、壁を67cm掘り込んで構築されている。焚口部から煙道部まで108cmで、両袖部の基部が確認され、竈2の右袖を再利用した可能性も考えられ

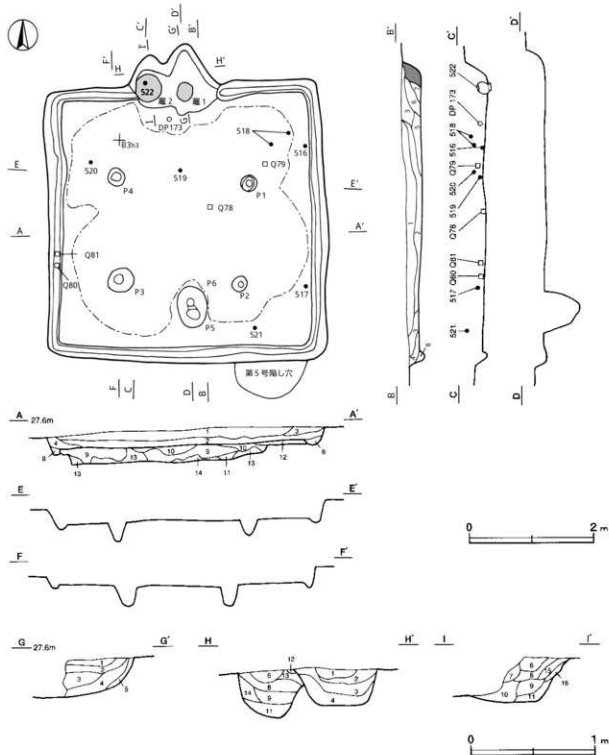
るが明確でない。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

■ 1 土層解説

- 1 褐色 砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 砂質粘土ブロック微量
- 3 暗褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子微量

- 4 灰褐色 砂少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 砂質粘土ブロック・炭化粒子・砂微量

竈 2 は北壁中央部のやや西寄りに付設され、壁を53cm掘り込んで構築されている。焚口部から煙道部まで84cm



第319図 第122号住居跡実測図

である。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は外傾して立ち上がっている。竈1の構築に伴い埋戻されたものと考えられる。

竈2土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|-------------------------|
| 6 褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土粒子・燻微量 | 12 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 13 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | 砂少量、砂質粘土粒子・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 暗赤褐色 | 砂中量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 砂中量、砂質粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・砂微量 |
| 11 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・砂微量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ26～44cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ51cm、P6は57cmでいずれも出入口施設に伴うピットと考えられる。

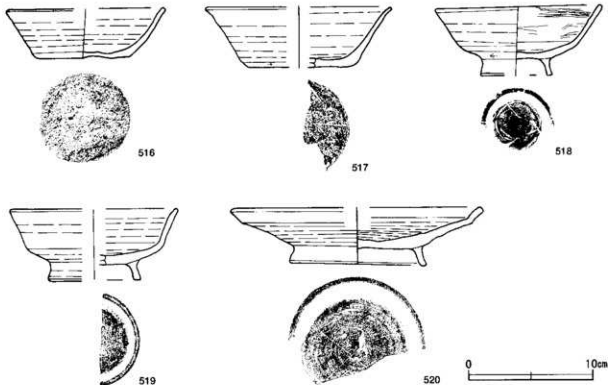
覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。また、第9～14層はロームブロックを多く含む粘床の構築土である。

土層解説

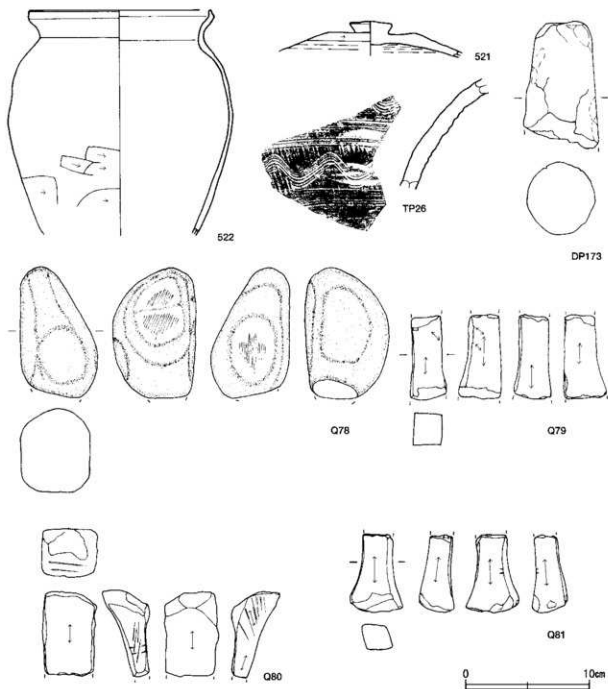
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | 砂質粘土粒子・砂少量、焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化粒子・砂微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 灰褐色 | 砂少量、砂質粘土粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片272点(坏類26, 蓋1, 器台1, 甕類244), 須恵器片94点(坏類67, 盤9, 蓋2, 高盤1, 壺1, 甕類14), 土製品1点(支脚), 石器4点(磨石1, 砥石3), 鉄製品4点(不明)が主に竈付近の覆土上層から下層にわたって出土している。516は東壁際の覆土下層, 517は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており、廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。522は竈2の火床面から出土しており、支脚として利用されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第320図 第122号住居跡出土遺物実測図(1)



第321図 第122号住居跡出土遺物実測図(2)

第122号住居跡出土遺物観察表(第320・321図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	須臾器	環	(126)	4.0	7.5	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後、ナデ	覆土下層	60%
517	須臾器	環	(148)	4.8	(8.2)	長石・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、ヘラナデ	覆土中層	30%
518	上臬器	高台付鉢	132	5.6	(5.8)	長石・石英・雲母・ 燧石	橙	普通	体部内面ヘラ磨き、体部外面下端ヘラ削り、底部回転ヘラ切り後、高台磨り付け	覆土上層	90% PL29
519	須臾器	高台付鉢	(134)	5.6	(7.4)	長石・石英・燧石	灰黄	良好	体部内外面口クロナデ、底部回転ヘラ切り後、高台磨り付け	覆土下層	45%
520	須臾器	盤	(196)	4.7	10.8	長石・石英・燧石	暗灰黄	普通	体部内外面口クロナデ、底部回転ヘラ切り後、高台磨り付け	覆土中層	40% 底部磨き「x」
521	須臾器	蓋	—	(28)	—	長石・石英・雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ切り後、つまみ磨り付け	覆土上層	30%
522	上臬器	甕	14.6	(17.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面下半ヘラ削り、体部内面ナデ	覆2大塚面	70%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP26	須恵器	甕	-	(98)	-	長石・石英・燐礫	灰	普通	口辺部外面縦位の平行叩き後、巻掛き波状文	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP173	支脚	(10.1)	(5.8)	5.6	(331.8)	土(長石・石英)	ナデ、一部欠損	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	磨石	(10.3)	6.2	6.6	(606.6)	砂岩	平組面3面、一部欠損	床面	PL87
Q79	砥石	(6.7)	3.0	3.4	(82.9)	凝灰岩	砥面4面、一部欠損	覆土下層	PL83
Q80	砥石	(6.8)	4.3	3.8	(107.1)	凝灰岩	砥面3面、溝状痕、一部欠損	覆土下層	PL83
Q81	砥石	(6.2)	4.3	2.8	(77.7)	凝灰岩	砥面5面、溝状痕、一部欠損	覆土下層	PL83

第126号住居跡 (第322・323図)

位置 調査区中央部のC4a2区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第125号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺4.6mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は32~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部と北壁を除いて上幅10~24cm、深さ4~10cmの壁溝が確認され、断面形はU字状を呈している。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設され、壁を79cm掘り込んで構築されている。笑口部から煙道部まで135cmで、袖部幅は113cmであり、袖部は床面に構築されている。

火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 濃い赤褐色 | 砂質粘土ブロック・炭化物・焼土粒子・砂微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 4か所。深さはP1が19cm、P2が25cm、P4は12cmであるが、性格は不明である。P3は深さ36cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

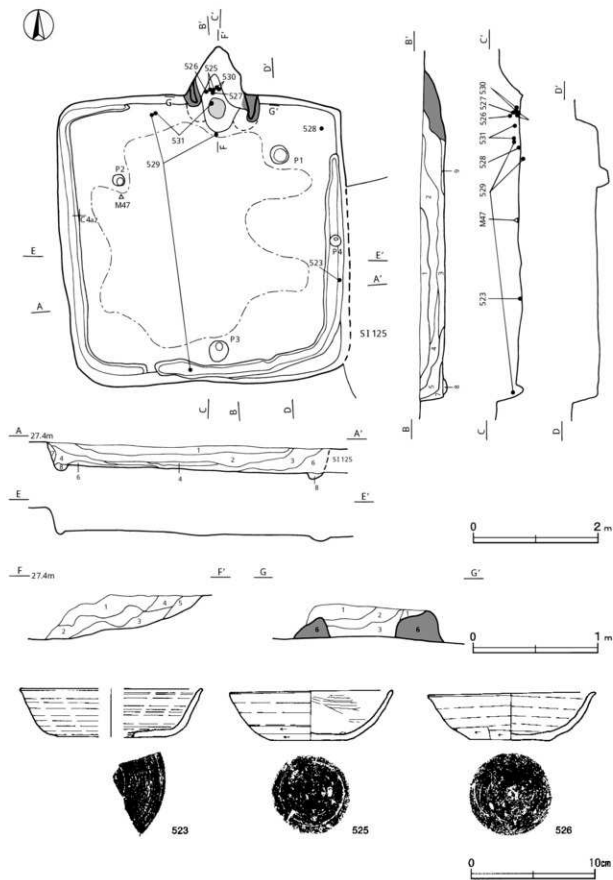
覆土 9層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

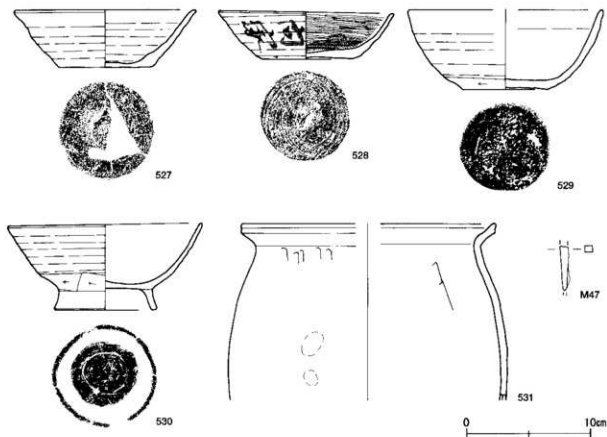
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片394点(坏頸67, 甕頸327), 須恵器片36点(坏頸22, 蓋1, 甕頸13), 鉄製品1点(鍼)が出土し、大半は竈の覆土と周辺に集中している。523は東壁際の覆土下層から出土しているが、他の遺物より時期が古いとみられ、隣接する第125号住居跡からの混入と考えられる。529は覆土下層、531は竈と竈西側の覆土下層からそれぞれ破片で出土している。525~527・530は竈中央部の覆土中層から下層にかけて逆位に重ねられた状態で出土し、廃絶時の竈祭祀にかかわる遺物の可能性がある。また、528は北西コーナー部の覆土下層、M47は西壁寄りの床面から出土しており、525~527・530とともに時期判断の指標となる遺物である。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第322图 第126号住居跡・出土遺物実測図

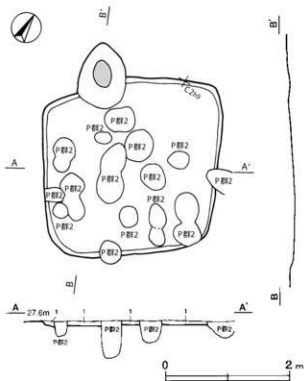


第323図 第126号住居跡出土遺物実測図

第126号住居跡出土遺物観察表 (第322・323図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
S25	土師器	坏	130	4.0	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内面ヘラ磨き、体部外面下端ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り	竈壇上層	98% PL79
S26	土師器	坏	133	3.9	6.4	長石・石英・赤色 粒子	赤	普通	体部内面ヘラ磨き、体部外面下端ヘラ削り、底部回転ヘラ削り	竈壇土中層	95% PL79
S27	須恵器	坏	142	4.6	7.6	長石・石英・赤色 粒子・燧石	にぶい黄褐色	不良	底部回転ヘラ削り後、ナデ	竈壇土下層	80% 底部磨き「ナ」 PL79
S28	土師器	坏	138	3.8	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ削り後、ヘラ削り	竈壇上下層	80% 磨き「向家」 PL79
S23	須恵器	坏	(146)	3.7	(8.6)	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、ナデ	竈壇土下層	20%
S29	土師器	碗	(154)	6.3	6.7	長石・石英・燧石	淡黄褐色	普通	底部回転ヘラ削り	竈壇土下層	50%
S30	土師器	高台付坏	154	6.9	8.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後、高台起り付	竈壇土下層	70% 器壁内外面 磨き観察 PL79
S31	土師器	甕	(207)	(14.0)	-	長石・石英・赤色 粒子	淡黄褐色	普通	口辺部内外面横ナデ、体部外面ナデ、体部内面ヘラナデ	竈壇土下層 竈壇土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M47	鉄	(3.4)	(0.6)	0.5	(2.4)	鉄	長形細さ、貫通部のみ残存	床面	



第324図 第141号住居跡実測図

第144号住居跡 (第325図)

位置 調査区南部のD2i7区、標高27mほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 一辺3.0mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁高は35-44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設され、壁を84cm掘り込んで構築されている。焚口部から煙道部まで158cmで、左袖部は耕作により破壊されているが右袖部が残存しており、砂質粘土で構築されている。火床部は浅く掘りくぼめられ、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子疎雑 |
| 2 褐色 | ローム粒子微量 | 10 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・微量 | 11 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・微量、砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 砂質粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量 | 13 褐色 | ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、砂質粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、疎雑 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 17 暗赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック微量 |
| | | 18 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子微量 |

ピット 2か所。深さはP1が12cm、P2が6cmで、いずれも出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多量に含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|------------------|------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

第141号住居跡 (第324図)

位置 調査区中央部のC2h8区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.9m、短軸2.8mの方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は5-6cmと低く、壁の立ち上がりの状況は不鮮明である。

床 南側に向かって緩やかに傾斜している。

竈 竈の掘り方の範囲と火を受けて赤変している火床面の状況だけが確認されている。

覆土 層厚が5-6cmと薄く、単一層である。

土層解説

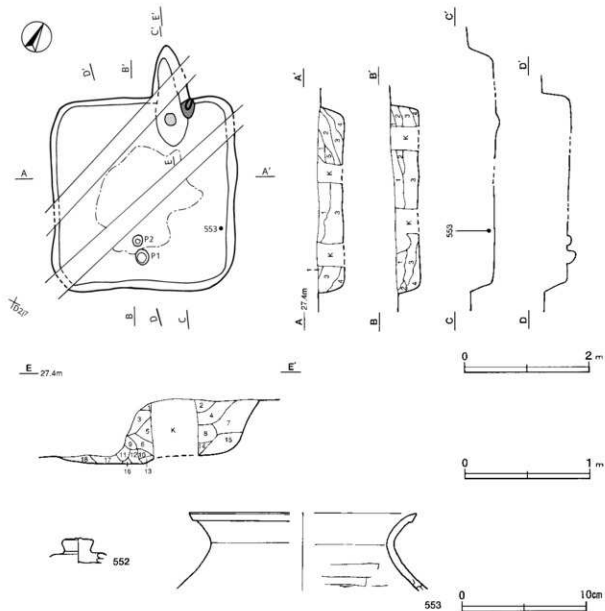
- 1 褐色 ローム粒子中量 (結まり弱い)

遺物出土状況 土師器片2点(坏類、堯類)、須恵器片3点(坏類2、堯類1)が出土している。

所見 時期は、土器片の特徴から平安時代と考えられる。

遺物出土状況 土師器片328点（坏類34，器台6，甕類288），須恵器片13点（坏類11，蓋1，甕類1），鉄製品1点（不明）が主に竈前の覆土中層から下層にわたって出土し、ほとんどが破片である。552は覆土中から、553は東壁際の覆土下層から破片で出土し、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や住居の形態などから9世紀代と考えられる。



第325図 第144号住居跡・出土遺物実測図

第144号住居跡出土遺物観察表（第325図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
552	須恵器	蓋	-	(21)	-	長石・針状鉱物・赤色鉄子	灰黄	普通	天井部ヘラ振り後、つまみ取り付け	覆土	5%
553	土師器	甕	(182)	(62)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	口沿部内外面縞ナデ	覆土下層	5%

(2) 掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡 (第326図)

位置 調査区西部のC2g2区、標高27mほどの台地上に位置している。

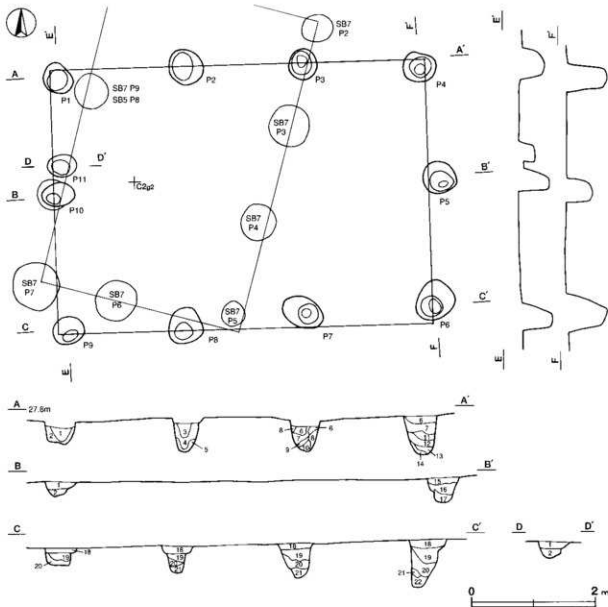
重複関係 第5・7号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向N-88°-Wの東西棟である。規模は、桁行6.0m (20尺)、梁行3.9m (13尺)で、柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.95m (6尺半)を基調としている。また、桁行の柱筋は比較的通っているが、半側では通りが悪い。

柱穴 11か所。平面形は円形または楕円形で、深さは28~68cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、締まりの弱い褐色・暗褐色土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |



第326図 第3号掘立柱建物跡実測図

- 9 暗褐色 ロームブロック中量
 10 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 11 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 12 褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
 13 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 14 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
 15 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量、炭化物少量

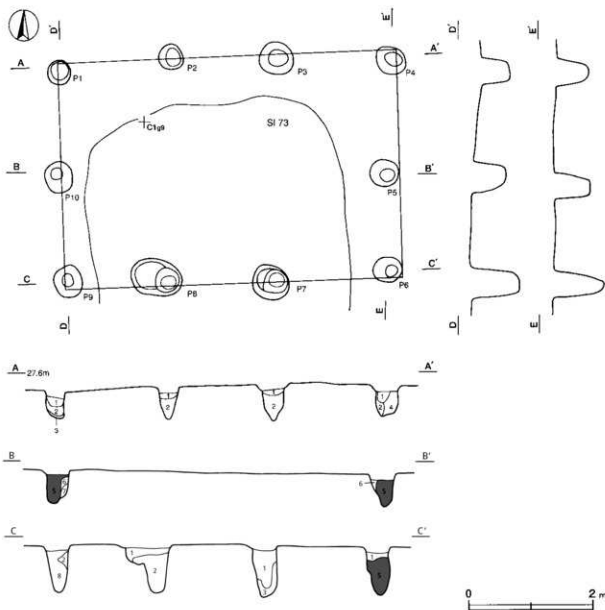
- 16 褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
 17 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
 18 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 19 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 20 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
 21 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 22 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片16点(堯類)、須恵器片5点(坏類4、不明1)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 西側に並列する第4号掘立柱建物跡と桁行方向や規模、構造がほぼ同じであることから、時期は第4号掘立柱建物跡と同時期と考えられる。ともに時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、桁行方向や規模・構造から、時期は平安時代と考えられる。

第4号掘立柱建物跡(第327図)

位置 調査区西部のC1g9区、標高27mほどの台地上に位置している。



第327図 第4号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第73号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の圓柱建物跡で、桁行方向N-87°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.4m(18尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.8m(6尺)を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは50~82cmである。土層は第5層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。また、第6・7層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした固く締まった褐色土である。その他の層は、いずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒了・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック中量	6 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	7 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片2点(甕類)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 東側に並列する第3号掘立柱建物跡と桁行方向や規模、構造がほぼ同じであることから、時期は第3号掘立柱建物跡と同時期と考えられる。ともに時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、桁行方向や規模・構造から、時期は平安時代と考えられる。

第12号掘立柱建物跡(第328・329図)

位置 調査区中央部のD3b4区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡を掘り込み、第165号土坑及び第1号溝跡に掘り込まれている。また第47・48号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行5間、梁行3間の圓柱建物跡で、桁行方向N-14°-Wの南北棟である。規模は、桁行9.3m(31尺)、梁行4.8m(16尺)で、柱間寸法は、桁行は中央間が2.1m(7尺)、他は1.8m(6尺)で、梁行は東間1.8m(6尺)、他は1.5m(5尺)である。また、桁行・梁行ともに柱筋は通っている。

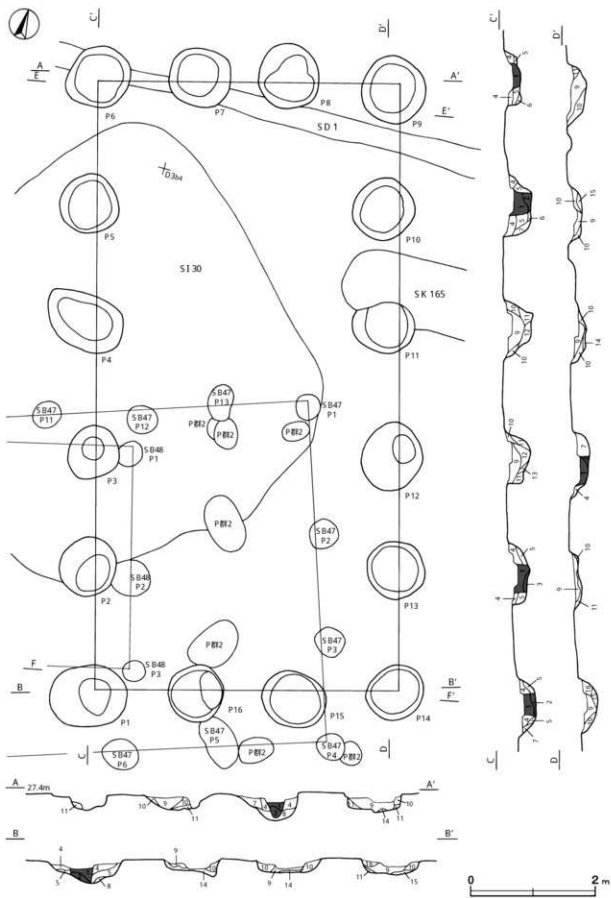
柱穴 16か所。平面形は円形を基調とし、深さは20~50cmである。土層は第1~3層が柱痕跡に相当し、第1・2層は締まりの弱い黒褐色土で、第3層が柱の当たり痕と判断され固く締まった暗褐色土である。第4~8層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色・暗褐色土で互層をなし、固く突き固められている。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

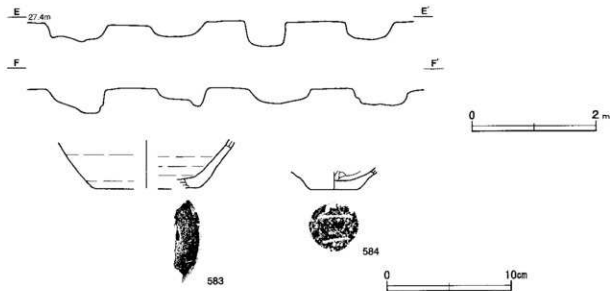
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒了・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒了中量	11 褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック多量	13 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量	14 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子多量	15 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック中量	16 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片148点(甕類144, 坏2, 高台付坏2), 須恵器片47点(坏類36, 甕類11), 土製品1点(球状土錐)のほか、流れ込みによる縄文土器片1点、弥生土器片1点が出土している。583はP5の覆土中、584はP12の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 南西側に隣接する大形の第7号住居跡と軸線がほぼ同じであり、同住居跡と並立して屎としての機能を有していたと想定される。時期は、出土土器と併せて9世紀前半と考えられる。また規模や構造からみて、第7号住居跡とともに当該期の集落の中心的な役割を担っていた建物跡と考えられる。



第328图 第12号掘立柱建物跡実測図



第329図 第12号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第329図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
583	須臾器	坏	—	(39)	(8.6)	長石・石英	にぶい褐色	普通	体部内外面ロクロナデ	P5覆土	10%
584	土師器	甕	—	(14)	3.9	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	体部内外面ヘラナデ 底面ヘラ記号	P12	10%

第13号掘立柱建物跡（第330図）

位置 調査区中央部のC3j1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第236号土坑に掘り込まれている。また、第26・27・31・44号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-9°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.7m（19尺）、梁行4.2m（14尺）で、柱間寸法は、桁行が東側では1.8m（6尺）を基調とし、西側では北間から2.1m（7尺）、1.5m（5尺）、1.8m（6尺）異なり、梁行では2.1m（7尺）を基調としている。また、全体的に柱筋は通っている。

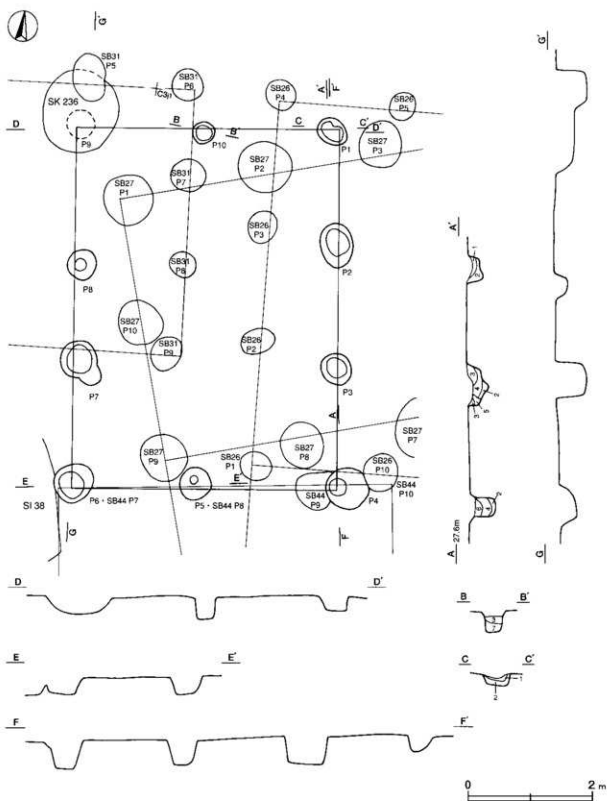
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは20～50cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、褐色・暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|----------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ローム粒子少量、灰化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 桁行方向がほぼ同じで、東側に並立する第12号掘立柱建物跡とともに倉庫的な機能を果たしていたと想定される。時期は、第12号掘立柱建物跡の年代観に従って9世紀前半と考えられる。



第330図 第13号掘立柱建物跡実測図

第14号掘立柱建物跡 (第331図)

位置 調査区東部のC4i6区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第58号住居跡を掘り込み、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-83°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.4m（18尺）、梁行3.6m（12尺）で、柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.8m（6尺）を基調としている。また、南西隅の柱穴を除いては、柱筋は通っている。

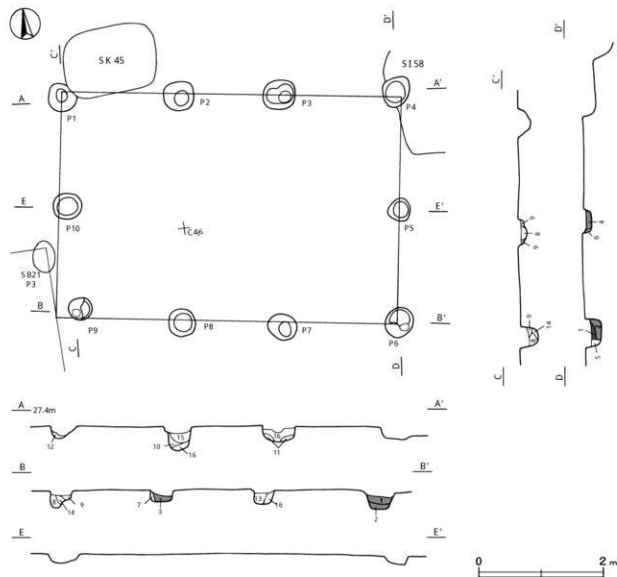
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは14~40cmである。上層は第1~4層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第5~7層は掘り方の埋土で、ロームを主体とした固く締まった褐色土である。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 14 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 南西隅に隣接する第52号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立し倉庫的な機能を有



第331図 第14号掘立柱建物跡実測図

していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第52号住居跡と同時期の9世紀中葉と考えられる。

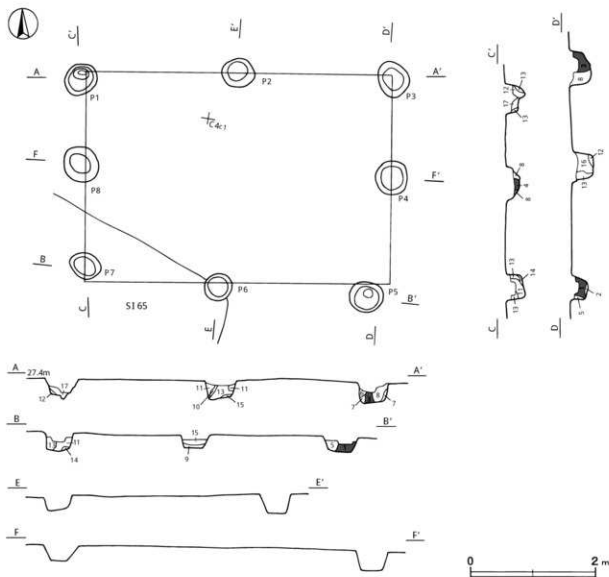
第15号据立柱建物跡 (第332図)

位置 調査区中央部のC4c1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第65号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向 $N-82^{\circ}-E$ の東西棟である。規模は、桁行4.8m(16尺)、梁行3.3m(11尺)で、柱間寸法は、桁行で2.4m(8尺)を基調とし、梁行は北間1.5m(5尺)、南間1.8m(6尺)でばらつきが見られる。また、柱筋は南平側のP5・P7にずれが見られるが、その他はおおむね通っている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし、深さは22~37cmである。土層は第1~4層が柱痕跡に相当し、種まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第5~8層は掘り方の埋土で、ローム上を主体とした固く締まった褐色土である。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。



第332図 第15号据立柱建物跡実測図

土層解説

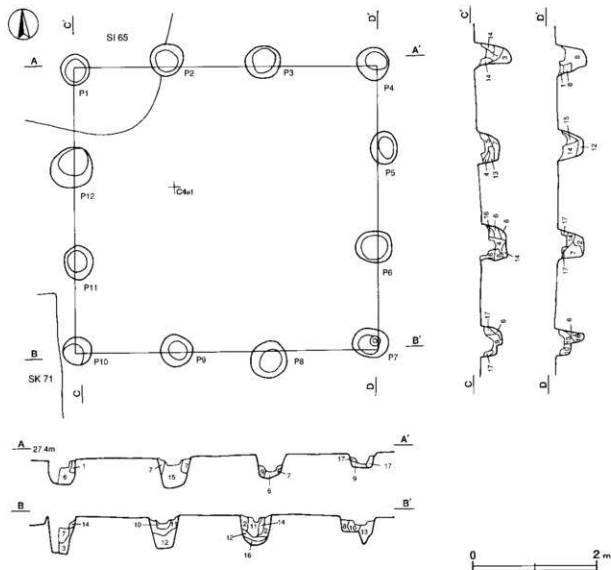
1	黒褐色	炭化粒子中量, ロームブロック少量	10	褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
2	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	13	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
5	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量	14	褐色	ロームブロック中量
6	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量
8	褐色	ロームブロック中量, 砂粒微量	17	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
9	褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 土師器片4点(堯類)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 北西側に隣接する第126号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第126号住居跡と同時期の9世紀中葉と考えられる。

第16号掘立柱建物跡(第333図)

位置 調査区中央部のC4e1区、標高27mほどの台地上に位置している。



第333図 第16号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第65号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向N-87°-Wの東西棟である。規模は、桁行4.8m（16尺）、梁行4.5m（15尺）で、柱間寸法は、桁行の東間1.8m（6尺）以外は桁行・梁行とも1.5m（5尺）を基調とし、桁行の柱間がやや広くなっている。また、柱筋はおおむね通っている。

柱穴 12か所。平面形は円形を基調とし、深さは38～61cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、褐色・暗褐色を基調としたやや締まりのある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | 13 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子中量、焼土粒微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 14 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 16 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック中量 | 17 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 土師器片18点（甕類17、坏類1）須恵器片1点（坏類）のほか、混入した陶磁器片1点が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 南側に隣接する第47号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立して倉庫的な機能を持っていたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第47号住居跡と同時期の9世紀後葉と考えられる。

第17号掘立柱建物跡（第334図）

位置 調査区中央部のC3c9区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第65号住居跡を掘り込み、第77号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-87°-Eの東西棟である。規模は、桁行4.2m（14尺）、梁行3.3m（11尺）で、柱間寸法は、北桁行の東間2.4m（8尺）、西間1.8m（6尺）、南桁行は2.1m（7尺）で、梁行は1.65m（5尺半）を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。

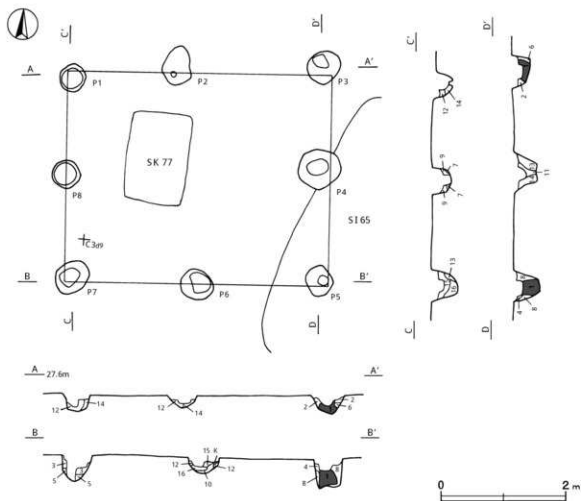
柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし、深さは22～45cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、炭化粒子を少量含む締まりの弱い暗褐色土である。第2～9層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色・暗褐色土で互層をなしているが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 11 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 16 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片6点（甕類4、坏類2）のほか、流れ込みによる弥生土器片1点が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 桁行方向や規模、構造がほぼ同じで、東西に並列する第15号掘立柱建物跡とともに住居に付属する倉庫的な機能をもっていたと考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第15号掘立柱建物跡の年代観に従って9世紀後葉と考えられる。



第334図 第17号掘立柱建物跡実測図

第20号掘立柱建物跡 (第335図)

位置 調査区中央部のC4h1区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-86°-Eの東西棟である。規模は、桁行・梁行ともに2.4m(8尺)で、柱間寸法は、桁行が1.2m(4尺)、梁行が2.4m(8尺)を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。

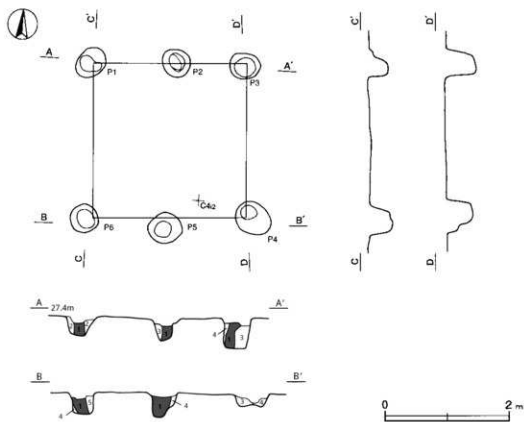
柱穴 6か所。平面形は円形を基調とし、深さは33~51cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。その他の層は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ褐色・暗褐色土であり、突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 西側に隣接する第49号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第49号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。



第335図 第20号掘立柱建物跡実測図

第21号掘立柱建物跡 (第336図)

位置 調査区東部のC4j5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第51・52号住居跡及び第46号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行1間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向 $N-1^{\circ}-W$ の南北棟である。規模は、桁行3.0m (10尺)、梁行2.7m (9尺)で、柱間寸法は、桁行が3.0m (10尺)で、梁行は北側で1.2m (4尺)を基調としているが、南梁行はばらつきがあり、南西隅のP6を除いて、柱筋は通っている。

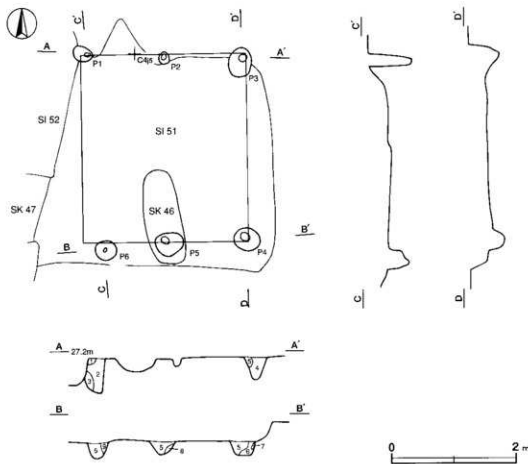
柱穴 6か所。平面形は円形を基調とし、確認面からの深さは20~71cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、褐色を基調としたやや締まりの弱い土層である。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 北西側に隣接する第20号掘立柱建物跡と構造が類似しており、軸線がほぼ同じであることから、同建物跡と同時期もしくは前後して建てられたものと推定され、ともに倉庫的な機能をもっていたと考えられる。時期は、第20号掘立柱建物跡の年代観に従って9世紀前葉と考えられる。



第336図 第21号掘立柱建物跡実測図

第22号掘立柱建物跡 (第337図)

位置 調査区北部のB2g0区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第160号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-8°-Eの南北棟である。規模は、桁行5.7m (19尺)、梁行3.3m (11尺)で、柱間寸法は、桁行が西側で北から1.8m (6尺)、2.1m (7尺)、1.8m (6尺)、東側では1.5m (5尺)、2.4m (8尺)、1.8m (6尺)とばらつきがあり、梁行は東間1.5m (5尺)、西間1.8m (6尺)である。また、南妻側を除いて、柱筋はおおむね通っている。

柱穴 10か所。P 7は掘り込みは認められず、地山との色調と締まりとの相違で位置を判断した。P 1～P 6、P 8～P 10の平面形は円形を基調とし、深さは18～47cmである。土層は第1～3層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第4・5層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした固く締まった褐色土である。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

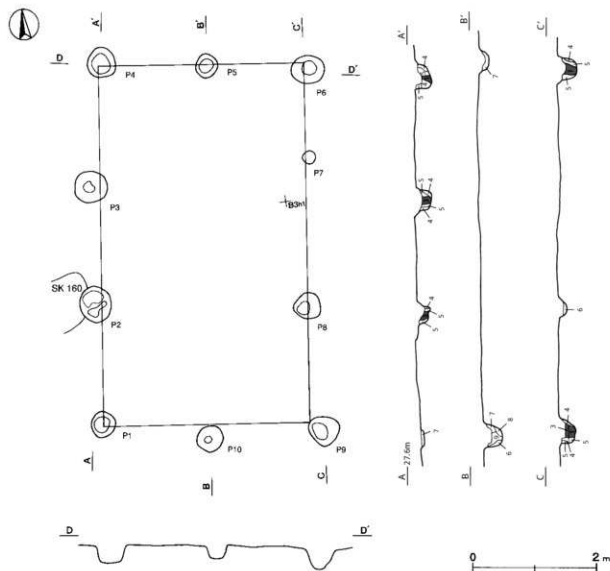
土層解説

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 5 褐色 ローム粒子多量 | |

遺物出土状況 土師器片1点(坏類)が出土している。

所見 規模及び構造から、住居に付属する倉庫的な機能をもった建物跡と推定される。土師器細片1点のみの

出土であるため明確ではないが、桁行方向や規模・構造から、時期は平安時代と考えられる。



第337図 第22号掘立柱建物跡実測図

第23号掘立柱建物跡 (第338図)

位置 調査区中央部のD3a0区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第60号土坑及び第1号溝跡に掘り込まれている。

規模と構造 南側の大部分が調査区域外に及んでいるため明確ではないが、北及び東西側に柱穴が伸びないことから、桁行3間の側柱建物跡で、桁行方向 $N-83^{\circ}-W$ の東西棟と推定される。規模は不明であるが、柱間寸法は調査された北側桁行で西側の2間は1.8m(6尺)、東間1.5m(5尺)であり、柱筋は通っている。

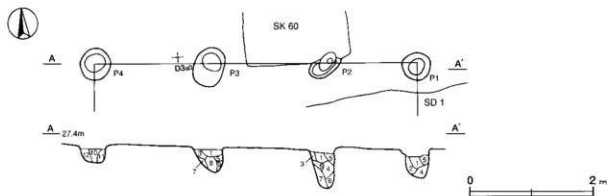
柱穴 北側桁行の4か所が検出されている。平面形は円形を基調とし、深さは30~62cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、暗褐色・褐色を基調としたやや綺まりのある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(壺類)が出土している。

所見 東側に位置する第14号掘立柱建物跡と桁行方向や規模・構造が類似していることから、倉庫的な機能や時期ともに大きな差異はないと推定される。土師器細片1点のみの出土であるため明確ではないが、時期は第14号住居跡と同時期の9世紀中葉と考えられる。



第338図 第23号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡 (第339図)

位置 調査区北部のB3f2区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第119号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.4m(18尺)、梁行3.0m(10尺)で、柱間寸法は、桁行が1.8m(6尺)、梁行が1.5m(5尺)を基調としている。また、北平側の柱筋は通っているが、その他は通りが悪い。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは19~49cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第2・3層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土であるが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック中量	10 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量	11 褐色	ローム粒子多量
4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	13 褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック、焼土粒子少量	15 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片2点(壺類)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

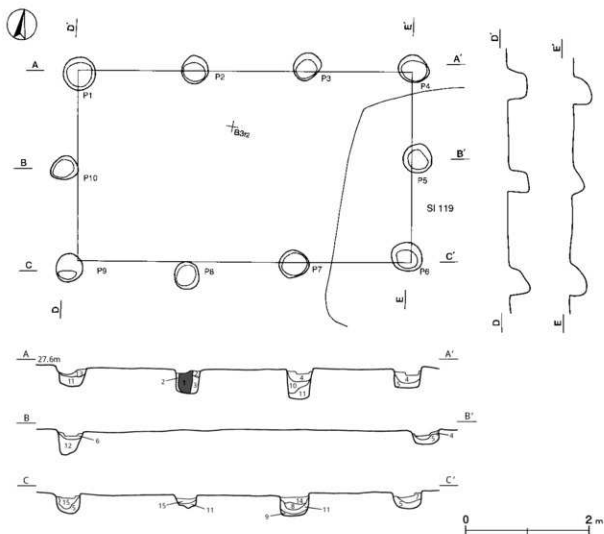
所見 南東側に隣接する第122号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第122号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。

第26号掘立柱建物跡 (第340・341図)

位置 調査区中央部のB3j2区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第37号住居跡及び第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。また、第13・42・44号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の身舎の南側の一面に庇が付属する側柱建物跡で、桁行方向はN-5°-W



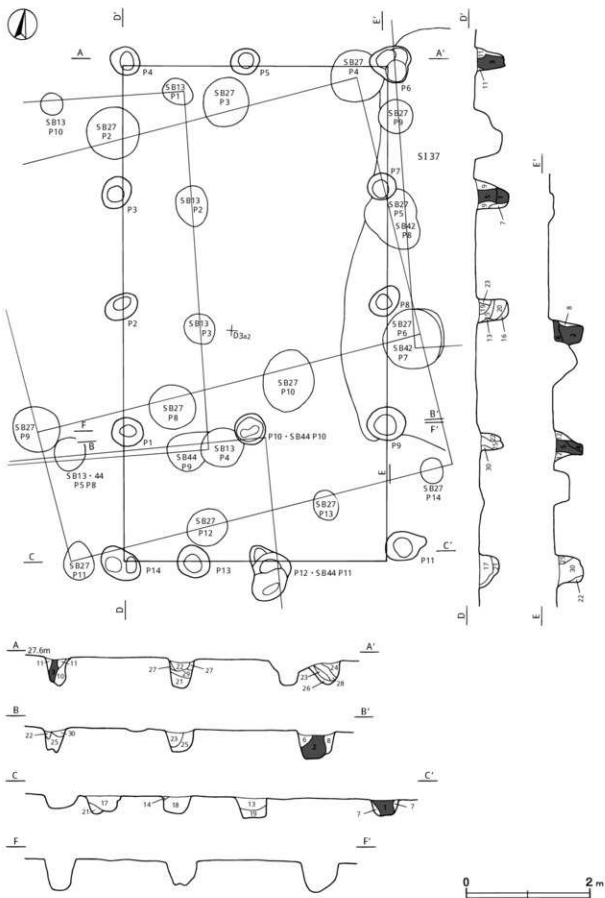
第339図 第25号掘立柱建物跡実測図

の南北棟である。規模は、身舎の桁行5.7m (19尺)、庇の出2.1m (7尺)で、梁行4.2m (14尺)である。身舎の柱間寸法は、桁行は北間2.1m (7尺)でその他は1.8m (6尺)、梁行が2.1m (7尺)を基調とし、庇の梁行は2.1m (7尺)である。また、身舎の柱筋はおおむね通っている。

柱穴 14か所。平面形は円形を基調とし、深さは27～58cmである。土層は第1～6層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第7～12層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土であるが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

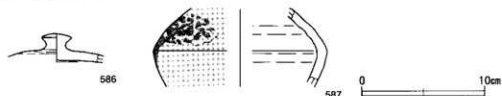
- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 16 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 19 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 21 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量 | 22 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 23 褐色 | ローム粒子多量 |
| 9 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 | 24 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 10 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 25 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 11 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 26 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 27 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 13 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 | 28 暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 14 褐色 | ロームブロック多量 | 29 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 15 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 30 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第340图 第26号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片15点(甕類), 須恵器片3点(甕類, 坏類, 蓋), 灰釉陶器片1点(長頸瓶)のほか, 流れ込みによる弥生土器片1点が出土している。586はP2の覆土中, 587はP5の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 軸線がほぼ同じで, 東側に並列する第36号掘立柱建物跡のほか, 南側に隣接する大形の第7号住居跡とも関連が考えられ, 屋としての機能が想定される。時期は第7号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。また, 同様に第27・12号掘立柱建物跡も第7号住居跡に付属すると考えられるため, 両建物跡が建て替えられて本跡及び第36号掘立柱建物跡がつけられたものと推定される。



第341図 第26号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種別	容積	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
586	須 恵 器	蓋	—	(23)	—	灰石・雲母	灰	普通	天津部回転へう附り後, 挖手彫り付け	P2覆土	5%
587	灰釉陶器	長頸瓶	—	(62)	—	灰石	灰黄	普通	係部外面ロコナデ	P5覆土	5%

第27号掘立柱建物跡 (第342・343図)

位置 調査区中央部のD2j1区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第37号住居跡及び第42号掘立柱建物跡を掘り込み, 第26号掘立柱建物跡に掘り込まれている。また13・31・44号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

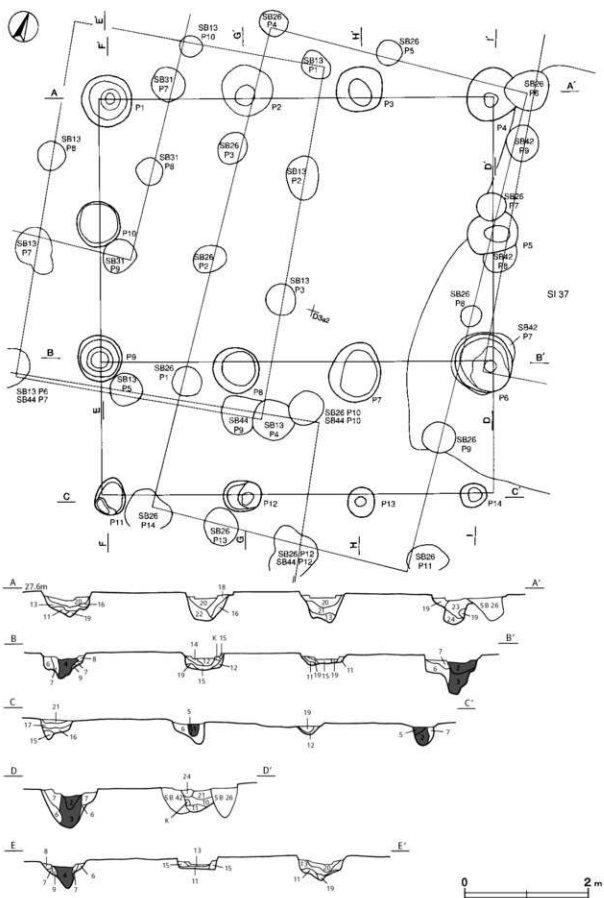
規模と構造 桁行3間, 梁行2間の身舎の南側に一面庇が付属する側柱建物跡で, 桁行方向はN-72°-Eの東西棟である。規模は, 桁行6.3m(21尺), 身舎の梁行4.2m(14尺), 庇の出2.1m(7尺)である。柱間寸法は, 身舎及び庇のいずれも桁行・梁行ともに2.1m(7尺)を基調としている。また, 柱筋は全体的におおむね通っている。

柱穴 14か所。平面形は円形を基調とし, 深さは19~65cmである。土層は第1~5層が柱痕跡に相当し, 縛まりの弱い暗褐色土である。第6~9層は掘り方の埋土で, ローム土を主体とした比較的固く締まった褐色・暗褐色土であり, 一部で互層をなしている。その他の層は, 柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

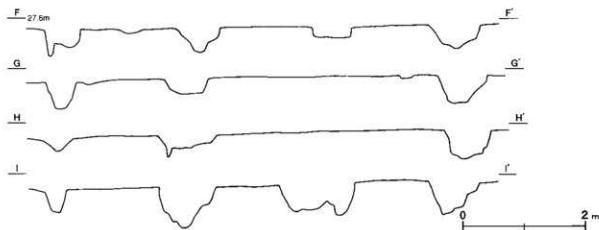
1 暗褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	14 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	15 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック多量	18 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量
7 褐色	ロームブロック中量	19 褐色	ローム粒子多量
8 暗褐色	ローム粒子微量, 炭化粒子微量	20 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
9 褐色	ローム粒子中量	21 暗褐色	ローム粒子中量
10 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子微量	22 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
11 褐色	ロームブロック多量	23 暗褐色	ローム粒子少量
12 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	24 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片12点(甕類10, 坏類2), 須恵器片7点(坏類4, 甕類3)が出土している。土器はいずれも細片で, 図示できるものはない。



第342图 第27号掘立柱建物跡実測図(1)

所見 重複する第26号掘立柱建物跡とともに南側に一面庇をもつ建物跡で、南東隅に隣接する第12号掘立柱建物跡とともに第7号住居跡に付属する屋としての機能をもった建物跡と想定される。時期は第12号掘立柱建物跡の年代観に従って9世紀前葉と考えられる。

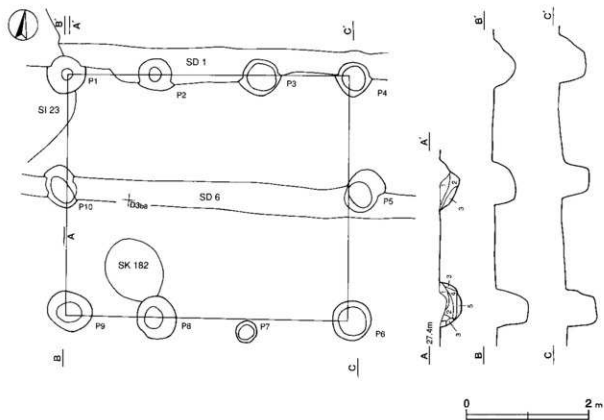


第343図 第27号掘立柱建物跡実測図(2)

第30号掘立柱建物跡 (第344図)

位置 調査区中央部のD3a8区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込み、第1・6号溝跡に掘り込まれている。第182号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。



第344図 第30号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-86°-Eの東西棟である。規模は、桁行4.5m(15尺)、梁行3.9m(13尺)で、柱間寸法は、桁行が1.5m(5尺)、梁行が1.95m(6尺半)を基調としている。また、北半側と西妻側では柱筋が通っているが、南半側と東妻側では通りが悪い。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは35~53cmである。土層を観察できたP1・P10は、いずれも柱抜き取り後の覆土で、ローム上を含んだやや締まりある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 西側に隣接する第24号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第24号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。

第31号掘立柱建物跡 (第345図)

位置 調査区中央部のC2j0区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込み、第236号土坑に掘り込まれている。また第13・27号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.2m(14尺)、梁行3.3m(11尺)で、柱間寸法は、桁行が1.5m(5尺)、梁行が1.65m(5尺半)を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。また、南妻側の1間に東柱状の掘り方が見られる。

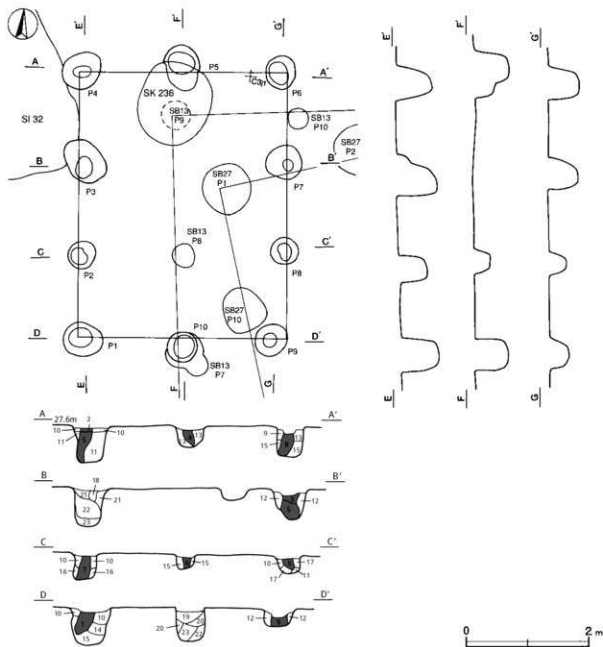
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは29~67cmである。土層は第1~8層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第9~17層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした暗褐色・褐色土であり、P1・P2・P4・P6・P8では互層をなしているが、強く突き固めた痕跡は認められない。また、第18~23層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 13 暗褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 17 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 19 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 9 褐色 | ロームブロック多量 | 21 褐色 | ロームブロック中量 |
| 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 22 暗褐色 | ロームブロック中量、砂粒微量 |
| 11 暗褐色 | ロームブロック中量 | 23 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 12 褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片7点(甕類)、須恵器片1点(坏類)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 桁行方向をほぼ同一にして、東西に並列する第32号掘立柱建物とともに倉庫的な機能を果たしていたと考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、9世紀後葉の第32号住居跡を掘り込んでいることから、桁行方向及び規模と併せて、それ以降の平安時代と考えられる。



第345図 第31号掘立柱建物跡実測図

第32号掘立柱建物跡（第346図）

位置 調査区中央部のC2j9区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第31・32号住居跡を掘り込んでいる。

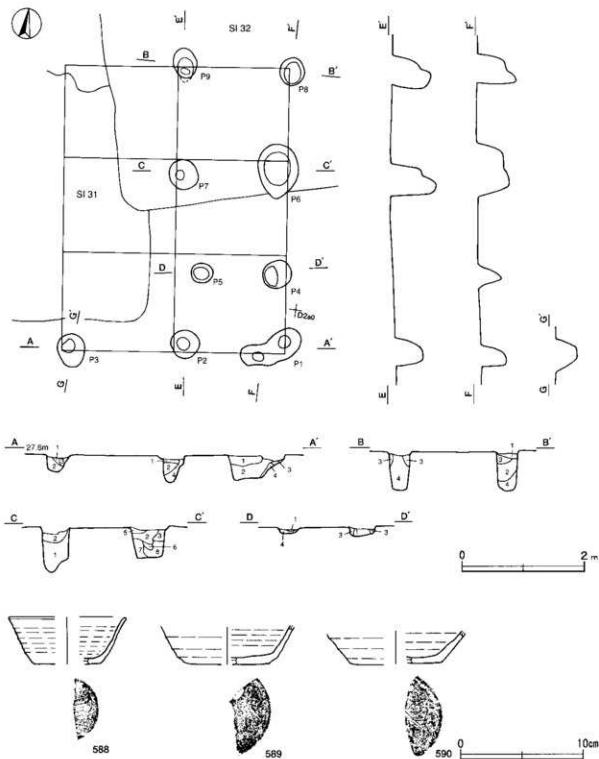
規模と構造 西側桁行の柱穴が検出できなかったため明確ではないが、桁行3間、梁行2間の総柱建物跡と推定され、桁行方向N-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行4.5m（15尺）、梁行3.6m（12尺）で、柱間寸法は、桁行の北より1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、1.2m（4尺）とばらつきがあり、梁行は1.8m（6尺）を基調としている。また、全体的に柱筋の通りは悪い。

柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし、深さは15～66cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、やや締めまりのある褐色・暗褐色土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片10点(堿類), 須恵器片5点(坏類4, 堿類1)のほか, 流れ込みによる縄文土器片1点が出土している。図示した遺物はいずれも第32号住居跡を掘り込んでいる部分のP8・P9から出土して



第346図 第32号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

おり、混入の可能性が高い。

所見 桁行方向をほぼ同一にして、東西に並列する第31号掘立柱建物とともに倉庫的な機能を果たしていたと考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、9世紀後葉の第32号住居跡を掘り込んでいることから、桁行方向及び規模と併せて、それ以降の平安時代と考えられる。

第32号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第346図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色 黄	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
388	須 器 器	杯	[94]	3.8	[52]	長石・石英	浅黄橙	普通	底部内外面ロクロナデ 底部 方向のヘラ削り	P 8 覆土	30%
389	須 器 器	杯	—	(3.1)	[70]	長石・雲母	褐色	普通	底部内外面ロクロナデ 底部多方向のヘラ削り	P 8 覆土	30%
390	須 器 器	杯	—	(2.6)	[7.5]	長石・雲母	灰	普通	底部内外面ロクロナデ 底部多方向のヘラ削り	P 9 覆土	30%

第33号掘立柱建物跡（第347図）

位置 調査区中央部のC3h7区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第22・43号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-6°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.1m（17尺）、梁行3.3m（11尺）で、柱間寸法は、桁行の中央間が1.35m（4尺半）と狭く、両端は1.8m（6尺）を基調とし、梁行では1.65m（5尺半）を基調としている。また、西平側を除いて柱筋は通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは33~66cmである。土層は第1~4層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第5~8層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土であり、一部で互層をなしているが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
5 褐色	ロームブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック少量
6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7 褐色	ローム粒子中量	15 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
8 褐色	ローム粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片25点（甕類）、須器器片3点（坏類2、甕類1）が出上している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 伴う住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係及び桁行方向などから、平安時代と想定される。

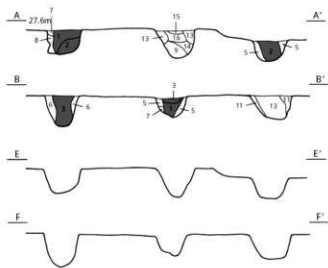
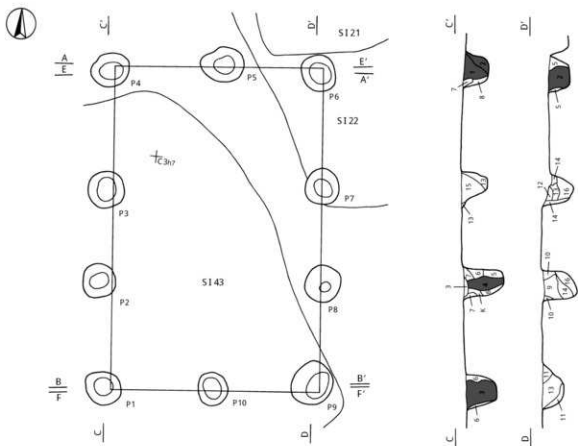
第35号掘立柱建物跡（第348・349図）

位置 調査区中央部のD3g5区、標高27mほどの台地上に位置している。

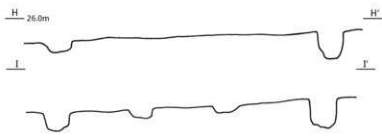
重複関係 第41号掘立柱建物跡、第11号溝跡及び第3号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向N-21°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.3m（21尺）、梁行4.2m（14尺）で、柱間寸法は、桁行が2.1m（7尺）で、梁行は中央間が1.2m（4尺）、その他は1.5m（5尺）である。また、柱筋はおおむね通っている。

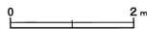
柱穴 12か所。平面形は円形を基調とし、深さは11~71cmである。土層は第1・2層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第3層は掘り方の埋土で、ロームを主体とした固く締まった褐色土である。

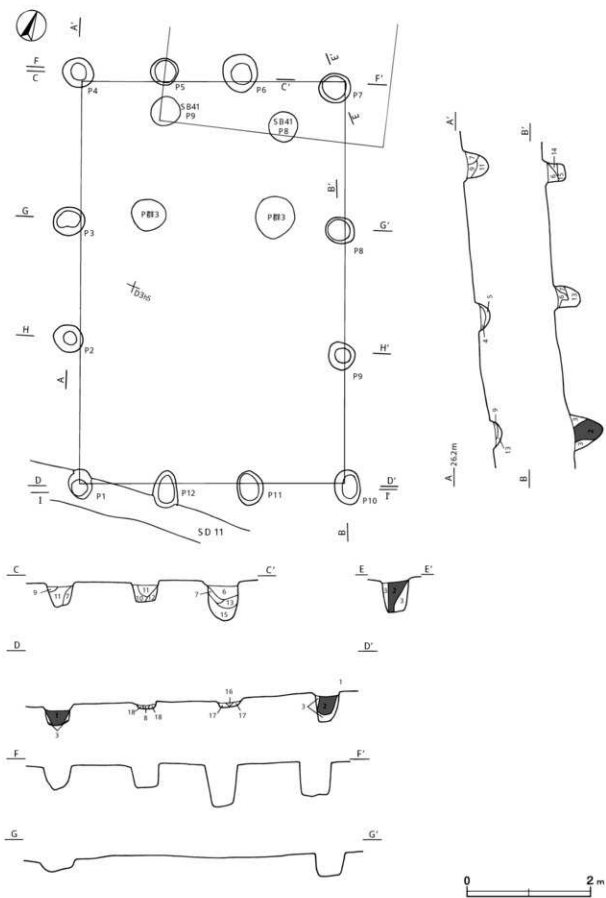


第347图 第33号掘立柱建物跡実測图



第348图 第35号掘立柱建物跡実測图(1)





第349图 第35号掘立柱建物跡実測图(2)

その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	10	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	11	暗褐色	ロームブロック・炭泥バミス粒子少量
3	褐色	ロームブロック中量	12	暗褐色	ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
5	暗褐色	ロームブロック中量、炭泥バミス粒子少量	14	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子中量
7	暗褐色	ロームブロック中量	16	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒少量	17	褐色	ローム粒子多量
9	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	18	褐色	ローム粒子多量、炭泥バミス粒子少量

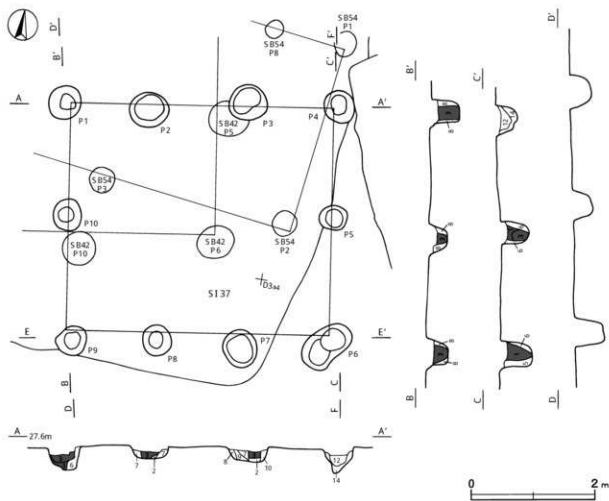
遺物出土状況 出土していない。

所見 東側と南側とに隣接する第1・2号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、いずれかの住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第1・2号住居跡と同時期の9世紀中葉と考えられる。

第36号掘立柱建物跡 (第350図)

位置 調査区中央部のC3j3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第37号住居跡を掘り込んでいる。また、第42・54号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



第350図 第36号掘立柱建物跡実測図(1)

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-82°-Eの東西棟である。規模は、桁行4.5m（15尺）、梁行3.6m（12尺）で、柱間寸法は、桁行が1.5m（5尺）、梁行が1.8m（6尺）を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。

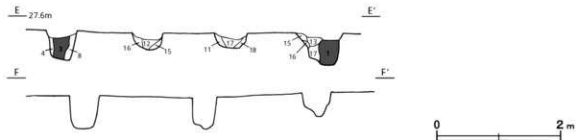
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは18~50cmである。土層は第1~3層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・灰暗褐色である。第4~10層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした暗褐色・褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められなかった。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量 | 11 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 灰暗褐色 ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 |
| 4 褐色 ロームブロック中量 | 13 褐色 ロームブロック微量 |
| 5 褐色 ロームブロック少量 | 14 褐色 ローム粒子中量、炭化物微量 |
| 6 褐色 ローム粒子中量 | 15 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量 |
| 7 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 16 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 8 褐色 ローム粒子少量 | 17 褐色 ローム粒子少量 |
| 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片29点（甕類22、坏類6、高坏1）、須恵器片1点（甕類）が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 軸線がほぼ同じで、東西に並列する第26号掘立柱建物跡とともに倉庫的な機能を果たしていたと考えられ、南側に隣接する大形の第7号住居跡との関連が想定される。時期は第7号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。



第351図 第36号掘立柱建物跡実測図（2）

第39号掘立柱建物跡（第352図）

位置 調査区南部のD3e5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第35号住居跡を掘り込み、第252号土坑及び第7号溝跡に掘り込まれている。また、第41・47・50号掘立柱建物跡及び第2・3号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

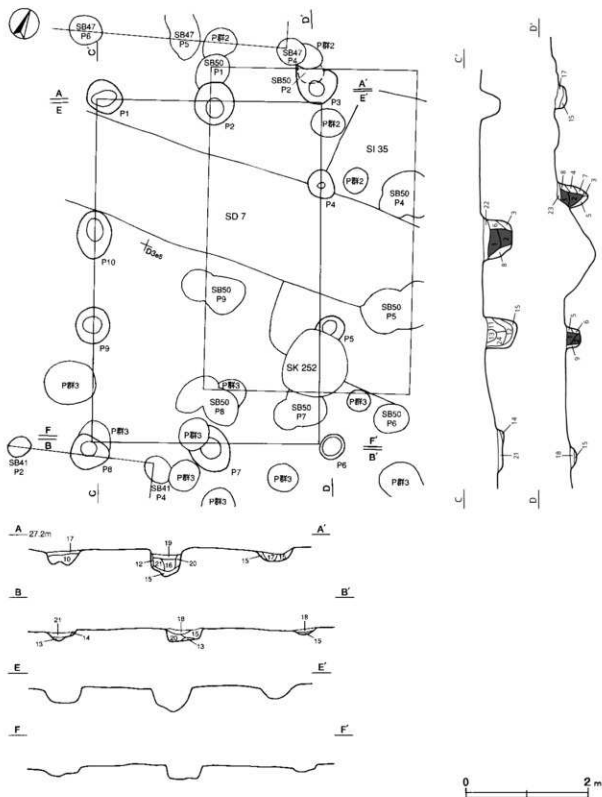
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-21°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.4m（18尺）、梁行3.6m（12尺）で、柱間寸法は、桁行は東西の柱間が異なり、東平では北より1.5m（5尺）、2.1m（7尺）、1.8m（6尺）、西平では北より2.1m（7尺）、1.5m（5尺）、1.8m（6尺）であり、梁行は1.8m（6尺）を基調としている。西平側の柱筋は通っているが、それ以外は通りが悪い。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは22~56cmである。土層は第1・2層が柱痕跡で、締まりのない黒褐色・暗褐色土である。第3~8層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした暗褐色・褐色土であるが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 褐色 ロームブロック少量



第352図 第39号掘立柱建物跡実測図

11	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
12	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
13	褐色	ローム粒子多量、炭化物微量
14	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
15	褐色	ローム粒子多量
16	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
17	褐色	ローム粒子中量

18	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
20	褐色	ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
21	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
22	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
23	暗褐色	ローム粒子少量
24	極暗褐色	炭化物・ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片20点(甕類18, 坏類1, 不明1), 須恵器片10点(坏類7, 甕類3)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 伴う住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。時期判断できる遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係及び桁行方向などから平安時代と類推される。

第40号掘立柱建物跡 (第353図)

位置 調査区南部のD3g2区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第17号住居跡、第245・246号土坑及び第9号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-24°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.6m(22尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は、桁行は北より1.5m(5尺)、1.8m(6尺)、1.8m(6尺)であり、南側梁行が1.8m(6尺)を基調とし、北側梁行は1.2m(4尺)、2.4m(8尺)とばらつきがある。柱筋は東平側を除いて通りが悪い。また、床束と考えられる掘り方も見られる。

柱穴 14か所。平面形は円形を基調とし、深さは13~62cmである。土層は第1~4層が柱痕跡に相当し、纏まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第5~9層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした暗褐色・褐色土で、P4・P5では互層をなしているが、全体的に強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

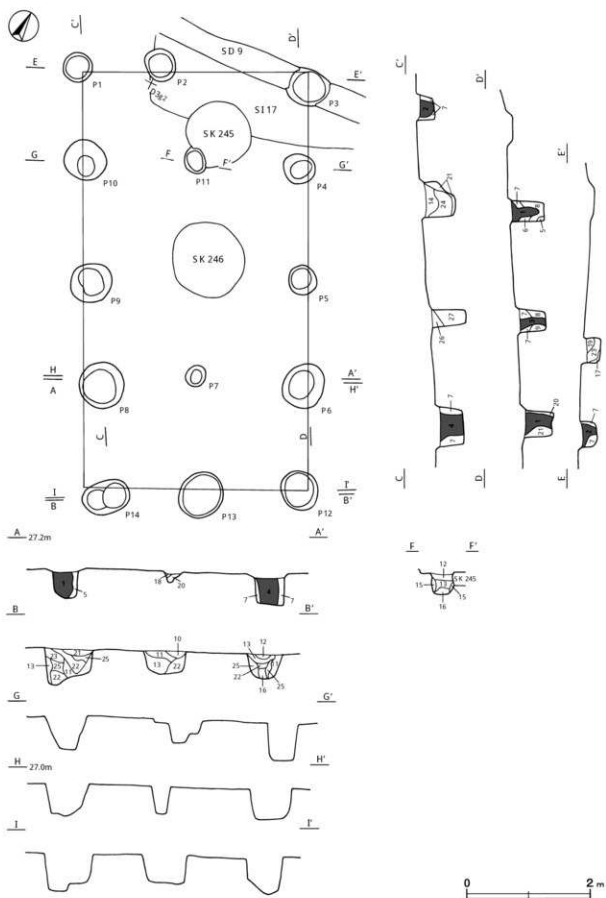
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化物微量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子多量
6	褐色	ローム粒子多量、炭化物微量
7	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
9	極暗褐色	ローム粒子少量
10	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
11	褐色	ロームブロック中量
12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
13	暗褐色	ロームブロック少量
14	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

15	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
16	極暗褐色	ロームブロック少量
17	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
18	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
19	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
20	褐色	ローム粒子多量
21	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
22	褐色	ローム粒子中量
23	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
24	褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
25	暗褐色	ローム粒子少量
26	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
27	暗褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 須恵器片5点(坏類4, 甕類1)が出土している。土器はいずれも細片であるため、図示できるものはない。

所見 伴う住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。両妻の柱間寸法が異なる構造で、床束が認められる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、重複関係及び桁行方向などから同じ桁行方向をもつ第39号掘立柱建物跡の年代観に従って、時期は平安時代と考えられる。

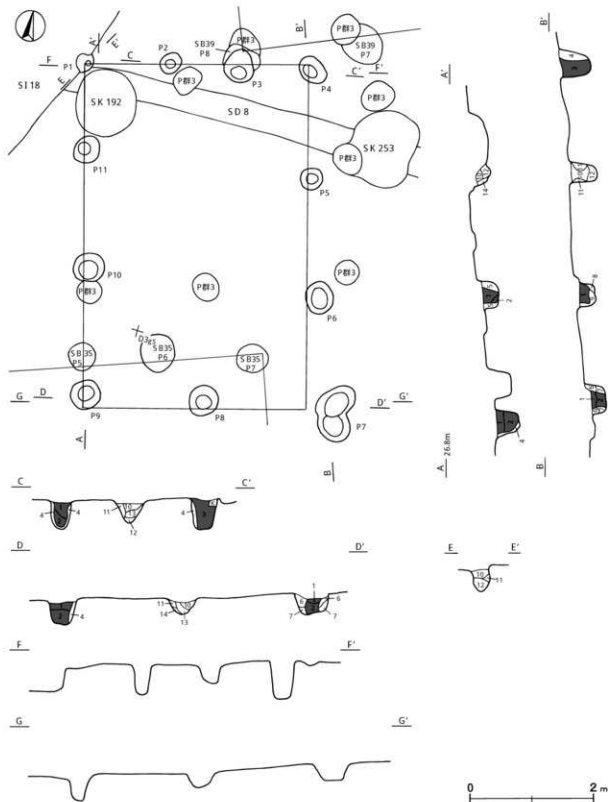


第353图 第40号掘立柱建物跡実測图

第41号掘立柱建物跡 (第354図)

位置 調査区南部のD3f5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第18号住居跡を掘り込み、第192号土坑及び第8号溝跡に掘り込まれている。また、第35・39号掘立柱建物跡及び第3号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。



第354図 第41号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行3間、梁行3間（2間）の側柱建物跡で、桁行方向N-16°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.4m（18尺）、梁行3.9m（13尺）で、柱間寸法は、桁行で東平は1.8m（6尺）を基調としているが、西平は北より1.5m（5尺）、1.8m（6尺）、2.1m（7尺）とばらつきが認められる。また、北妻は東より2間は1.2m（4尺）であるが西間は1.5m（5尺）であり、南妻も東より1.8m（6尺）、2.1m（7尺）と不統一である。柱筋は東平側を除いておおむね通っている。

柱穴 11か所。平面形は円形を基調とし、深さは26～62cmである。土層は第1～3層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第5～9層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした暗褐色・褐色土で、P7では互層をなしているが、全体的に強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼1粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | 11 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ロームブロック中量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。遺物が出土していないため明確ではないが、桁行方向や規模・構造などから、平安時代と類推される。

第42号掘立柱建物跡（第355図）

位置 調査区中央部のC3j3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第37号住居跡を掘り込み、第163号土坑に掘り込まれている。また、第26・27・36・54号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-8°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.7m（19尺）、梁行4.2m（14尺）で、柱間寸法は、桁行の中央間が2.1m（7尺）で、その他は1.8m（6尺）、梁行は2.1m（7尺）を基調としている。また、柱筋は南妻側を除いておおむね通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは32～54cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

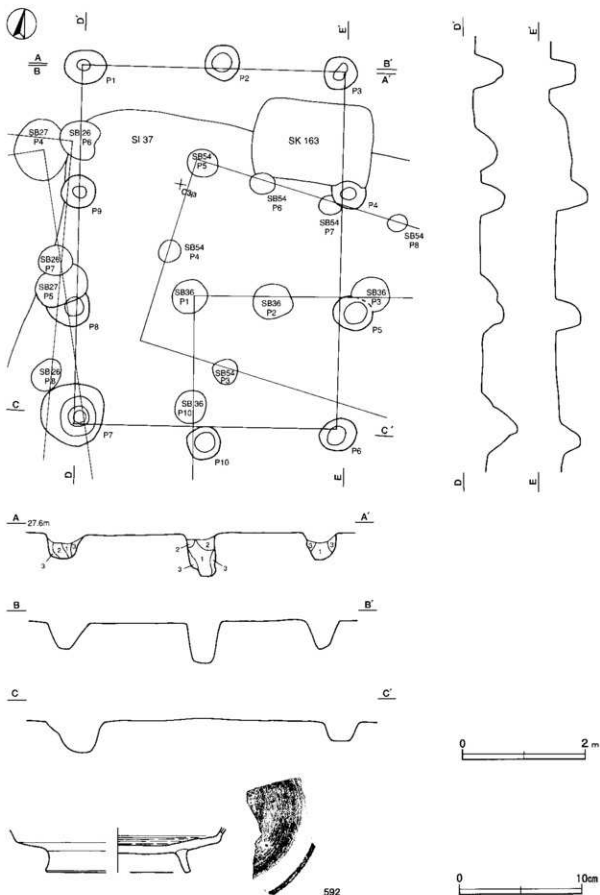
- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点（甕類）、須恵器片1点（盤）が出土している。592はP2の覆土中から出土しており、時期判断の指標となる遺物である。

所見 伴う住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。時期は、出土土器と併せて9世紀代と想定される。

第42号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第355図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
592	須恵器	甕	—	(3.5)	[11.6]	長石・雲母	黄灰	普通	係部ロクナダ 底盤回転へう削り後、高台貼り付け	P2覆土	10%



第355图 第42号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

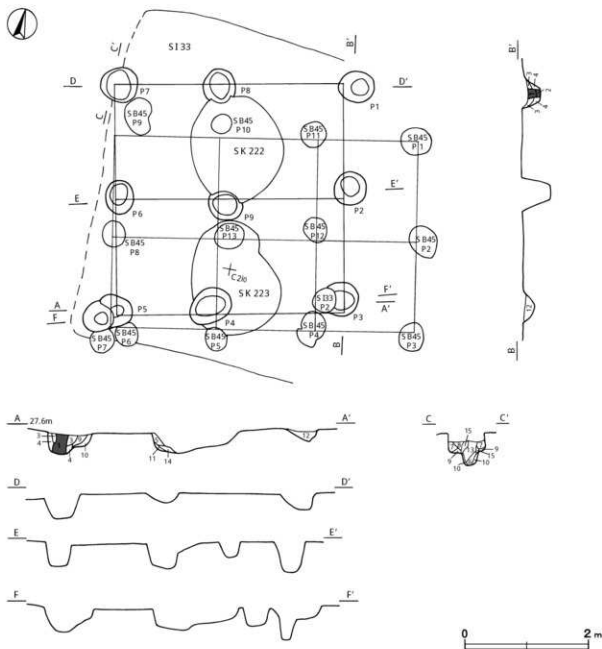
第43号掘立柱建物跡 (第356図)

位置 調査区中央部のC2h9区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第45号掘立柱建物及び第222・223号土坑に掘り込まれている。また、第33号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-79°-Eの東西棟である。規模は、桁行は3.9m (13尺)、梁行は3.6m (12尺)で、柱間寸法は、桁行東間が2.1m (7尺)であり、その他は1.8m (6尺)を基調としている。柱筋は北東隅のP1がずれているが、それ以外はおおむね通っている。

柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし、深さは17~49cmである。土層は第1・2層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第3・4層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした固く締まった褐色土である。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。



第356図 第43号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	ローム粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
3 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
6 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量	14 暗褐色	ロームブロック少量
7 褐色	ローム粒子中量	15 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
8 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量	16 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片2点(壺類), 須恵器片3点(坏類1, 甕1, 壺1)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 南西側に隣接する第32号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたとの想定でき、相互の関連性がうかがわれる。また、桁行方向がほぼ同一で重複する第45号掘立柱建物跡に掘り込まれていることから、本建物を建て替えて同建物がつくられたものと想定される。時期は、第32号住居跡と同時期の9世紀後葉と考えられる。

第44号掘立柱建物跡(第357図)

位置 調査区中央部のD3a1区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第13・26・27号掘立柱建物跡を掘り込み、第225・226号土坑及び第1号溝跡に掘り込まれている。規模と構造 桁行4間(3間)、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行5.4m(18尺)、梁行3.6m(12尺)で、柱間寸法は、南側桁行の西側側が0.9m(3尺)の他は1.5m(5尺)で、北側桁行では東より1.2m(4尺)、2.1m(7尺)、2.1m(7尺)である。また、西側梁行では1.8m(6尺)を基調としているが、東側梁行では北より2.1m(7尺)、1.5m(5尺)とばらつきがある。柱筋はおおむね通っている。

柱穴 11か所。平面形は円形を基調とし、深さは24~59cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、総まりの弱い黒褐色土である。第2層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土であるが、固く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量
2 褐色	ローム粒子多量	8 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点(壺類), 須恵器片3点(坏類2, 甕類1)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

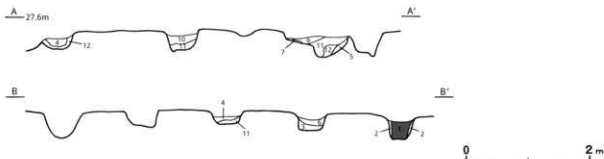
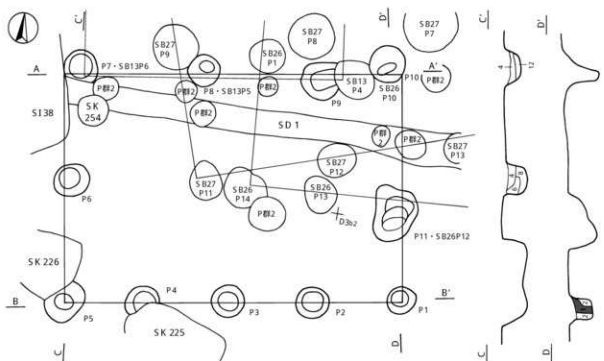
所見 住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。北側に位置する第43・45号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じで、同住居跡の年代観に従って、時期は9世紀後葉と考えられる。

第45号掘立柱建物跡(第358図)

位置 調査区中央部のC2h9区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第29・38号住居跡及び第43号掘立柱建物跡を掘り込み、第222・223号土坑に掘り込まれている。また、第254号土坑及び第2号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-80°-Eの東西棟である。規模は、桁行4.8m



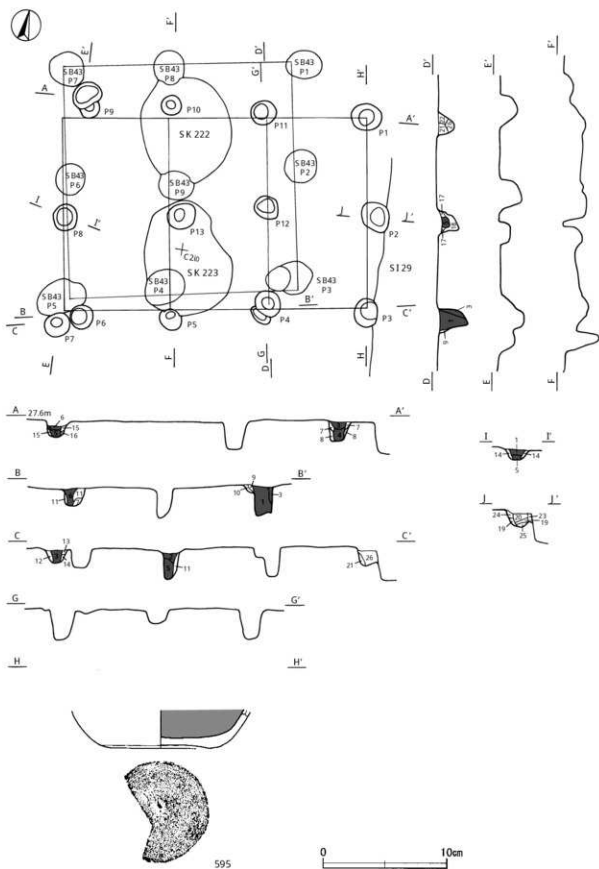
第357図 第44号掘立柱建物跡実測図

(16尺)、梁行3.0m (10尺)で、柱間寸法は、桁行・梁行ともに1.5m (5尺)を基調としている。また、柱筋はおおむね通っている。

柱穴 13か所。平面形は円形を基調とし、深さは19～52cmである。土層は第1～6層が柱痕跡に相当し、総まりの弱い黒褐色土である。第7～18層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色・褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物中量、ローム粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 6 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 | 19 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 22 褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 10 褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 | 23 褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量 | 24 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 25 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 26 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |



第358图 第45号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片11点(壺類10, 高台付坏1), 須恵器片3点(坏類)が出土している。595はP2の覆土中から出土している。

所見 南西側に隣接する第32号住居跡と軸線がほぼ同じであることから, 同住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたと想定でき, 相互の関連性がうかがわれる。また, 桁行方向がほぼ同じで重複する第43号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから, 同建物跡を建て替えて木建物がつくられたものと想定される。時期は, 第32号住居跡と同時期の9世紀後半と考えられる。

第45号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第358図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
595	土師器	坏	(31)	(79)		灰石・石英	浅黄褐色	普通	底縁回転ヘラ切り	P2覆土	30%

第47号掘立柱建物跡 (第359図)

位置 調査区中央部のD3c4区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡及び第6号陥し穴を掘り込んでいる。また, 第12・48号掘立柱建物跡及び第232号土坑・第2号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間, 梁行3間の個性建物跡で, 桁行方向N-73°-Eの東西棟である。規模は, 桁行6.0m(20尺), 梁行5.4m(18尺)で, 柱間寸法は, ややばらつきはあるが桁行は北平で東より1.5m(5尺), 1.2m(4尺), 1.5m(5尺), 1.8m(6尺), 南平で東より1.8m(6尺), 1.5m(5尺), 1.5m(5尺), 1.2m(4尺)である。梁行では東東で北より3.3m(11尺), 2.1m(7尺)で, 北間は攪乱のため1柱穴は不明である。また, 柱筋はおおむね通っている。

柱穴 13か所。平面形は円形を基調とし, 深さは25~59cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で, 暗褐色・褐色を基調としたやや締まりのある土層である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量	8 褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量
4 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック中量	11 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片9点(壺類), 須恵器片3点(坏類, 蓋, 壺類)が出土している。土器はいずれも細片であるため, 図示できるものはない。

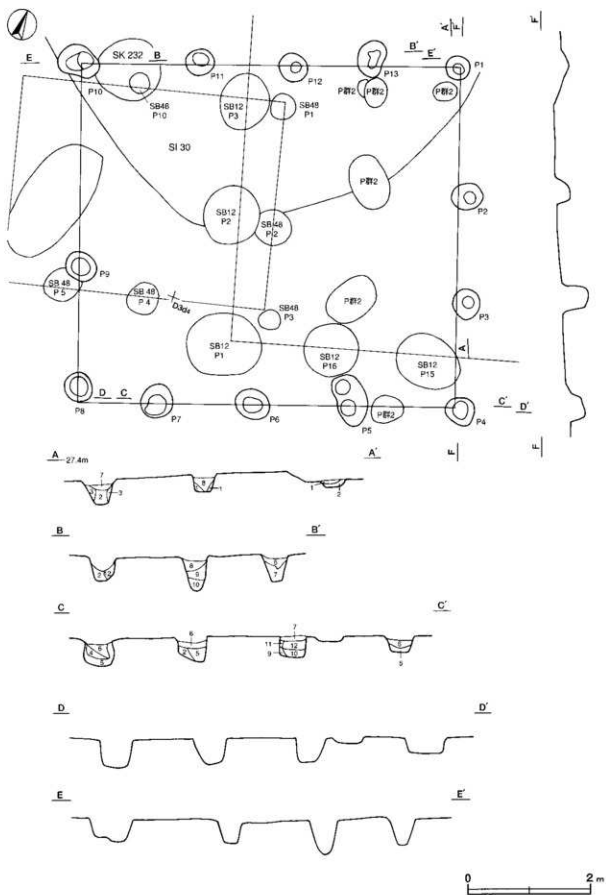
所見 規模及び構造から倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。時期判断ができる遺物が出土しておらず, 重複関係も不明であることから判然としないが, 桁行方向及び規模・構造から, 平安時代と考えられる。

第48号掘立柱建物跡 (第360図)

位置 調査区中央部のD3c3区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡及び第6号陥し穴を掘り込んでいる。また, 第12・47号掘立柱建物跡及び第232号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間(2間), 梁行2間の個性建物跡で, 桁行方向N-77°-Eの東西棟である。規模は, 桁行4.2m(14尺), 梁行3.3m(11尺)で, 柱間寸法は, 桁行は北平で東より2.4m(8尺), 1.8m(6尺), 南平で東より1.8m(6尺), 1.2m(4尺), 1.2m(4尺)とばらつきがあり, 北側桁行は柱間が2間となっている。梁行は北より1.8m(6尺), 1.5m(5尺)である。また, 柱筋は西妻側を除いておおむね通っている。



第359图 第47号掘立柱建物跡実測図

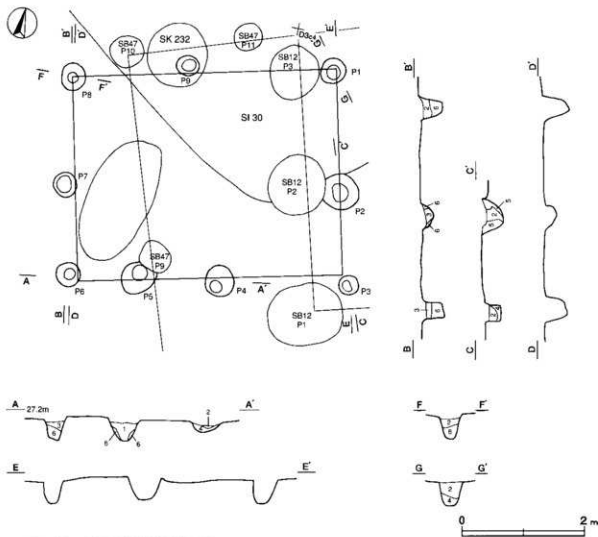
柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし、深さは16～52cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、暗褐色・褐色を基調としたやや締まりのある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片6点（甕類）、須恵器片2点（甕類、坏類）が出土している。土器はいずれも細片であり、図示できるものはない。

所見 規模及び構造から倉庫的な機能を有していた建物跡と考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、桁行方向及び規模・構造などから、時期は平安時代と考えられる。



第360図 第48号掘立柱建物跡実測図

第50号掘立柱建物跡（第361図）

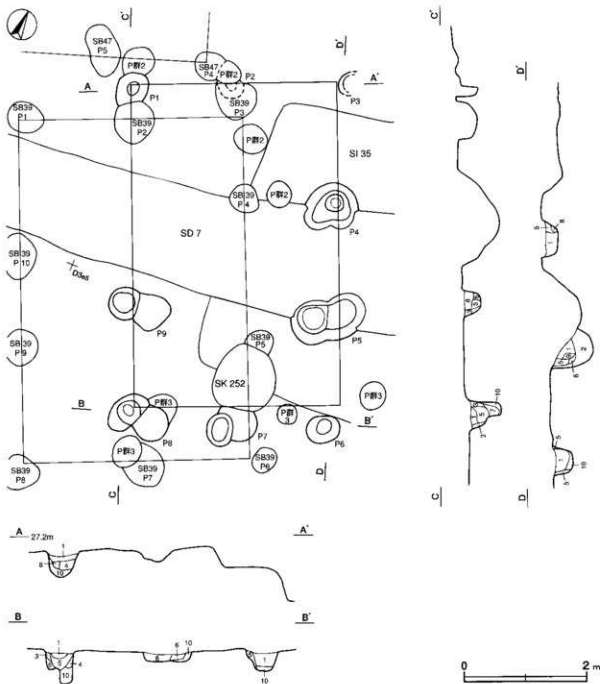
位置 調査区南部のD3d5区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第35号住居跡を掘り込み、第7号溝跡に掘り込まれている。また、第39号掘立柱建物跡及び第252号土坑、第2・3号ピット群と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の囲柱建物跡で、桁行方向N-21°-Wの南北棟である。規模は、桁行5.1m

(17尺), 梁行3.3m (11尺) で, 柱間寸法は, 西側桁行及び南側梁行のそれぞれ1柱穴が検出されていないため明確ではないが, 桁行で1.5m (5尺), 梁行で1.8m (6尺) を基調としている。また, 全体的に柱筋の通りは悪い。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で, 深さは10~70cmである。P5・P7・P8・P9と重複してピットが掘り込まれており, これらは柱抜き取り痕と判断される。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で, 暗褐色・褐色を基調としたやや締まりのある土層である。



第361図 第50号掘立柱建物跡実測図

土層解説

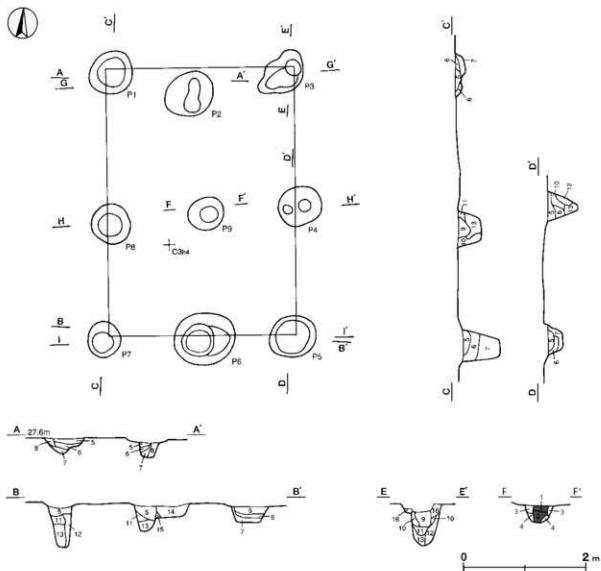
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片6点(変類5, 不明1)が出土している。土器はいずれも細片であり、図示できるものはない。

所見 伴う住居跡は特定できないが、規模及び構造から住居に付属する倉庫的な建物跡と考えられる。時期判断ができる遺物が出土していないため明確ではないが、桁行方向及び規模・構造をほぼ同一にして重複する第39号掘立柱建物跡と前後して建てられたものと判断され、時期は、同建物跡の年代観に従って平安時代と考えられる。

第52号掘立柱建物跡 (第362・363図)

位置 調査区中央部のC3g4区、標高27mほどの台地上に位置している。



第362図 第52号掘立柱建物跡実測図(1)

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-0°の南北棟である。規模は、桁行4.2m（14尺）、梁行3.0m（10尺）で、柱間寸法は、東側桁行が2.1m（7尺）を基調とし、西側桁行では北より2.4m（8尺）、1.8m（6尺）とばらつきがあり、梁行では1.5m（5尺）を基調としている。また、柱筋は北妻側の中央の柱穴が内側にずれるが、その他はおおむね通っている。

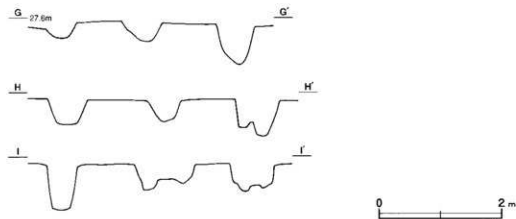
柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし、深さは26~69cmである。土層は第1・2層が柱痕跡に相当し、絡まりの弱い黒褐色土である。第3・4層は掘り方の埋土で、ローム土を含む暗褐色・褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量	11 褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4 褐色	ロームブロック中量	12 褐色	ローム粒子多量
5 暗褐色	ロームブロック少量	13 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	14 褐色	ローム粒子多量
7 褐色	ローム粒子中量	15 褐色	ロームブロック中量、砂粒微量
8 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 出土していない。

所見 南西側に隣接する第29号住居跡と軸線がほぼ同じであることから、同住居跡と並立して倉庫的な機能を有していたとの想定でき、相互の関連性がうかがわれる。遺物が出土していないため明確ではないが、時期は第29号住居跡と同時期の9世紀前葉と考えられる。



第363図 第52号掘立柱建物跡実測図（2）

6 中世の遺構と遺物

今回の調査で、中世の地下式墳1基、土坑1基が確認された。以下、遺構の特徴と出土遺物について記載する。

(1) 地下式墳

第1号地下式墳（第364図）

位置 調査区南部のD2h0区、標高27mほどの台地上に位置している。

竪坑 主室南壁の中央に位置し、長軸1.70m、短軸1.26mの隅丸長方形である。深さは確認面から94cmで、底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。主室との境は約10度の角度でわずかに落ち込んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

主室 底面は長軸2.26m、短軸1.86mの不整長方形で、確認面から底面までの深さは144cmである。底面は平

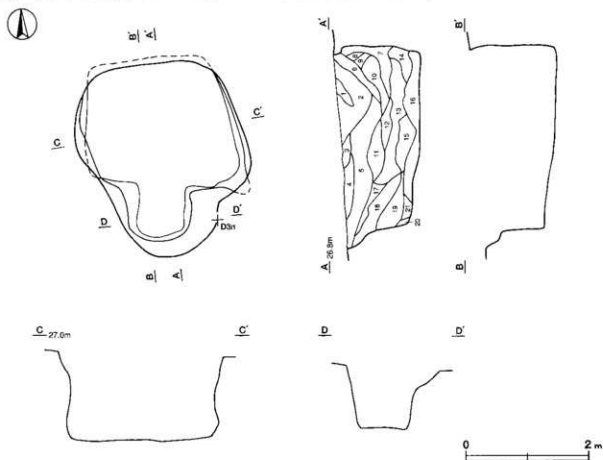
坦で、壁はほぼ直立し、天井部は完全に崩落している。主軸方向は、 $N-0^\circ$ である。

覆土 21層からなり、第15、17～20層は土砂の流れ込みの状況を示す自然堆積、第11～14、16層はロームブロックを多量に含んでいることから天井部の崩落土、第1～10層はブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	12	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量	13	褐色	ロームブロック多量
3	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	褐色	ロームブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15	褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ロームブロック少量(締まり弱い)	16	褐色	ロームブロック多量、ローム粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子少量	17	褐色	ロームブロック少量
7	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量(締まり弱い)	18	暗褐色	ロームブロック・漆少量
8	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	19	暗褐色	炭沼バミス少量、ローム粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量、ローム粒子少量	20	褐色	ローム粒子・炭沼バミス少量
10	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量	21	暗褐色	ロームブロック・炭沼バミス少量
11	褐色	ロームブロック多量(締まり弱い)			

所見 時期は、出土遺物がなため明確ではないが、形状や規模から中世と考えられる。



第364図 第1号地下式墳実測図

(2) 土坑

第171号土坑 (第365～367図)

位置 調査区南部のE3j3区、標高24mほどの台地縁辺の緩斜面部に位置している。

規模と形状 平面形は長径3.4m、短径1.9mほどの不整楕円形で、深さは45cmである。底面は若干凹凸があり、壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

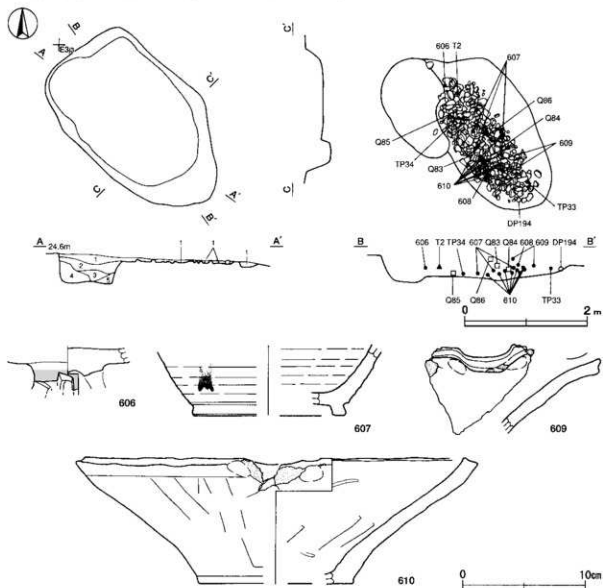
覆土 5層に分層される。覆土全面にわたって遺物や礫が多量に投棄されているため、一部しか観察できなかったが、各層にブロック状の粘土が含まれていることなどから人為堆積と考えられる。

土層解説

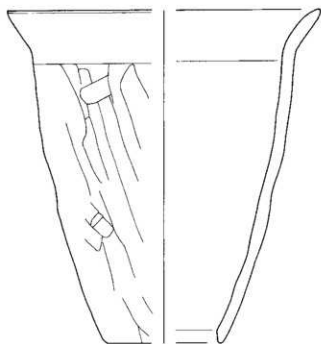
- | | | | |
|--------|--------------------|------|--------------------|
| 1 粉色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 棕色 | 粘土ブロック多量，ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 粘土ブロック少量，ローム粒子微量 | 5 棕色 | 粘土ブロック多量 |
| 3 濃い褐色 | 粘土ブロック少量，ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師器69点（甕頸54，坏頸7，瓶7，粗製器台1），須恵器92点（甕頸76，坏頸9，蓋5，瓶1，高盤1），陶器15点（片口鉢），瓦2点（平瓦，丸瓦），土製品2点（球状土製品1，支脚1），石器26点（磨石18，敲石6，砥石2）が出土している。図示したものを含めてこれらの遺物は、礫とともに中央部の広い範囲で底面からは確認面にかけて敷き詰められたような状態で出土しており、一括または複数回に分けて投棄されたものと考えられる。

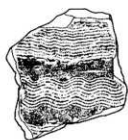
所見 遺物は礫が圧倒的に多く、ほぼ全体にわたって検出されており、耕作などの障害になるものを投棄した土坑と考えられる。出土遺物が古墳時代から中世に及んでいるため判然としないが、時期判断ができる最も新しい遺物が常滑7～8型式期に比定される片口鉢であるため、時期は14世紀代と判断される。



第365図 第171号土坑・出土遺物実測図



608



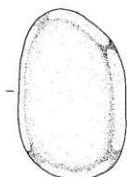
TP33



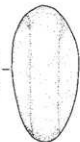
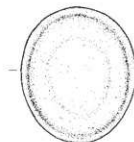
TP34



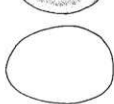
DP194



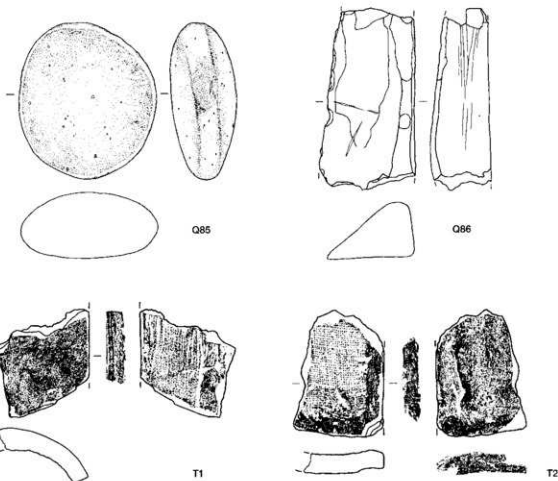
Q83



Q84



第366图 第171号土坑出土文物实测图(1)



第367図 第171号土坑出土遺物実測図(2)

第171号土坑出土遺物観察表(第365~367図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
606	須恵器	高盤	—	(33)	—	長石・黒色粒子	灰	普通	底部内面のクロコナテ 胴部(半位の)スリット 胴部自然軸	覆土中層	
607	灰釉陶器	壺	—	(56)	[12.2]	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄緑	良好	体部内外面クロコナテ 高台削り出し	覆土下層	儀政系
608	土師器	瓶	[25.5]	26.7	90	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	口辺部横ナテ 体部外妻ヘラナテ、内面ナテ	覆土上層	
609	陶器	片(1片)	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい赤黒	良好	体部内外面ナテ 片(1)部外面両端に指痕痕	覆土上層	常設7型式
610	陶器	片(1片)	[32.4]	30.2	[12.4]	長石・石英	赤黒	良好	体部内外面ヘラナテ 片(口)部外面内端に指痕痕 片(口)部内面ト豆にヘラ状工具による沈線	覆土上～下層	常設8型式
TP23	須恵器	壺	—	(10.4)	—	長石	灰	普通	体部外面磨了目の平行叩き、内面同心円状の当て具痕	覆土上層	
TP24	須恵器	壺	—	(5.3)	—	長石	灰	普通	胴部、樽傘状工具(11本)による波状文、内面クロコナテ	灰 面	

番号	器種	最大径	高さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP194	埴土製成	4.6	4.3	0.8	(95.6)	土(長石・石英)	器底丁寧なナテ 孔は非貫通	底 面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q83	磨石	13.5	8.9	6.3	1175.2	安山岩	全断面を使用	覆土上層	PL87
Q84	磨石	10.8	5.4	9.4	716.9	砂 岩	全断面を使用	覆土上層	PL87
Q85	磨石	12.4	11.1	5.4	888.3	安山岩	全断面を使用	底 面	PL87
Q86	砥石	(14.4)	(7.8)	(5.0)	(672.9)	安山岩	砥面は3面 表面及び側面に条線状の研痕	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T 1	丸瓦	(8.6)	(7.7)	1.5~1.7	(120.5)	土(灰石)	凸面ナア 縁部ヘラ削り 凹面布目状	覆土	PLR2
T 2	平瓦	(10.1)	(7.3)	1.5	(166.7)	土(灰石・赤色粒子)	凸面及び端部ヘラ削り 凹面布目状	覆土上層	PLR2

7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明確でない方形竪穴遺構2基、掘立柱建物跡5棟、井戸跡1基、火葬土坑1基、土坑274基、ピット群5か所及び近代以降の炭焼窯跡2基、溝跡13条を確認した。以下、遺構の特徴と出土遺物について記載する。

(1) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第368図)

位置 調査区北部のA2h3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第13号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.70m、短軸2.46mの方形で、長軸方向はN-50°-Eである。壁高は14~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦であるが、北側がやや高くなっている。中央部が踏み固められているが、硬さの度合いは低い。

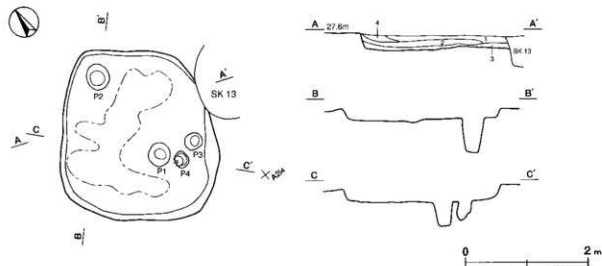
ピット 4か所。深さは、P1は43cm、P2は57cm、P3は28cm、P4は35cmであるが性格は不明である。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 | 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、砂微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒少量 | 4 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |

所見 出土遺物がないため、時期・性格ともに不明である。



第368図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構 (第369図)

位置 調査区南部のD2f6区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸2.56m、短軸2.52mの方形で、長軸方向はN-7°-Eである。壁高は10~45cmで、外傾し

で立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。硬化した面は確認できなかった。

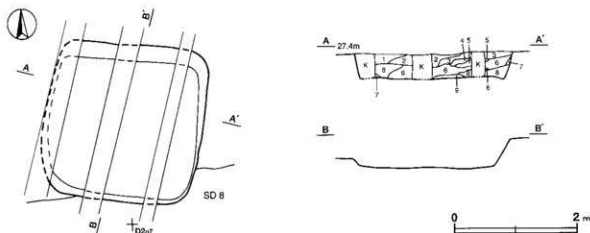
覆土 9層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	7 褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ロームブロック微量	8 褐色 ロームブロック少量
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 褐色 ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック少量、ローム粒子微量	

遺物出土状況 混入した土師器片3点(甕類), 須恵器片7点(坏類5, 蓋1, 甕類1), 瓦1点, 石器2点(砥石, 剥片)が出土している。

所見 時期は, 本跡に伴う遺物が出土していないため不明である。



第369図 第2号方形竪穴遺構実測図

(2) 掘立柱建物跡

第8号掘立柱建物跡(第370図)

位置 調査区西部のC2f3区, 標高27mほどの台地上に位置している。

規模と構造 桁行1間, 梁行1間の側柱建物跡で, 桁行方向は $N-70^{\circ}-W$ である。規模及び柱間寸法は桁行・梁行ともに2.1m(7尺)である。

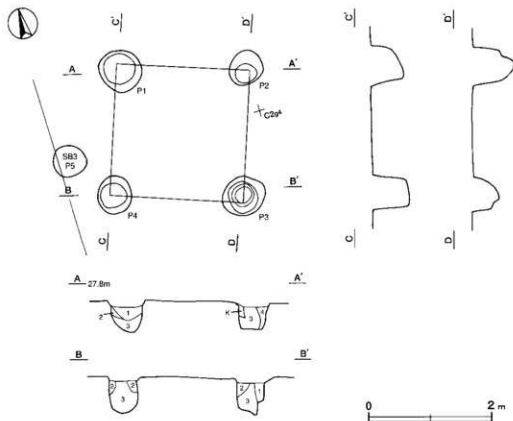
柱穴 4か所。平面形は円形を基調とし, 深さは45~67cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で, 褐色を基調とした締まりの弱い土層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	3 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量	4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)が出土している。土器はいずれも細片で, 図示できるものはない。

所見 当遺跡の中では, 規模の大きな掘り方を有しており, 比較的堅かな上屋が想定される。同様の規模と構造をもつ建物跡は調査区中央部から第24・49号掘立柱建物跡の2棟が検出されているが, 本跡との関連及び時期・性格などは不明である。



第370図 第8号掘立柱建物跡実測図

第18号掘立柱建物跡 (第371図)

位置 調査区東部のC4f4区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第56号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-65°-Wの東西棟である。規模は、桁行5.4m (18尺)、梁行3.3m (11尺)で、柱間寸法は、桁行が北側の西間2.1m (7尺)、東間1.5m (5尺)以外は1.8m (6尺)を基調とし、梁行は1.65m (5尺半)を基調としている。また、北側梁行の柱筋は通っているが、その他は通りが悪い。

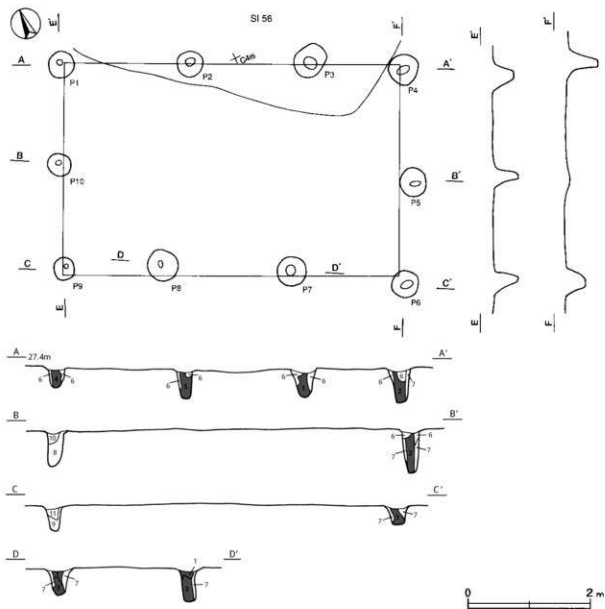
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは40~68cmである。土層は第1~5層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色・暗褐色土である。第6・7層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした明褐色・褐色土であるが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 明褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 10 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子少量 | 11 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量 |
| 6 褐色 ロームブロック多量 | |

遺物出土状況 土師器片4点(堯類)が出土している。土器はいずれも細片で、図示できるものはない。

所見 当遺跡の中では深い掘り方をもつ建物跡であるが、柱痕跡から推定される柱も細く、堅牢な上屋は想定できない。当遺跡から検出された他の掘立柱建物跡とは桁行方向が異なっており、時期判断ができる遺物も出土していないため、時期・性格ともに不明である。



第371図 第18号掘立柱建物跡実測図

第49号掘立柱建物跡 (第372図)

位置 調査区中央部のD3h3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡を掘り込み、第231号土坑に掘り込まれている。また、第172・230号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行1間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向は $N-1^{\circ}-W$ である。規模及び柱間寸法は桁行・梁行ともに2.7m(9尺)である。

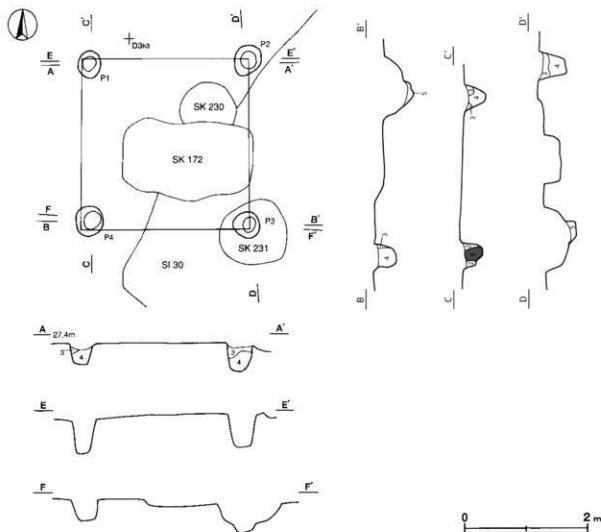
柱穴 4か所。平面形は円形を基調とし、深さは36~56cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土である。第2層は掘り方の埋土で、ローム土を主体とした褐色土であるが、強く突き固めた痕跡は認められない。その他の層は、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片4点(甕類2, 坏類2)が出土している。土器はいずれ細片であり, 図示できるものはない。

所見 同様の規模と構造をもつ建物跡としては, 調査区西部と中央部から第8・24号掘立柱建物跡の2棟が検出されているが, 本跡との関連及び時期・性格などは不明である。



第372図 第49号掘立柱建物跡実測図

第51号掘立柱建物跡 (第373図)

位置 調査区南部のD3e7区, 標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込み, 第8号溝跡に掘り込まれている。また第15号住居跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向N-31°-Wの東西棟である。規模は, 桁行3.9m (13尺), 梁行3.6m (12尺)で, 柱間寸法は, 桁行が1.95m (6尺半), 梁行が1.82m (6尺)を基調としている。また, 全体的に柱筋は通っている。

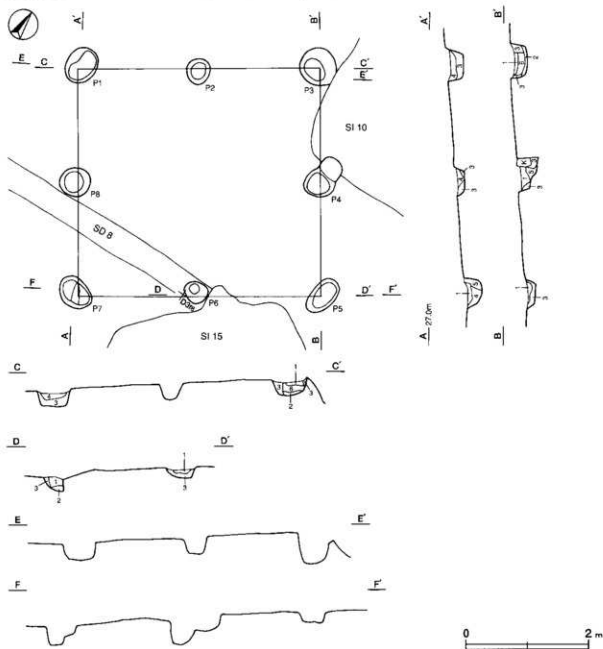
柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし, 深さは20~55cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で, 暗褐色・褐色を基調としたやや締まりのある土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕類), 須恵器片2点(坏類, 甕類)が出土している。土器はいずれも細片であり, 図示できるものはない。

所見 同様の桁行方向及び規模・構造をもつ建物跡は当遺跡からは検出されていない。9世紀前葉の第10号住居跡を掘り込んでいることからそれ以降と判断されるが, 明確な時期や性格は不明である。



第373図 第51号掘立柱建物跡実測図

第54号掘立柱建物跡 (第374図)

位置 調査区中央部のC3j3区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第37号住居跡を掘り込んでいる。また、第36・42号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向 $N-82^{\circ}-W$ の東西棟である。規模は、桁行4.5m (15尺)、梁行3.0m (10尺)で、柱間寸法は、全ての柱穴が検出されていないため明確ではないが、北側桁行が1.2m (4尺)、西側梁行が1.5m (5尺)を基調としている。また、柱筋は概ね通っている。

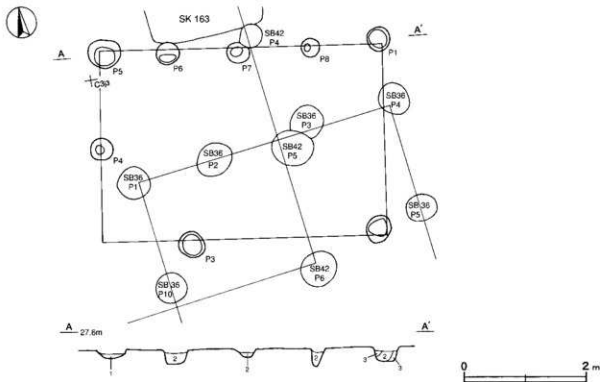
柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし、深さは9~29cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土で、暗褐色を基調とした締まりの弱い土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック中量

所見 桁行方向及び規模・構造において類似する奈良・平安時代の掘立柱建物跡が検出されておらず、遺物も出土していないことから、時期・性格ともに不明である。



第374図 第54号掘立柱建物跡実測図

(3) 炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡 (第375図)

位置 調査区北部のB3g0区、標高27mほどの台地上に位置している。

重複関係 第94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径4.89m、短径2.04mの不整楕円形で、主軸方向は $N-120^{\circ}-E$ である。

炭化室 平面形は長径3.98m、短径2.04mの楕円形を呈し、遺存する壁高は12cmである。覆土中に粘土粒子が少量含まれていることから、窯壁は粘土を用いて構築されていたと考えられ、外傾して立ち上がっている。窯

底は火熱により赤変している。

煙道部 奥壁中央に位置している。

ピット 第94号土坑に掘り込まれているため全体の形状は明確ではないが、長径1.92m、短径0.87mが確認され、深さは36cmである。底面には凹凸があり、配置から炭化室内部の灰を掻き出すために付設されたものと考えられる。

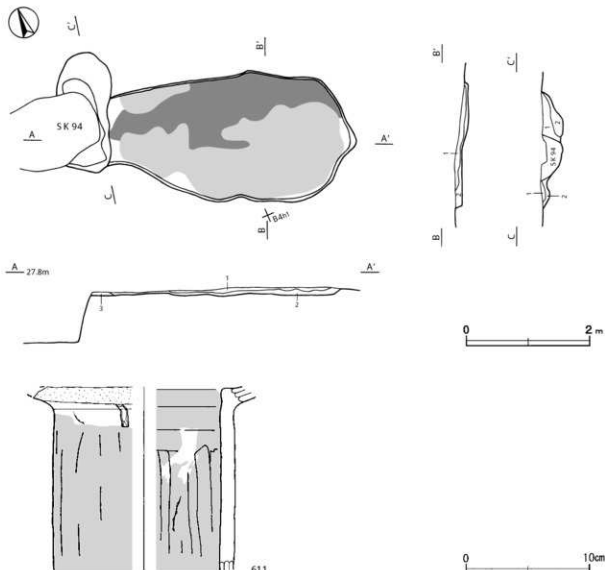
ピット土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

覆土 3層に分層される。全体的に締まりのない土層で、第1・2層は空底部の堆積層と考えられる。

土層解説

- 1 濃い赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化物・焼土少量
2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子少量
3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量



第375図 第1号炭焼窯跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器片4点(土管)が出土している。611はピットの底面から出土し、煙突として利用されていたと考えられる。また、炭化室の底面からは多量の炭化物と焼土が出土している。

所見 隣接する第2号炭焼窯跡と規模や形状がほぼ同一で、長径方向もほぼ一致することから、第2号炭焼窯跡と同時期と想定され、明治時代から昭和初期頃に構築されたものと考えられる。

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表(第375図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
611	陶器	土管	-	(146)	-	長石・石英	黒灰	良好	受け部内外面横ナデ、胴部内外面縦方向のヘラ刮り	ピット底面	内外面鉄輪PI&Z

第2号炭焼窯跡(第376図)

位置 調査区北部のB3i0区、標高27mほどの台地上に位置している。

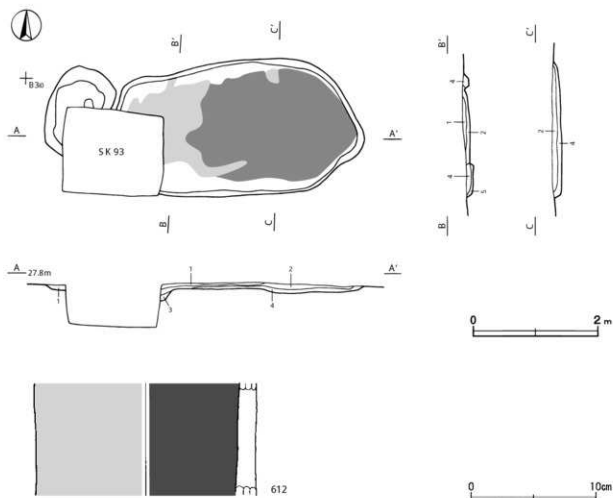
重複関係 第93号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径5.08m、短径2.16mの不整楕円形で、主軸方向はN-93°-Eである。

炭化室 平面形は長径3.98m、短径2.16mの楕円形を呈し、遺存する壁高は10cmである。

煙道部 奥壁中央に位置している。

ピット 長径1.42m、短径0.92mの楕円形と考えられ、深さは42cmである。配置から炭化室内部の灰を掻き出



第376図 第2号炭焼窯跡・出土遺物実測図

すために付設されたものと考えられる。

覆土 5層に分層される。焼土ブロック・炭化粒子を多く含み、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。第1～3層は窯底部の堆積層と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-----------------------|---|----|----------------|
| 1 | 紅褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土・礫少量 | 5 | 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | | | |

遺物出土状況 陶器片1点(土管)が出土している。煙突として使用されたと考えられる612はビットの覆土上層から出土し、内面に煤が付着している。また、炭化室の底面からは多量の炭化物和焼土が出土している。

所見 隣接する第1号炭焼窯跡と規模や形態がほぼ同一で、長径方向もほぼ一致することから、第1号炭焼窯跡と同時期と想定され、明治時代から昭和初期頃に構築されたものと考えられる。

第2号炭焼窯跡出土遺物観察表(第376図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	硬さ	手法の特徴	出土位置	備考
612	陶器	土管	-	(80)	-	長石・石英	暗赤灰	良好	胴部外面丁寧なナデ、内面輪積み痕の残る荒いナデ	ビット 覆土上層	内面煤付着 PLR2

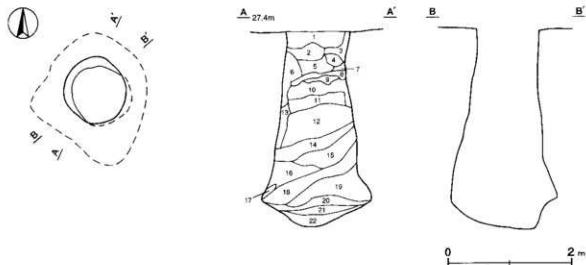
(4) 井戸跡

第1号井戸跡(第377図)

位置 調査区南部のE3g5区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.07m、短径1.02mの円形で、深さは3.15mである。底面は長径0.94m、短径0.88mの円形、断面形は円筒状であるが、下部は地山が剥落してフラスコ状を呈している。

覆土 22層に分層され、第20～22層は自然堆積、第1～19層はロームブロック、粘土ブロック、砂を多く含む人為堆積である。



第377図 第1号井戸跡実測図

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	12 褐色	砂多量、粘土ブロック・礫少量
2 褐色	ロームブロック微量	13 暗褐色	砂微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	14 に近い褐色	砂多量、礫微量
4 褐色	ローム粒子少量	15 褐色	砂多量、礫微量
5 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	16 に近い褐色	砂多量、粘土粒子・礫微量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂微量	17 暗褐色	砂少量、ローム粒子・礫微量
7 黒褐色	炭化物・ローム粒子微量	18 黄褐色	砂多量、礫微量
8 暗褐色	ロームブロック少量	19 に近い褐色	砂多量、ロームブロック・礫微量
9 黒色	ロームブロック・砂・礫少量、炭化物微量	20 極暗褐色	ローム粒子・砂微量
10 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・砂・礫微量	21 暗褐色	ロームブロック少量
11 褐色	砂中量、粘土ブロック・礫少量、ロームブロック微量	22 極暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 混入したと考えられる土師器片12点(堿類)、須恵器片3点(坏類1, 堿類2)が出土している。

所見 時期は、本跡に伴うと考えられる遺物が無いため不明である。

(5) 火葬土坑

第1号火葬土坑(第378図)

位置 調査区南部のE3c4区、標高27mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径2.33m、短径2.06mの不整楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面までの深さは8~17cmである。壁は外傾して立ち上がっている。

底面 東側に向かって緩やかに傾斜している。

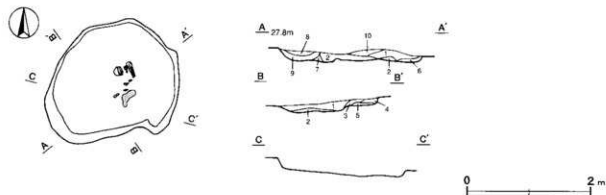
覆土 10層からなり、ローム粒子、炭化物を多く含み、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第10層には骨片が含まれている。

土層解説

1 暗褐色	炭化物・ローム粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子多量	7 に近い褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ローム粒子少量、機土粒子・炭化粒子微量	8 極暗褐色	炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・機土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック微量
5 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量(粘性強い)	10 黒色	炭化材中量

遺物出土状況 中央部の覆土上層から焼土塊、底面から炭化材、覆土上層から中層にかけて人骨片が出土している。

所見 時期は、時期判定の指標となる出土遺物が無いため不明である。焼土塊と多量の炭化材のほか、人骨片も確認されていることなどから火葬土坑と考えられる。



第378図 第1号火葬土坑実測図

(6) 土坑

今回の調査で、時期が明確でない土坑274基が検出された。これらの土坑の中で、長方形を呈し、地目境に沿って並んでいる土坑は近代の「芋穴」と考えられ、項頭に列記した。これらの土坑の多くが人為堆積であり、墓塚が含まれている可能性もあるが、人骨や副葬品などが出土していないため判然とはしない。また円形や楕円形を呈する土坑は、規模・形状や配置などに規則性がなく、遺物もほとんど出土していないため、時期・性格ともに不明である。以下、これらの土坑について一覽表で紹介し、併せて実測図(第379～400図)と土層解説を記載する。

第22号土坑土層解説

1 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量

第23号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒少量

第24号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

第28号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第29号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第30号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第31号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第32号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒少量

第33号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第34号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量
3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第35号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量

第36号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック多量
4 暗褐色 ロームブロック少量

第38号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量

第39号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第40号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第41号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第42号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第43号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量

第47号土坑土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第48号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量
5 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第49号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量
3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第50号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量

第51号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量

第52号土坑土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

第59号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量
3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒少量
4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第60号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量
3 褐色 ロームブロック多量
4 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第61号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒少量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒少量
3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒少量
4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒少量

第62号土坑土層解説

1 褐色 ローム粒子多量、炭化粒少量
2 褐色 ローム粒子多量
3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量

第63号土坑土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒少量
3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色 ロームブロック中量

第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒了・炭化粒子微量

第71号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第72号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第73号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒了中量、砂粒少量、炭化粒子微量

第74号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒了微量

第75号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第77号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第78号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第79号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第82号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第83号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第85号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第86号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒了・炭化粒子微量

第87号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒了微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第89号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭沼バミス粒了微量

第91号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒了少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒了少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量

第93号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒了中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒了・炭化粒子少量

第94号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒了微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第95号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・炭沼バミス粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭沼バミスブロック微量

第99号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第100号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

第102号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第103号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第104号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第110号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭沼バミスブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第116号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第123号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第124号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭沼バミスブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭沼バミスブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量、炭沼バミス粒子微量

第125号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭沼バミスブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭沼バミス粒子微量

第126号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量

第132号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第133号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ローム粒中量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第143号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第145号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量

第146号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量

第147号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第148号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第162号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒少量
- 4 褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量

第163号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第166号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒少量

第172号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第199号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第205号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第202号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第203号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

第204号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス粒少量
- 3 褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミス粒子中量

第206号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒、炭化粒子微量

第207号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第225号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第226号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第286号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

第239号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第240号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック、鹿沼バミスブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

第242号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ローム粒中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第261号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第288号土坑土層解説

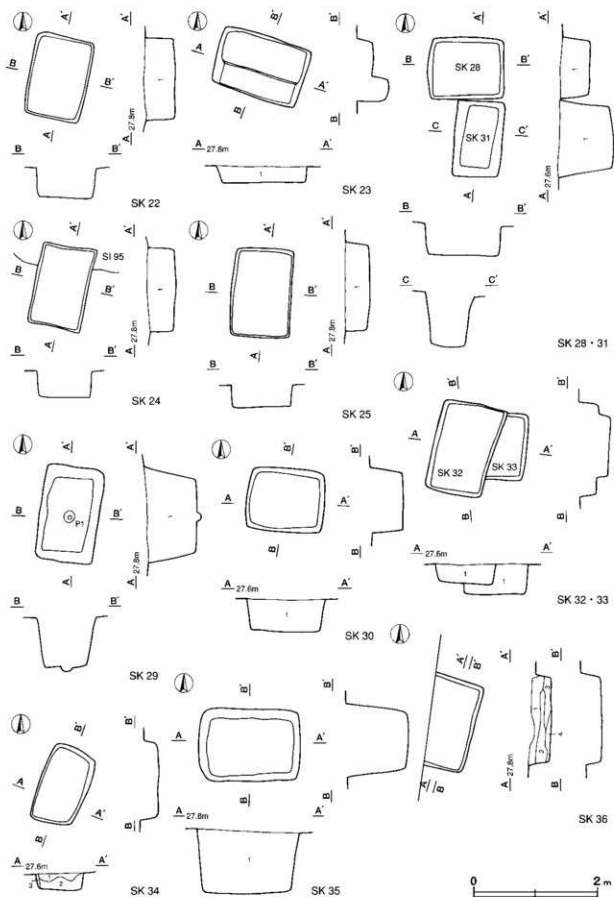
- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第300号土坑土層解説

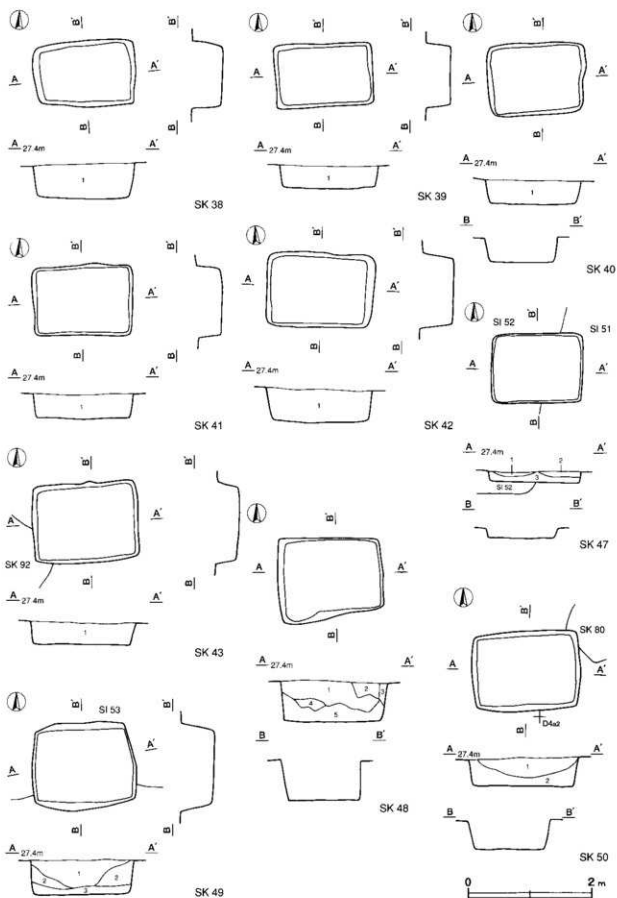
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量

第311号土坑土層解説

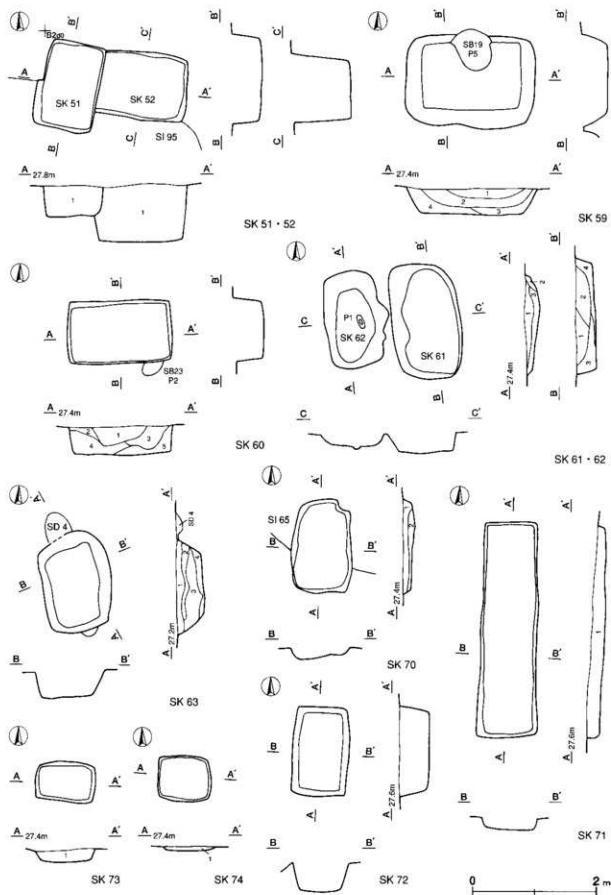
- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック中量



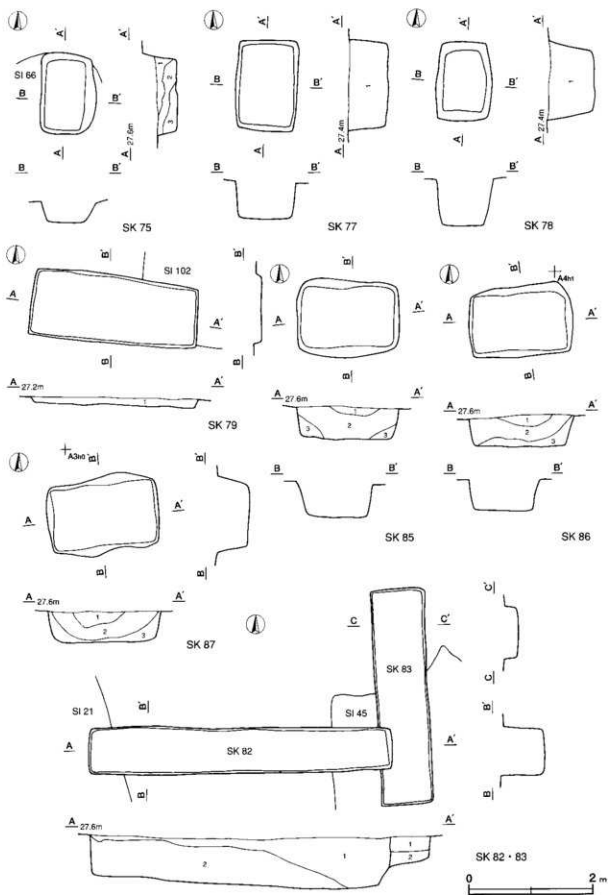
第379図 その他の土坑実測図(1)



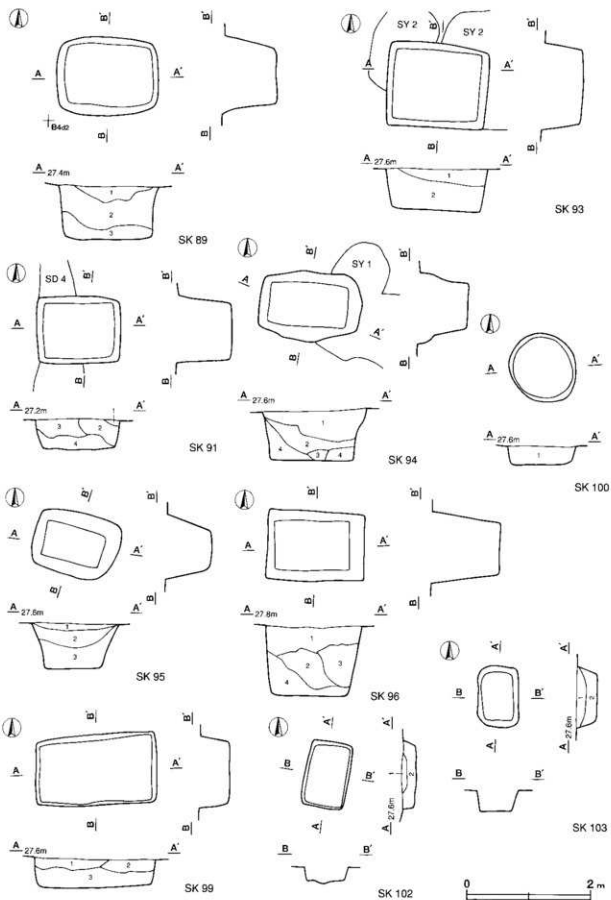
第380図 その他の土坑実測図(2)



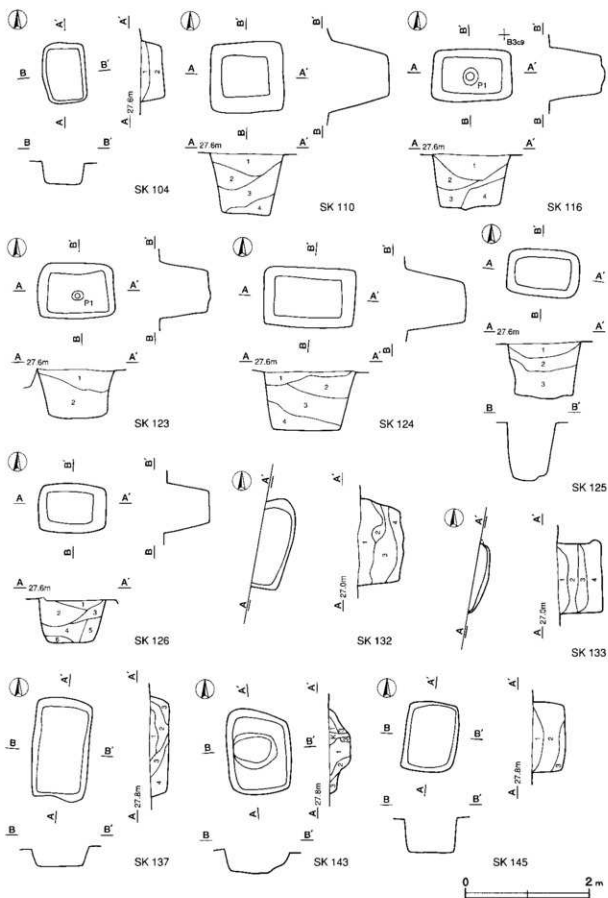
第381図 その他の土坑実測図(3)



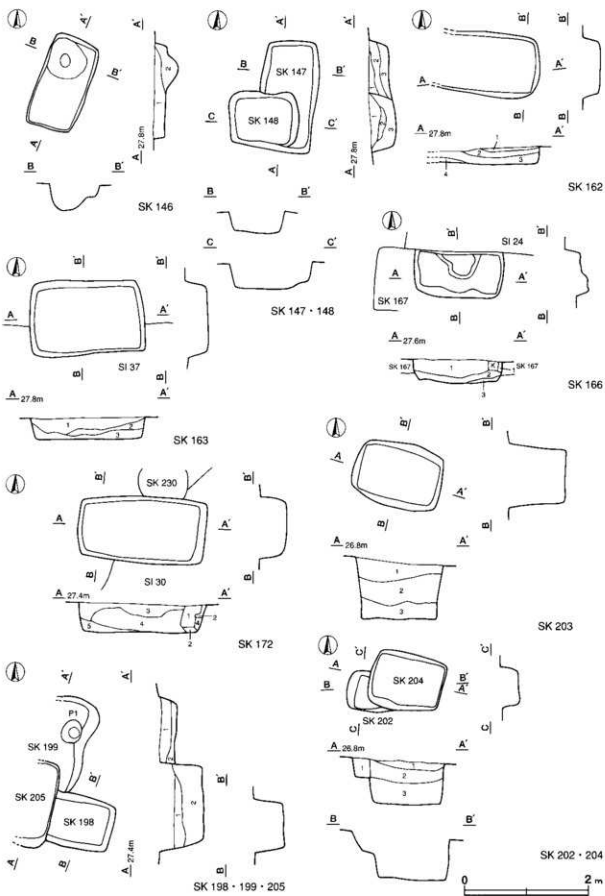
第382図 その他の土坑実測図(4)



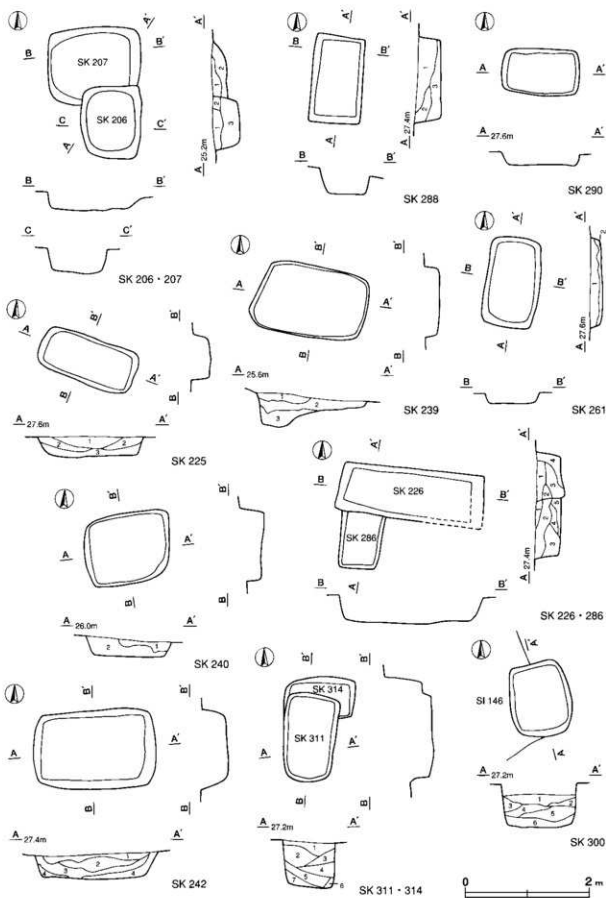
第383図 その他の土坑実測図(5)



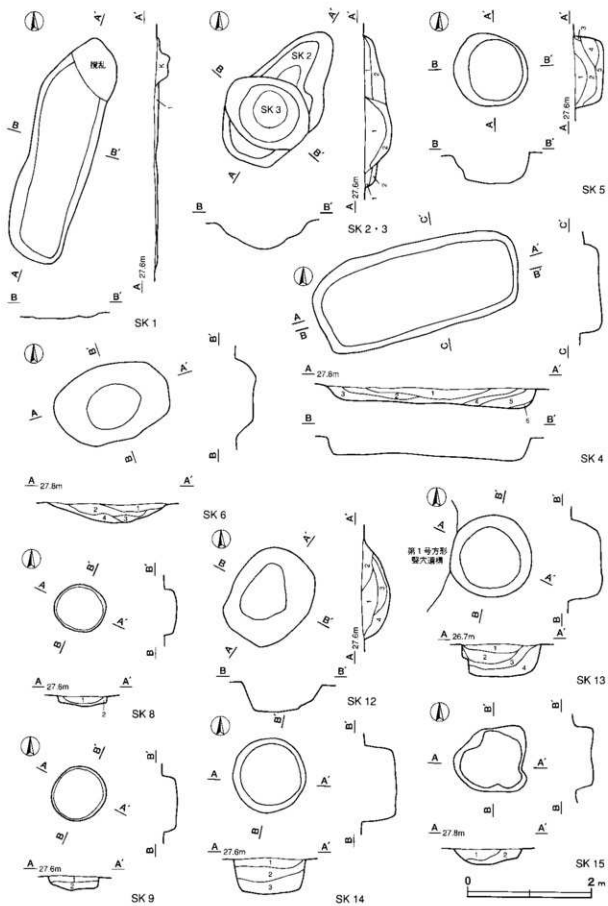
第384図 その他の土坑実測図(6)



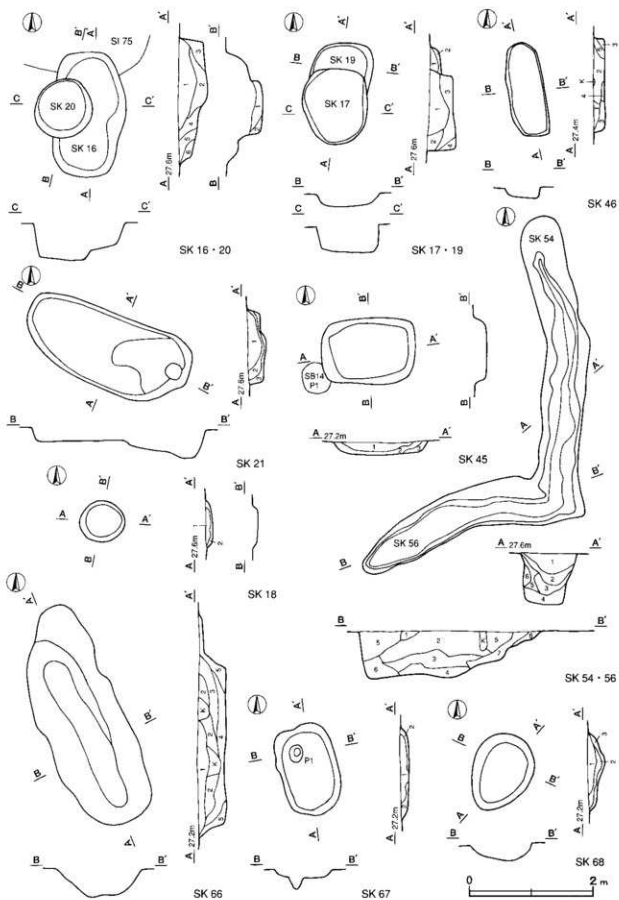
第385図 その他の土坑実測図(7)



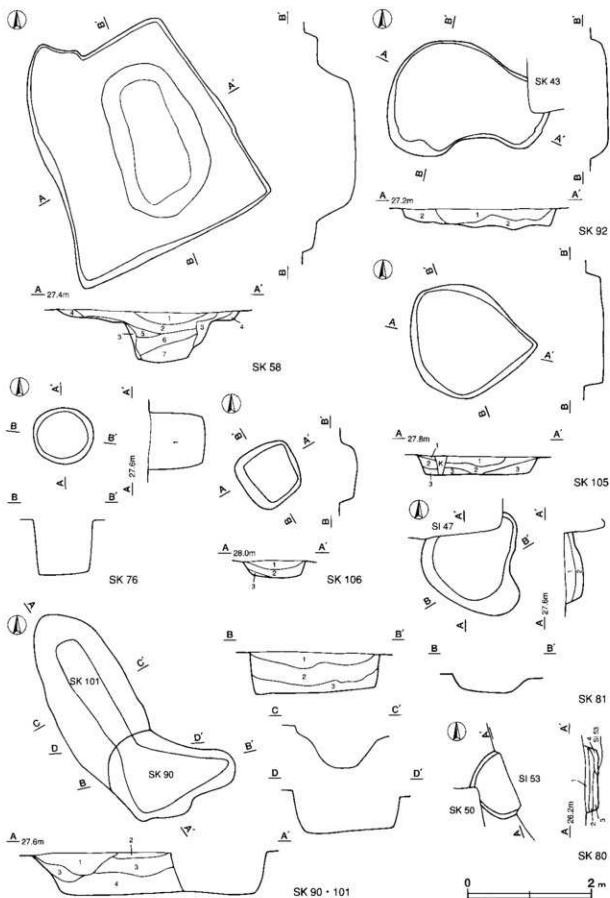
第386図 その他の土坑実測図(8)



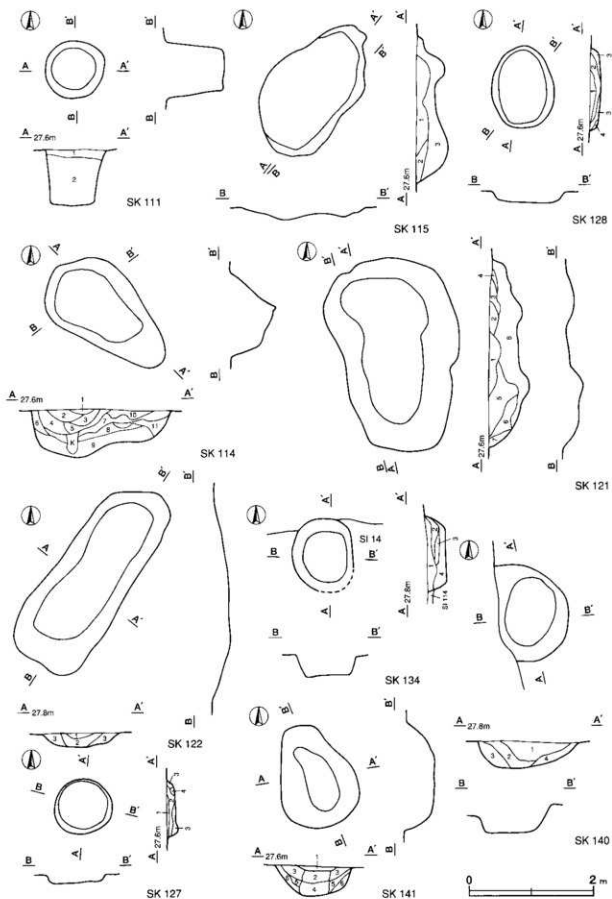
第387図 その他の土坑実測図(9)



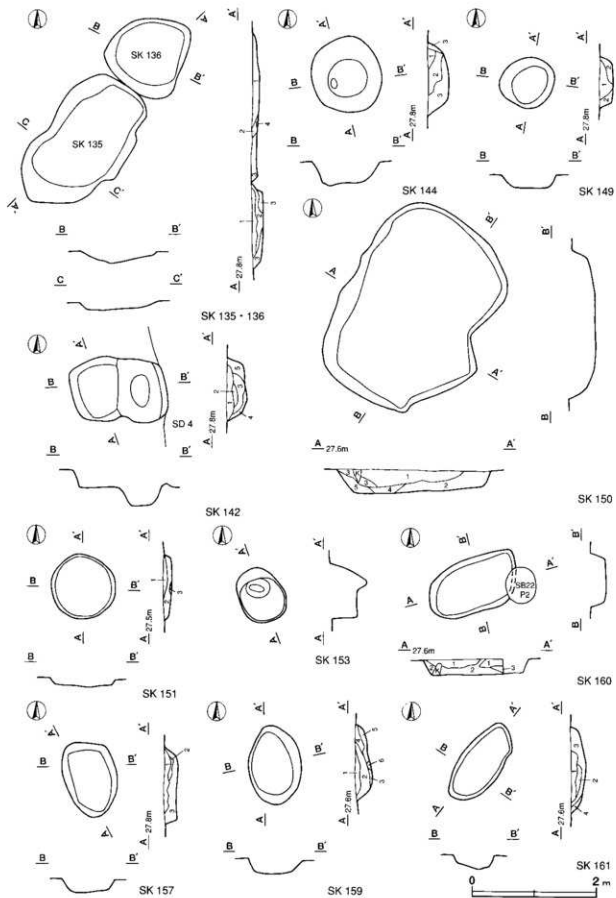
第388図 その他の土坑実測図 (10)



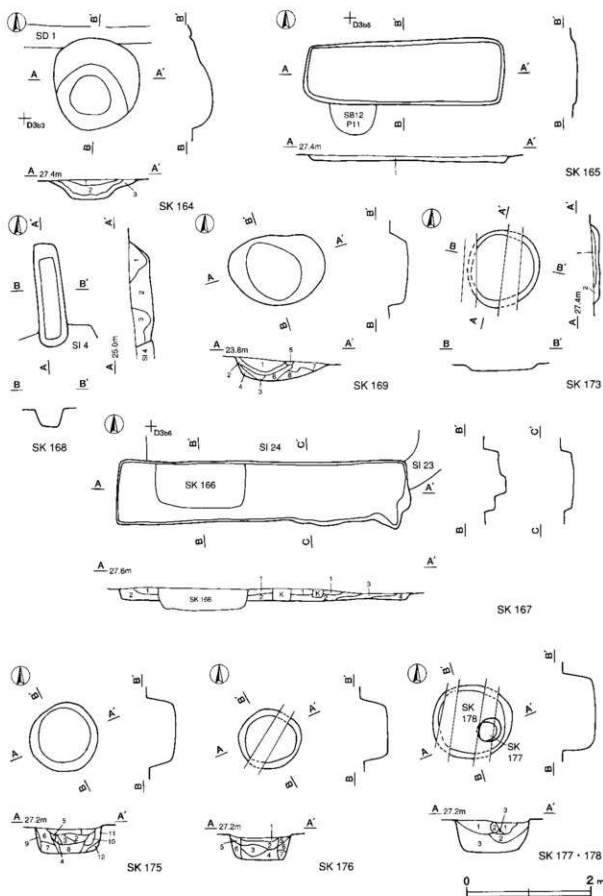
第389図 その他の土坑実測図 (11)



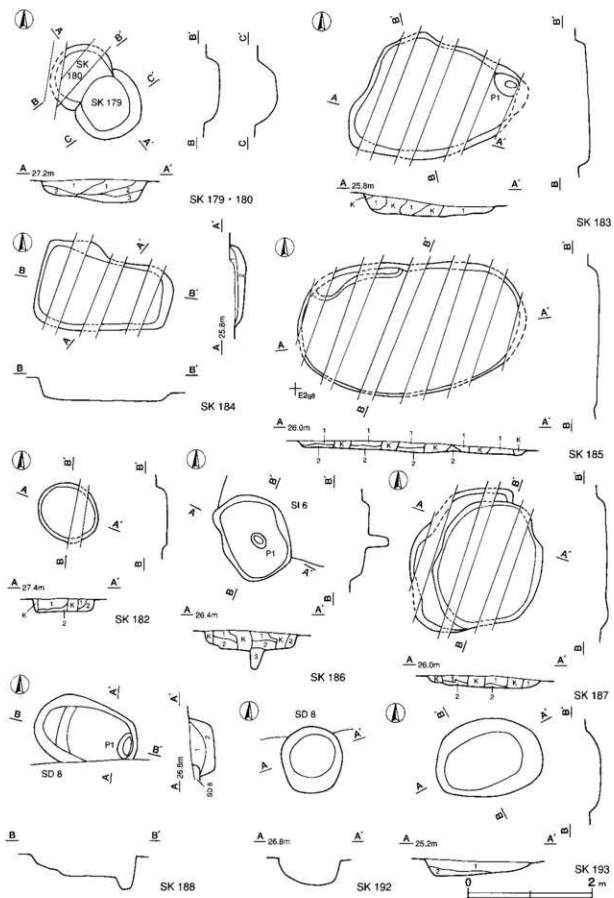
第390図 その他の土坑実測図 (12)



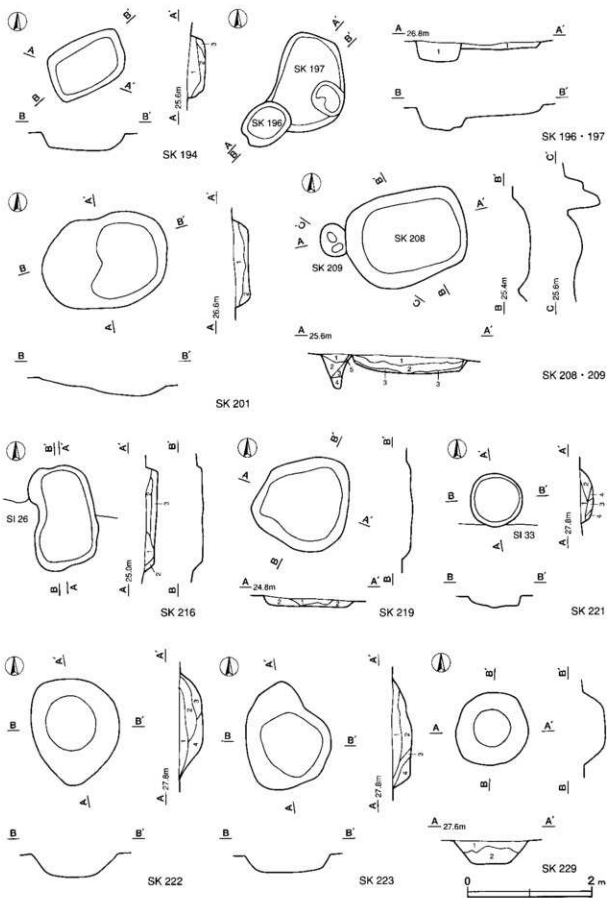
第391図 その他の土坑実測図 (13)



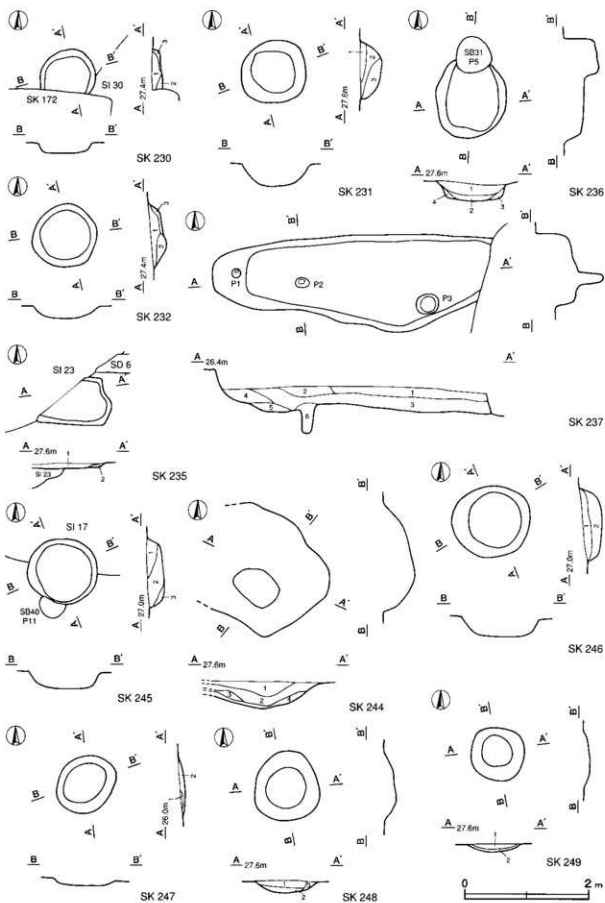
第392図 その他の土坑実測図 (14)



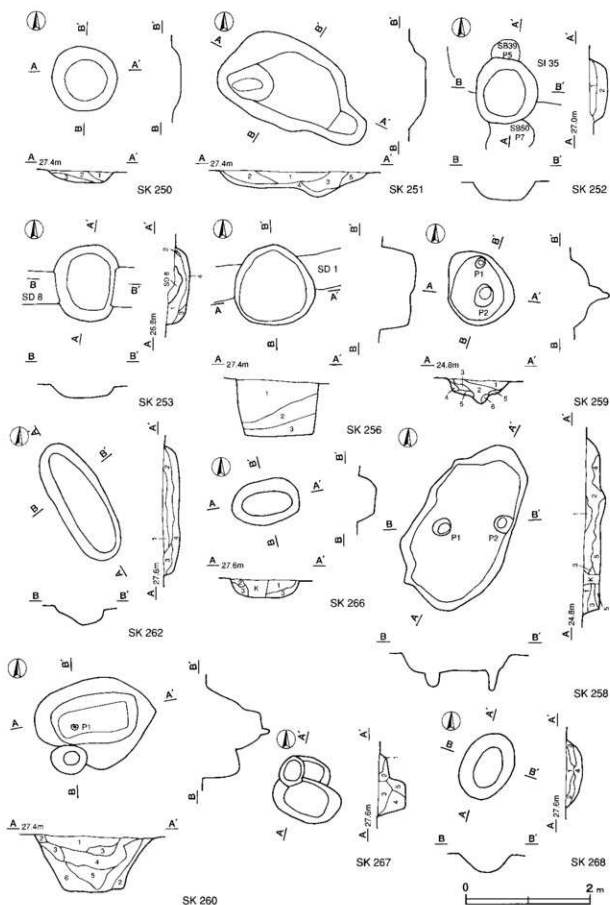
第393図 その他の土坑実測図 (15)



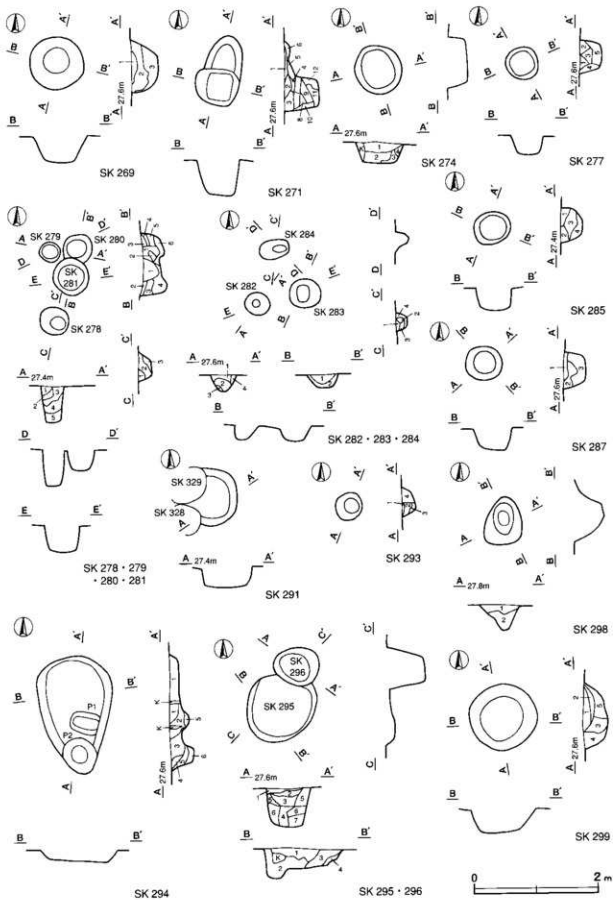
第394図 その他の土坑実測図 (16)



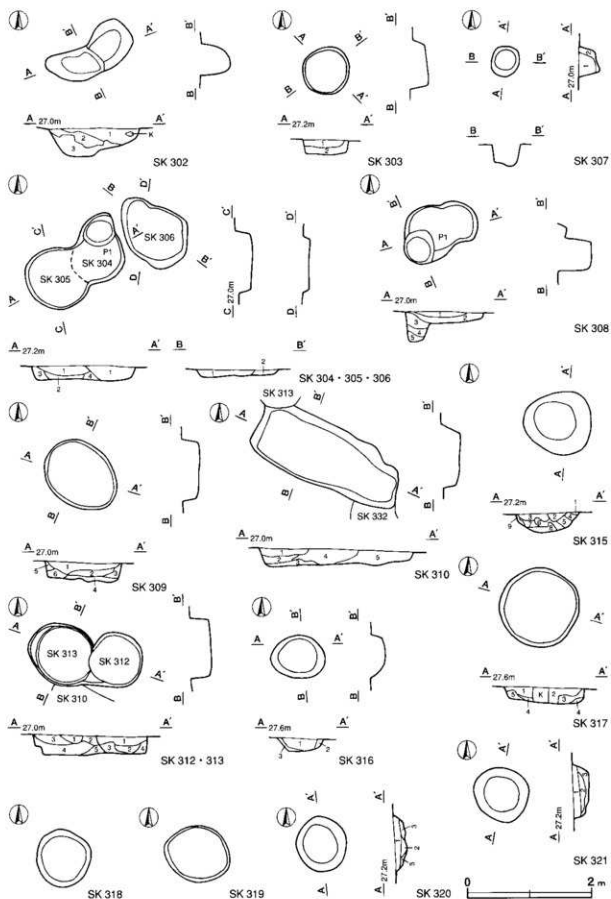
第395図 その他の土坑実測図 (17)



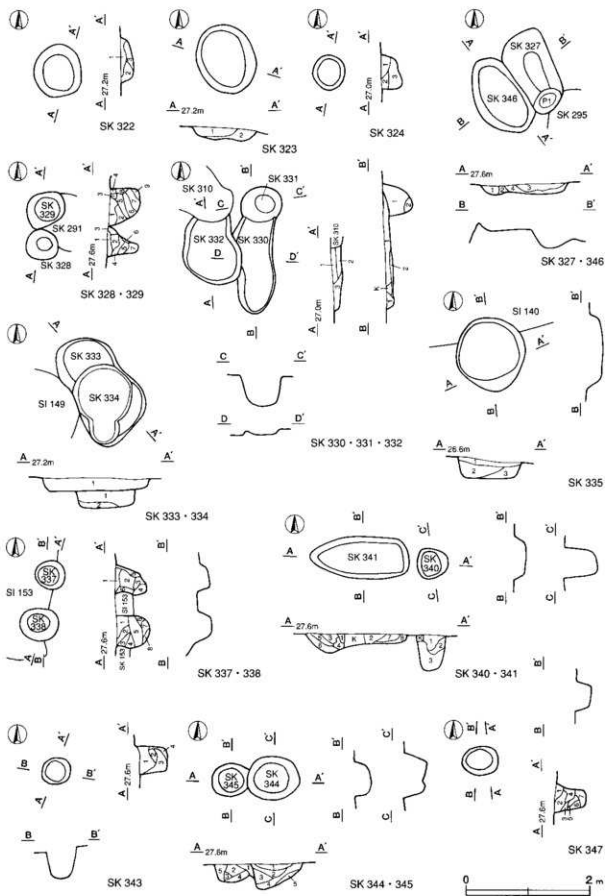
第396図 その他の土坑実測図 (18)



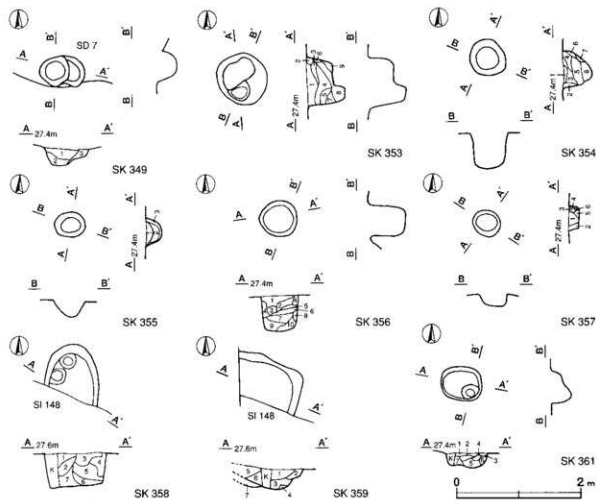
第397図 その他の土坑実測図 (19)



第398図 その他の土坑実測図 (20)



第399図 その他の土坑実測図 (21)



第400図 その他の土坑実測図 (22)

第1号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒少量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化物、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第13号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第14号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第16号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子、炭化粒中量
- 6 暗褐色 ローム粒中量、粘土粒子微量

第17号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒多量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第18号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒微量
- 2 褐色 ロームブロック多量、赤色粒子微量

第19号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第20号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒微量

第21号土壌層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第43号土壌層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第46号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒・焼土粒子・炭化粒微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第54号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒中量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック多量
- 6 褐色 ロームブロック多量、粘土粒子微量

第56号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量、炭化粒微量
- 5 褐色 ローム粒多量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ローム粒多量
- 8 褐色 ロームブロック多量

第58号土壌層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、炭化粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒中量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒微量
- 4 褐色 ローム粒多量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒少量
- 6 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒中量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒少量

第66号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子・炭化粒子微量

第67号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第68号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒中量、炭化粒微量
- 3 褐色 ローム粒多量、炭化粒子微量

第76号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第80号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒子・炭化粒微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒微量

第81号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒・炭化粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第90号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第92号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第101号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒微量
- 2 褐色 ローム粒多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒中量
- 4 褐色 ローム粒多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第105号土壌層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、ローム粒微量
- 2 黒色 炭化物中量、ローム粒少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第106号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒中量

第111号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第114号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒・炭化粒微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒中量、赤色粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ローム粒多量
- 7 褐色 ローム粒多量、赤色粒子微量
- 8 褐色 ローム粒多量、炭化粒微量
- 9 暗褐色 ローム粒多量、赤色粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒多量
- 11 褐色 ローム粒多量

第115号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒・炭化粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、赤色粒子微量

第121号土壌土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量
- 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子・赤色粒子微量

第122号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子微量
- 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第127号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量

第128号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量

第134号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子中量
- 褐色 ロームブロック多量
- 褐色 ロームブロック中量
- 褐色 ローム粒子多量

第135号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子多量
- 褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量
- 褐色 ローム粒子中量
- 褐色 ローム粒子多量、粘土粒子少量

第136号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第140号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子微量
- 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第141号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 焼土褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック微量
- 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第142号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第144号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第149号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ロームブロック多量

第150号土壌土層解説

- 暗褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第151号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量

第157号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第159号土壌土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第160号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第161号土壌土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ローム粒子多量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量

第164号土壌土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第165号土壌土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第167号土壌土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量

第168号土壌土層解説

- 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・腐沼バミス粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量、腐沼バミス粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量、腐沼バミスブロック少量

第169号土壌土層解説

- 褐色 砂粒少量、炭化物・ローム粒子微量
- 灰褐色 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- にがい褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 明褐色 砂粒多量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 褐色 炭化物・ローム粒子・砂粒少量
- 褐色 砂粒少量、炭化物・ローム粒子微量
- にがい褐色 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量

第173号土壌土層解説

- 褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第175号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒が多量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒中量
- 3 褐色 ローム粒が多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒が多量、炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒少量
- 7 褐色 ローム粒が多量、炭化粒子、炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒中量
- 10 明褐色 ローム粒が多量
- 11 褐色 ローム粒中量、焼土粒子微量
- 12 褐色 ローム粒が多量、炭化粒少量

第176号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒が多量
- 3 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒が多量
- 5 褐色 ローム粒少量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量

第177号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量
- 2 褐色 ローム粒中量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第178号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第179号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量、炭化粒少量
- 2 褐色 ローム粒少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第180号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒、炭化粒少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第182号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量

第183号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量、炭化粒子・焼沼バミス粒子微量

第184号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒、炭化粒子、焼沼バミス粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼沼バミスブロック微量

第185号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒少量、焼沼バミス粒子微量
- 2 暗褐色 焼沼バミスブロック少量、ローム粒、炭化粒少量

第186号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒、焼沼バミス粒少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒多量

第187号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック・焼沼バミス粒中量、炭化粒子微量

第188号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第193号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼沼バミス粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第194号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼沼バミスブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼沼バミス粒子微量
- 3 褐色 ローム粒少量、焼沼バミス粒子微量

第196号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第197号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒少量

第201号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒多量

第208号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒、焼土粒、粘土粒、赤色粒子微量
- 3 灰褐色 粘土粒少量、ローム粒、焼土粒微量

第209号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・今市七本桜バミス粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒、焼沼バミス粒子微量
- 5 褐色 ローム粒、焼沼バミス粒子少量、焼土粒微量

第216号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量
- 3 褐色 ローム粒、焼沼バミス粒少量

第219号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム粒微量

第221号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒、焼土粒、炭化粒微量
- 3 暗褐色 ローム粒中量
- 4 褐色 ローム粒多量

第222号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒微量
- 4 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒、炭化粒子微量

第223号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒、炭化粒子微量

第229号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化物少量

第230号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第231号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ローム粒少量

第232号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量、焼土粒微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第235号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第236号土壌層解説

- 1 褐色 ローム粒中量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第237号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒多量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第244号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第245号土壌層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第246号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子微量

第247号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第248号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第249号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第250号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第251号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒少量、ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒多量、炭化粒少量

第252号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第253号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第256号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第258号土壌層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒中量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第259号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒中量、ローム粒少量

第260号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒多量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第262号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

第266号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒少量

第267号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒少量

第268号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第269号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒少量

第271号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒少量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 暗褐色 ロームブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子多量

第274号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第277号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第278号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第279号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第280号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第281号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第282号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第283号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第284号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第285号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第287号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

第293号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第294号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量

第295号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第296号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第298号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第299号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

第302号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第303号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第304号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第305号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第306号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第307号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第308号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第309号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第310号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
 - 2 黒褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ロームブロック少量
 - 4 暗褐色 ロームブロック中量
 - 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 炭化粒子微量

第312号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
 - 2 暗褐色 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 炭化粒子微量

第313号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 ロームブロック少量
 - 3 暗褐色 ロームブロック中量
 - 4 黒褐色 ロームブロック少量
 - 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 炭化粒子微量

第315号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 - 2 黒褐色 ロームブロック微量
 - 3 黒褐色 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ロームブロック中量
 - 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 - 6 黒褐色 ロームブロック少量
 - 7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 - 8 黒褐色 ローム粒子少量
 - 9 暗褐色 ロームブロック少量
- 炭化粒子微量

第316号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第317号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第320号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第321号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

第322号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第323号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第324号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第346号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
 - 2 褐色 ロームブロック中量
 - 3 暗褐色 ロームブロック少量
 - 4 褐色 ロームブロック中量
- 炭化粒子微量

第328号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック中量

第329号土壌層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
 - 2 黒褐色 ロームブロック少量
 - 3 褐色 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子少量
 - 5 黒褐色 ローム粒子中量
 - 6 黒褐色 ロームブロック少量
 - 7 暗褐色 ローム粒子多量
 - 8 褐色 ローム粒子中量
 - 9 褐色 ローム粒子中量
- 炭化粒子微量

第330号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第331号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第332号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第333号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第334号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第335号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第337号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
 - 2 暗褐色 ロームブロック中量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量
 - 4 褐色 ローム粒子中量
 - 5 暗褐色 ロームブロック中量
 - 6 褐色 ローム粒子中量
- 炭化粒子微量

第338号土壌層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
 - 2 褐色 ローム粒子中量
 - 3 暗褐色 ローム粒子少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子中量
 - 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 - 6 褐色 ロームブロック中量
 - 7 暗褐色 ローム粒子中量
 - 8 褐色 ロームブロック中量
- 炭化粒子微量

第340号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 - 2 褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 炭化粒子微量

第341号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、微塵微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒少量

第343号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第344号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第345号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第347号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量

第349号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第353号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒少量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック中量

第354号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒中量

第355号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第356号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量
- 8 褐色 ロームブロック多量
- 9 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量

第357号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第358号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒少量
- 4 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒少量
- 7 褐色 ローム粒子多量

第359号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量

第361号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒中量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

表2 その他の十坑一覧表

遺構 番号	位置	長短方向	平面形	規模		築 材	底 面	ベツト	覆 土	出土遺物	発掘関係 (H1 → 表)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)						
1	C 2-62	N-10°-E	不整形門形	3.72 × 1.08	6	縄文	平皿	—	人為		
2	C 2-63	N-38°-E	[小形門形]	1.14 × (0.96)	32	縄文	傾斜	—	自然		本跡→SK3
3	C 2-63	—	不整形	1.48 × 1.45	42	縄文	傾斜	—	自然		SK2→本跡
4	B 3-63	N-72°-E	隅丸長方形	3.33 × 1.48	35	外堀	平皿	—	人為		
5	C 2-64	—	円形	1.23 × 1.19	48	外堀	平皿	—	人為	土師器片、須恵器片	
6	B 2-65	N-74°-E	楕円形	1.89 × 1.24	32	縄文	傾斜	—	自然		
8	C 2-63	—	円形	0.90 × 0.76	19	外堀	傾斜	—	不明		
9	C 2-63	—	円形	0.88 × 0.82	22	外堀	平皿	—	不明	土師器片	
12	C 2-66	N-45°-E	楕円形	1.55 × 1.26	47	外堀	傾斜	—	自然		
13	A 2-64	—	円形	1.35	52	外堀	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片	方形竪穴1→本跡
14	A 2-64	—	円形	1.22 × 1.19	53	外堀	平皿	—	人為		
15	C 2-65	N-45°-E	不整形	1.25 × 1.10	29	直立	平皿	—	不明		
16	C 2-61	N-57°-E	隅丸長方形	2.00 × 1.04	43	縄文	傾斜	—	自然	土師器片、須恵器片	S275→本跡、SK20
17	C 1-60	N-77°-E	楕円形	1.28 × 1.03	44	直立	円形	—	人為	土師器片、須恵器片	SK19→本跡
18	C 1-60	—	円形	0.72 × 0.65	9	縄文	傾斜	—	自然		
19	C 1-60	N-10°-E	[楕円形]	0.61 × 0.95	18	縄文	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片	本跡→SK17
20	C 2-61	—	円形	0.83	(18)	直立	平皿	—	不明		本跡、SK16
21	B 3-62	N-67°-W	楕円形	2.75 × 1.20	45	外堀	傾斜	—	自然		
22	B 2-69	N-11°-E	長方形	1.34 × 0.95	46	直立	平皿	—	人為	土師器片	S85
23	B 3-61	N 71°-W	長方形	1.34 × 0.99	70	直立	円形	—	人為	土師器片、須恵器片	S110→本跡
24	B 2-69	N 12°-E	長方形	1.30 × 0.87	42	直立	平皿	—	人為		S85
25	B 2-69	N-47°-E	長方形	1.44 × 0.98	38	直立	平皿	—	人為		
28	B 2-69	N-90°	長方形	1.21 × 0.99	49	直立	平皿	—	人為		
29	B 2-69	N-10°-E	長方形	1.34 × 0.94	89	外堀	平皿	I	人為	土師器片、須恵器片	
30	B 2-69	N-81°-W	長方形	1.24 × 1.02	59	直立	平皿	—	人為	土師器片	
31	B 2-69	N-10°-E	長方形	1.24 × 0.78	89	直立	平皿	—	人為		
32	B 2-69	N 17°-E	長方形	1.50 × 0.96	34	外堀	平皿	—	人為		SK33→本跡
33	B 2-69	N 87°-W	長方形	1.07 × 1.05	50	直立	平皿	—	人為		本跡→SK32
34	B 3-61	N-20°-E	長方形	1.30 × 0.78	29	外堀	平皿	—	人為	土師器片	S110→本跡
35	B 3-61	N-88°-W	長方形	1.63 × 1.16	100	外堀	平皿	—	人為		
36	B 2-68	N 17°-E	[長方形]	1.45 × (0.83)	30	外堀	平皿	—	人為	須恵器片	
38	C 5-31	N 86°-E	長方形	1.63 × 1.07	58	直立	平皿	—	人為		
39	C 4-33	N 88°-E	長方形	1.35 × 1.17	49	直立	平皿	—	人為		
40	C 4-33	N-88°-E	長方形	1.38 × 1.15	40	外堀	平皿	—	人為		
41	C 4-39	N-87°-E	長方形	1.60 × 1.14	40	直立	平皿	—	人為		
42	C 4-39	N-88°-W	長方形	1.68 × 1.19	51	直立	平皿	—	人為		
43	C 4-38	N 87°-E	長方形	1.70 × 1.29	36	外堀	平皿	—	人為		SK32→本跡
45	C 3-65	N 82°-E	長方形	1.68 × 1.00	20	外堀	平皿	—	人為	土師器片、須恵器片	SF11→本跡
46	C 4-35	N-11°-W	楕円形	1.50 × 0.98	16	外堀	平皿	—	自然	土師器片	SF21
47	C 4-34	N-90°	長方形	1.45 × 1.12	15	外堀	平皿	—	人為		S152→本跡
48	C 4-34	N-90°	不整形長方形	1.69 × 1.35	61	外堀	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片、平 形瓦製品	S152→本跡
49	C 4-32	N-80°-E	不整形長方形	1.64 × 1.40	54	外堀	平皿	—	自然		
50	C 4-31	N-80°-E	長方形	1.72 × 1.28	44	外堀	平皿	—	人為	土師器片	SK30
51	B 2-60	N 10°-E	長方形	1.46 × 0.98	48	外堀	平皿	—	人為		SK32→本跡
52	B 2-60	N 85°-W	長方形	1.49 × 1.08	93	直立	平皿	—	人為	土師器片、須恵器片	本跡→SK51
54	C 2-66	N-57°-W	不整形門形	4.85 × 0.87	82	外堀	円形	—	人為		SK56

遺構 番号	位 置	長短方向	平面形	瓦 葺		壁 出	吹 出	ビット	覆 土	出 土 遺 物	重 復 関 係 (旧 → 新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(m)						
56	C 2a5	N-70° E	不整矩形	3.13 × 0.83	75	外傾	凹凸	—	人為		SK94
58	C 4a9	N 21° W	不 定 形	3.82 × 3.36	85	外傾	皿状	—	自然・ 人為	土師器片、須恵器片	
59	C 4a1	N-90°	隅丸長方形	2.96 × 1.49	42	外傾	平皿	—	人為		SB18→本跡
60	C 3a0	N-85°-W	長 方 形	1.67 × 1.00	66	直立	平皿	—	人為		SI23→本跡
61	C 4a8	N-71°-W	隅丸長方形	1.83 × 1.08	32	縦斜	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片	
62	C 4a8	N-10°-W	不整長方形	1.94 × 1.04	19	縦斜	皿状	1	人為		
63	C 4a8	N-90°	不整長方形	1.60 × 1.11	44	縦斜	平皿	—	人為	土師器片	SD4→本跡
66	C 4a6	N-22°-W	不整矩形	3.53 × 1.39	45	縦斜	皿状	—	人為		
67	C 4a6	N-13°-W	不整長方形	1.47 × 0.97	9	縦斜	平皿	1	自然	土師器片	
68	C 4a8	N-25°-E	長 方 形	1.25 × 0.98	26	縦斜	皿状	—	自然		
70	C 3a0	N 2° E	不整長方形	1.85 × 0.85	18	縦斜	凹凸	—	人為		SI65→本跡
71	C 3a5	N-2°-E	不整長方形	4.38 × 0.88	18	外傾	平皿	—	人為		
72	C 3a9	N-5°-E	長 方 形	1.42 × 0.90	47	外傾	平皿	—	人為	土師器片	
73	C 3a8	N-88°-W	長 方 形	0.96 × 0.63	20	外傾	平皿	—	人為		SI66→本跡
74	C 3a8	N 86° W	長 方 形	0.85 × 0.71	7	縦斜	平皿	—	人為		SI66→本跡
75	C 3a8	N-2°-E	不整長方形	1.30 × 0.89	32	外傾	平皿	—	人為		SI66→本跡
76	C 3a9	—	四 角 形	0.96 × 0.90	91	直立	平皿	—	人為	土師器片	
77	C 3a8	N-3°-E	長 方 形	1.46 × 1.00	59	直立	平皿	—	人為		SB17→本跡
78	C 3a0	N 3° E	長 方 形	4.26 × 0.90	74	外傾	平皿	—	人為		
79	B 4j1	N-82°-W	長 方 形	2.87 × 1.10	14	外傾	平皿	—	不明		SI02→本跡
80	C 4j2	—	円 形	1.04 × (0.53)	24	外傾	平皿	—	人為		SI33SK50
81	C 4a1	N-51°-W	不 定 形	1.68 × (1.51)	27	縦斜	皿状	—	不明	土師器片、須恵器片	SI17→本跡
82	C 3a8	N-90°	長 方 形	4.43 × 0.78	82	直立	平皿	—	人為		SK83→本跡 SI21-45
83	C 3a7	N-3°-W	長 方 形	3.16 × 0.83	41	直立	平皿	—	人為		本跡→SK82 SI45
85	A 4k1	N-90°	長 方 形	1.62 × 1.24	55	外傾	平皿	—	自然	土師器片	
86	A 3a0	N-90°	長 方 形	1.66 × 1.13	51	外傾	平皿	—	自然		
87	A 3a0	N-83°-E	長 方 形	1.78 × 1.23	51	外傾	平皿	—	自然		
89	B 4c2	N-90°-E	長 方 形	1.63 × 1.23	86	直立	平皿	—	人為		
90	B 4a1	N-59° E	不 定 形	1.83 × (1.80)	36	外傾	平皿	—	人為		SK104
91	B 4c4	N-90°-E	長 方 形	1.33 × 1.08	67	直立	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片	SD4
92	D 4j7	N-71°-W	不 定 形	2.49 × 1.89	35	外傾	皿状	—	自然		本跡→SK43
93	B 3a0	N-85°-W	長 方 形	1.60 × 1.24	63	外傾	平皿	—	人為		SV2→本跡
94	B 3a0	N 68° W	長 方 形	1.65 × 1.13	77	外傾	平皿	—	人為	土師器片	SV1→本跡
95	D 3a9	N-78°-W	長 方 形	1.35 × 1.03	72	外傾	平皿	—	人為		
96	B 3c7	N-87°-W	長 方 形	1.33 × 1.15	109	直立	平皿	—	人為		SI106→本跡
99	A 3a0	N-85°-E	長 方 形	1.83 × 1.13	47	外傾	平皿	—	人為		
100	A 3a8	N-30° W	隅 丸 形	1.15 × 1.04	27	外傾	平皿	—	不明		
101	B 4a1	N 29° W	不整長方形	(2.50) × 1.36	56	縦斜	皿状	—	人為		SK80
102	A 3a8	N 7°-E	長 方 形	1.80 × 0.70	27	外傾	平皿	—	人為	土師器片	
103	D 3a7	N-2°-E	長 方 形	0.97 × 0.65	33	外傾	平皿	—	人為		
104	B 3a8	N-1°-W	長 方 形	0.96 × 0.70	35	外傾	平皿	—	人為		
105	A 3a8	N-90°	不 定 形	2.00 × 1.80	30	外傾	平皿	—	自然	土師器片、須恵器片	
106	A 3a0	N-28° W	長 方 形	0.96	27	外傾	皿状	—	自然	土師器片	
110	B 3a5	N 88° W	長 方 形	1.16 × 1.13	91	外傾	平皿	—	自然		SI123→本跡
111	B 3a4	—	円 形	1.00 × 0.92	94	直立	平皿	—	人為		
114	C 3c2	N-44°-W	不整矩形	2.20 × 1.34	72	縦斜	凹凸	—	人為		
115	C 3c2	N-33°-E	不整矩形	2.36 × 1.34	20	縦斜	凹凸	—	自然		

遺構 番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁 面	穴 蓋	ピット	履 土	出土遺物	遺 構 関 連 (組 → 前)
				長(幅)×短(幅)(m)	深さ(cm)						
116	B 3e8	N-90°	長方形	1.26 × 0.85	82	外壁	凹凸	1	自然		
121	C 3d2	N-5°-W	不整形四角形	3.69 × 2.12	30	縦斜	凹凸	—	自然	土師器片	
122	C 3f5	N-38°-E	不整形長方形	3.31 × 1.34	28	縦斜	起伏	—	自然		
123	B 3e8	N-90°	長方形	1.21 × 0.90	77	直立	平皿	1	人為		
124	B 3f3	N-87°-W	長方形	1.44 × 0.95	94	直立	平皿		自然		
125	B 3f2	N-85°-W	長方形	1.16 × 0.75	92	直立	平皿		人為		
126	B 3f4	N-90°	長方形	1.07 × 0.80	71	外壁	平皿	—	人為	SI123	
127	C 3e6	—	円形	0.95 × 0.90	14	縦斜	平皿	—	不明	土師器片、須恵器片	
128	C 3e6	N-0°	楕円形	1.33 × 1.00	49	縦斜	平皿	—	自然	土師器片	
132	C 2e8	N-17°-E	不整形長方形	1.49 × 0.630	72	外壁	凹凸	—	人為		
133	C 2e8	N-15°-E	[不整形長方形]	1.32 × 0.233	73	内壁	平皿		人為		
134	C 2e8	N-0°	楕円形	1.16 × 0.96	35	外壁	平皿	—	人為		SI114→本跡
135	C 2e8	N-41°-E	不整形四角形	2.38 × 1.25	10	縦斜	平皿	—	人為		
136	C 2e8	N-41°-E	不整形長方形	1.23 × 1.28	18	縦斜	遺灰	—	不明	土師器片	
137	C 2e9	N-6°-E	長方形	1.61 × 0.90	31	外壁	平皿	—	自然		
140	A 4e3	N-15°-W	不整形四角形	1.61 × 1.133	48	縦斜	平皿	—	自然		SD4
141	A 4d3	N-21°-W	不整形四角形	1.70 × 1.25	45	縦斜	平皿		自然	土師器片	
142	A 4e2	N-87°-E	不定形	1.50 × 1.05	58	外壁	凹凸	—	自然		SD4
143	A 4e1	N-4°-W	不整形長方形	1.37 × 1.02	36	外壁	縦斜	—	自然		
144	A 4e2	N-7°-W	楕円形	1.24 × 1.11	28	外壁	縦斜	—	人為		
145	B 3g5	N-7°-E	長方形	1.15 × 0.82	55	直立	平皿	—	人為		
146	B 3g5	N-22°-E	長方形	1.51 × 0.80	42	外壁	起伏		人為		
147	B 3g5	N-3°-E	[長方形]	1.79 × 0.91	34	外壁	平皿		人為		本跡→SK148
148	B 3g5	N-87°-W	楕円長方形	1.12 × 0.88	40	外壁	平皿		人為		SK147→本跡
149	B 3g5	—	円形	0.84 × 0.81	19	縦斜	平皿	—	不明		
150	C 4d1	N-32°-E	不整形長方形	3.21 × 2.30	39	縦斜	平皿	—	自然		
151	C 4b2	—	円形	1.03	14	縦斜	平皿	—	不明		
153	A 4c3	N-20°-W	楕円形	0.90 × 0.72	51	直立	凹凸	—	自然		
157	B 2e0	N-28°-W	楕円形	1.23 × 0.81	23	縦斜	平皿	—	不明		
159	B 2g9	N-6°-W	楕円形	1.25 × 0.84	20	縦斜	平皿		自然		
160	B 2f0	N 74° E	[楕円形]	(1.28) × 0.85	26	外壁	平皿	—	自然		SB22→本跡
161	C 3a0	N-38°-E	楕円形	1.40 × 0.69	21	外壁	縦斜	—	人為		
162	C 2e9	N-85°-W	長方形	(1.50) × 1.02	28	外壁	平皿	—	自然	土師器片	SI32→本跡
163	C 2f3	N-90°	長方形	1.83 × 1.25	34	外壁	平皿	—	人為	SI37-SB42→本跡	
164	D 3a3	—	円形	1.07 × 1.03	33	縦斜	縦斜		自然	土師器片、須恵器片	SD4
165	D 3b5	N-90°	長方形	3.17 × 1.07	11	縦斜	平皿		不明		SB42→本跡
166	D 3b6	N-90°	[長方形]	1.41 × 0.75	35	外壁	平皿	—	人為		SI24-SK167→本跡
167	D 3b6	N-90°	不整形長方形	4.66 × 1.02	18	外壁	凹凸	—	不明	土師器片、須恵器片	SI23-24本跡→SK166
168	E 3a8	N-6°-W	[長方形]	(1.92) × 0.43	29	外壁	平皿	—	人為		SI4→本跡
169	E 3f1	N-75°-E	楕円形	1.50 × 1.16	31	外壁	平皿	—	自然		
172	D 3b3	N-87°-W	長方形	2.23 × 1.06	42	外壁	平皿	—	人為		SI30, SK230→本跡 SD9
173	D 3b7	—	円形	1.25 × 1.15	10	縦斜	平皿	—	不明		
175	D 3b9	—	円形	1.08 × 1.05	45	外壁	平皿		人為		
176	D 3c9	—	円形	1.00 × 0.95	30	外壁	平皿	—	人為		
177	D 3e9	—	円形	0.40 × 0.39	23	縦斜	起伏	—	不明	土師器片、須恵器片	SK178
178	D 3c9	N-68°-E	楕円形	1.30 × 1.16	53	外壁	平皿	—	人為		SK177
179	D 3c9	—	[円形]	1.15 × (1.00)	35	縦斜	遺灰	—	自然		SK180

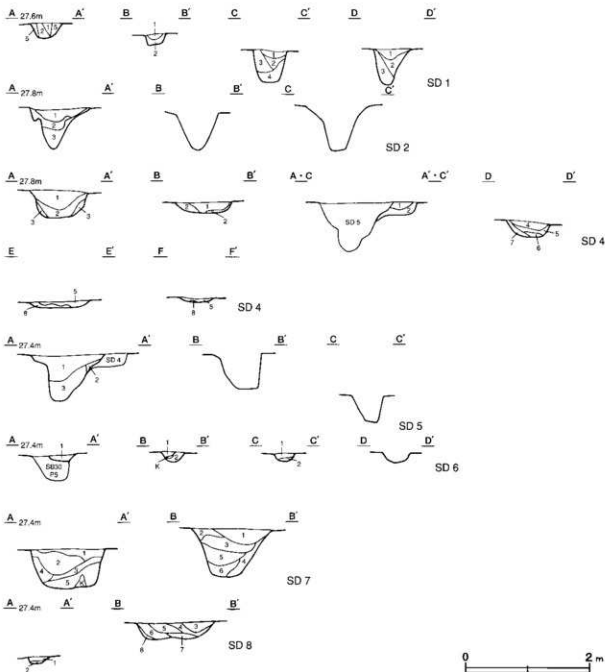
遺構番号	位置	長尺方向	平面形	築 設		壁 面	造 面	ピット	覆 土	出 土 遺 物	重 複 開 掘 (旧 → 新)
				長尺(横)×短尺(縦)(m)	深さ(m)						
180	D3c9	—	円 形	1.06 × 0.97	25	縦斜	平組	—	自然		SK179
182	D3b8	—	円 形	1.00	16	縦斜	平組	—	人為		SB30
183	E2g7	N-73°-E	不 定 形	2.96 × 2.03	17	縦斜	平組	1	不明		
184	E2g7	N-84°-W	不 定 形	2.13 × 1.41	30	外傾	平組	—	自然	土師器片、灰土器片	
185	E2g9	N-82°-E	楕 円 形	3.62 × 2.12	15	縦斜	平組	—	人為	土師器片、灰土器片	
186	E2g8	N-22°-W	[円 形]	1.40 × 1.08	29	縦斜	平組	1	人為		SB6→本跡
187	E2c9	N-75°-W	不 定 形	(3.00) × 2.45	14	縦斜	平組	—	不明	土師器片	
188	D3e6	N-77°-W	楕 円 形	1.68 × 1.10	33	縦斜	傾斜	1	自然		本跡→SD8
190	D3d4	—	円 形	1.06 × 0.97	42	縦斜	直状	—	自然		SB41, SB40→本跡
193	E3d2	N-72°-E	楕 円 形	1.72 × 1.27	23	縦斜	直状	—	自然		
194	E3c1	N-68°-E	長 方 形	1.25 × 0.85	28	縦斜	平組	—	人為		
196	E3b8	N-45°-E	楕 円 形	0.79 × 0.63	38	縦斜	直状	—	自然		SK197→本跡
197	E2a8	—	不 定 形	(1.30) × 1.13	17	縦斜	平組	—	人為		本跡→SK196
198	E2a8	N-85°-W	長 方 形	0.97 × 0.85	47	外傾	平組	—	自然		SK199-205
199	E2a8	N-19°-E	不 定 形	2.65 × 0.60	13	縦斜	円口	1	不明		本跡→SK205, SK198
201	E3i1	N-73°-E	楕 円 形	2.04 × 1.43	18	縦斜	傾斜	—	不明		
202	E2a8	N-10°-E	楕 円 形	0.62 × 0.60	30	外傾	平組	—	不明		本跡→SK204
203	E2a8	N-74°-W	長 方 形	1.42 × 1.04	90	直立	平組	—	人為	土師器片、灰土器片	
204	E2a8	N-73°-W	長 方 形	1.16 × 0.93	70	直立	平組	—	人為		SK202→本跡
205	E2a8	N-12°-E	[長 方 形]	1.30 × 0.36	70	外傾	平組	—	人為		SK199→本跡, SK198
206	E3d2	N-0°	長 方 形	1.15 × 0.98	40	外傾	平組	—	人為		SK207→本跡
207	E3c2	N-90°	長 方 形	1.50 × 1.21	28	外傾	平組	—	人為		本跡→SK206
208	E3c1	N-72°-E	楕 円 長 方 形	1.95 × 1.17	25	縦斜	直状	—	人為	灰土器片	SK209
209	E3c1	N-27°-W	[楕 円 形]	0.90 × 0.423	56	外傾	直状	—	人為		SK208
216	E3d3	N-7°-W	不 整 長 方 形	1.65 × 1.03	15	縦斜	平組	—	不明		SB16→本跡
219	E3d4	—	不 整 円 形	1.55 × 1.50	8	縦斜	平組	—	不明		
221	C2g9	—	円 形	0.86 × 0.83	20	縦斜	平組	—	自然	土師器片	SD3→本跡
222	C2a9	N-11°-W	不 整 楕 円 形	1.63 × 1.40	37	縦斜	直状	—	自然	土師器片、灰土器片	SD3, SB43-45→本跡
223	C2g9	N-9°-W	不 整 楕 円 形	1.70 × 1.35	19	縦斜	平組	—	自然	土師器片、灰土器片	SD3, SB43-45→本跡
225	D3b4	N-83°-W	長 方 形	1.58 × 0.74	34	外傾	平組	—	人為	土師器片、灰土器片	SB41→本跡
228	D2b0	N-85°-W	長 方 形	2.28 × 0.84	45	外傾	平組	—	人為	土師器片、灰土器片、陶器片	SB44, SK286→本跡
229	D3c1	—	円 形	1.25 × 1.16	36	縦斜	平組	—	人為		
230	D3b3	—	[円 形]	0.88 × 0.66	17	縦斜	平組	—	人為		SD2→本跡→SK172, SB49
231	D3b3	—	円 形	1.02	37	縦斜	平組	—	自然	灰土器片、鉄滓	SD2→本跡, SB49
232	D3c3	—	円 形	1.05 × 1.01	20	縦斜	平組	—	不明	土師器片	SD2→本跡, SB47-48
235	D3b7	N-90°	[長 方 形]	(0.85) × 0.78	10	縦斜	平組	—	不明	灰土器片	SD2→本跡
236	C2j0	N-3°-E	長 方 形	1.41 × 1.12	30	外傾	平組	—	自然		SB43-31→本跡
237	D3j2	N-37°-E	不 定 形	4.60 × 1.56	25	外傾	平組	3	自然	土師器片	SD11
239	D3i4	N-83°-W	長 方 形	1.75 × 1.13	24	外傾	平組	—	人為	土師器片、灰土器片	
240	D3b3	N-84°-E	長 方 形	1.35 × 1.13	37	直立	平組	—	人為		
242	B4c3	N-86°-E	長 方 形	1.97 × 1.25	44	外傾	平組	—	人為		
244	D3c1	N-64°-W	不 定 形	1.80 × (1.74)	30	縦斜	直状	—	自然		
245	D3g1	—	円 形	1.11 × 1.07	25	縦斜	平組	—	人為	土師器片、灰土器片	SD17→本跡, SB49
246	D3g1	—	円 形	1.23 × 1.14	30	縦斜	平組	—	自然	土師器片、灰土器片	SB40
247	D2i2	N-35°-E	楕 円 形	1.00 × 0.90	10	縦斜	平組	—	不明		
248	C3i9	N-0°	楕 円 形	1.10 × 1.00	20	縦斜	直状	—	不明	土師器片、灰土器片	
249	C3i8	—	円 形	0.89 × 0.87	12	縦斜	直状	—	不明		

選別 番号	位置	長尺方向	平面形	尺 寸		壁 面	成 造	ピット	覆 土	出 土 遺 物	重 復 同 様 (旧 → 新)
				長尺(横)×短尺(縦)(m)	深さ(m)						
250	C 3f	—	円 形	1.04 × 1.03	16	縦割	平削	—	不明		
251	C 3j7	N-64°-W	不 定 形	2.49 × 1.42	26	縦割	平削	—	人為		
252	D 3e5	—	[円 形]	(1.01) × 0.98	29	縦割	平削	—	人為	SK29 → 本跡	SK29SK30
253	D 3f5	N 71°-E	[楕 円 形]	1.22 × 1.00	21	縦割	平削	—	不明		SK8
256	D 4a6	—	円 形	1.28 × 1.27	55	外堀	平削	—	人為		SD1 → 本跡
258	E 3e1	N-27°-E	不 整 楕 円 形	2.78 × 1.61	29	縦割	平削	2	人為		
259	F 3f1	N-38°-W	楕 円 形	1.23 × 1.03	25	縦割	皿状	2	人為		
260	C 2a9	N-79°-E	不 整 楕 円 形	1.95 × 1.45	92	外堀	円凸	1	人為		
261	C 2a9	N 71°-E	長 方 形	1.45 × 0.89	16	外堀	平削	—	人為	土師器片、須恵器片	
262	C 2g8	N-30°-W	楕 円 形	2.03 × 0.79	28	縦割	皿状	—	自然		
266	D 2e9	N-76°-E	楕 円 形	1.89 × 0.72	28	縦割	平削	—	人為	土師器片、須恵器片	
267	D 2e9	N-75°-W	不 定 形	1.10 × 1.03	44	外堀	円凸	—	自然	土師器片、須恵器片	
268	D 2e9	N-29°-E	楕 円 形	1.11 × 0.84	27	縦割	皿状	—	人為	須恵器片	
269	D 2d9	—	円 形	0.90 × 0.85	43	縦割	平削	—	自然	土師器片	
271	D 2e9	N-12°-E	不 整 楕 円 形	1.14 × 0.67	55	外堀	平削	—	人為		
274	D 2b9	—	円 形	0.79 × 0.75	34	外堀	平削	—	自然		
277	D 2a9	—	円 形	0.53 × 0.50	32	外堀	皿状	—	人為		
278	D 2a9	—	円 形	0.47	21	縦割	平削	—	不明		
279	D 2a9	—	円 形	0.34	57	直立	平削	—	人為		
280	D 2a9	—	[円 形]	(0.46) × 0.45	32	外堀	皿状	—	人為		本跡 → SK281
281	D 2a9	—	[円 形]	(0.58) × 0.55	46	外堀	皿状	—	人為		SK289 → 本跡
282	D 2c9	—	円 形	0.42 × 0.40	24	外堀	皿状	—	人為		
283	D 2c9	—	円 形	0.50 × 0.48	20	外堀	平削	—	自然		
284	D 2c9	N-85°-E	楕 円 形	0.40 × 0.28	16	外堀	皿状	—	人為		
285	D 2b9	—	円 形	0.56 × 0.54	32	直立	平削	—	人為	土師器片、須恵器片	
286	C 3b9	N-51°-E	長 方 形	[1.20] × 0.68	43	直立	平削	—	人為		本跡 → SK226
287	D 2b9	—	円 形	0.59 × 0.57	62	外堀	平削	—	人為	土師器片	
288	D 2c9	N-51°-E	長 方 形	1.36 × 0.80	38	直立	平削	—	人為		
290	D 2c9	N-85°-W	長 方 形	1.24 × 0.72	16	直立	平削	—	不明		
291	D 2a9	—	[円 形]	0.69 × (0.70)	32	外堀	平削	—	不明		本跡 → SK328-329
293	D 2b9	—	円 形	0.48 × 0.45	18	外堀	皿状	—	人為		
294	D 2c9	N-90°	不 整 楕 円 形	1.89 × 1.21	19	縦割	縦割	2	不明	土師器片、須恵器片	
295	D 2b8	—	[円 形]	1.23 × (1.08)	13	外堀	平削	—	不明		SK286-327
296	D 2b8	—	円 形	0.73 × 0.67	60	外堀	平削	—	人為		SK285
298	D 2b8	N-90°	不 整 楕 円 形	0.78 × 0.60	46	外堀	縦割	—	自然		
299	D 2b7	—	円 形	1.89 × 1.08	36	縦割	皿状	—	人為		
300	E 2b5	N-12°-W	長 方 形	1.10 × 1.00	72	直立	平削	—	人為	土師器片	SI146 → 本跡
302	E 2c4	N 71°-E	不 整 長 方 形	1.46 × 0.67	47	直立	皿状	—	自然		
303	E 2d4	—	円 形	0.77 × 0.72	28	外堀	平削	—	人為		
304	E 2d1	N-23°-W	不 定 形	0.95 × 0.84	23	外堀	平削	1	不明		SK305 → 本跡
305	E 2d4	N-40°-W	[楕 円 形]	0.98 × (0.80)	25	直立	平削	—	人為		本跡 → SK304
306	E 2d4	N-53°-W	不 定 形	1.30 × 0.92	10	外堀	平削	—	不明		
307	E 2d4	—	円 形	0.50 × 0.46	35	外堀	円凸	—	自然		
308	E 2d4	N-55°-E	不 定 形	1.27 × 0.84	54	直立	平削	1	人為		
309	F 2e1	N-37°-W	楕 円 形	1.38 × 0.88	30	外堀	平削	—	人為	土師器片、須恵器片	
310	F 2e1	N-68°-W	不 整 長 方 形	2.47 × 1.00	29	外堀	平削	—	自然		SK332 → 本跡 → SK313
311	D 2b8	N-81°-E	[長 方 形]	1.25 × 0.80	76	直立	平削	—	人為		SK314 → 本跡

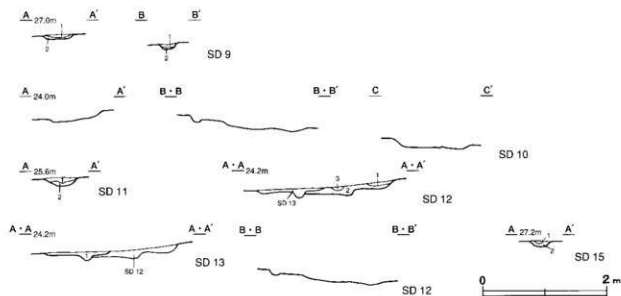
遺構 番号	位置	長短方向	平面形	規模		壁 面	取 材	ビッド	覆 土	出 土 遺 物	産 産 関 係 (田 → 跡)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(cm)						
312	E 2+4	N 80° E	楕 円 形	0.88 × 0.83	27	外堀	平垣	—	人為		SK313→本跡
313	E 2+4	—	不整形	1.07 × 0.96	32	直立	平垣	—	人為		SK310→本跡→SK312
314	D 2+8	N 90°	[長方形]	1.12 × 0.65	59	外堀	平垣	—	不明		本跡→SK311
315	E 2+4	—	円 形	1.07 × 1.02	31	縦斜	竪状	—	人為	須恵器片、磁器片	
316	D 2+8	—	[円形]	0.84 × 0.62	23	縦斜	平垣	—	自然		
317	D 2+7	—	円 形	1.27	25	外堀	竪斜	—	不明		
318	D 2+7	—	円 形	0.90 × 0.86	—	不明	不明	—	不明		
319	D 2+7	N 75° W	楕 円 形	1.07 × 0.91	—	不明	不明	—	不明		
320	E 2+6	—	円 形	0.86 × 0.82	20	縦斜	円凸	—	自然		
321	E 2+6	—	円 形	0.88 × 0.85	25	縦斜	竪斜	—	自然		
322	E 2+6	—	円 形	0.85 × 0.79	19	縦斜	平垣	—	人為	土師器片、須恵器片	
323	E 2+6	N 38° W	楕 円 形	1.12 × 0.92	20	縦斜	円凸	—	自然		
324	E 2+6	N 67° E	楕 円 形	0.56 × 0.50	33	直立	円凸	—	自然		
327	D 2+8	N 23° W	不整形	1.32 × 0.73	31	縦斜	平垣	1	自然		SK295-316
328	D 2+9	N 72° W	楕 円 形	0.54 × 0.47	50	外堀	竪状	—	自然		SK291→本跡
329	D 2+9	—	円 形	0.64 × 0.61	53	外堀	竪状	—	自然		SK291→本跡
330	E 2+4	N 2° W	不整形	1.47 × 0.61	9	縦斜	平垣	—	不明		SK311→本跡 SK332
331	E 2+4	—	楕 円 形	0.70 × 0.61	49	外堀	竪状	—	人為		本跡→SK330
332	E 2+4	N 41° W	不整形	1.20 × 0.86	27	縦斜	平垣	—	自然		本跡→SK319 SK330
333	E 2+3	N 44° W	不 定 形	1.72 × 0.96	20	外堀	平垣	—	不明		SI149、SK334→本跡
334	E 2+3	N 8° W	不 定 形	0.95 × 0.82	46	外堀	平垣	—	人為		SI149→本跡→SK333
335	E 2+4	—	円 形	1.20 × 1.12	24	縦斜	平垣	—	自然		SI140
337	D 2+8	—	円 形	0.48 × 0.47	42	外堀	竪斜	—	人為		SI153→本跡
338	D 2+8	N 90°	楕 円 形	0.61 × 0.55	48	縦斜	平垣	—	人為		SI153→本跡
340	D 2+9	—	円 形	0.50	54	縦斜	竪状	—	自然		
341	D 2+8	N 85° W	不整形	1.68 × 0.60	19	縦斜	平垣	—	人為		
343	D 2+8	—	円 形	0.47 × 0.45	45	外堀	竪状	—	人為		
344	D 2+8	—	楕 円 形	(0.81) × 0.71	35	外堀	円凸	—	人為		SK345→本跡
345	D 2+8	—	円 形	0.55 × 0.60	26	外堀	竪状	—	人為	土師器片	本跡→SK344
346	D 2+8	N 43° W	楕 円 形	1.32 × 0.77	14	縦斜	平垣	—	自然		SK327
347	D 2+8	N 90°	楕 円 形	0.56 × 0.45	45	外堀	平垣	—	人為	土師器片	SI153→本跡
349	D 2+9	N 78° W	楕 円 形	0.72 × 0.50	25	縦斜	円凸	—	自然	土師器片、須恵器片	S27
353	D 2+9	—	円 形	0.84 × 0.79	43	外堀	円凸	—	人為	土師器片、須恵器片	
354	D 2+9	—	円 形	0.60 × 0.56	50	直立	竪状	—	人為		
355	D 2+9	N 65° W	楕 円 形	0.50 × 0.44	55	直立	竪状	—	自然		
356	D 2+9	—	円 形	0.60	58	直立	平垣	—	人為	土師器片、須恵器片	
357	D 2+9	—	円 形	0.44 × 0.40	18	直立	平垣	—	自然		
358	D 2+8	—	[円形]	(0.85)	51	外堀	平垣	—	人為		SI148
359	D 2+6	N 72° W	楕 円 長方形	(1.15 × 0.60)	(35)	縦斜	円凸	—	人為	土師器片	SI148
361	D 2+8	N 80° W	楕 円 形	0.65 × 0.55	31	外堀	円凸	—	人為		

(7) 溝跡

今回の調査で、溝跡13条を確認した。第1・6・7号溝跡は調査区中央部を東西方向、第5号溝跡は調査区北部を東西方向、第8・9・11号溝跡は調査区南部を東西方向、第10・13号溝跡は調査区南部をL字状に延び、第12号溝跡は東南東方向に延びている。また、第2号溝跡は調査区西部を北北東方向、第15号溝跡は調査区南部を北北西方向に延びている。これらは、地目境に位置するものが多いことから近代以降の根切り溝である可能性が想定される。調査区中央部から北部にかけて、北北西方向に途切れながらも直線状に延びている第4号溝跡は、律令期の区画溝と想定して調査したが、遺物が出土していないことから時期・性格ともに明確にはできなかった。以下、これらの溝跡について、平面図は全体図に示し、土層断面図と一覧表を記載する。



第401図 第1・2・4～8号溝跡実測図



第402図 第9～13・15号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第2号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第4号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量

第5号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第7号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

第8号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量（粘性弱い）
- 8 褐色 ロームブロック中量

第9号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第11号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック・焼土粒子微量

第12号溝跡土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第13号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第15号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

表3 溝跡一覧表

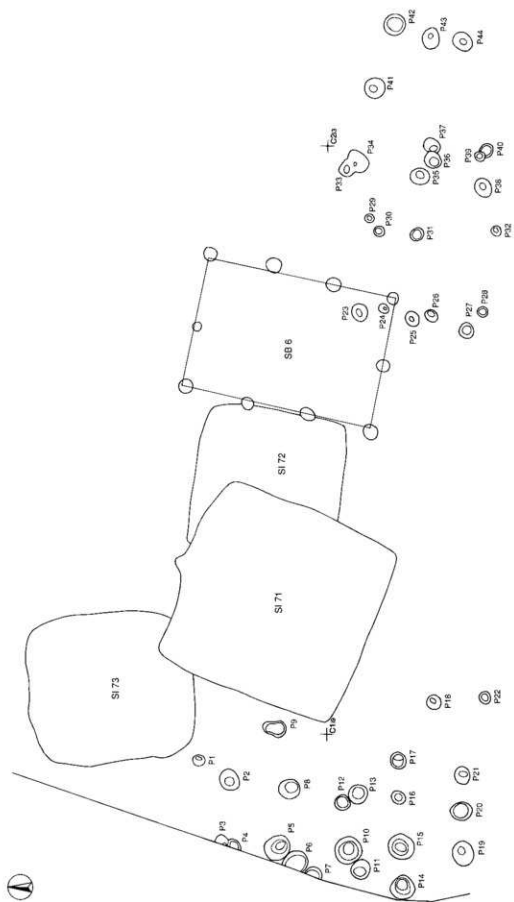
遺構 番号	位置	方向	形状	規模 (m)				断面形	覆土	主な出土遺物	重複関係 (古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ (cm)				
1	C 52 D 247	N-85°E	点線状	(94.9)	0.24~0.61	0.10~0.36	7~64	U字状	人為・自然	土師器片、須恵器片、埴土、土師器片、須恵器片、埴土、土師器片	S423-24/SB12-23-30-44→本跡
2	B 249 D 249	N-8°W	点線状	(144)	0.61~1.00	0.12~0.22	32~72	V字状 U字状	人為	土師器片	S195→本跡
4	A 432 C 467	N-8°W	点線状	(70.8)	0.40~1.10	0.15~0.75	4~42	U字状 溝状	自然	縄文土器片、土師器片、須恵器片、埴土	S208→本跡-SK63-91/S195
5	A 368 A 425	N-85°E	点線状	(33.6)	0.46~0.98	0.18~0.26	42~74	U字状	人為	土師器片、須恵器片	S197/SD4→本跡
6	D 383 D 349	N-98°E	点線状	(17.1)	0.32~0.43	0.16~0.20	10~16	U字状	自然	土師器片、埴土	S123-24/S130→本跡
7	D 245 D 349	N-85°E	点線状	(54.3)	1.14~1.52	0.31~0.78	60~106	V字状 台形状	人為	瓦土土器片、土師器片、須恵器片、埴土、土師器片、須恵器片	S37-8-9-10-11-12-33-148/S130-50→本跡
8	D 245 D 354	N-86°E	点線状	(55.4)	0.28~1.28	0.14~0.90	6~28	台形状 溝状	人為	土師器片、須恵器片、埴土、土師器片、須恵器片	SB-15-17-18-20-40-50-58/S130-52-54-55-56-57
9	D 247 D 349	N-84°E	点線状	(26.2)	0.23~0.62	0.14~0.42	5~8	台形状	自然	土師器片、須恵器片	S17-18-27-150/S4140→本跡
10	F 247 F 345	N-26°W N-30°E	L字状	(33.8)	0.62~1.50	0.32~1.42	4~18	直状	-	土師器片、須恵器片、陶器片	SD12→本跡-SK169
11	D 314 D 318	N-85°E	点線状	(26)	0.51~1.22	0.32~0.80	13~29	U字状 溝状	人為	土師器片、須恵器片	SK227→本跡-1号溝3/S193
12	E 322 F 347	N-68°E	点線状	(21.9)	0.16~1.72	0.04~0.34	4~15	直状	人為	土師器片、須恵器片、埴土	本跡→SD10-13
13	E 322 E 344	N-57°E N-157°E	L字状	(16.0)	0.18~1.12	0.06~0.38	7~14	直状	自然	土師器片、須恵器片	SD12→本跡-SK169
15	D 245 D 249	N-5°W	点線状	(6.5)	0.30~0.35	0.10~0.20	8	台形状	人為	土師器片、須恵器片	

(8) ビット群 (第403~407図)

調査区中央部・西部及び南部を中心にビット群5か所が検出されている。これらのビットからはほとんど遺物が出土しておらず、遺物から時期を判断することはできなかった。また、これらのビット群は掘立柱建物跡が集中する地区に位置しており、柱痕跡が認められるビットも検出されていることから、柱穴群として建物構成していた可能性も考えられるが、方形または長方形の配列が復元できなかったことや配列に規則性が認められないことなどから、性格を明らかにすることはできなかった。以下、西部を第1号ビット群、中央部を第2・3号ビット群、南部を第4・5号ビット群として平面図及び一覧表にまとめる。

表4-1 第1号ビット群ビット一覧表 (1)

ビット 番号	位置	形状	規模 (m)			ビット 番号	位置	形状	規模 (m)		
			長さ × 短径	深さ (cm)	長さ × 短径				深さ (cm)		
1	C 138	円形	0.33 × 0.31	25	20	C 138	楕円形	0.69 × 0.49	17		
2	C 138	円形	0.56	70	21	C 138	楕円形	0.50 × 0.44	72		
3	C 138	楕円形	0.41 × (0.30)	71	22	C 139	円形	0.35 × 0.33	43		
4	C 138	円形	0.32 × (0.24)	16	23	C 211	円形	0.45 × 0.44	23		
5	C 138	円形	0.72 × 0.68	73	24	C 211	楕円形	0.28 × 0.24	31		
6	C 138	円形	0.62 × (0.56)	41	25	C 211	楕円形	0.40 × 0.36	10		
7	C 138	円形	0.48 × (0.38)	23	26	C 211	円形	0.36 × 0.33	45		
8	C 138	円形	0.57 × 0.56	42	27	C 211	楕円形	0.42 × 0.38	53		
9	C 139	楕円形	0.62 × 0.47	49	28	C 211	円形	0.30 × 0.28	15		
10	C 138	円形	0.77 × 0.76	78	29	C 212	円形	0.26 × 0.24	13		
11	C 138	円形	0.52 × 0.50	64	30	C 212	楕円形	0.30 × 0.26	20		
12	C 138	円形	0.44 × 0.40	30	31	C 212	円形	0.36 × 0.34	2		
13	C 138	円形	0.54	63	32	C 212	楕円形	0.42 × 0.37	13		
14	C 137	楕円形	0.74 × 0.64	89	33	C 212	楕円形	0.42 × 0.37	不明		
15	C 138	円形	0.74 × 0.70	73	34	C 212	楕円形	0.68 × 0.56	27		
16	C 138	円形	0.27	40	35	C 212	楕円形	0.51 × 0.46	44		
17	C 138	円形	0.46 × 0.44	28	36	C 212	円形	0.46 × 0.44	41		
18	C 139	円形	0.41 × 0.38	33	37	C 213	楕円形	0.49 × 0.38	34		
19	C 138	楕円形	0.72 × 0.63	66	38	C 212	楕円形	0.48 × 0.43	42		



第403図 第1号ピット群実測図



第404図 第2号ビット群実測図

表4-2 第1号ビット群ビット一覧表(2)

ビット 番号	位置	形状	縦 横 (m)			深さ (cm)	ビット 番号	位置	形状	縦 横 (m)			
			長 径	×	短 径					長 径	×	短 径	深さ (cm)
39	C 2 J2	楕円形	0.30	×	0.25	19	42	C 2 I3	円形	0.60	×	0.58	49
40	C 2 J2	[円形]	0.37	×	(0.27)	7	43	C 2 I3	楕円形	0.60	×	0.44	30
41	C 2 I3	円形	0.53	×		47	44	C 2 I3	楕円形	0.54	×	0.49	32

表5 第2号ビット群ビット一覧表

ビット 番号	位置	形状	縦 横 (m)			深さ (cm)	ビット 番号	位置	形状	縦 横 (m)			
			長 径	×	短 径					長 径	×	短 径	深さ (cm)
1	C 3 e1	楕円形	0.42	×	0.36	28	50	C 2 g8	楕円形	0.30	×	0.26	43
2	C 3 e1	円形	0.40	×	0.38	36	51	C 2 h8	楕円形	0.32	×	0.28	61
3	C 3 e1	楕円形	0.50	×	0.44	30	52	C 2 h8	楕円形	0.27	×	0.23	18
4	C 3 e1	円形	0.48	×	0.46	25	53	C 2 h8	楕円形	0.65	×	0.49	45
5	C 3 e1	円形	0.36	×		29	54	C 2 h8	楕円形	0.52	×	0.42	16
6	C 3 e1	円形	0.34	×		23	55	C 2 h8	楕円形	0.45	×	0.29	9
7	C 3 f1	円形	0.32	×	0.30	54	56	C 2 h8	楕円形	0.73	×	0.62	10
8	C 3 f1	楕円形	0.50	×	0.30	33	57	C 2 h8	楕円形	0.72	×	0.52	22
9	C 3 f1	円形	0.34	×	0.32	21	58	C 2 i8	楕円形	0.58	×	0.52	78
10	C 3 f1	楕円形	0.50	×	0.42	64	59	C 2 i8	楕円形	0.60	×	0.49	22
11	C 3 f1	楕円形	0.34	×	0.28	30	60	C 2 i8	楕円形	0.50	×	0.33	19
12	C 2 e0	円形	0.36	×		29	61	C 2 i8	円形	0.64	×	0.60	19
13	C 2 e0	楕円形	0.68	×	0.44	50	62	C 2 i8	楕円形	0.85	×	0.36	22
14	C 2 e0	楕円形	0.38	×	0.28	22	63	C 2 i8	楕円形	0.57	×	0.41	31
15	C 2 e0	楕円形	0.66	×	0.54	36	64	C 2 i8	[楕円形]	0.43	×	(0.38)	42
16	C 2 e0	楕円形	0.62	×	0.50	43	65	C 2 i8	楕円形	0.38	×	0.34	29
17	C 2 e0	楕円形	0.80	×	0.60	不明	66	C 2 i8	[楕円形]	0.75	×	(0.48)	19
18	C 2 e0	楕円形	0.28	×	0.22	32	67	C 2 h8	楕円形	0.50	×	0.38	22
19	C 2 e0	円形	0.38	×	0.36	40	68	C 2 h8	楕円形	0.27	×	0.21	25
20	C 2 e0	楕円形	0.38	×	0.34	26	69	C 2 h8	楕円形	0.54	×	0.46	18
21	C 2 e0	円形	0.36	×	0.34	29	70	C 2 h8	楕円形	1.00	×	0.44	56
22	C 2 e0	楕円形	0.46	×	0.40	27	71	C 2 h8	楕円形	0.54	×	0.36	10
23	C 2 e0	楕円形	0.34	×	0.28	25	72	C 2 h8	円形	0.41	×	0.39	27
24	C 2 e0	円形	0.52	×	0.48	31	73	C 2 h8	楕円形	0.44	×	0.30	42
25	C 2 e0	楕円形	1.00	×	0.76	20	74	C 2 h9	楕円形	0.36	×	0.30	32
26	C 2 g0	楕円形	0.60	×	0.54	36	75	C 2 h9	楕円形	0.44	×	0.34	27
27	C 2 g0	楕円形	0.62	×	0.50	29	76	C 2 h9	楕円形	0.60	×	0.50	22
28	C 2 g0	円形	0.68	×	0.64	22	77	C 2 h9	楕円形	0.32	×	0.42	10
29	C 2 g0	楕円形	0.48	×	0.42	32	78	C 2 h9	[楕円形]	0.43	×	(0.35)	32
30	C 2 g0	円形	0.40	×		15	79	C 2 h9	楕円形	0.39	×	0.30	18
31	C 2 g0	楕円形	0.42	×	0.38	30	80	C 2 h9	楕円形	0.30	×	0.23	23
32	C 2 g0	円形	0.48	×	0.44	21	81	C 2 h9	円形	0.35	×	0.32	13
33	C 2 g0	円形	0.50	×	0.48	12	82	C 2 h9	楕円形	0.41	×	0.35	12
34	C 2 g0	楕円形	0.39	×	0.35	23	83	C 2 h9	楕円形	0.43	×	0.36	15
35	C 2 g0	円形	0.41	×	0.40	24	84	C 2 h9	円形	0.36	×	0.30	50
36	C 2 g0	円形	0.42	×	0.40	31	85	C 2 h9	楕円形	0.36	×	0.41	32
37	C 2 g0	楕円形	0.58	×	0.42	40	86	C 2 h9	円形	0.62	×	0.37	不明
38	C 2 g0	楕円形	0.98	×	0.40	17	87	C 2 h9	楕円形	0.38	×	0.32	22
39	C 2 g0	楕円形	0.38	×	0.34	36	88	C 2 h9	楕円形	0.40	×	0.36	22
40	C 2 e0	円形	0.42	×		29	89	C 2 i9	楕円形	0.29	×	0.22	22
41	C 3 f1	楕円形	0.52	×	0.46	35	90	C 2 h9	[円形]	[0.48]	×	0.44	54
42	C 3 g1	楕円形	0.40	×	0.34	14	91	C 2 i8	[楕円形]	0.26	×	(0.24)	不明
43	C 3 g1	円形	0.56	×	0.52	41	92	C 2 i8	[楕円形]	0.38	×	(0.34)	24
44	C 3 g1	円形	0.32	×		29	93	C 2 h8	楕円形	0.44	×	0.38	20
45	C 2 g8	[楕円形]	0.66	×	(0.50)	43	94	C 2 h8	楕円形	0.38	×	0.34	22
46	C 2 g8	楕円形	0.22	×	0.20	24	95	C 2 i9	楕円形	0.48	×	0.42	46
47	C 2 g8	楕円形	0.34	×	0.30	38	96	C 2 i9	円形	0.39	×	0.37	45
48	C 2 g9	[円形]	0.80	×	(0.76)	32	97	C 2 i9	楕円形	0.40	×	0.35	30
49	C 2 g9	楕円形	0.60	×	0.48	45	98	C 2 i9	楕円形	0.53	×	0.47	72

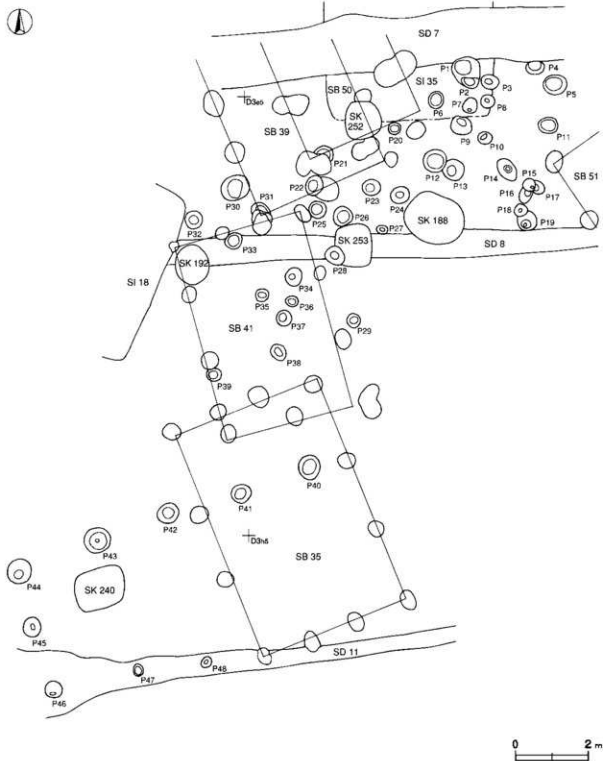
ビット番号	位置	形状	規 模 (m)			ビット番号	位置	形状	規 模 (m)		
			長 径 × 短 径	深 さ (cm)					長 径 × 短 径	深 さ (cm)	
99	C 2 18	楕円形	0.45 × 0.39	22	157	C 3 h3	楕円形	0.72 × 0.62	不明		
100	C 2 18	円形	0.35	22	158	C 3 h3	円形	0.48 × 0.46	不明		
101	C 2 18	円形	0.50	41	159	C 3 g3	円形	0.58 × 0.54	不明		
102	C 2 18	[楕円形]	(0.29) × 0.24	39	160	C 3 g3	円形	0.30 × 0.28	不明		
103	C 2 18	楕円形	0.54 × 0.52	26	161	C 3 g3	円形	0.24 × 0.22	不明		
104	C 2 17	楕円形	0.50 × 0.38	23	162	C 3 g4	円形	0.32 × 0.30	不明		
105	C 2 18	[円形]	[0.50 × 0.46]	31	163	C 3 g4	円形	0.30	不明		
106	C 2 18	円形	0.40	28	164	C 3 g4	円形	0.48 × 0.46	不明		
107	D 2 a8	円形	0.66	34	165	C 3 h4	円形	0.24	不明		
108	D 2 a7	円形	0.40 × 0.38	22	166	C 3 g4	円形	0.32 × 0.30	不明		
109	D 2 a8	楕円形	0.54 × 0.46	30	167	C 3 h4	円形	0.28	不明		
110	D 2 a8	[円形]	[0.46 × 0.42]	31	168	C 3 h4	円形	0.26	不明		
111	D 2 a7	楕円形	0.44 × 0.40	31	169	C 3 h4	円形	0.42 × 0.40	不明		
112	D 2 a7	円形	0.49 × 0.46	21	170	C 3 h3	円形	0.26	不明		
113	D 2 a8	楕円形	0.58 × 0.48	23	171	C 3 h3	楕円形	0.34 × 0.30	不明		
114	D 2 a8	円形	0.40	27	172	C 3 h3	楕円形	0.41 × 0.34	不明		
115	D 2 a7	円形	0.48 × 0.46	42	173	C 3 h3	円形	0.31 × 0.32	不明		
116	D 2 a7	円形	0.52 × 0.48	31	174	C 3 h3	楕円形	0.60 × 0.50	不明		
117	D 2 a7	楕円形	0.42 × 0.38	34	175	C 3 h3	楕円形	0.58 × 0.52	不明		
118	D 2 h7	円形	0.60	18	176	C 3 h3	楕円形	0.58 × 0.52	不明		
119	D 2 a8	楕円形	0.64 × 0.56	40	177	C 3 h3	円形	0.20	不明		
120	D 2 a8	楕円形	0.72 × 0.56	33	178	C 3 h3	楕円形	0.44 × 0.36	38		
121	D 2 b8	楕円形	0.74 × 0.62	28	179	C 3 h3	円形	0.48	24		
122	D 2 a8	楕円形	0.66 × 0.44	30	180	C 3 h2	楕円形	0.48 × 0.42	26		
123	D 2 b8	円形	0.36	不明	181	C 3 h2	円形	0.44 × 0.42	35		
124	D 2 b8	楕円形	0.52 × 0.36	不明	182	C 3 h2	楕円形	0.60 × 0.54	34		
125	D 2 a9	[楕円形]	[0.49 × 0.42]	不明	183	C 3 h2	円形	0.46 × 0.44	33		
126	D 2 a9	楕円形	0.76 × 0.6	60	184	C 3 h2	円形	0.36 × 0.34	21		
127	D 2 a9	[楕円形]	[0.58 × 0.40]	—	185	C 3 h2	円形	0.66 × 0.62	32		
128	D 2 a9	楕円形	0.36 × 0.32	16	186	C 3 g4	楕円形	0.40 × 0.34	27		
129	D 2 a0	楕円形	0.72 × 0.36	29	187	C 3 g5	円形	0.40	18		
130	D 2 a0	円形	0.51 × 0.50	23	188	C 3 f5	円形	0.61 × 0.60	30		
131	C 2 j0	楕円形	0.70 × 0.54	不明	189	C 3 f5	円形	0.64 × 0.60	30		
132	C 2 j0	楕円形	0.26 × 0.16	不明	190	C 3 f5	楕円形	0.44 × 0.40	30		
133	C 2 j0	円形	0.62	35	191	C 3 f5	円形	0.40	38		
134	D 3 a1	円形	0.42	40	192	C 3 f5	円形	0.60 × 0.58	43		
135	D 3 a1	円形	0.36 × 0.34	38	193	C 3 f5	楕円形	0.42 × 0.38	32		
136	D 3 a1	円形	0.42	29	194	C 3 g5	円形	0.48	32		
137	D 3 b1	円形	0.60 × 0.56	36	195	C 3 f5	円形	0.38 × 0.36	23		
138	D 3 a1	円形	0.32 × 0.3	35	196	C 3 f6	円形	0.40 × 0.38	25		
139	D 3 a2	楕円形	0.34 × 0.28	48	197	C 3 f6	楕円形	0.52 × 0.46	59		
140	D 3 a2	楕円形	0.54 × 0.46	52	198	C 3 f6	楕円形	0.32 × 0.28	17		
141	D 3 a2	円形	0.48 × 0.46	45	199	C 3 f6	円形	0.38	18		
142	C 3 a2	円形	0.54	43	200	C 3 g6	円形	0.50 × 0.46	37		
143	C 3 a2	楕円形	0.90 × 0.76	71	201	C 3 g6	円形	0.28 × 0.26	23		
144	C 3 h2	円形	0.30	不明	202	C 3 g6	楕円形	0.30 × 0.26	31		
145	C 3 h2	楕円形	0.44 × 0.42	不明	203	C 3 g6	楕円形	[0.96] × 0.82	15		
146	C 3 h2	円形	0.50	42	204	C 3 g6	楕円形	0.82 × 0.72	25		
147	C 3 g2	楕円形	0.50 × 0.42	27	205	C 3 g6	円形	0.46 × 0.44	28		
148	C 3 g2	楕円形	0.74 × 0.52	38	206	C 3 g6	楕円形	0.44 × 0.40	21		
149	C 3 g2	円形	0.46 × 0.44	45	207	C 3 g6	楕円形	0.40 × 0.36	14		
150	C 3 h2	円形	0.64 × 0.62	44	208	C 3 g6	楕円形	0.62 × 0.56	31		
151	C 3 h2	楕円形	0.42 × 0.38	27	209	C 3 g5	円形	0.40	15		
152	C 3 g3	円形	0.48 × 0.44	不明	210	C 3 g5	円形	0.36	34		
153	C 3 g3	楕円形	0.62 × 0.54	63	211	C 3 g5	円形	0.60 × 0.56	56		
154	C 3 g3	円形	0.50 × 0.48	33	212	C 3 g5	円形	0.40 × 0.38	22		
155	C 3 g3	円形	0.64 × 0.60	56	213	C 3 g5	円形	0.62	40		
156	C 3 h3	円形	[0.58] × 0.56	45	214	C 3 g5	円形	0.60 × 0.56	56		

ビット 番号	位置	形状	規 模 (m)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (m)		
			長 径 × 短 径	深 さ (cm)					長 径 × 短 径	深 さ (cm)	
215	C 3 g5	円 形	0.42		34	249	C 3 j8	円 形	0.46 × 0.42	45	
216	C 3 g5	円 形	0.34		25	250	C 3 j8	円 形	0.22	28	
217	C 3 g5	楕 円 形	0.58 × 0.52		32	251	C 3 j8	楕 円 形	0.36 × 0.32	31	
218	C 3 g5	[円形]	[0.46]		25	252	C 3 j8	楕 円 形	0.40 × 0.36	25	
219	C 3 g5	楕 円 形	0.38 × [0.30]		17	253	C 3 j8	円 形	0.42 × 0.40	23	
220	C 3 g8	楕 円 形	0.36 × 0.32		36	254	C 3 i7	円 形	0.40 × 0.38	20	
221	C 3 g8	円 形	0.48 × 0.46		40	255	C 3 i7	円 形	0.20	36	
222	C 3 g8	楕 円 形	0.30 × 0.26		16	256	C 3 i7	円 形	0.24	34	
223	C 3 g8	円 形	0.28		25	257	C 3 i7	円 形	0.26	35	
224	C 3 h8	楕 円 形	0.50 × 0.42		28	258	C 3 i7	円 形	0.27 × 0.26	26	
225	C 3 g9	円 形	0.48 × 0.44		18	259	C 3 j8	[楕円形]	[0.44] × 0.40	21	
226	C 3 h9	円 形	0.40		15	260	C 3 j8	[円形]	[0.48 × 0.46]	18	
227	C 3 h9	円 形	0.28 × 0.26		27	261	C 3 j8	円 形	0.34	30	
228	C 3 h9	円 形	0.32 × 0.30		57	262	C 3 h8	円 形	0.32 × 0.30	42	
229	C 3 h9	円 形	0.28		45	263	C 3 i7	円 形	0.26	21	
230	C 3 h9	楕 円 形	0.34 × 0.30		12	264	C 3 i7	楕 円 形	0.42 × 0.38	17	
231	C 3 i9	円 形	0.31 × 0.32		53	265	C 3 i7	円 形	0.48	28	
232	C 3 i9	円 形	[0.24]		52	266	C 3 i7	円 形	0.48 × 0.46	30	
233	C 3 i9	円 形	0.30		12	267	C 3 h8	楕 円 形	0.40 × 0.32	39	
234	C 3 i9	円 形	0.34		12	268	D 3 d4	楕 円 形	0.56 × 0.48	不明	
235	C 3 i9	楕 円 形	0.40 × 0.32		21	269	D 3 d4	楕 円 形	0.48 × 0.36	不明	
236	C 3 i9	円 形	0.44 × 0.42		20	270	D 3 c4	楕 円 形	0.92 × 0.60	不明	
237	C 3 i9	円 形	0.40 × 0.38		16	271	D 3 d4	楕 円 形	0.56 × 0.44	22	
238	C 3 i8	円 形	0.72 × 0.68		25	272	D 3 d4	円 形	0.50 × 0.48	不明	
239	C 3 i8	[円形]	[0.44] × 0.42		29	273	D 3 d4	[楕円形]	0.46 × (0.36)	不明	
240	C 3 i8	円 形	0.38 × 0.36		32	274	D 3 d4	[楕円形]	0.42 × (0.40)	不明	
241	C 3 i8	楕 円 形	0.44 × 0.32		16	275	D 3 d3	円 形	0.42 × 0.40	不明	
242	C 3 i9	楕 円 形	0.36 × 0.30		15	276	D 3 d3	円 形	0.44 × 0.42	不明	
243	C 3 i8	楕 円 形	0.32 × 0.28		24	277	D 3 c4	楕 円 形	0.86 × 0.58	不明	
244	C 3 j9	楕 円 形	0.50 × 0.44		29	278	D 3 b4	楕 円 形	0.48 × 0.58	不明	
245	C 3 j8	楕 円 形	0.48 × 0.42		24	279	D 3 b4	楕 円 形	0.36 × 0.32	不明	
246	C 3 j8	円 形	0.40		32	280	C 3 h3	楕 円 形	0.64 × 0.48	54	
247	C 3 j8	楕 円 形	0.60 × 0.40		76	281	C 3 h3	[楕円形]	[0.54] × 0.48	40	
248	C 3 j8	円 形	0.40		64						

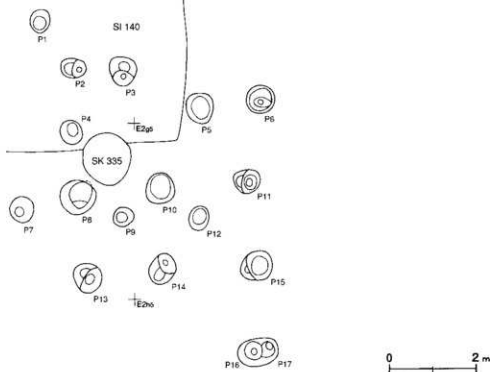
表6 第3号ビット群ビット一覧表

ビット 番号	位置	形状	規 模 (m)			ビット 番号	位置	形状	規 模 (m)		
			長 径 × 短 径	深 さ (cm)					長 径 × 短 径	深 さ (cm)	
1	D 3 d6	楕 円 形	0.78 × 0.56		50	20	D 3 e6	円 形	0.35 × 0.34	7	
2	D 3 d6	楕 円 形	0.45 × 0.28		41	21	D 3 e5	楕 円 形	0.51 × 0.22	19	
3	D 3 d6	楕 円 形	0.50 × 0.40		42	22	D 3 e5	楕 円 形	0.54 × 0.49	69	
4	D 3 d7	楕 円 形	0.52 × 0.37		21	23	D 3 e5	楕 円 形	0.50 × 0.45	68	
5	D 3 d7	円 形	0.60 × 0.58		31	24	D 3 e6	円 形	0.49 × 0.48	24	
6	D 3 d6	円 形	0.44 × 0.43		23	25	D 3 e5	円 形	0.50 × 0.49	26	
7	D 3 e6	円 形	0.43 × 0.41		47	26	D 3 e5	楕 円 形	0.35 × 0.49	24	
8	D 3 e6	円 形	0.38		47	27	D 3 e5	楕 円 形	0.30 × 0.26	24	
9	D 3 e6	楕 円 形	0.58 × 0.48		89	28	D 3 f5	楕 円 形	0.55 × 0.49	51	
10	D 3 e6	楕 円 形	0.38 × 0.34		41	29	D 3 f5	円 形	0.40	不明	
11	D 3 e7	楕 円 形	0.54 × 0.42		10	30	D 3 c4	楕 円 形	0.82 × 0.70	37	
12	D 3 e6	円 形	0.64 × 0.61		54	31	D 3 e5	[楕円形]	0.52 × (0.26)	18	
13	D 3 e6	円 形	0.38 × 0.55		49	32	D 3 e4	円 形	0.48 × 0.46	37	
14	D 3 e6	楕 円 形	0.68 × 0.45		66	33	D 3 e4	楕 円 形	0.50 × 0.40	46	
15	D 3 e6	円 形	0.35		49	34	D 3 f5	楕 円 形	0.51 × 0.46	34	
16	D 3 e6	円 形	0.36 × 0.34		35	35	D 3 f5	円 形	0.39 × 0.36	39	
17	D 3 c7	楕 円 形	0.36 × 0.28	不明		36	D 3 f5	楕 円 形	0.34 × 0.28	25	
18	D 3 e6	楕 円 形	0.41 × 0.32		25	37	D 3 f5	円 形	0.45 × 0.44	29	
19	D 3 e6	楕 円 形	0.57 × 0.46		71	38	D 3 f5	楕 円 形	0.46 × 0.41	不明	

ピット 番号	位置	形状	規模 (m)			ピット 番号	位置	形状	規模 (m)		
			長径 × 短径	深さ (cm)					長径 × 短径	深さ (cm)	
39	D 3 f4	楕円形	0.35 × 0.25	不明		44	D 3 h3	円形	0.68 × 0.67	50	
40	D 3 g5	円形	0.67 × 0.63	不明		45	D 3 h3	楕円形	0.54 × 0.47	30	
41	D 3 f5	楕円形	0.56 × 0.50	不明		46	D 3 h3	円形	0.48 × 0.46	22	
42	D 3 g4	楕円形	0.62 × 0.55	16		47	D 3 h4	楕円形	0.30 × 0.26	9	
43	D 3 h3	円形	0.77 × 0.72	38		48	D 3 h4	楕円形	0.31 × 0.27	14	



第405図 第3号ピット群実測図



第406図 第4号ビット群実測図

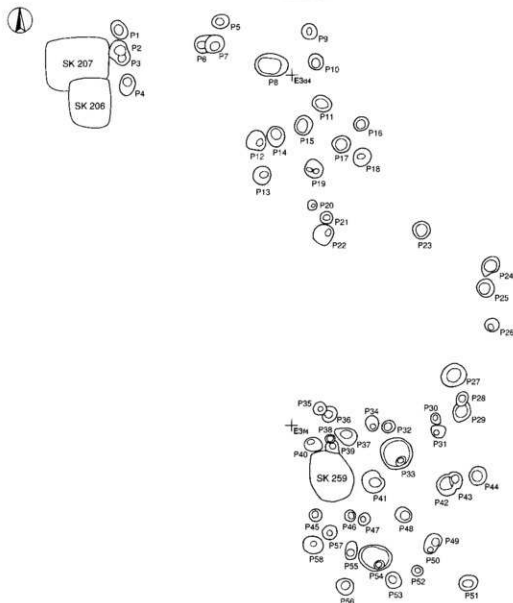
表7 第4号ビット群ビット一覧表

ビット番号	位置	形状	規模 (m)			ビット番号	位置	形状	規模 (m)		
			長径 × 短径	深さ (cm)					長径 × 短径	深さ (cm)	
1	E 2 f4	楕円形	0.54 × 0.47	不明	10	E 2 g5	円形	0.71 × 0.69	42		
2	E 2 f4	楕円形	0.64 × 0.46	不明	11	E 2 g5	楕円形	0.63 × 0.56	46		
3	E 2 f4	円形	0.68 × 0.62	不明	12	E 2 g5	楕円形	0.54 × 0.48	37		
4	E 2 g4	楕円形	0.58 × 0.49	不明	13	E 2 g1	楕円形	0.72 × 0.65	81		
5	E 2 f5	円形	0.71 × 0.65	不明	14	E 2 g5	楕円形	0.73 × 0.57	55		
6	E 2 f5	円形	0.63	不明	15	E 2 g3	楕円形	0.77 × 0.68	52		
7	E 2 g4	円形	0.57	62	16	E 2 b5	円形	0.60	60		
8	E 2 g4	楕円形	0.83 × 0.75	65	17	E 2 b5	楕円形	0.60 × 0.35	40		
9	E 2 g4	円形	0.66 × 0.44	30							

表8 第5号ビット群ビット一覧表

ビット番号	位置	形状	規模 (m)			ビット番号	位置	形状	規模 (m)		
			長径 × 短径	深さ (cm)					長径 × 短径	深さ (cm)	
1	E 3 c3	楕円形	0.46 × 0.32	41	12	E 3 d3	円形	0.50 × 0.47	23		
2	E 3 c3	楕円形	0.47 × 0.33	69	13	E 3 d3	円形	0.41 × 0.38	51		
3	E 3 c3	楕円形	0.36 × 0.22	59	14	E 3 c3	楕円形	0.48 × 0.42	28		
4	E 3 d3	楕円形	0.48 × 0.35	48	15	E 3 d4	楕円形	0.44 × 0.37	20		
5	E 3 c3	楕円形	0.40 × 0.34	18	16	E 3 d4	円形	0.35 × 0.32	27		
6	E 3 c3	楕円形	0.36 × 0.25	20	17	E 3 d4	楕円形	0.44 × 0.40	16		
7	E 3 c3	楕円形	0.45 × 0.40	37	18	E 3 d4	楕円形	0.43 × 0.38	37		
8	E 3 c3	楕円形	0.78 × 0.50	17	19	E 3 d4	楕円形	0.44 × 0.35	27		
9	E 3 c4	円形	0.37 × 0.35	48	20	E 3 d4	円形	0.21	18		
10	E 3 c4	円形	0.37 × 0.34	43	21	E 3 d4	円形	0.30 × 0.28	29		
11	E 3 d4	楕円形	0.45 × 0.36	17	22	E 3 d4	円形	0.46 × 0.43	39		

ピット番号	位置	形状	規模 (m)			ピット番号	位置	形状	規模 (m)		
			長径	短径	深さ (cm)				長径	短径	深さ (cm)
23	E 3 04	円形	0.40	× 0.29	30	37	E 3 14	楕円形	0.52	× 0.38	43
24	E 3 e5	楕円形	0.52	× 0.36	22	38	E 3 14	円形	0.20		31
25	E 3 e5	円形	0.40	× 0.38	35	39	E 3 14	楕円形	0.28	× 0.22	41
26	E 3 e5	楕円形	0.32	× 0.29	19	40	E 3 14	楕円形	0.44	× 0.28	30
27	E 3 e4	楕円形	0.58	× 0.50	38	41	E 3 14	楕円形	0.55	× 0.50	50
28	E 3 e4	楕円形	0.34	× 0.25	43	42	E 3 14	楕円形	0.49	× 0.34	30
29	E 3 e4	楕円形	0.50	× 0.44	15	43	E 3 14	楕円形	0.42	× 0.31	48
30	E 3 e4	楕円形	0.27	× 0.22	12	44	E 3 15	楕円形	0.44	× 0.40	27
31	E 3 14	楕円形	0.32	× 0.28	35	45	E 3 14	円形	0.29		39
32	E 3 14	円形	0.29	× 0.27	14	46	E 3 14	円形	0.27	× 0.25	31
33	E 3 14	円形	0.73	× 0.71	55	47	E 3 14	円形	0.30	× 0.28	32
34	E 3 e4	楕円形	0.35	× 0.28	45	48	E 3 14	楕円形	0.40	× 0.33	48
35	E 3 e4	円形	0.30		29	49	E 3 14	楕円形	0.34	× 0.28	47
36	E 3 e4	楕円形	0.34	× 0.28	34	50	E 3 14	楕円形	0.26	× 0.20	32

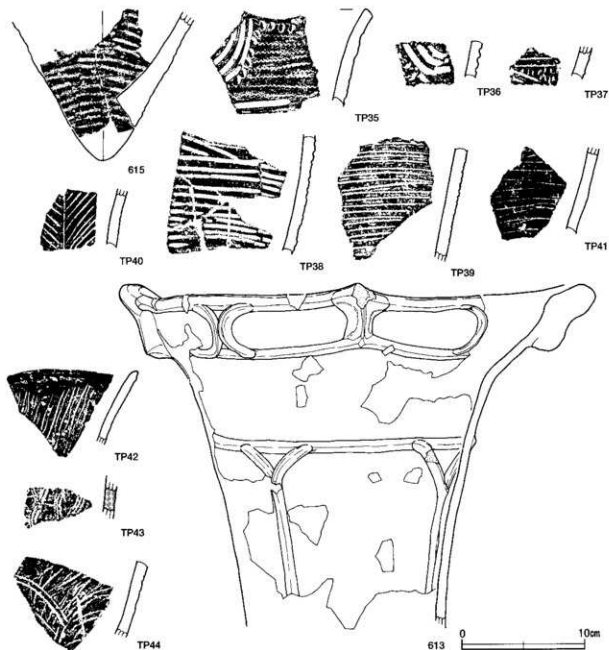


第407図 第5号ピット群実測図

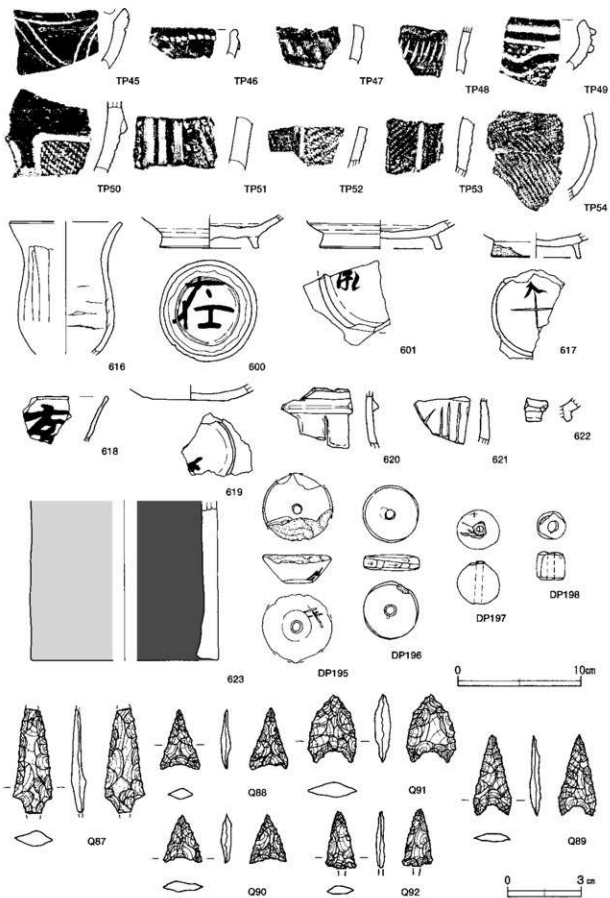
ピット 番号	位置	形状	規模 (m)			ピット 番号	位置	形状	規模 (m)		
			長径 × 短径	深さ (cm)					長径 × 短径	深さ (cm)	
51	E 3 E5	楕円形	0.44 × 0.34	38	55	E 3 F4	楕円形	0.42 × 0.28	39		
52	E 3 F4	楕円形	0.25 × 0.22	26	56	E 3 F4	楕円形	0.60 × 0.41	37		
53	E 3 F4	円形	0.39 × 0.37	52	57	E 3 F4	円形	0.35 × 0.33	6		
54	E 3 F4	楕円形	0.77 × 0.58	41	58	E 3 F4	楕円形	0.45 × 0.41	14		

(9) 遺構外出土遺物 (第408~410図)

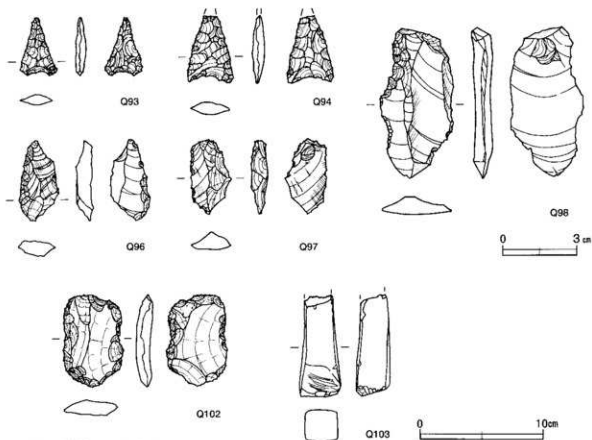
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを抽出して記載する。なお、解説は遺物観察表で示した。



第408図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第409图 遺構外出土遺物実測図(2)



第410図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第408~410図)

番号	種別	器種	口径	器高	厚	素材	色調	焼成	文様・手法の特徴	出土位置	備考
615	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	長石・石英	にぶい靑	普通	胴部、縞紋の太い沈線文	A 4区 表土	早期中葉
TP35	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	長石・石英	靑	普通	表底口縁、口唇部直下、竹管による彫み、口唇部、沈線による縞線状の沈線文並に、口縁部縞線文、内面、丁重なナデ	S169 表土中	早期中葉 前期
TP96	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	長石	靑	普通	胴部、沈線による区画文、平截竹管による押圧文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP37	縄文土器	深鉢	—	(2.6)	—	長石・石英	靑	普通	胴部、平截竹管による平行する沈線区画文内に研究文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP38	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	長石・雲母	にぶい靑	普通	胴部、竹管による縞状の沈線文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP39	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	長石・石英	にぶい靑靑	普通	胴部、竹管による縞状の沈線文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP40	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英	にぶい靑靑	普通	胴部、竹管による縞状の沈線文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP41	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	にぶい靑靑	普通	胴部、縞状の沈線文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP42	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母	淡靑	普通	口唇部、赤赤文	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP43	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	長石・雲母・縞線	にぶい赤靑	普通	胴部、赤赤文による	S160 C 1区	前期中葉 前期
TP44	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・雲母・赤色 粘土	にぶい靑	普通	胴部、平截竹管による肋骨状の沈線文	A 4区 表土	早期中葉 前期
613	縄文土器	深鉢	32.4	(27.4)	—	長石・石英・雲母	明水靑	普通	口唇部、深部による縞形区画文、4重位の肥厚彫り、胴部、縞状の縞線文を基点に、4重位の丁字状押圧文が主	S168 表土	中期中葉 前期
TP45	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	明水靑	普通	口唇部、縞線状の沈線文	S168 表土	中期中葉 前期
TP46	縄文土器	深鉢	—	(2.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい靑靑	普通	口唇部直下、縞線状の沈線文、口唇部、段差付	A 4区 表土	中期中葉 前期
TP47	縄文土器	深鉢	—	(3.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	胴部、縞状の押圧文	D 2区 表土	中期中葉 前期
TP48	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	長石・雲母	にぶい靑	普通	胴部、キヤミ目何	A 4区 表土	早期中葉 前期
TP49	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母	淡靑	普通	口唇部縞線状区画文内、口唇部縞線文を地文に沈線が 沿う段差縞線文	B 3区 表土	早期中葉 前期
TP50	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	にぶい靑	普通	口唇部、沈線が沿う肋骨状区画文内に口唇部縞線文	S160 表土	早期中葉 前期
TP51	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英	にぶい靑靑	普通	胴部、口唇部の平截縞線文を地文に3重一組の沈線区画文による縞線文を並行し	S153 表土	中期中葉 前期
TP52	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英	にぶい靑靑	普通	胴部、口唇部の平截縞線文を地文に沈線による縞線文を並行し	C 3区 表土	中期中葉 前期

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴	出土位置	備考
TF53	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	長石・石英	暗	普通	胴部、下工の早期縄文を文に沈澱による磨滅文を有する	表土 S69 覆土上	中層後遺 (P.8) 後期前葉 (P.8)
TF54	縄文土器	鉢	—	(73)	—	長石	にぶい黄緑	普通	胴部、R.Lの早期縄文	表土 D3区 表土	
616	土師器	壺	87	(106)	—	長石・雲母	暗	普通	体部外面ヘラナデ、内面ナデ、輪痕	S26 覆土上	墨書「下」 (P.8)
600	須恵器	高台付杯	—	(27)	(80)	長石・雲母	灰黄	普通	底部、回転ヘラ切り後高台付	S246 覆土上	墨書「下」 (P.8)
601	須恵器	高台付杯	—	(23)	(86)	長石・石英・鉄片	灰	普通	底部、回転ヘラ切り後高台付	S246 覆土上	墨書「下」 (P.8)
617	須恵器	高台付杯	—	(20)	(73)	長石	灰	普通	底部、回転ヘラ切り後高台付 高台部に自然蝕	表土	墨書「下」 (P.8)
618	須恵器	杯	—	(38)	—	長石・雲母	灰黄	普通	体部内外面クロコナデ	表土 S30 覆土上	墨書「下」 (P.8)
619	土師器	高台付杯	—	(13)	—	長石・雲母・鉄片	にぶい暗	普通	底部回転ヘラ切り後、高台取り付け	S78 覆土上	墨書「下」 (P.8)
620	須恵器	円形瓶	—	(46)	—	長石・雲母	灰白	普通	胴部、胴部に残存する器底、胴部、縦スリット 内面	S17 覆土上	PL82
621	須恵器	円形瓶	—	(38)	—	長石	灰	普通	胴部、縦スリット	B2区 表土	PL82
622	古銅	高台付瓶	—	(18)	—	長石	形跡残	良好	高台取り付け	表土	
623	陶器	土管	—	(128)	(150)	長石・石英・雲母	緑赤黒	良好	内外面ナデ 外面鉄蝕	S69 覆土上	内面墨書 P.82

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	材質	特徴	出土位置	備考
DF150	粘土器	5.6	2.3	0.7	(54.0)	上(長石・石英)	器底丁寧なナデ 一方からの穿孔	S68 覆土 SD7 覆土上	
DF156	粘土器	4.5	1.2	0.8	(26.3)	上(長石・雲母)	表裏丁寧なナデ 頸縁ヘラ削り	覆土上	
DF157	粘土器	3.5	3.3	0.6	(35.3)	上(長石・石英)	外面丁寧なナデ、一方からの穿孔	表土	
DF158	管状土器	2.3	2.2	0.8	(12.7)	上(長石・石英)	頸部ヘラナデ、上端部未調整、下端部ナデ、一方からの穿孔	SD7 覆土上	

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	材質	特徴	出土位置	備考
Q87	石製	(4.1)	1.6	0.6	(29)	安山岩	両面の磨調整 両面に調整痕・自然面を残す	E3区 表土 S14 覆土上	PL83
Q88	石製	2.4	1.6	0.4	1.0	チャート	両基無調整 両面の磨調整により二稜を有する	S114 覆土上	PL83
Q89	石製	3.2	1.5	0.3	1.3	メノウ	両基無調整 両面の磨調整 表面に調整痕を残す	S114 覆土上	PL83
Q90	石製	1.9	1.6	0.4	0.8	チャート	両基無調整 両面の磨調整により二稜を有する	S12 覆土上	PL83
Q91	石製	2.7	2.0	0.6	2.7	チャート	両基無調整 両面の磨調整 裏面に調整痕を残す	S138 覆土上	PL83
Q92	石製	(2.3)	1.2	0.3	(0.8)	チャート	凸基有調整 両面の磨調整 裏面に調整痕を残す	SK128 覆土上	PL83
Q93	石製	(2.4)	(1.5)	0.4	(1.0)	チャート	両基無調整 両面の磨調整により二稜を有する	SK137 覆土上	PL83
Q94	石製	(2.7)	1.9	0.5	(2.1)	チャート	両基無調整 両面の磨調整 裏面に調整痕を残す	SK21 覆土上	PL83
Q96	薄片	3.3	1.5	0.7	3.2	チャート	頸縁に二次加工を有する縦長薄片	S83 覆土上	
Q97	薄片	3.0	1.7	0.7	2.8	黒曜石	頸縁に二次加工を有する横長薄片 主要調整面に打痕	SH03 覆土上	
Q98	石 片	5.9	2.8	0.9	11.9	硬質頁岩	背面、主要調整面が同一方向からの打痕 主要調整面に打痕 一稜なし調整痕	SH54 覆土上	
Q102	打製石斧	7.3	4.9	1.4	58.1	黒色硬質安山岩	両側縁に浅い抉り 調整調整により刃部を作出	SK7 覆土上	PL86
Q103	砥石	(8.1)	3.4	2.6	(102.2)	凝灰岩	砥面は4面 表面及び端部に基岩の残骸	SD12 覆土上	PL83

遺構一覧表

表9 縄文時代陥し穴一覧表

遺構番号	位置	長径方向	平面形	規模		埋没		底面	ピット	層上	主な出土遺物	重要関係 (前→後)	発掘番号
				長径×短径 (m)	深さ(m)	長径方向	短径方向						
1	C 2e5	N-35°-W	楕円形	1.9 × 1.1	70	垂直	垂直	平坦	1	自然		本跡→SD 2	S K 10
2	C 2e4	N-50°-W	楕円形	2.7 × 1.5	94	垂直	外傾	平坦	1	自然			S K 11
3	C 2e9	N-95°-W	楕円形	2.2 × 1.2	90	垂直	外傾	平坦	1	人為・自然			S K 37
4	C 4e8	N-5°-E	楕円形	2.5 × 1.0	62	垂直	垂直	平坦	—	自然			S K 69
5	B 3a3	N-3°-E	楕円形	(1.6 × 1.1)	124	垂直・外傾	垂直・内傾	平坦	5	自然		本跡→S122	S K 108
6	D 3e3	N-17°-E	楕円形	2.1 × 1.0	89	垂直	垂直	平坦	2	人為・自然		本跡→P 10	S K 223
7	C 3e4	N-22°-E	楕円形	2.3 × 1.3	100	垂直	外傾	平坦	2	自然		本跡→S134	S K 236
8	B 4e6	N-5°-E	楕円形	3.1 × 1.5	122	外傾	外傾	平坦	3	自然・人為			S K 243
9	D 2e6	N-15°-W	楕円形	1.9 × 1.0	82	外傾	外傾	平坦	2	自然			S K 265

表10 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭堅穴住居跡一覽表

遺跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					壁土	主な出土遺物	時期	重複関係 (古→新)	
							壁溝	土柱	出入口	土	貯蔵穴					
55	C4g3	N-33°-W	方形	4.8	36~46	平坦	壁溝	土柱	出入口	土	貯蔵穴	自然	赤土器、土師器、粘土器、土師器	10世紀末		
61	C4e8	N-65°-W	方形	6.2	8~13	平坦	—	4	1	2	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	
81	C2a1	N-30°-E	不整形方形	3.8	28~40	平坦	—	4	—	—	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	
98	A4e2	N-43°-W	円形	4.4	43	平坦	—	4	—	20	0	1	自然	赤土器、土師器、粘土器、土師器、滑石	10世紀末	本跡→SD4
100	A3c8	N-96°-W	円形	5.4	40	平坦	—	3	—	7	0	—	自然	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	
103	B4g7	N-50°-E	長方形	6.4 × 4.2	30~45	平坦	—	6	1	1	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石、土師器	10世紀末	
106	B3c7	N-67°-W	長方形	7.6 × 6.5	33~45	平坦	—	4	—	6	0	—	自然	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	本跡→SK96
108	B3a2	N-65°-W	隅丸方形	5.9 × 5.5	33	平坦	—	4	1	1	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石、土師器	10世紀末	
118	B3g8	N-75°-W	長方形	5.5 × 4.2	45	平坦	—	4	1	—	0	—	自然	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	
124	B3j8	N-90°-W	長方形	6.6 × 4.7	30~42	平坦	—	4	1	6	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石、土師器	10世紀末	
138	C3d2	N-18°-W	長方形	7.9 × 7.0	52~72	平坦	—	4	2	1	0	1	自然	赤土器、土師器、滑石、土師器	10世紀末	
152	D2c7	N 53°-W	方形	4.8	12~40	平坦	—	4	1	6	0	1	人為	赤土器、土師器、滑石	10世紀末	本跡→SH53

表11 古墳時代堅穴住居跡一覽表

遺跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					壁土	主な出土遺物	時期	重複関係 (古→新)	
							壁溝	土柱	出入口	土	貯蔵穴					
9	D3d9	N-75°-W	長方形	5.2 × 4.3	15~24	平坦	—	2	—	—	—	—	人為	土師器、磁石	4 C代	本跡→SI10、SI27
12	D2d0	N-3°-W	長方形	5.5 × 4.3	8~13	平坦	—	—	—	2	—	—	不明	土師器、磁石	4 C代	本跡→SI7、SI50、7
22	C3a7	N-38°-W	[不整形方形]	[5.8 × 4.6]	12~15	平坦	—	4	4	—	—	—	不明	土師器、磁石	4 C代	本跡→SI21、SI33
23	D3a7	N-36°-W	[方形]	[4]	25~30	平坦	一部	4	1	1	—	—	人為	土師器、滑石、土師器、土師器	4 C前半	本跡→SI20、SI21、SI22
28	D3b9	N-0°	[方形長方形]	4.4 × (2.8)	17~23	平坦	—	2	1	—	—	—	人為	土師器、滑石、土師器	7 C前半	
30	D3b3	N-42°-W	方形	6.3 × 6.0	6	平坦	—	—	—	4	0	—	人為	土師器	4 C代	本跡→SI23、40、47、49、SK12、200、222、SK20
31	C2j8	N-3°-W	長方形	4.1 × 3.6	35~45	平坦	—	4	—	—	—	—	人為	土師器、滑石	6 C後半	本跡→SI32
33	C2b0	N-0°	方形	5.6 × (5.2)	3	平坦	—	—	—	6	0	—	不明	—	4 C代	本跡→SI29、5、30、45、SK22、1~23、I29
35	D3d6	N-0°	方形	5.2 × 4.7	40 × 58	平坦	全周	4	2	3	—	—	人為	土師器、滑石、土師器	7 C後半	本跡→SD7
36A	C3j4	N-22°-W	方形	5.1 × 5.0	35~55	平坦	一部	4	1	9	—	—	自然	土師器、滑石、土師器	7 C後半、8 C前半	本跡→SI37、40
36B	C3j4	N-22°-W	方形	4.3 × 4.1	35	平坦	—	4	1	2	—	—	不明	—	7 C後半、8 C前半	本跡→SI37、40 → 本跡→SI36、3
37	C3j3	N-6°-E	方形	6.8 × 6.7	4~8	平坦	—	2	—	7	0	2	不明	土師器、滑石、磁石、滑石	4 C代	本跡→SI34、36、38、41、SI43
40	C3j5	N-106°-W	方形	6.1 × 6.0	15~20	平坦	—	4	1	2	0	1	人為	土師器	4 C後半	本跡→SI34、36、38、41、SI43
41	C3b5	N-25°-W	不整形長方形	4.4 × 3.8	14~21	平坦	—	4	—	1	0	—	自然	土師器	4 C後半	SI40 → 本跡→SI34、SI41
43	C3b6	N-130°-W	[方形]	(6.4) × 6.2	不明	平坦	—	—	—	1	8	0	不明	—	4 C代	本跡→SI33、SI41
46	C3g9	N-13°-E	[長方形]	[5.0] × 3.9	25~42	平坦	一部	3	1	1	—	—	自然	土師器、滑石、土師器	7 C前半	本跡→SI13、47
50	C4i1	N-5°-W	方形	4.6 × 4.5	2~4	平坦	—	—	—	1	0	—	不明	—	4 C代	本跡→SI49、SH19-24
53	C4j2	N-17°-W	方形	6.1 × 5.6	24~27	平坦	全周	4	1	6	—	—	自然	土師器、滑石、土師器	7 C前半	本跡→SI32、SI41、SK48、49-80
56	C4i5	N-47°-W	不整形長方形	6.4 × 5.5	不明	平坦	—	4	—	6	0	1	不明	—	4 C代	
57	C4i6	N-30°-W	長方形	4.8 × 3.6	不明	平坦	—	4	—	—	—	—	不明	—	4 C前半	TP1 → 本跡
60	C5b1	N-42°-W	長方形	3.1 × 4.6	7~10	平坦	全周	4	—	1	0	1	不明	土師器、滑石、磁石	4 C後半	
62	C4k7	N-6°-W	不定形	4.4 × 3.8	不明	平坦	—	4	—	—	—	—	自然	赤土器、土師器	4 C代	本跡→SI38、39、SK44
63	C4k7	N-138°-E	長方形	6.0 × 3.0	42~55	平坦	一部	—	—	2	—	—	人為	土師器、滑石、土師器	7 C前半	
64	C4d2	N-24°-W	方形	5.7 × 5.6	28~33	平坦	—	4	—	—	0	1	自然	土師器、滑石、土師器	4 C前半	
65	C3d0	N-20°-E	方形	5.1 × 4.9	20~37	平坦	全周	4	—	2	0	1	自然	土師器、滑石、土師器	4 C後半	本跡→SI15、16、17、SK70
67	C3c8	N-19°-W	方形	5.3 × 5.0	20~37	平坦	一部	4	1	1	0	1	自然	土師器、滑石、土師器	4 C後半	本跡→SK73、74-75
69	C2b5	N-24°-W	[方形]	[5.5] × 5.1	15	平坦	—	4	—	1	0	1	人為	土師器、磁石	4 C後半	本跡→SI70
72	C1b0	N-8°-E	[方形]	[4]	28~38	平坦	—	2	—	—	—	—	自然	土師器	4 C代	本跡→SI71、SI96

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	築造	内部施設				覆土	出土出土遺物	時期	重複関係 (前→新)		
							竈	土壇	土坑	土室						
73	C 1g9	N-7°-W	方形	4.6×4.2	12-22	平壇	—	—	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前下	本跡→S27、S28	
74	C 1e9	N-20°-E	方形	4.8×4.8	45-55	平壇	全周	4	1	—	—	—	自然	土壇部、灰土層	7 C 前葉	
75	C 1f9	N-15°-E	方形	5.8×5.3	17-40	平壇	—	4	—	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前下	本跡→S85.5 K16
76	C 2d2	N-72°-W	方形	4.0×3.9	16-20	平壇	—	—	2	—	—	—	人海	土壇部	4 C 前中	
77	C 2d5	N-70°-W	長方形	5.3×4.5	28-40	平壇	—	4	—	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中	本跡→S82
78	C 2b6	N-45°-W	長方形	[6.1×6.0]	45-50	平壇	—	3	—	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石、焼土層	4 C 前中	
79	C 2b4	N-0°	不整形方形	[3.3×2.8]	10-19	平壇	—	—	1	—	—	—	不明	土壇部	4 C 前下	
82	B 272	N-22°-E	方形	5.2×4.8	16-30	平壇	—	4	1	2	—	—	人海	土壇部、礫石、礫石、焼土層	4 C 代	
84	C 6e1	N-10°-W	長方形	7.1×(3.0)	80	平壇	[4層]	2	—	—	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	本跡→S23
85	B 2g6	N-14°-W	方形	4.4×4.3	17-23	平壇	—	4	1	—	—	—	自然	土壇部	4 C 前中	
86	B 2g	不明	方形長形	[1.5]	25-30	平壇	—	—	—	—	—	—	不明	土壇部、焼土層	4 C 前中	
88	B 2c2	N-15°-E	方形	5.1×4.9	8-18	平壇	全周	4	—	—	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石	4 C 代	
91	A 2d	N-12°-W	方形	5.5×5.2	26-50	平壇	—	4	1	4	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	
92	A 2g7	N-36°-W	不整形方形	5.8×4.9	23-34	平壇	一帯	4	—	12	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石	4 C 代	
93	B 2b6	N-3°-W	方形	2.9×3.7	44-56	平壇	—	3	1	1	—	—	自然	土壇部、礫石、礫石	4 C 代	
94	B 2e8	N-20°-W	方形	3.6	8-25	平壇	—	—	1	—	—	—	自然	土壇部	4 C 代	
95	B 2d9	N-4°-W	方形	4.5×4.2	45	平壇	部	4	1	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中以下 7 C 初期	本跡→S76.5K 25-24-51-52
101	A 2d9	N-20°-E	長方形	(4.8×0.9)	—	平壇	—	—	—	—	—	—	自然	—	4 C 代	本跡→Sb7
105	B 2a9	N-5°-W	方形	5.6×5.3	50-57	平壇	全周	4	1	—	—	—	人海	土壇部、支脚、刀子	6 C 本葉~ 7 C 初期	
109	B 2a1	N-10°-E	方形	4.1×4.0	4-6	平壇	—	—	—	—	—	—	不明	土壇部	4 C 代	
111	B 2d2	N-30°-W	隅丸方形	4.0×3.8	15-20	平壇	—	—	—	—	—	—	人海	土壇部、焼土層	4 C 代	
113	B 3e4	N-10°-W	方形	7.1×6.7	4-8	平壇	—	4	—	1	—	—	不明	土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	
114	C 2e9	N-90°-W	方形長方形	(5.3×3.9)	15-18	平壇	—	2	1	2	—	—	不明	土壇部、焼土層、礫石	4 C 代	本跡→SK134
117	B 3e9	N-13°-W	方形	4.1×3.9	30-37	平壇	—	4	1	—	—	—	不明	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中	
119	B 3d3	N-95°-W	方形	4.2×4.0	7-10	平壇	—	—	4	—	—	—	人海	土壇部	4 C 代	本跡→S82.5
121	B 3d2	N-20°-W	長方形	4.3×3.9	20-25	平壇	—	4	1	—	—	—	自然	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中	
123	B 3d5	N-45°-W	長方形	7.5×6.8	20-28	平壇	部	4	1	—	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	本跡→SK11 0-126
127	C 4a1	N-67°-W	方形	4.4×4.2	7-14	平壇	—	—	1	—	—	—	自然	土壇部	4 C 代	本跡→S128
129	C 3b6	N-46°-W	方形	6.3×6.2	10-19	平壇	—	4	1	1	—	—	人海	弥生土器、土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	本跡→SK169
131	C 3e4	N-37°-W	方形	4.8×4.8	7-12	平壇	—	4	1	—	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中	本跡→S130
134	C 3e6	N-25°-W	不整形方形	3.7×3.6	10-35	平壇	—	—	—	2	—	—	人海	土壇部、焼土層、礫石、礫石	4 C 前中	本跡→S133
143	D 2b6	N-47°-W	方形	[7.0]	40-49	平壇	3	2	—	—	—	—	自然	弥生土器、土壇部、焼土層、礫石	4 C 前中	
145	D 27	N-15°-W	方形	3.5×3.3	20-30	平壇	2	—	—	—	—	—	自然	土壇部、灰土層	7 C 前葉	
146	E 2b3	N-23°-W	長方形	3.8×3.2	15-20	平壇	—	—	—	2	—	—	自然	土壇部、焼土層	6 C 本葉~ 7 C 初期	本跡→SK200
147	E 2c5	N-51°-W	長方形	4.7×4.3	4-20	平壇	—	4	1	—	—	—	人海	土壇部、焼土層	4 C 前中	本跡→SK263
148	D 2e6	N-16°-E	方形長方形	(5.3×2.4)	30-50	平壇	—	2	—	1	—	—	自然	弥生土器、土壇部	4 C 前中	本跡→SD75 K38-39
149	E 2d3	N-16°-E	方形長方形	(5.0×1.6)	37-75	平壇	—	2	—	—	—	—	自然	土壇部、須置器、支脚	7 C 前葉	本跡→SK33 0-334
150	D 2e9	N-5°-W	長方形	3.9×3.1	6-8	平壇	—	—	—	—	—	—	不明	弥生土器、土壇部	4 C 代	本跡→S28-9

表12 古墳時代土壇一覧表

遺構番号	位置	長短方向	平面形	規模		築造	基底	ピット	覆土	出土遺物	重複関係 (前→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深5(m)						
55	B 277	—	隅丸長方形	1.2 × 1.0	24	男堀	平壇	—	人海	土壇部	
254	D 2a0	—	円形	1.0	70	竈立	平壇	—	人為・自然	土壇部、焼土層	本跡→SB11
263	E 2c5	—	—	3.4 × 1.7	96	竈立・列礎	平壇	1	人為	土壇部、焼土層	SH47→本跡

表13 奈良時代住居跡一覽表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長×短)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	土台・土遺物	時期	重複関係 (古→新)
							礎溝	土間	土間	土間	土間	土間				
4	R 3a8	N-16°-W	方	2.6×2.4	12-20	平壇	-	-	-	1	-	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 中葉-後葉	本跡→SK16	
5	E 2b8	N-21°-E	方	2.9×3.8	5-18	掘削	-	1	1	-	1	不明	土障部、原形部	8 C 後葉	本跡→SK18	
6	E 2c8	N 18°-E	長方形	3.6×4.9	10-24	掘削	-	4	-	-	2	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	本跡→SK18	
11	D 2d0	N-2°-W	方	4.3×4.2	68-70	平壇	-	3	-	3	1	人為	土障部、原形部、土製土器、土製土器、土製土器	8 C 中葉	SK12→本跡→SD7	
18	D 3c3	N-22°-E	方	3.3×5.0	28-60	平壇	全埋	4	1	-	1	人為	土障部、原形部	8 C 後葉	本跡→SK27、SK41、SK49	
20	C 2a0	N-6°-W	方	5.6×5.2	42-47	平壇	全埋	8	2	-	2	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉		
38	D 2a0	N-22°-W	長方形	2.9×2.4	26-36	平壇	-	-	-	-	1	人為	土障部、原形部	8 C 後葉	本跡→SD1	
39	C 2b8	N 23°-E	方	3.3×3.2	22-44	平壇	-	-	1	2	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 代	SK31→本跡→P書2	
51	C 4j5	N-3°-W	[長方形]	(3.9)×(3.2)		掘削	-	1	-	-	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	本跡→SK2、SK10、SK46-47	
54	C 4b1	N-6°-W	長方形	4.7×4.2	23-28	平壇	全埋	4	1	1	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉		
59	C 4b7	N-87°-E	長方形	4.5×4.1	12-15	掘削	-	-	-	-	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	SK2→本跡→SK8	
68	C 2i5	N-2°-E	[長方形]	(3.0)×(3.5)	48-55	平壇	-	-	-	1	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉		
70	C 2b4	N 12°-E	方	5.1×4.5	30-40	平壇	部	4	-	-	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	SK9→本跡	
71	C 1b6	N-23°-E	方	5.5×5.4	33-45	掘削	法1 全埋	4	1	-	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	SK72-73→本跡	
87	D 2d2	N-17°-E	方	4.8×4.3	35-67	掘削	法1 全埋	-	-	1	1	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	
96	A 4d5	N-17°-E	長方形	3.0×3.9	8-12	平壇	一部	3	1	-	1	自然	土障部、原形部	8 C 前葉		
97	A 3d9	N-10°-E	長方形	5.0×4.4	45-70	平壇	法1 全埋	4	1	-	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 前葉	SK101→本跡→SK76	
115	C 2d9	N 0°-E	方	3.3×3.2	14-20	平壇	-	-	-	-	1	自然	土障部、原形部	8 C 前葉		
116	B 3c8	N-12°-E	方	4.6×4.2	65-73	平壇	法1 全埋	4	1	-	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 代		
125	C 4a3	N-14°-W	方	3.7×3.4	28-30	平壇	-	-	1	2	1	自然	土障部、原形部	8 C 代	本跡→SK106	
128	C 3a0	N-5°-E	方	1.0×3.0	26-38	平壇	法1 全埋	4	1	-	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 後葉	SK127→本跡	
130	C 3d1	N-10°-W	長方形	4.1×3.7	33-34	平壇	部	4	1	2	1	人為	土障部、原形部	8 C 代	SK131→本跡	
133	C 3a6	N-14°-W	方	2.7×2.7	40	平壇	-	-	-	-	1	自然	土障部、原形部	9 C 代	SK134→本跡	
139	C 2b8	N-6°-E	方	2.5×2.5	18-30	平壇	-	-	-	-	1	人為	土障部、原形部	8 C 前葉	本跡→P書2	
149	E 2d1	N-2°-W	方 形または長方形	4.8×(4.3)	10-22	平壇	-	3	1	1	1	人為	土障部、原形部、土製土器	8 C 代	本跡→SK33 A、P書4	
142	E 2c5	N 10°-E	方	4.9×4.6	5-28	平壇	-	4	-	-	1	1	人為	土障部、原形部	8 C 後葉	
151	E 2b6	-	不明	[2.0]×[0.7]	42	平壇	-	1	-	1	1	人為	土障部	8 C 代		
153	D 2c7	N-8°-E	長方形	3.6×2.6	20-30	平壇	-	-	-	-	1	自然	土障部、原形部、土製土器	8 C 代	SK102→本跡	

表14 奈良時代掘立柱建物跡一覽表

遺構番号	位置	軸方向	柱間数 (間×梁の間)	規模 (m) (長×短)	面積 (㎡)	柱柱間 (m)	梁柱間 (m)	柱穴 (cm)				土台・土遺物	重複関係 (古→新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
1	C 2e3	N-87°-W	3×2	4.2×3.0	12.6	1.2-1.8	1.2-1.5	掘柱	11	円形	6-35	土障部、原形部	
2	C 2e5	N-83°-W	3×2	4.2×3.0	12.6	1.2-1.5	1.5	掘柱	10	円形	25-50	土障部、原形部	TP1→本跡→SK77
5	C 2e1	N-14°-E	3×4	5.4×5.4	29.2	1.25	1.8	掘柱	15	円形	15-75	土障部、原形部	SK75→本跡 SK3-7
6	C 2h1	N 12°-E	3×2	3.4×3.6	19.4	1.8	1.8	掘柱	10	円形	3-61	土障部、原形部	SK72→本跡
7	C 2d2	N-14°-E	3×2	5.1×3.3	16.8	1.5-2.1	1.5-1.8	掘柱	10	円形	14-64		SK3-5
19	C 3d0	N-10°-E	3×2	5.4×4.2	22.7	1.2-2.7	2.1	掘柱	9	円形	51-70	土障部、原形部	SK4→本跡→SK49、SK59、SK24
24	C 3d0	N-11°-E	1×1	2.4×2.4	5.8	2.4	2.4	掘柱	4	円形	37-33	土障部	SK50→本跡 SK19
34	C 3h1	N-83°-E	5×3	6.9×3.3	22.8	1.2-2.1	1.6	掘柱 (傾斜)	13	円形	32-68	土障部、原形部	本跡→SK29 第2号ピット跡

表15 平安時代住居跡一覽表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	床席	内部施設						主要出土遺物	時期	並列関係 (古→新)		
							塼溝	土柱穴	土人	土	伊	礎礎					
1	D 3 a6	N-26°-W	方形	6.0×3.8	27~62	平瓦	—	2	—	—	1	—	自然	土師器、須恵器	9 C中集		
2	D 3 a6	N-23°-W	方形	3.8×3.7	14~30	榻榻	部	—	1	—	1	—	自然	土師器、須恵器、不明土製品	9 C中集		
3	E 3 a9	N-21°-W	方形 方形より延長 方形	3.1×1.7	32	平瓦	—	—	—	—	1	—	人為	土師器、須恵器、灰石、釘	9 C中集		
7	D 3 d1	N-9°-W	方形	6.4×6.3	64~75	平瓦	部	4	1	3	1	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品、不明土製品、須恵土製品	9 C中集	S12→本跡→SD7→S18	
8	D 3 d1	N-15°-W	方形	3.4×3.3	64~92	平瓦	—	1	1	1	1	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品、不明土製品	9 C中集	S17→本跡→SD7	
10	D 3 d8	N-6°-W	方形	3.7×3.5	40~50	平瓦	一部	4	1	—	1	—	人為	土師器、須恵器、土製土師器、不明土製品	9 C前集	S89→本跡→SD7 S85-1	
13	D 3 d8	N-26°-W	長方形	3.6×3.0	24~38	平瓦	—	1	2	1	1	—	人為	土師器、須恵器、土製土師器、不明土製品	9 C前集	本跡→SD8	
14	D 3 d8	N-8°-W	方形	3.4×3.2	35~40	平瓦	全周	—	1	1	1	—	人為	土師器、須恵器	9 C後集	本跡→SK31→本跡	
15	D 3 d8	N-43°-W	[長方形]	3.35×(2.70)	8~22	榻榻	4	1	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、球状土師器	9 C前集	本跡→S116、本跡	
16	D 3 d8	N-30°-W	方形	4.0×3.7	12~40	平瓦	一部	—	1	2	1	—	人為	土師器、須恵器	9 C中集	S19→本跡	
17	D 3 d2	N-15°-W	長方形	5.4×4.6	44~72	榻榻	—	—	—	—	1	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品、不明土製品	9 C中集	SD7→本跡→SD8→S16、S25	
21	C 3 f7	N-18°-W	方形	4.5×4.3	22~45	平瓦	[土柱穴]	4	1	1	1	—	人為	土師器、須恵器、刀子、須恵土製品	9 C前集	SD22→本跡→SD7 S85-1	
24	D 3 a6	N-11°-W	長方形	5.4×4.5	18~38	平瓦	部	4	1	4	1	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品	9 C前集	SD9→本跡→S116→本跡→S17	
26	E 3 a3	N-14°-E	方形	5.9×5.8	30	平瓦	—	2	—	—	1	—	人為	土師器、須恵器、土製土師器、不明土製品	9 C前集	本跡→SK21→本跡	
27	D 3 d1	N-23°-W	不明	4.0×1.1	50	平瓦	—	—	—	—	—	—	人為	土師器、須恵器、土製土師器	9 C前集	S118→本跡→S117	
29	C 3 i1	N-2°-W	方形	4.8×4.8	47~60	平瓦	全周	4	1	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、土製土師器	9 C前集	S131→S133→本跡
32	C 2 j9	N-15°-W	長方形	4.5×4.0	45~50	平瓦	一部	2	1	2	1	—	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品	9 C後集	S131→本跡→S131→32
34	C 3 i4	N-15°-W	長方形	3.2×2.8	17~24	平瓦	—	—	2	—	—	—	—	人為	土師器、須恵器	9 C代	S140→41、本跡→S146→本跡→S182→83
43	C 3 b9	N-2°-W	方形	3.6×3.3	35~34	平瓦	[土柱穴]	2	—	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、灰石、須恵土製品、不明土製品	9 C中集	S146→本跡→S146→83
47	C 4 a1	N-0°	方形	4.2×4.1	54~63	平瓦	[土柱穴]	2	1	—	1	—	—	自然	土師器、須恵器、灰石、不明土製品	9 C後集	S146→本跡→SK81
49	C 3 i6a	N-4°-E	方形	4.0×3.9	38~40	平瓦	[土柱穴]	4	1	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、球状土師器	9 C前集	本跡→S119
52	C 4 j4	N-9°-E	方形	5.1×4.8	50~42	平瓦	一部	4	1	1	—	—	—	人為	土師器、須恵器、灰石、不明土製品	9 C中集	S149→本跡→S149→本跡→S149
58	C 4 i7	N-8°-E	長方形	4.2×2.8	10~15	平瓦	[土柱穴]	—	1	—	1	—	—	自然	土師器、須恵器、灰石	9 C後集	S149→本跡→S149
78	C 3 a2	N-24°-E	方形	3.8×3.1	25~35	平瓦	—	1	2	1	—	—	—	自然	土師器、須恵器、不明土製品、刀子	9 C代	
80	C 1 b6	N-3°-E	長方形	3.7×3.2	40~47	榻榻	[土柱穴]	4	1	—	1	—	—	自然	土師器、須恵器、刀子	9 C前集	
83	H 2 i1	N-0°	方形	3.6×3.5	66~68	平瓦	一部	—	—	—	1	—	—	自然	土師器、須恵器、不明土製品、刀子	9 C後集	
89	A 2 j4	N-19°-W	方形	4.6×4.5	37~50	平瓦	全周	4	—	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、不明土製品	9 C代	
102	A 4 b5	N-6°-E	長方形	3.3×2.9	16~25	榻榻	一部	2	1	1	—	—	—	人為	土師器、須恵器	9 C代	本跡→SK79
104	B 4 d1	N-8°-W	方形	4.3×4.1	40~55	榻榻	部	4	1	—	1	—	—	自然	土師器、須恵器	9 C前集	
110	B 3 e1	N-6°	方形	4.0×3.7	55~68	平瓦	全周	—	1	1	1	—	—	人為	土師器、須恵器、灰石	9 C前集	本跡→S120→34
122	B 3 i3	N-5°-W	方形	3.5×4.4	14~30	榻榻	全周	4	2	—	2	—	—	自然	土師器、須恵器、灰石、不明土製品	9 C前集	S120→本跡
126	C 4 a2	N-1°-W	方形	4.6×4.6	32~42	平瓦	一部	—	1	3	1	—	—	自然	土師器、須恵器、灰石	9 C中集	S126→本跡
141	C 2 b8	N-33°-W	方形	2.9×2.8	5~6	榻榻	—	—	—	—	1	—	—	不明	土師器、須恵器	平安時代	本跡→1階2
144	D 2 c7	N-28°-W	方形	3.0×3.0	35~44	平瓦	—	2	—	—	1	—	—	人為	土師器、須恵器、不明土製品	9 C代	

表16 平安時代掘立柱建物跡一覽表

遺構番号	位置	相対方向	柱間数	規模 幅×梁(間) (m)	距離 (m)	相対柱間 (m)	梁柱間 (m)	柱穴 (cm)			主要出土遺物	並列関係 (古→新)	
								構造	柱穴数	平面形			
3	C 2 g3	N-86°-W	3×2	6.0×3.9	23.4	1.95	1.95	圓柱	11	円形・楕円形	28~68	土師器、須恵器	SD6-7
4	C 1 g9	N-87°-E	3×2	5.4×3.6	19.4	1.8	1.8	圓柱	10	円形	50~82	土師器	SD73→本跡
12	D 3 b4	N-14°-W	5×3	9.3×4.8	44.6	1.8×2.1	1.5×1.8	圓柱	16	円形	20~50	土師器、須恵器	本跡→SK165SD1
13	C 3 j1	N-9°-W	3×2	5.7×4.2	22.9	1.5~2.1	2.1	圓柱	10	円形	30~50	土師器	本跡→SK296→S136→27→37-44
14	C 4 b6	N-83°-W	3×2	5.4×3.6	19.4	1.8	1.8	圓柱	10	円形	14~40	土師器	S158→本跡→SK45
15	C 4 e1	N-82°-E	2×2	4.8×3.3	13.8	2.4	1.5×1.8	圓柱	8	円形	22~37	土師器	SD65→本跡
16	C 4 e1	N-87°-W	3×3	4.8×4.5	15~18	21.6	1.5	圓柱	12	円形	38~61	土師器、須恵器	SD65→本跡
17	C 3 c9	N-87°-E	2×2	4.2×3.3	13.9	1.8~2.4	1.65	圓柱	8	円形	22~45	土師器	SD65→本跡→SK77

遺構 番号	位置	軸方向	柱間数	規模 (柱×梁(m))	面積 (㎡)	前行柱間 (m)	後行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				土台出土遺物	重 複 関 係 (古 → 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
20	C 4h1	N-86°-E	2 × 1	2.8 × 2.4	5.8	1.2	2.4	横柱	6	円形	33-51		
21	C 4j5	N-1°-W	1 × 2	3.0 × 2.7	8.1	3.0	1.2	横柱	6	円形	25-71		S15/SK46 → 本跡 SK47-52
22	B 2g0	N-8°-E	3 × 2	5.7 × 3.3	18.8	1.5-2.4	1.5-1.8	横柱	10	円形	18-47		1土師器 本跡 → SK160
23	D 3a0	N-83°-W	3 × 2	5.1 × 3.0	15.1	1.8	—	横柱	4	円形	30-62		土師器 本跡 → SK60SD1
25	B 3d2	N-80°-E	3 × 2	5.4 × 3.0	16.2	1.8	1.5	横柱	10	円形	19-49		土師器 SH19 → 本跡
26	B 3j2	N-5°-W	3 × 2	5.7 × 4.2	23.9	1.8-2.1	2.1	横柱 (一酒流)	14	円形	27-38		1土師器、須恵器、灰 土師器 SD7 → 本跡 SK7、SB15-42-44 SK7/SB42 → 本跡 → SK20 SB13-31-44
27	D 7j1	N-72°-E	3 × 2	6.3 × 4.2	26.5	2.1	2.1	横柱 (土配)	14	円形	19-65		1土師器、須恵器 SK22 → 本跡 → SD1-6 SK182
30	D 3a8	N-86°-E	3 × 2	4.5 × 3.9	17.6	1.5	1.95	横柱	10	円形	35-53		SD2 → 本跡 → SK236 SH13-27
31	C 2j0	N-6°-W	3 × 2	4.2 × 3.3	13.9	1.5	1.65	横柱	10	円形	29-67		土師器、須恵器 SK31 → 本跡
32	C 2j9	N-6°-W	[3] × 2	4.5 × 3.6	16.2	1.2-1.8	1.8	横柱	9	円形	15-66		土師器、須恵器 SK22-43 → 本跡
33	C 3h7	N-6°-W	2 × 2	3.1 × 3.3	16.8	1.25-1.8	1.65	横柱	10	円形	33-66		土師器、須恵器 SB41SD11 P跡3
35	D 3g5	N-21°-W	3 × 3	6.3 × 4.2	26.5	2.1	1.2-1.5	横柱	12	円形	11-71		
36	C 3j3	N-82°-E	3 × 2	4.5 × 3.6	16.2	1.5	1.8	横柱	10	円形	18-50		土師器、須恵器 SD7 → 本跡 SB42-54
39	D 3e5	N-21°-W	3 × 2	5.4 × 3.6	19.4	1.5-2.1	1.8	横柱	10	円形	22-56		土師器、須恵器 SD5 → 本跡 → SK102-SD8 SK35、38、39跡5
40	D 3g3	N-24°-W	4 × 2	6.6 × 3.6	23.8	1.5-1.8	1.2-2.4	横柱	14	円形	13-62		土師器、須恵器 SD7、SK345-246SD9
41	D 3e3	N-16°-W	3 × 3	5.4 × 3.9	21.1	1.5-2.1	1.2-2.1	横柱	11	円形	26-62		SD18 → 本跡 → SK102-SD8 SK35、38、39跡5
42	C 3j3	N-8°-W	3 × 2	5.7 × 4.2	23.9	1.8-2.1	2.1	横柱	10	円形	32-34		SD7 → 本跡 → SK103 SK 36-27-36-34
43	C 2j0	N-79°-E	2 × 2	3.9 × 3.6	14	1.8-2.1	1.8	横柱	9	円形	17-49		土師器、須恵器 本跡 → SK45/SK222-223 SK31
44	D 3a1	N-86°-E	4 × 2	5.4 × 3.6	19.4	0.9-2.1	1.5-2.1	横柱	11	円形	24-29		土師器、須恵器 SB13-26-27 → 本跡 → SK 225-236-245SD11 P跡2
45	C 2j6	N-80°-E	3 × 2	4.8 × 3.0	14.4	1.5	1.5	横柱	13	円形	19-32		土師器、須恵器 SD20/SB43 → 本跡 → SK220-223
47	D 3c1	N-73°-E	4 × 3	6.0 × 5.4	32.4	1.2-1.8	3.3	横柱	13	円形	25-30		須恵器、土師器 SD30、T76 → 本跡 SB11-48、SK270、P跡2
48	D 3c3	N-77°-E	3 × 2	4.2 × 3.3	13.9	1.2-2.4	1.5-1.8	横柱	9	円形	16-52		土師器、須恵器 SD30、T76 → 本跡 SB12-47、SK272
50	D 3d5	N-21°-W	3 × 2	5.1 × 3.3	16.8	[1.5]	1.8	横柱	9	円形、 横行柱	10-70		土師器 SD5 → 本跡 → SD7 SK252 P跡2、3
52	C 3g8	N-0°	2 × 2	4.2 × 3.0	12.6	1.8-2.4	1.5	横柱	9	円形	26-60		

表17 方形竪穴遺構一覽表

遺構 番号	位置	軸方向 (長軸方向)	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	深さ (cm)	構造	底面	層土	土台出土遺物	重 複 関 係 (古 → 新)
1	A 2h3	N-50°-E	方 形	2.70 × 2.46	14-22	外堀	平坦	自然		本跡 → SK13
2	B 2f6	N-7°-E	方 形	2.56 × 2.52	10-45	外堀	平坦	人為		SD8

表18 時期不明掘立柱建物跡一覽表

遺構 番号	位置	軸方向	柱間数	規模 (柱×梁(m))	面積 (㎡)	前行柱間 (m)	後行柱間 (m)	柱 穴 (cm)				土台出土遺物	重 複 関 係 (古 → 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ		
8	C 2j3	N-70°-W	1 × 1	2.1 × 2.1	4.4	2.1	2.1	横柱	4	円形	45-67		土師器
18	C 4h4	N-46°-W	3 × 2	5.4 × 3.3	17.8	1.5-2.1	1.65	横柱	10	円形	49-68		土師器 SB56 → 本跡
49	D 3k3	N-1°-W	1 × 1	2.7 × 2.7	7.3	2.7	2.7	横柱	4	円形	36-56		土師器、須恵器 SD20 → 本跡 → SK231 SK172-230
51	D 3c7	N-31°-W	2 × 2	3.9 × 3.6	14	1.95	1.92	横柱	8	円形	20-55		土師器、須恵器 SD10 → 本跡 → SD8 SB15
54	C 3j3	N-82°-W	4 × 2	4.5 × 3.0	13.5	1.2	1.5	横柱	8	円形	9-29		SD7 → 本跡 SB36-42

表19 炭焼窯跡一覽表

遺構 番号	位置	軸方向	平面形	規模 (長軸×短軸 (m))	炭 化 室			層土	土台出土遺物	重 複 関 係 (古 → 新)
					平面形	長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)			
1	B 3g0	N-120°-E	不整形円形	4.89 × 2.04	焼円形	3.08 × 2.04	12	自然	陶器 (土質)	本跡 → SK394
2	B 3d0	N-93°-E	不整形円形	5.08 × 2.16	焼円形	3.08 × 2.16	10	自然	陶器 (土質)	本跡 → SK393

第4節 まとめ

綱山遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であり、近接する宮後遺跡¹⁾、大塚遺跡²⁾、石原遺跡³⁾と併せて有機的に関連し合う遺跡群（「桜の郷遺跡群」⁴⁾）を形成している。当遺跡の主体となる時期は、古墳時代（竪穴住居跡66軒、土坑3基）と奈良・平安時代（竪穴住居跡62軒、掘立柱建物跡40棟）であるが、特に注目されるのは、弥生時代終末期から古墳時代初頭の竪穴住居跡12軒である。当遺跡群を構成する4遺跡からは、十王台式土器と土師器が共伴する住居跡が多数検出され、弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭にかけての当地域の様相を知る上で注目すべき事例となっている。また当遺跡群は、矢倉遺跡⁵⁾、大畑遺跡⁶⁾、大戸下郷遺跡⁷⁾を含めた酒沼前川流域に分布する大戸遺跡群⁸⁾（第411回参照）の北西端に位置する「支群」であり、酒沼前川流域にひとつの文化圏を形成していたとらえられている当地域内での該期集落の動態を考える上でも好資料を提供しているといえる。ここでは、当遺跡を中心に、「桜の郷遺跡群」の弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭にかけての土器様相と集落の動態について概観し、若干の考察を加えまとめたい。

1 十王台式土器について

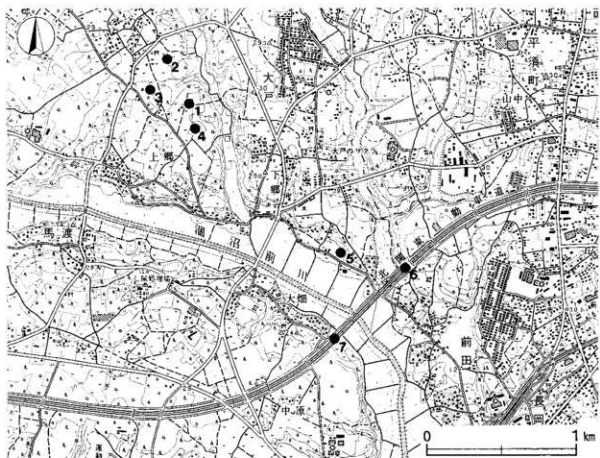
(1) 研究略史

十王台式土器の研究は、1939年に山内清男氏が滝田宏・藤本彌城両氏採集の弥生土器を「日本先史土器図譜」第1輯において「十王台式」として掲載したことを嚆矢とし⁹⁾、今日まで諸先学の研究が蓄積されてきている。型式学的な細分研究は、1970年代に鈴木正博氏によって始められ、これによって土器型式の表徴が明確に規定された¹⁰⁾。1980～90年代になると、資料の増加に伴い、県内の他の文化圏¹¹⁾に先んじて時間的な細分研究が進められるようになった。このような流れの中で海老沢俊氏は、鈴木正博氏の研究を軸に精製土器を4段階に細分している¹²⁾。また、茨城県教育財団弥生時代研究班は、鈴木（正）・海老沢俊氏の細分をもとに4段階の変遷をとらえている¹³⁾。1988年から武田遺跡群を調査した鈴木素行氏は、新たな分類の視点として、那珂川・久慈川河川流域ごとに特徴が認められる土器の胎土の相違を加え、さらに法量や文様、成形技法などの視点から詳細に分析し、十王台式の時間的な細別を空間的な細別のもとに再構成することにより、地域の交流を明らかにしようとしている¹⁴⁾。さらに同氏は、那珂川下流域については武田遺跡群を、久慈川下流域については小祝遺跡群を対象に分析し、「武田式」及び「小祝式」を分別している¹⁵⁾。一方、十王台式と土師器の共伴については、1980年代からその認定をめぐる議論が行われていたが、確実性の高い共伴事例の増加にともなって、ほぼ認定されるに至っている¹⁶⁾。また、土師器との共伴が認められる十王台式最終段階の土器については、鈴木（正）氏により「金井戸式」という型式名が付されたこともあるが、後に「統十王台式」と呼称され、後述する「大鋸戸式」を含めて古墳時代前期の土器として位置付けられている¹⁷⁾。

現在、十王台式土器は5段階の細分が定着しつつあるが、本稿における編年観については、「中型中頭形」の変遷をもとに十王台式土器の時間と空間を細分している鈴木素行氏の時間軸に依拠し、諸先学の研究を参考にしつつ検討を進めたい。

(2) 綱山遺跡及び「桜の郷遺跡群」の土器様相

綱山遺跡からは十王台式が出土した住居跡12軒が検出されている。これらの住居跡のうち11軒からは土

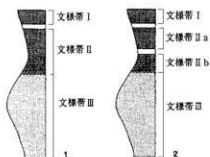


第411図 大戸遺跡群遺跡分布図 (1.綱山遺跡 2.高後遺跡 3.塚遺跡 4.石原遺跡
5.大戸下郷遺跡 6.矢倉遺跡 7.大畑遺跡)

師器が伴出しており、弥生時代と古墳時代とがクロスダイーティングする時期の所産と考え、年代観は弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭と幅をもたせてとらえている¹⁹⁾。まずは、これらの住居跡から出土した土器の出土状況や組成、特徴的なものなどについて概観した後、桜の郷遺跡群を構成する他の3遺跡との比較によって土器様相を明らかにしていきたい。なお、土器を観察するに当たっては、器外面を横位に分割して構成される文様帯について、鈴木(素)氏の区分呼称に準拠し、口辺部を文様帯Ⅰ、胴上部(頸部)を文様帯Ⅱ、胴下部(胴部)を文様帯Ⅲと記号化して記する(第412図参照)。

綱山遺跡の住居跡における十王台式の出土状況は土師器に対して客体的なものが多。破片数での比較ではあるが、第138住居跡にいたっては、土師器片2764点に対して十王台式片は28点という状況である。十王台式が主体的に出土している住居跡は、円形を呈する形状や出土土器から他の10軒に先行すると判断される第98・100号住居跡の2軒のみである。当遺跡は、十王台式と土師器の単なる相対的な出土数の比較からも、おおむね十王台式の最終段階に位置づけられると考えて差し支えないであろう。なお、土師器と十王台式の主体と客体的別あるいは出土割合の差異は、わずかな時期差によるものと考えられるが、集団(さらに言えばその住居居住者)の世代差に起因する可能性もあることを付記しておく。

器種構成は土師器甕、壺、高坏、器台、埴、そして十王台式の中型中頸形・小型大頸形の広口壺(大型細頸形や中型細頸形の壺も少数出土している)である。当遺跡の特徴として、十王台式の高坏形土器が組成に加わらない点が挙げられる。当遺跡と同時期と考えられる十王台2b式(武田式石高段階)期の集落であるひたちなか市山崎遺跡や同市武田石高遺跡でも高坏形土器は組成にない。ただし3遺跡とも土師器



第412図 十王台式土器の文様帯模様図
(註14) 鈴木1998より転載)

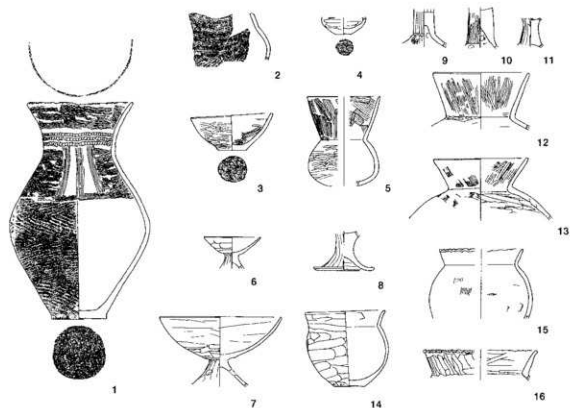
図から十王台式は多量の土師器とともに焼失直後に一括して廃棄されたものと考えられ、同時期に使用されていたものと判断できる。復元可能な十王台式の出土側数は1点のみであり、これに器形復元できない胴部片が1点加わる。土師器は碗、埴、小形甕、甕、壺、高坏で構成されている。第413図1は、ほぼ完形の十王台式で壁際のはほぼ床面から逆位で出土している。この土器の特徴は文様帯Ⅰ・Ⅱ間を隆帯でなく3条の刺突文で区画している点にある。この区画は「帯状刺突文」と呼ばれるもので、ひたちなか市山崎遺跡や武田石高遺跡、鷹ノ巣遺跡からも同様の区画文をもった土器が出土していることから同時期のものと考えられる。共存する高坏は4世紀前葉から中葉にかけての特徴を示しており(第413図6~11)、十王台式は「退化傾向」を示しながらも少なくとも4世紀中葉までは残ることが予察される¹⁹⁾。また、床面及び覆土中層から第413図15・16のような口唇部が交互押圧により「小波状」を呈する土師器甕が出土していることも注目される。同様の甕は宮後遺跡第110号住居跡において十王台式と共存しており、十王台式の中には文様帯Ⅰ・Ⅱ間及び文様帯Ⅱ・Ⅲ間を帯状刺突文で区画しているものも含まれ、類似性が指摘される。このような「小波状」の口唇部を有する甕は、3.4kmほど南西に位置する茨城町南小瀬遺跡の古墳時代前期の住居跡からも多数出土しているが、ここでは十王台式との共存は認められない。いずれにしても「小波状」の口唇部を有する甕は、涸沼川流域特有の形態であり、十王台式と共存する時期までさかのぼることができると考えられる。

また、第118号住居跡も、土師器に対して十王台式が客体となる典型的な住居跡の一つである(十王台式片266点、土師器片1470点)。当住居跡も前述の第138号住居跡と同様に十王台式と共存している高坏の形状から少なくとも4世紀中葉まで下る可能性があると考えられる(第413図22~26)。ただし、第138号住居跡と同様、土器の出土状況を十分に再検討する必要があると考えている。同住居跡は第413図20のような小形で無文の広口壺が出土している。このような十王台式の器形に類似した無文の小形壺は、日上市吹上遺跡や大塚遺跡からも出土しており、弥生土器から土師器に移行していく時期の所産との解釈がなされている。小形の土器であるため単純な比較は危険ではあるが、十王台式の中型広口壺の胴部と底部の厚さの対比を比較すると、十王台式が胴部と底部がほぼ同じ厚さであるのに対して、20は底部の方が明らかに厚くなっている。これは土師器の製作技法によってつくられた土器と言えるのかもしれない。なお、口辺部には輪積痕を沈線状に残しており、同様の口辺部をもつ土器は第106号住居跡出土の中形中頸型の広口壺があることを記しておく。

一方、第124号住居跡からは、異系の土器が1点出土している(第413図29)。この土器については、県西地域(岩瀬町大田神社前遺跡出土、友部町五万塚古遺出土)の土器に胎土が類似しているとの見方もできるが、比較の対象となった土器が器形復元ができなかったことや実見する機会を得なかったことから、

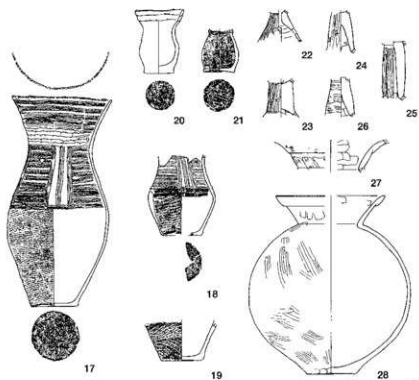
の高坏が組成に加わっており、高坏形土器については比較的早い段階で五領式に移行し、伝統的な十王台式広口壺は、「退化傾向」を示しながらも古墳時代まで残るという状況を示しているのではないだろうか。しかし、類例が少ないことや十分な土器の分析を行っていないことから推測の域は脱し得ないところではある。また、対象が高坏であるだけに今後とも慎重に検討しなければならない問題でもある。

第138号住居跡は、前述したとおり十王台式が客体的に出土している住居跡の典型である。当住居跡は焼失住居で、出土状



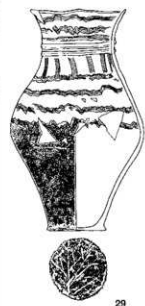
第138号住居跡

0 10cm



第118号住居跡

0 10cm



第124号住居跡

0 10cm

第413図 綱山遺跡第138・118・124号住居跡出土土器

確証を得ることはできなかった。文様帯Ⅰ及びⅡに櫛歯状工具による縦位の区画文と横位の波状文を施している点で十王台式的ではあるが、最大径が器高のほぼ中央部にあり、文様帯Ⅰ・Ⅱ間を断面三角形の2条の隆帯で区画していること、文様帯Ⅱの縦区画内に波状文を充填していないことで十王台式土器と区別される。また、底部痕跡は木葉痕である点でも、他の中型広口壺の典型とは異なっている。また、当住居跡からは胎土や文様から「小祝式」に比定される土器が3個体まとまって出土していることと何らかの関連性があるのかもしれない。この土器が搬入されたものなのかどうかは判断し難く、現段階では模倣土器に準ずると考えておきたい。今後の類例を待つところである。

なお、第55・106・108・1523号住居跡からは、いわゆる「大鋸町式」に比定される土器が出土しているが、これらについては後述する。

以上、綱山遺跡の十王台式について特徴的なものを概観してきたが、次に、桜の郷遺跡群全体の中で土器様相を比較検討していきたい。対象とした土器は、組成に安定して加わり、時間的変化を認めやすい「中型中頭形」の広口壺で、報告書掲載土器である。全破片抽出などによる統計的な数値をもって示し得ず、データとしての客観性を欠くところではあるが、遺跡の傾向をつかむには有効と考え、表20にまとめる。

この比較により、当遺跡群内の土器様相を以下のように概括できる。

- ア 口唇部は、4遺跡とも縄文原体による押圧やヘラ状工具による刻みが巡るものが多いが、石原遺跡では縄文原体押圧の比率が高い。またヘラ状工具による刻みが巡るものには小突起が付くものもある。
- イ 文様帯Ⅰは、4遺跡とも横波状文が多いが、綱山遺跡ではその比率が低く、斜格子文、回転附加条、縄文、輪積み後ナデなど相対的にバリエーションに富んでいる。
- ウ 文様帯Ⅰ・Ⅱ間の区画は、4遺跡とも押圧のある隆帯が主体であるが、石原遺跡では押圧が深いものが多い。隆帯の本数には遺跡による相違・傾向は認められない。石原遺跡ではいずれも隆帯区画であるが、綱山・宮後・大塚の3遺跡では沈線区画（帯状刺突文・半截竹管による押し文）も少数見られる。
- エ 文様帯Ⅱの櫛歯状工具による縦区画の1単位条数は、大塚・石原の2遺跡では2条の比率が高い。区画の分割単位数は、遺跡による相違傾向はつかめない。
- オ 文様帯Ⅱ・Ⅲ間の区画は、4遺跡とも波状文が主体である。直状文のものが石原遺跡では4点、大塚遺跡では1点それぞれ認められる。各遺跡に連弧文区画が少数見られる。また、宮後遺跡からは3列の帯状刺突文区画、大塚遺跡からは3本の隆帯区画によるものがそれぞれ1点認められる。
- カ 文様帯Ⅲは、4遺跡とも附加条二種（附加1条）の羽状構成をとるものが主体で、附加条一種（附加2条）のものも少数認められる。石原遺跡には単節縄文のものが1点ある。
- キ 底面痕跡は、4遺跡とも布目痕が主体で、砂目痕、木葉痕が次いでいる。石原遺跡では木葉痕が8点認められる²⁰⁾。
- ク 櫛歯状工具の櫛歯本数は、4遺跡とも4・5条が主体であるが、綱山遺跡からは、多条化を示す7～9本のものが4点認められる。石原遺跡は3～5本が主体であり、多条化を示すものはない。さらに、表20に数値として表れない要素では、以下の点が上げられる。
- ケ 大塚遺跡では「小祝式」に比定される大型細頸形の広口壺の出現頻度が高い。
- コ 石原遺跡では十王台式の高環形土器や鉢形土器が、宮後遺跡では片口の鉢形土器がそれぞれ組成に加わるが、綱山遺跡からはいずれも出土していない。
- サ 文様帯Ⅱ・Ⅲ間の区画の位置は、石原遺跡では胴部最大径よりも上位にあるものが多い。

表20 「桜の郷遺跡群」における十王台式土器（中型中頸形広口壺）の比較表

No	部 位	項 目		瀬 山 遺 跡 (12軒-31個体)			宮 後 遺 跡 (5軒-29個体)			大 塚 遺 跡 (22軒-44個体)			石 原 遺 跡 (21軒-98個体)							
				抽出数	点数	割合	抽出数	点数	割合	抽出数	点数	割合	抽出数	点数	割合					
1	口唇部	ヘラ削み	突起あり	3	25%	12	10	4	40%	12	3	25%	33	5	13%					
			突起なし	7	58%				4						40%	6	50%	23	70%	
		縄文単体押圧		0	0%				1						10%	3	25%	5	15%	
		筋みなし		2	17%				1						10%	0	0%	0	0%	
2	文様帯Ⅰ	波状文		7	58%	12	10	9	90%	15	12	80%	33	28	85%					
		直状文+波状文		1	8%				1						10%	0	0%	3	9%	
		その他		4	34%				0						0%	3	20%	2	6%	
3	文様帯Ⅰ・Ⅱ間	2本	0	0%	10	9	0	0%	15	1	7%	16 (除香なし)	0	0	0%					
			3本	4				40%							6	67%	10	67%	9	56%
		4本	3	30%				2							22%	2	12%	6	38%	
		帯状刺交文		1				10%							1	11%	1	7%	0	0%
		平截竹管押引文		2				20%							0	0%	1	7%	0	0%
4	文様帯Ⅱ	区画単位	3単位	2	22%	17	15	4	50%	22 (直状文のみ)	2	22%	26	3	19%					
			4単位	7	78%				4						50%	7	78%	13	81%	
			不明	8	—				7						—	13	—	10	—	
		スリット 本数	2本	3	17%				2						14%	8	44%	8	31%	
			3本	9	83%				11						86%	10	56%	18	69%	
			不明	5	—				2						—	4	—			
5	文様帯Ⅱ・Ⅲ間	連弧文	上向き	1	8%	12	11	0	0%	19	1	5%	18	0	0%					
			下向き	1	8%				2						18%	2	11%	2	11%	
		波状文		10	84%				8						73%	14	74%	12	67%	
		直状文		0	0%				0						0%	1	5%	4	22%	
		その他		0	0%				1						9%	1	5%	0	0%	
6	文様帯Ⅲ	附加条二條(附加1条)		15	78%	19	17	16	94%	31	30	97%	53 (附加條文1)	51	93%					
		附加条一條(附加2条)		2	11%				1						6%	1	3%	3	5%	
		その他		2	11%				0						0%	0	0%	1	2%	
7	底面痕跡	布目痕		5	56%	9	10	8	80%	19	15	79%	42	32	76%					
		砂痕		1	11%				2						20%	2	11%	2	5%	
		木葉痕		2	22%				0						0%	1	5%	8	19%	
		調整痕		1	11%				0						0%	1	5%	0	0%	
8	脚面数	3本	2	13%	16	18	2	11%	27	1	4%	59	5	8%						
		4本	4	25%				6						33%	12	44%	31	53%		
		5本	5	31%				8						44%	9	33%	21	36%		
		6本	1	6%				1						6%	3	11%	2	3%		
		7本	2	13%				1						6%	1	4%	0	0%		
		8本	1	6%				0						0%	0	0%	0	0%		
9本	1	6%	0	0%	1	4%	0	0%												

シ 綱山遺跡の櫛歯状工具による波状文は乱れが目立ち、いわゆる「手抜き傾向」が認められる。

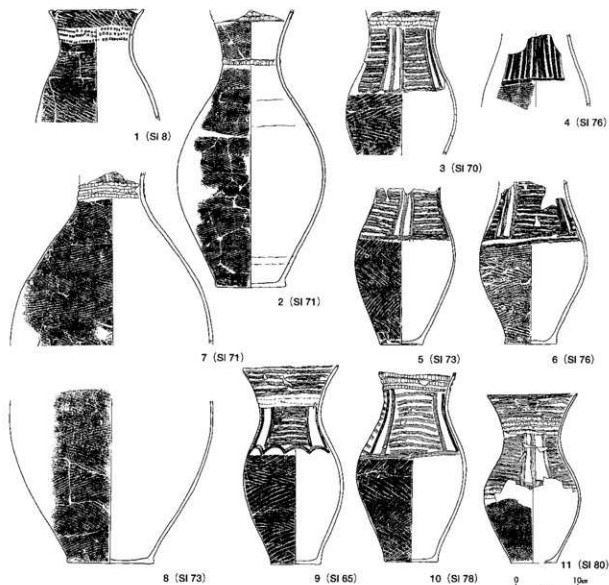
以上の比較・観察から、次のような時間的相違が看取でき、集落の動態を考える材料となる。

A 石原遺跡の土器は綱山・大塚・宮後の3遺跡の土器よりも古相で、十王台1c式から2a式が主体であり、土師器と共存しているものの2b式の表徴が認められるものは出土していない。

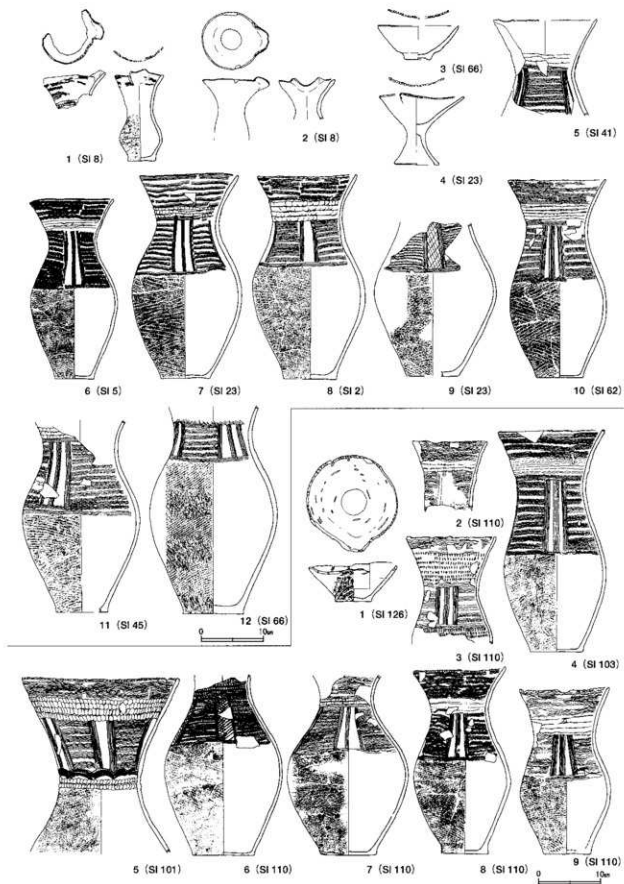
B 大塚遺跡・宮後遺跡の土器は十王台1c式から2b式までが認められる。

C 綱山遺跡の土器は十王台1c式に比定される土器も見られるが、主体となるのは十王台2a式から2b式である。

また、文様帯Ⅰ・Ⅱ間を陰帯で区画しないものには、帯状刺突文による区画と半截竹管押し引きによる沈線区画の2種類があり、前者については綱山・大塚・宮後の3遺跡から、後者は綱山・大塚の2遺跡からそれぞれ出土している。後者は「大鋸町式」と呼称される土器の一表徴であり、次項で述べたい。



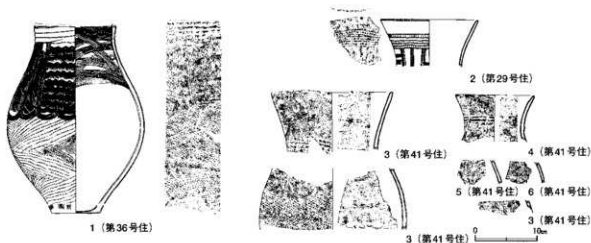
第414図 大塚遺跡出土十王台式土器



第415図 石原遺跡・宮後遺跡出土十王台式土器

(3) 「大鋸町式」土器について

前項で、綱山遺跡と大塚遺跡が新しい段階の土器を含む遺跡であると判断された。前述の通り、綱山遺跡第55・106・108・152号住居跡及び大塚遺跡第99号住居跡からは、いわゆる「大鋸町式」土器の表徴を備えた土器が出土している。「大鋸町式」土器は、水戸市大鋸町遺跡の第36・41号住居跡から出土した「櫛描文を伴う土器（C類）」について「十王台式と明確に区別しうるので、この仲間を大鋸町式と呼称」したことによって提示された土器である²⁰⁾（第416図）。井上義安氏は十王台式と区別される特徴として、①「刷毛目調整」が施されていること、②胎土・焼成・色調が土師器と同様であることの2点を指摘している。これに加えて鈴木（素）氏は、③口縁部と頸部の区画文が「半載竹管（厳密には多載竹管）」と考えられる2本同時施工による沈線であること④同工具による押し引きによって施文された結節沈線のものもあることを挙げている²²⁾。



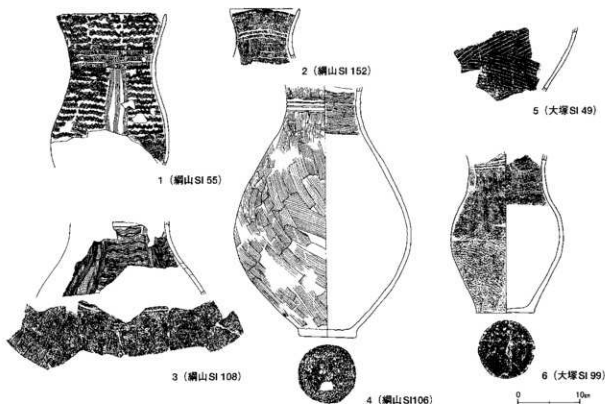
第416図 水戸市大鋸町遺跡出土土器（註21 井上1988より転載）

綱山遺跡から出土した土器で、上記の指標から「大鋸町式」に比定される土器は4点である（第417図1～4）。これらの土器の共通点は、文様帯Ⅰ・Ⅱ間を半載竹管による平行沈線で区画していることにある。1は半載竹管を深く押し引きすることで明確な結節沈線としているのに対し、2～4は同工具による平行沈線による区画文である。前者と同様の区画文をもつ土器は大鋸町遺跡第29号住居跡から（第416図2）、後者のものは第36・41号住居跡から（第416図1・3・4）それぞれ出土しており、文様帯Ⅰ・Ⅱ間の沈線区画文は大鋸町遺跡と同様のバージョンをもっていたことが類推される。また第417図4は、沈線区画以外にハケ目調整のみの、より「土師器的」な土器であり、かかる櫛描文をもたない土器は大鋸町遺跡からは出土していない。第417図3はハケ目調整後、多条化した櫛歯状工具（9本）による3本一組の縦区画内に波状文を充填するといったより十王台式に伝統的な施工文・施文法を使用した土器で、これに類似するものは、後述する大塚遺跡第99号住居跡からも出土している。

一方、大塚遺跡からは「大鋸町式」に比定される土器が2点出土している。第99号住居跡から出土している第417図6は、「大鋸町式」の典型とされる大鋸町遺跡第36号住居跡出土土器（第416図1）と器形・文様構成・成形技法が以下の点で共通している。

- ア 表裏面に刷毛目調整が施されていること。
- イ 口辺部と頸部の境界を半載竹管による沈線で区画していること。
- ウ 頸部文様帯は多条化した櫛歯状工具（8～9本）によって主文様が描出されていること。

- エ 頸部と胴部の境界を櫛歯状工具による上向き連弧文で区画していること。
- オ 胴部は軸織が明確な附加条二種（附加1条）縄文で羽状構成をとっていること。
- カ 胴部下端に縦位の刷毛目調整を施していること。
- キ 底部が布日痕であること。



第417図 綱山遺跡・大塚遺跡出土の「大鋸町式」土器

このように両遺跡から出土した「大鋸町式」は酷似している。さらにイについては、半截竹管を2周させて4本の沈線を螺旋状に廻らせることによって3条の狭い無文帯が構成される点でその共通性が補強される。鈴木（素）氏が論じているように、「大鋸町式」土器が、その施文具・原体の共有関係から「時間と空間を極端に限定して考えることのできる土器群」であり、周辺地域で類例が検出されていないことから「時期と地域を占有する型式ではなく、模倣土器に準ずる位置付けがなされる。」²⁹⁾のであれば、同様の土器が瀬沼川流域の綱山遺跡や大塚遺跡から出土していることの意味は大きいと思われる。

このような大塚遺跡第99号住居跡出土土器と大鋸町遺跡第36号住居跡出土土器との高い相似性が気にかかっていた折、大鋸町遺跡第38号住居跡出土土器を実現する機会を得た。胎土・色調及び施文具などの比較により、次のような観察結果が得られた。まず胎土・色調であるが、明赤褐色を呈すること、長石の微礫が多めに含まれていることなどは同様の観察結果であったが、大鋸町の土器の方が胎土が緻密で、焼成も良好である印象を受けた。また綱山遺跡第108号住居跡出土土器（第417図3）はにぶい褐色を呈しているが、大鋸町遺跡第36号住居跡の土器も器面の3分の1ほどが同様の色調であり、製作時の焼成具合や使用による副次的な焼成によって生じた色調差に取まる差異と考えられるため、3遺跡の「大鋸町式」土器は同質の胎土であるということが言って差し支えないであろう。なお、大鋸町遺跡第36号住居跡から共伴した古墳時代前期の土師師の胎土とも同質であったことも付け加えておく。次に施文具（櫛歯状工具）

であるが、実測図を観察した印象から、両者は同一施文具を使用していたのではないかと推測をしている。しかし実見の結果、櫛歯状工具の歯数が大鋸町の土器は8本、綱山・大塚遺跡のものは9本であり、櫛歯の幅・凹凸の差異・細太・間隔などからも別の施文具であることが判明した。またその他の相違点は、大鋸町の胴部下端は大塚遺跡のそれと同様に縦位のハケ目調整が施されていることである。前者はひたちなか市山崎遺跡第8号住居跡、同市武田石高遺跡第5・41号住居跡出土土器と同様に明確なヘラ削りが認められるが、大塚遺跡の土器には見られないことが挙げられる。さらに、頸部から胴上部内面のハケ目調整にも相違が見られ、大塚遺跡のものはハケ目が隙間なく密に入っているのに対して、大鋸町の土器は、ハケ目の単位間があいており、かつハケ目調整後にヘラナデされていることが観察された。以上のように、「多少」の差異は認められるものの、大鋸町遺跡第36号住居跡出土土器と大塚遺跡第99号住居跡、綱山遺跡第108号住居跡出土土器の3者は、極めて近似性の高い土器であることが確認された。

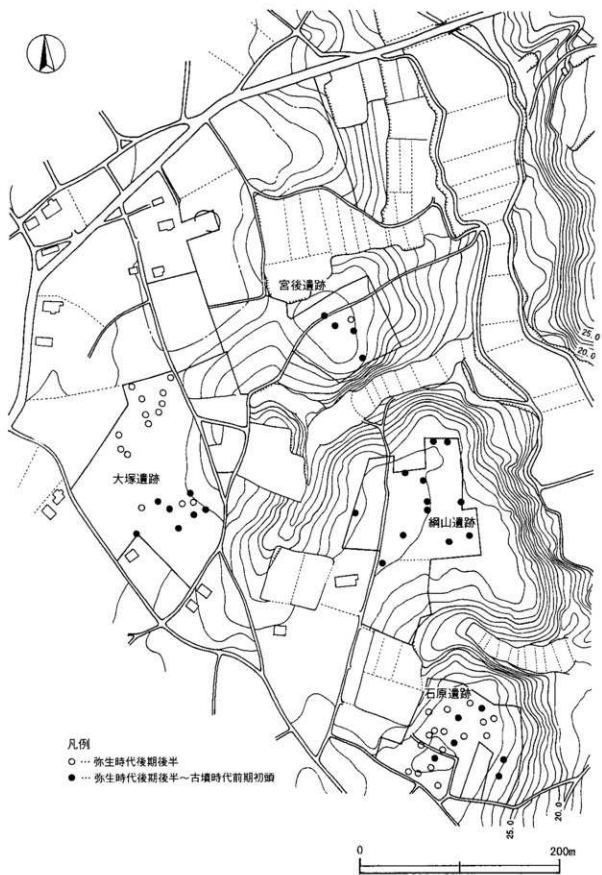
前述した「大鋸町式」は時間と空間を極端に限定して考えることのできる土器群であるとの鈴木(素)氏の認識を採用するならば、綱山・大塚の両遺跡から「大鋸町式」土器が出土していることは、両遺跡間での密接な交流を想定しなければならない。「大鋸町式」に比定される資料は、管見の限りでは「桜の郷遺跡群」の2遺跡と大鋸町遺跡からしか出土していない。従って、「時間と空間を極端に限定」するというこの解釈が、「固有の人物が製作した土器」であるとするならば、大鋸町遺跡の土器と大塚遺跡のそれとは、いずれかが搬入品であることは明確である。大鋸町遺跡第36・41号住居跡からは組成の一つとして認識されないまでも、「大鋸町式」がそれなりにまとまった数で出土しており、「桜の郷」の土器はごく客体的にしか出土していない点からも大鋸町遺跡から「桜の郷遺跡群」へ搬入されたという想定が自然と思える。一方で、「空間を極端に限定」しないで考えることもでき、とするならば十王台式の最終段階においては、大鋸町遺跡と「桜の郷遺跡群」が大戸遺跡群とは別の一つの文化圏を形成していた可能性も示唆される。この場合、「大鋸町式」は、一つの土器型式として成立しうる条件を備えた土器群と言えるであろう。類例の増加を待たなければならない。

大塚・綱山遺跡の「大鋸町式」土器の編年観は、共存する十王台式土器や古墳時代前期の土師器との関係のなかで検討されなければならないが、現段階では、①多条化した(9本)櫛歯状工具による機指き文、②半載竹管による文様帯Ⅰ・Ⅱ間の沈線区画、③文様帯Ⅰ・Ⅱ間を区画する退化した隆帯をもつ十王台式との共存などの特徴から十王台2b式(武田式石高段階)並行期と考えておきたい。

2 集落の分布と動態

「桜の郷遺跡群」は、東側を南流する小橋川に開析された台地上に立地している。この台地は、樹枝状に入り込んだ小支谷によってさらに開析され、「鋸歯状」の台地が連続して形成されている。ここでは、当該遺跡群内の集落の分布と動態について記したい。

まずは、各遺跡の該期集落の構造であるが、これに関しては不明点が多い。それは土器編年をもとにしたさらに詳細な時期区分をした上で検討されなければならないからであり、また住居跡の分布に規則性が認めにくいことにも起因している。石原遺跡では、弥生時代後期後半の住居跡は「台地の中央から南西部に配置」されており、「中央に広場をもつ4・5軒の小グループに分けられ、西部に3グループ、東部に1グループが存在する。」と報告されている。もっとも石原遺跡例において、4グループが同時に存立していたという単純な解釈は採用できない。同様の視点で各遺跡を概観してみると、大塚遺跡において類似した住居跡分布が認められるだけである。大塚遺跡では北部に弥生時代後期後半とされる住居跡のグ



第418図 「桜の郷遺跡群」十五台式土器出土住居跡分布図

ループが、南部には弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭とされる住居跡のグループがそれぞれ認められる(第418図参照)。宮後遺跡では、石原遺跡の集落例をもとに「奈良・平安時代に住居や掘立柱建物等の建設で掘り込まなければ、当遺跡の小支谷を見下ろす台地の平坦部にも小さなまとまりをもった住居群の存在が確認されたのではないかと考えられる。」と報告されているが、住居跡の分布からは集落構造を想起することは困難である。一方、綱山遺跡では、他の住居跡に先行する第98・100号住居跡が調査区北東端に並立する以外は、住居跡の配置はランダムである。住居の形態・構造の比較や類型との対比などを捨象したところでの検討ではあるが、以上のことから「桜の郷遺跡群」においては、弥生時代後期後半は、数件の住居が比較的まとまりをもって集落を形成し、土師器が主体的に伴出してくる時期には住居分布がランダムになる傾向があると概括できそうである。これは古墳時代前期の住居跡の分布傾向とも共通している。

遺跡群全体に目を移すと、第418図で示すとおり、当遺跡群を構成する4遺跡のうち、綱山・宮後・石原の3遺跡は「鋸歯状」に開析された台地上に位置しており、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の集落はかかる台地上の平坦部を占めて形成されている。

1-②において、土器の様相から「桜の郷遺跡群」内で石原遺跡が他の3遺跡に先行する遺跡であると判断された。すなわち、小橋川右岸の台地上に初めて形成された十王台式の集落は石原遺跡のそれである蓋然性は高い。石原遺跡の十王台1c式期集落の廃絶後、当遺跡群内での集落の動態を考察するためには、まず大戸遺跡群全体の集落変遷をとらえる作業が必要であると考えられる。

酒沼前川岸には石原遺跡に先行する大畑遺跡、矢倉遺跡、大戸下郷遺跡が存在しており、十王台式を使っていた人々が、人口の増加などの要因によって生活の適地を求めて、支流である小橋川を遡ったことが想定されている²⁴⁾。同様に鈴木(薫)氏は、大戸遺跡群において十王台式の細別から大畑遺跡→矢倉遺跡→石原遺跡→大戸下郷遺跡という順序の集落変遷を想定している²⁵⁾。筆者も集落変遷の要因や順序は、おおむね同様の認識をもっている。石原遺跡が大戸下郷遺跡に先行することについては、大戸下郷遺跡の第1号墓塚の存在などからもうなづけるが²⁶⁾、大戸下郷遺跡は土器様相からより広い時代幅が認められ、大戸遺跡群の十王台式集落にあっては、比較的長期間存続した拠点的な集落であったと思われる。あるいは、全景的に見て十王台式の住居跡同士の重複例が少ないことから、該期の住居の存続期間が短く、短期間で移動を繰り返したと想定すれば、もちろん【石原遺跡→大戸下郷遺跡】と【大戸下郷遺跡→石原遺跡】という両方の構図が認められてもよいであろう。さらに、ある単位集団が「分派」することにより、両遺跡の集落が同時存在したことも十分に考えられる。大戸下郷遺跡の土器を十分に検討していないため明確ではないが²⁷⁾、上記のように想定すると、酒沼前川右岸の大畑遺跡から始まった当地域の十王台式集落は、左岸の矢倉遺跡に移動し、酒沼前川左岸沿いに西上し大戸下郷遺跡に広がり、さらにその一部の集団が支流の小橋川を遡って「桜の郷遺跡群」最初の十王台式集落である石原遺跡に至ったと想定されるのである。

石原遺跡は小橋川を遡って最初に現れる「鋸歯状」に開析された小台地である。ここでは住居を移動しながら比較的短期間(十王台1c式~2a式期)しか集落を営んでいなかったと思われる、土器の特徴及び集落分布の状況から石原遺跡の集落が存続している期間に大塚遺跡の該期集落が形成されたものと考えられる。大塚遺跡は、出土している十王台式の時代幅も広く、第418図で見えるように、桜の郷遺跡群内において「鋸歯状」を呈する台地の「菌元」にあたる立地条件からも、当遺跡群の該期の拠点的な集落であった可能性がある。そして、大塚遺跡を拠点として、宮後遺跡と綱山遺跡に集落が広がっていったものと考えられる。したがって、十王台2a~2b式期には、大塚遺跡、綱山遺跡、宮後遺跡の少なくとも3つの

集落が、「桜の郷遺跡群」に並存していたと想定されるのである。

ところで、綱山遺跡からは、古墳時代前期（4世紀代）の住居跡が53軒検出されている。十王台式が共存する住居跡の出土土師器と比較すると、明確な時期差が認められないものも多く、弥生時代後期後半から4世紀末にかけて断絶することなく集落が営まれていたと考えられる。さらに、出土した土師器から十王台式をもつ住居と土師器のみをもつ住居が併存していた可能性も想定される。この状況からは、これまで諸先学が論じているように、中央王権の高圧的な支配状況は認めがたく、土師器を伴った新しい文化が当地域の人々に大きな抵抗なく受容され、十王台式が徐々に淘汰されていく様子がうかがえるのである。

3 結語

弥生時代終末期から古墳時代初頭における綱山遺跡は、土器様相や集落の動態から、十王台2a式から2b式期の集落跡であることが判明した。また、これまで大鋸町遺跡以外に類例のなかった「大鋸町式」土器の好例を提示することができたと考えられる。しかし、断絶することなく引き継がれる古墳時代前期の土器変遷を視野に入れない考察であることや、住居跡の形態等を捨象した中での集落の検討であることなど、残された課題は多い。今後、古墳時代前期の土器との関連の中で、弥生時代から古墳時代への過渡期の様相を明確にしていきたい。

註

- 1) ア、川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2002年3月
- イ、和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒町克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月刊行予定
- ウ、川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 2005年3月刊行予定
- エ、戸田哲也・吉田浩明・麻生順司「茨城県東茨城郡茨城町宮後遺跡発掘調査報告書 14国補関公第1号-51宮後遺跡発掘調査」茨城県教育委員会・玉川文化財研究所 2003年3月
- 2) 長谷川聡・田中幸夫・小野克敏「大塚遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第242集 2005年3月刊行予定
- 3) 村上和彦「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化調査報告書Ⅰ 石原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 4) 前掲1)ウ
- 5) 飯島一生「北関東自動車道（友部～水戸）建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
- 6) 長谷川聡「北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- 7) 近藤恒重「大口下郷遺跡 主要地方道内原尾崎線道路改良1工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第216集 2004年3月
- 8) 鈴木未行「仙湖の辺一「武田式」以前の一十王台式」について」『茨城県史研究』第86号 茨城県立歴史館 2002年2月
- 9) 山内清男「十王台式」『日本先史上器図譜』第1輯 先史考古会 1939年
- 10) ア、鈴木正博「十王台式」理解の為に（1）一分布圏西部地域を中心として」『常総台地』7 常総台地研究会 1976年
- イ、鈴木正博「十王台式」理解のために（2）一箇分の追加1とリュウガイ第Ⅳ群A類土器について」『常総台地』8 常総台地研究会 1976年
- ウ、鈴木正博「十王台式」理解のために（3）一分布圏南部地域の環境（上）一」『常総台地』10 常総台地研究会 1979年
- エ、鈴木正博「鬘簀」研究抄」『婆良岐考古』第4号 婆良岐考古同人会 1982年3月 ほか
- 11) 弥生時代終末期は、県内の遺物の出土状況から、沼田川以北地域の十王台式文化圏、霞ヶ浦周辺地域の上稲吉式文化圏、県

西部地域の「軒屋式文化圏」の3つの文化圏に別して捉えられている。

- 12) 海老沢修「茨城県内出土弥生土器の検討(6)―王台式と伴出する土師器群の考察(1)―附鹿島郡鹿島町岡神遺跡出土土器の分析―」『優良考古』第9号 優良考古同人会 1987年3月
- 13) ア. 弥生時代研究班「茨城後期弥生土器編年の検討(Ⅰ) 王台式土器について」『研究ノート』創刊号 財団法人茨城県教育財団 1992年7月
イ. 弥生時代研究班「茨城後期弥生土器編年の検討(Ⅱ) 王台式土器について」『研究ノート』2号 財団法人茨城県教育財団 1993年7月
ウ. 弥生時代研究班「茨城後期弥生土器編年の検討(Ⅲ) 王台式土器について」『研究ノート』3号 財団法人茨城県教育財団 1994年6月
- 14) 鈴木素行「武田石高遺跡における王台式土器の編年について―「王台式」分析のための基礎的な作業―」『武田石高遺跡旧石器・縄文・弥生時代編』(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第15集 1998年3月
1990年代の鈴木素行氏の王台式の考察については、『武田Ⅱ～Ⅹ』にそれぞれ述べられているが、それらを総括している上記論文を代表文献としてあげる。また、同様の視点からの王台式の分析は、『武田西崎遺跡』(2001)、『はなばり山遺跡』(2003)、『平分山遺跡』(2004)と続いている。
- 15) 鈴木素行「武田西崎遺跡における王台式土器の分析―「小祝式土器」と「武田式土器」の誕生―」『武田西崎遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編』(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第21集 2001年3月
- 16) 共伴の認定については、重複の有無や出土状況等を十分に検討・吟味して、慎重に取り扱っていかねばならないことはいうまでもない。なお、王台式と土師器の共伴事例には、石岡市外山遺跡、大洗町長峰遺跡、水戸市人取町遺跡、同市大塚新地遺跡、ひたちなか市藤ノ果遺跡、同市武田石高遺跡、茨城町宮後遺跡、岡町石原遺跡などが挙げられる。
- 17) 鈴木正博「茨城弥生式の終焉―「王台式」研究序説―」『古代』第100号 早稲田大学考古学会 1995年9月 ほか
- 18) 前掲3) 石原遺跡の報告で使用された年代観の表記であり、同遺跡群として扱う場合、混乱をさけるため本稿でも同様の表記を用いている。なお、一連の「桜の郷遺跡群」に関する報告書では、王台式土器と土師器が共伴する住居跡にこの呼称を用い、王台式土器のみが出土しているものについては「弥生時代後期後半」として区別している。
- 19) 浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年3月
この中で浅井氏は、ひたちなか市藤ノ果遺跡出土土器を例に、「弥生土器は4世紀後葉まで残存し、現時点ではひたちなか市だけで確認できる状況」であり、この時期の土師器と弥生土器の共伴が「ひたちなか市だけに見られる現象なのか、それとも県内全域なのかを資料の増加を待ちながら今後検討していきたい」と述べている。
- 20) 前掲3) 石原遺跡の報告では、底面積が総数85点のうち布目痕57点、木葉痕22点、砂痕7点としているが、本報告では拍出土器を中型中頭形に限定したため、数値に相違が生じた。しかし、木葉痕の比率が他の3遺跡に比して高いことには変わりはない。
- 21) 井上義安「水戸市人取町遺跡(仮称)本吉田第三伴宅団地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書 水戸市大宮町遺跡発掘調査会 1988年12月
- 22) 前掲14)と同じ
- 23) 前掲14)と同じ
- 24) 前掲1)ウ)と同じ
- 25) 鈴木素行「遺跡群として表現される集落の移動―郡川流域の王台式土器と集落」『図説水戸・笠間の歴史』郷土出版社 2004年4月
- 26) 飯島一生氏は、大戸下郷遺跡の第1号墓塚からガラス玉が出土していることに着目し、ガラス玉が「有力者」の死によって次の「有力者」に継承される威信財であるという視点から、王台式最後の墓塚であると予察している。
- 27) 大戸下郷遺跡は、平成16年6月～11月にかけて約6,200㎡が調査され、王台式土器が出土している住居跡が20軒ほど検出されており、平成17年度に整理作業が行われる予定である。これによって、大戸下郷遺跡の土器様相がさらに明確化されると思われる。

参考文献

- ・飯島一生「王台式期における異系土器文化圏との交流―澗沼前川流域における王台式土器と櫛式土器の出土例から―」『領域の研究』阿久津久先生還暦記念事業実行委員会 2003年3月
- ・飯島一生「茨城町矢台遺跡・大畑遺跡―澗沼前川を挟んで対峙する集落―」王台式土器制定60周年記念シンポジウム『茨城県における弥生時代研究の到達点―弥生時代後期の集落構成から―』茨城県考古学協会・王町教育委員会 1999年11月
- ・小玉秀成「茨城県内の弥生後期土器編年の現状と問題点」王台式土器制定60周年記念シンポジウム『茨城県における弥生

- 時代研究の到達点—弥生時代後期の集落構成から— 茨城県考古学協会・土土町教育委員会 1999年11月
- ・鈴木素行『はんぼり山遺跡における十斗台式土器の分析—「小祝式梶巾段階」と「武田式西埴段階」の土器群—』〔はんぼり山遺跡・猿谷津遺跡〕 (財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第27集 2003年3月
 - ・鈴木素行『半分山遺跡における十斗台式土器の分析—「小祝式梶巾段階」と「武田西埴・石高段階」の土器群—』〔半分山遺跡〕 (財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第30集 2004年3月
 - ・山本静男『石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡・大谷津A遺跡・対馬塚遺跡・大谷津B遺跡・大谷津C遺跡・外山遺跡』〔茨城県教育財団文化財調査報告書〕第13集 1982年3月
 - ・小玉秀成編著『特別展霞ヶ浦の弥生土器』玉里村立史料館 2004年10月
 - ・瓦吹堅敏修『大宮の考古遺物—郡珂・久慈の清流にはぐまれた大宮町の先史・古代—』大宮町教育委員会 1995年10月

付 章

綱山遺跡から出土した炭化材の樹種について

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城町に所在する綱山遺跡では、古墳時代前期の遺構が検出されている。このうち、竪穴住居跡の中には、火災住居跡も認められ、住居構築剤などの一部と考えられる炭化材も検出されている。

本報告では、これらの炭化材の樹種同定を行い、用材選択に関する資料を得る。

1 試料

試料は、竪穴住居跡から出土した炭化材16点（試料番号1～16）である。各資料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に記した。

2 方法

木口（横断面）・柃目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡及び走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は、針葉樹1種類（モミ属）、広葉樹5種類（コナラ属コナラ垂属コナラ節クリ・ケヤキ・キハダ・エゴノキ属）とイネ科タケ亜科に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に示す。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

仮道管の早材部から晩材部への遺構は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。傷害樹脂道が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個。放射組織は単列、1～20細胞高。

・コナラ属コナラ垂属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～10細胞幅、1～60細胞高。結晶細胞が認められる。

・キハダ (*Phellodendron aamurense* Ruprecht) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部では2～5列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

・エゴノキ属 (*Syrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2～4個が複合して散在し、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。

・イネ科タケ亜科 (*Gramineae* subfam. *Bambusoideae*)

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。

表2 綱山遺跡の樹種同定結果

番号	遺 構 名	取上番号	用途など	樹 種
1	138号住居跡 (SI-138)	No 1	住居構築材	クリ
2	138号住居跡 (SI-138)	No 3	住居構築材	クリ
3	138号住居跡 (SI-138)	No 4	住居構築材	イネ科タケ亜科
4	138号住居跡 (SI-138)	No10	住居構築材	キハダ
5	138号住居跡 (SI-138)	No16	住居構築材	クリ
6	138号住居跡 (SI-138)	No25	(貯蔵穴)	モミ属
7	138号住居跡 (SI-138)	No26	(貯蔵穴)	コナラ属コナラ亜科コナラ節
8	55号住居跡 (SI-55)	No 3	住居構築材	イネ科タケ亜科
9	55号住居跡 (SI-55)	No 7	住居構築材	コナラ属コナラ亜科コナラ節
10	55号住居跡 (SI-55)	No15	住居構築材	クリ
11	55号住居跡 (SI-55)	No24	住居構築材	ケヤキ
12	55号住居跡 (SI-55)	No32	住居構築材	コナラ属コナラ亜科コナラ節
13	82号住居跡 (SI-82)	No 1	住居構築材	エゴノキ属
14	82号住居跡 (SI-82)	No 2	住居構築材	エゴノキ属
15	82号住居跡 (SI-82)	No 3	住居構築材	エゴノキ属
16	82号住居跡 (SI-82)	No 4	住居構築材	エゴノキ属

4 考察 一 綱山遺跡における用材選択一

3軒の堅穴住居跡から出土した炭化材には、6種類の木材とタケ亜科が認められた。このうち、タケ亜科については、1点がカヤ材としての出土であることや、その材質などを考慮すれば、屋根や壁などに利用されたと考えられる。

樹種同定結果を住居別に見ると、第55号住居跡と第138号住居跡では、クリやコナラ節を中心に、3~4種類の木材が確認されており、類似している。このことから、両住居跡では、同様の用材選択が行われていたと考えられる。一方、第82号住居跡では、全てエゴノキ属であり、他の2軒とは種類構成が異なる。このことから、用材選択が異なっていた可能性がある。このような違いは、住居の規模・用途・建築様式などの違いを反映している可能性がある(橋本ほか, 1996)。

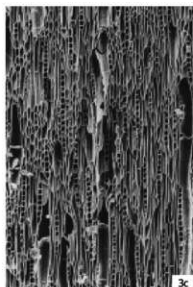
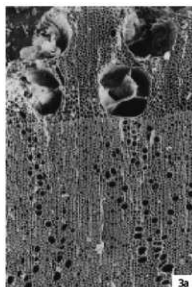
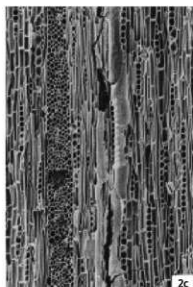
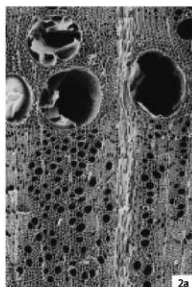
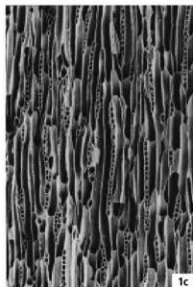
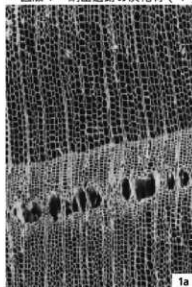
一方、第138号住居跡の貯蔵穴から出土した炭化材のうち、1点は針葉樹のモミ属であった。モミ属は、群馬県渋川市中筋遺跡や福島県三春町深作遺跡で貯蔵穴の蓋材に利用された例が報告されており、板材への加工が容易な材質を考慮した用材選択が指摘されている(バリノ・サーヴェイ株式会社, 1994; 橋本ほか, 1995)。今回の試料についても貯蔵穴内から出土していることから、蓋材の一部の可能性はある。

茨城県でこれまで行われた調査では、沿海地で常緑広葉樹が、内陸部で落葉広葉樹が多くなる傾向が指摘されている(高橋・植木, 1994)。これまでの結果から見れば、今回調査を行った地域は常緑広葉樹が多い傾向がある。しかし、今回の調査では落葉広葉樹を主とし、常緑広葉樹は1点も認められなかった。このことから、少なくとも本遺跡周辺では、落葉広葉樹を主とした用材選択が行われていた可能性がある。この背景には、周辺植生が密接に関わっていると考えられる。今後、さらに調査を行うとともに、古植生についても明らかにしたい。

引用文献

- ・橋本真紀夫・高橋敦・大塚昌彦(1996) 群馬県榛名山東麓地域における縄文時代から平安時代の住居構築材の用材。『日本文化財科学会第13回大会発表要旨集』p.92-93
- ・橋本真紀夫・高橋敦・馬場健司・田中義文(1995) 自然科学分析。渋川市発掘調査報告書第45集「中筋遺跡 第8次・第9次」, p.73-100, 群馬県渋川市教育委員会
- ・バリノ・サーヴェイ株式会社(1994) 深作A遺跡・深作B遺跡から出土した炭化材の樹種。三春町文化財調査報告書第21集「田村西部工業団地関連遺跡調査報告書Ⅱ」, p.257-260, 福島県企業局・三春町教育委員会
- ・高橋敦・植木真吾(1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択。PALYNO, 2, p.5-18, バリノ・サーヴェイ株式会社

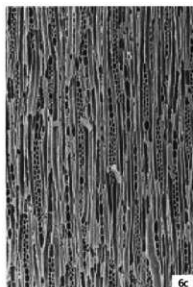
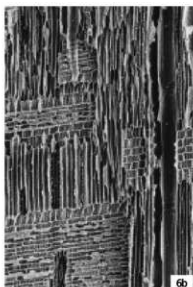
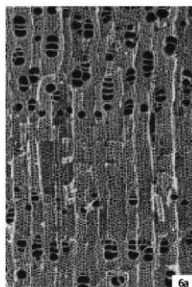
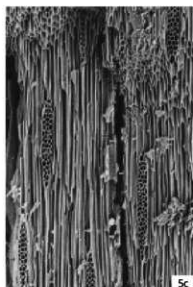
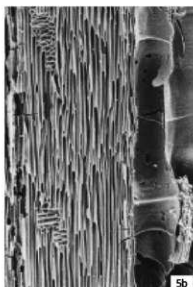
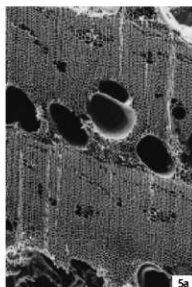
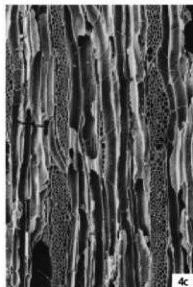
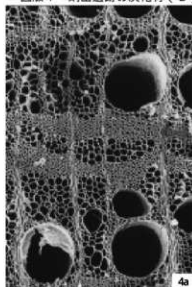
図版1 綱山遺跡の炭化材(1)



1. モミ属 (試料番号10)
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号13)
 3. クリ (試料番号14)
- a: 木口, b: 砵目, c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c

図版1 綱山遺跡の炭化材(2)



4. ケヤキ (試料番号15)
 5. キハダ (試料番号8)
 6. エゴノキ属 (試料番号19)
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

写 真 图 版



遺跡遠景（南上空から）



調査区全景



第 5 5 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 5 5 号 住 居 跡
炭 化 材 出 土 状 况



第 6 1 号 住 居 跡
完 掘 状 况

第81号住居跡
完 掘 状 況



第81号住居跡
遺物出土狀況(1)



第81号住居跡
遺物出土狀況(2)





第98号住居跡
完掘状況



第100号住居跡
完掘状況



第100号住居跡
遺物出土状況

第103号住居跡
完掘狀況



第103号住居跡
遺物出土狀況



第106号住居跡
完掘狀況

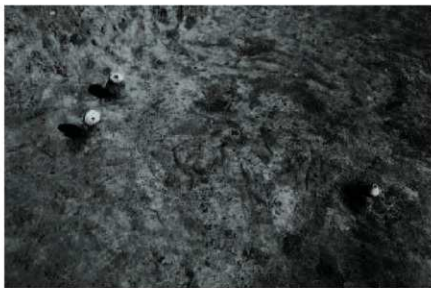




第106号住居跡
遺物出土状況(1)

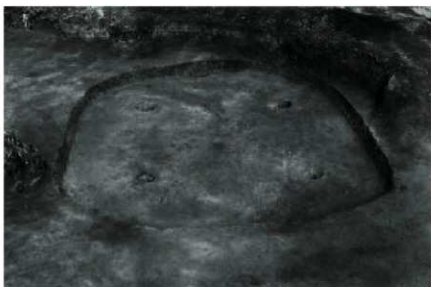


第106号住居跡
遺物出土状況(2)



第106号住居跡
遺物出土状況(3)

第108号住居跡
完掘状況



第108号住居跡
遺物出土状況



第118号住居跡
遺物出土状況(1)





第118号住居跡
遺物出土状況(2)



第124号住居跡
完掘状況



第124号住居跡
遺物出土状況(1)



第124号住居跡
遺物出土状況(2)



第124号住居跡
遺物出土状況(3)



第138号住居跡
完掘状況



第138号住居跡
炭化材出土状況



第138号住居跡
遺物出土状況(1)



第138号住居跡
遺物出土状況(2)

第23号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第28号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
遺物出土状況





第35号住居跡
遺物出土状況



第35号住居跡
曬完掘状況



第37号住居跡
管玉出土状況

第52・53号住居跡
遺物出土状況



第56号住居跡
完掘状況



第56号住居跡
遺物出土状況





第 57 号住居跡
完 掘 状 況

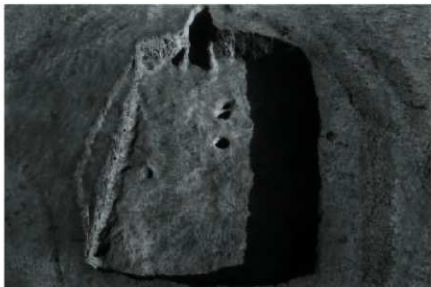


第 60 号住居跡
遺物出土狀況 (1)



第 60 号住居跡
遺物出土狀況 (2)

第63号住居跡
完掘狀況



第63号住居跡
横刀出土狀況



第63号住居跡
竈完掘狀況





第 64 号住居跡
完 掘 状 況



第 64 号住居跡
器 台 出 土 状 況



第 65 号住居跡
完 掘 状 況

第66号住居跡
完掘状況



第69・70号住居跡
完掘状況



第71・72号住居跡
完掘状況





第72号住居跡
遺物出土状況



第74号住居跡
完掘状況



第75号住居跡
遺物出土状況

第75号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第76号住居跡
遺物出土状況(1)



第76号住居跡
遺物出土状況(2)





第 77 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 78 号 住 居 跡
完 掘 状 况



第 78 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 况



第79号住居跡
遺物出土状況(1)



第79号住居跡
遺物出土状況(2)



第82号住居跡
完掘状況



第 8 4 号住居跡
遺物出土狀況



第 8 5 号住居跡
完 掘 状 況



第 8 5 号住居跡
遺物出土狀況

第91号住居跡
遺物出土状況(1)



第91号住居跡
遺物出土状況(2)



第92号住居跡
完掘状況





第93号住居跡
完掘状況



第93号住居跡
遺物出土状況



第94号住居跡
完掘状況

第95号住居跡
遺物出土状況(1)



第95号住居跡
遺物出土状況(2)



第105号住居跡
完掘状況





第105号住居跡
遺物出土状況



第105号住居跡
曬完掘状況



第111号住居跡
遺物出土状況

第113号住居跡
完掘狀況



第117号住居跡
完掘狀況



第119号住居跡
完掘狀況





第121号住居跡
完掘狀況



第121号住居跡
遺物出土狀況



第127号住居跡
完掘狀況

第129号住居跡
遺物出土状況



第131号住居跡
遺物出土状況



第147号住居跡
完掘状況





第 4 号住居跡
遺物出土狀況



第 6 号住居跡
完 掘 状 況



第 11 号住居跡
遺物出土狀況

第20号住居跡
遺物出土状況(1)



第20号住居跡
遺物出土状況(2)



第54号住居跡
完掘状況





第54号住居跡
竈遺物出土状況



第68号住居跡
遺物出土状況



第68号住居跡
竈遺物出土状況

第70号住居跡
完掘狀況



第70号住居跡
遺物出土狀況



第87号住居跡
完掘狀況





第 87 号住居跡
竈遺物出土狀況



第 96 号住居跡
完 掘 状 况



第 116 号住居跡
完 掘 状 况

第125号住居跡
竈完掘状況



第128号住居跡
遺物出土状況

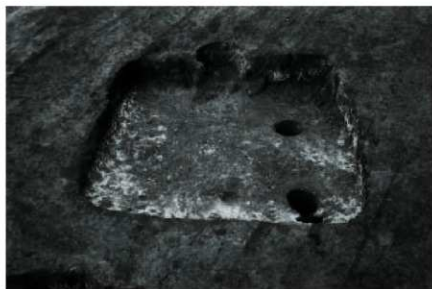


第139号住居跡
遺物出土状況





第 142 号住居跡
完 掘 状 況

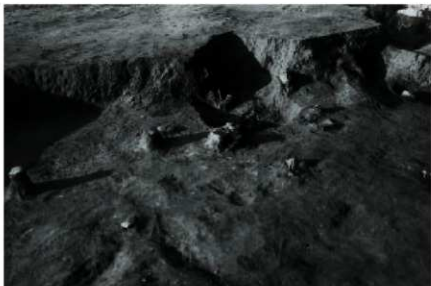


第 1 号住居跡
完 掘 状 況



第 2 号住居跡
完 掘 状 況

第 2 号住居跡
遺物出土狀況



第 8 号住居跡
竈支脚出土狀況



第 13 号住居跡
遺物出土狀況





第 17 号住居跡
遺物出土状況 (1)



第 17 号住居跡
遺物出土状況 (2)



第 21・22号住居跡
完 掘 状 況

第23・24号住居跡
完 掘 状 況



第23・24号住居跡
遺物出土狀況



第24号住居跡
竈遺物出土狀況





第 29 号住居跡
完 掘 状 況



第 34 号住居跡
完 掘 状 況



第 45・46・47号住居跡
完 掘 状 況

第49号住居跡
遺物出土状況



第52号住居跡
鉄製品出土状況



第67号住居跡
遺物出土状況





第80号住居跡
完掘状況



第80号住居跡
盤出土状況



第80号住居跡
竈遺物出土状況

第83号住居跡
完掘状況



第83号住居跡
竈遺物出土状況



第89号住居跡
完掘状況





第102号住居跡
完掘狀況



第104号住居跡
遺物出土狀況



第104号住居跡
坏出土狀況

第104号住居跡
竈遺物出土状況



第110号住居跡
完掘状況



第110号住居跡
遺物出土状況





第122号住居跡
完掘状況



第126号住居跡
完掘状況



第126号住居跡
竈遺物出土状況(1)

第126号住居跡
竈遺物出土状況(2)



第126号住居跡
竈遺物出土状況(3)



第1号方形竪穴遺構
完掘状況





第 1 号掘立柱建物跡確認状況



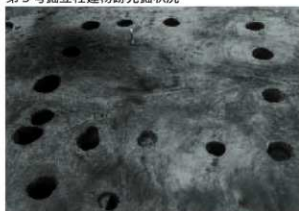
第 2 号掘立柱建物跡完掘状況



第 3 号掘立柱建物跡完掘状況



第 4 号掘立柱建物跡完掘状況



第 5 号掘立柱建物跡完掘状況



第 6 号掘立柱建物跡完掘状況



第 8 号掘立柱建物跡完掘状況



第 12 号掘立柱建物跡完掘状況



第14号掘立柱建物跡確認状況



第15号掘立柱建物跡完掘状況



第16号掘立柱建物跡完掘状況



第17号掘立柱建物跡完掘状況



第22号掘立柱建物跡確認状況



第25号掘立柱建物跡完掘状況



第26・27号掘立柱建物跡確認状況



第34号掘立柱建物跡完掘状況



第36号掘立柱建物跡完掘状況



第38号掘立柱建物跡完掘状況



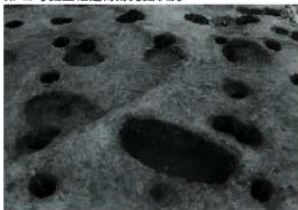
第40号掘立柱建物跡完掘状況



第42号掘立柱建物跡完掘状況



第44号掘立柱建物跡完掘状況



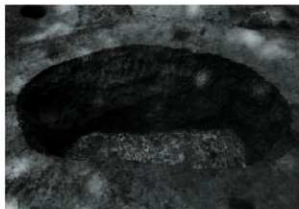
第48号掘立柱建物跡完掘状況



第51号掘立柱建物跡完掘状況



第52号掘立柱建物跡完掘状況



第2号陥し穴完掘状況



第4号陥し穴完掘状況



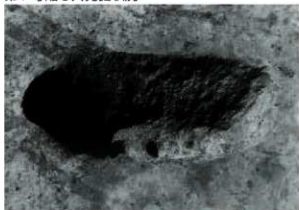
第6号陥し穴完掘状況



第7号陥し穴完掘状況



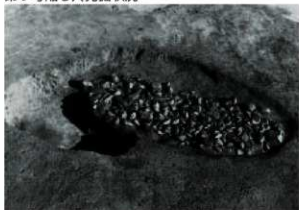
第8号陥し穴完掘状況



第9号陥し穴完掘状況



第254号土坑遺物出土状況



第171号土坑遺物出土状況



第 1 号地下式墳完掘狀況



第 1 号井戸跡完掘狀況



第 1 号炭焼窯跡完掘狀況



第 2 号炭焼窯跡完掘狀況



第 1 号火葬土坑炭化材出土狀況



第 1 号溝跡完掘狀況



第 6 号溝跡完掘狀況



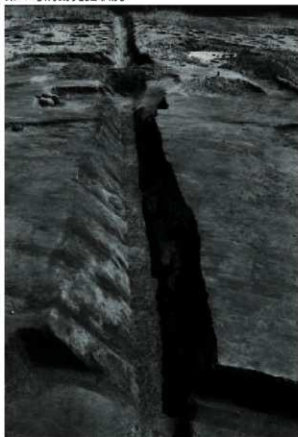
第 8・9 号溝跡完掘狀況



第4号溝跡完掘状況



第5号溝跡完掘状況



第7号溝跡完掘状況



第11号溝跡完掘状況

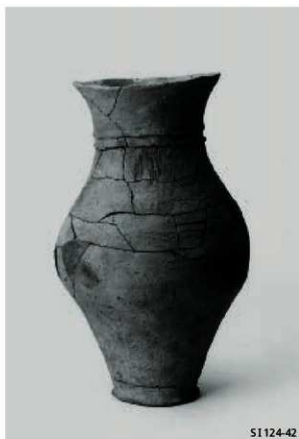
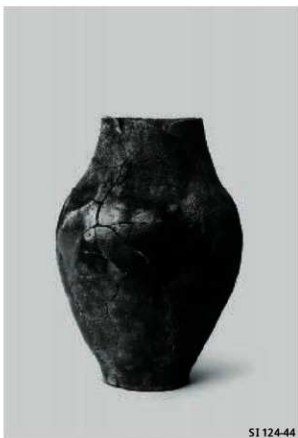


第124号住居跡出土土器

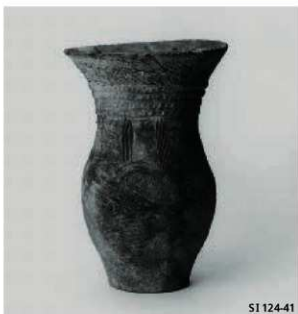


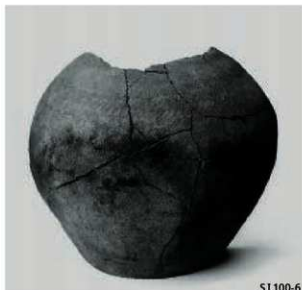
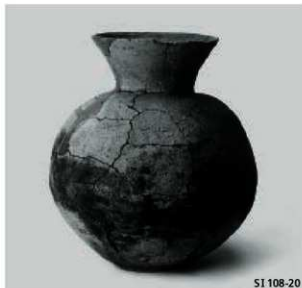
第81号住居跡出土土器

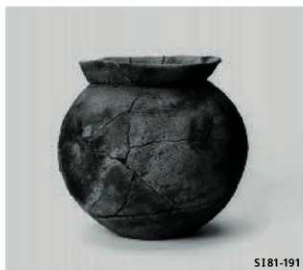




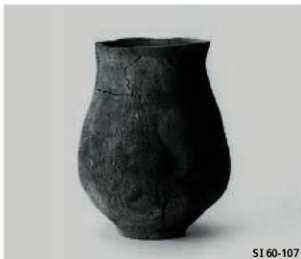






















S1147-289



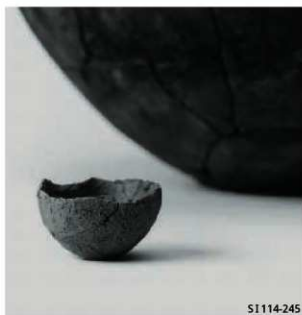
S1147-290



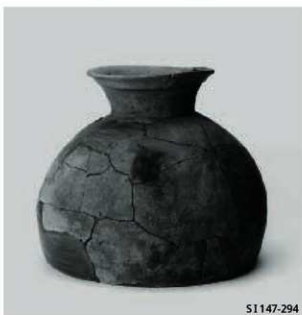
S1129-262



S1147-295



S1114-245



S1147-294





SI 105-219



SI 63-121



SI 63-122



SI 63-120



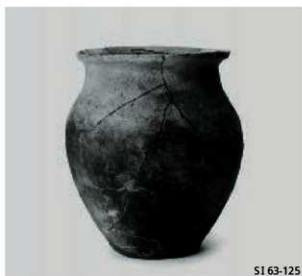
SI 74-154



SI 63-124



SI 74-155

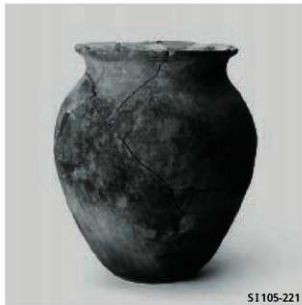


SI 63-125



SI 63-126





第105·123·145·146·149号住居跡，第254号土坑出土土器









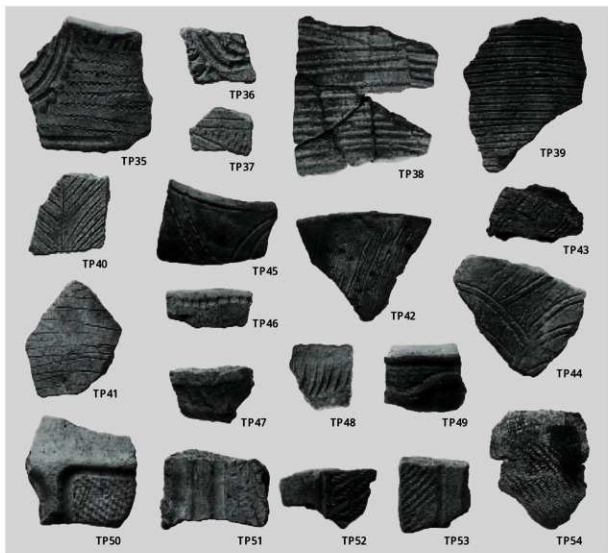




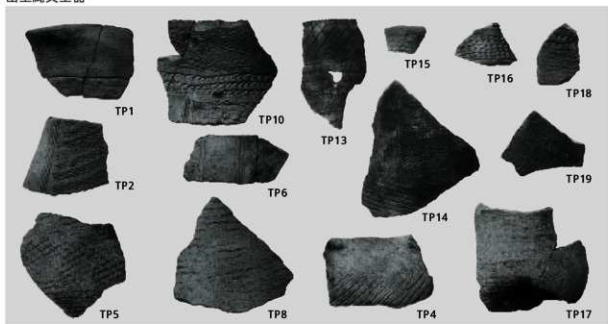








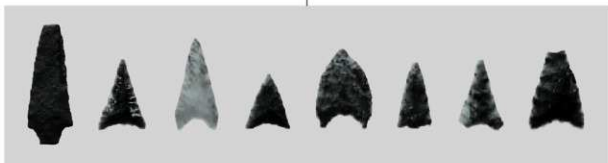
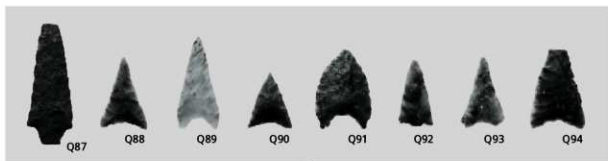
出土繩文土器



出土弥生土器



出土土器（円面硯），瓦，陶器（土管），土製品（支脚），石製品（紡錘車）



SI195-Q42



SI122-Q79



外-Q103



SI164-Q26



SI193-Q41



SI134-Q54



SI13-Q66



SI122-Q80



SI122-Q81



SI138-Q74



SI152-Q75



SI151-Q82

出土石器（有茎尖頭器・石鏃・砥石）



弥生 - 古墳時代住居跡出土紡錘車



SI 118-DP10



SI 118-DP11



SI 118-DP13



SI 118-DP14



SI 138-DP134



SI 106-DP102



SI 118-DP12

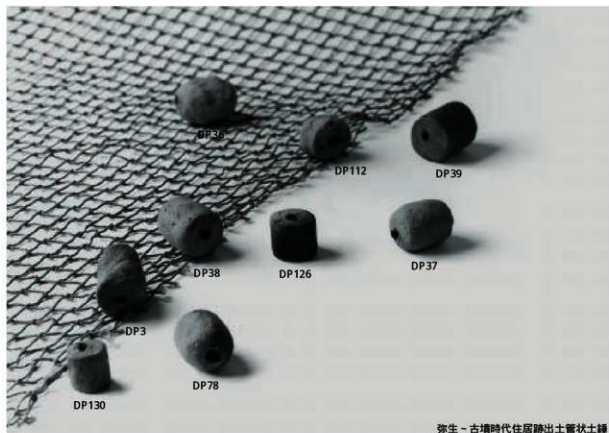


SI 106-DP101



SI 106-DP104

出土土製品（紡錘車）



出土土製品 (管状土錘・紡錘車)



弥生 - 古墳時代住居跡出土球状土錘



S164-DP53



S192-DP96



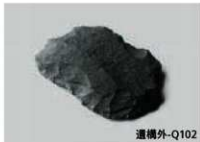
S1114-DP117



S1137-Q15



S1106-Q43



遺構外-Q102



S1118-Q7

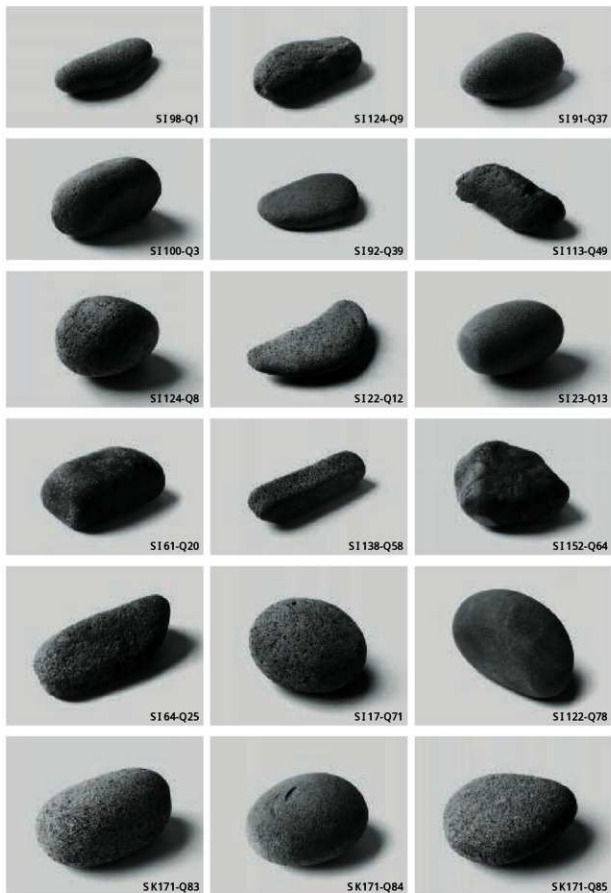


S19-Q10

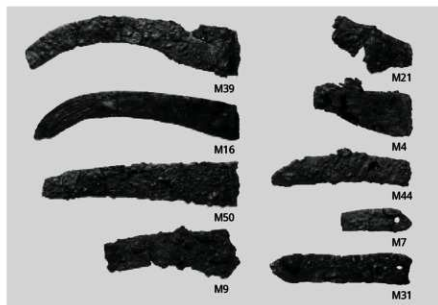
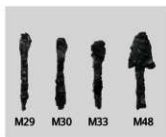
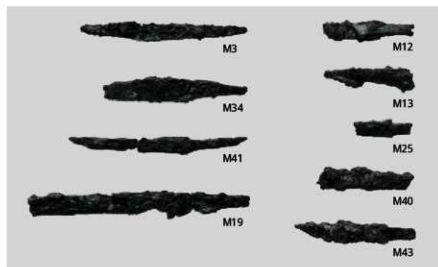


S1138-Q60

出土土製品（球状土錘・紡錘車），出土石器・石製品（管玉・磨製石斧・打製石斧・軽石製品・磨石）



出土石器（磨石・敲石）



出土鉄製品（刀子・鋸・鉋・紡錘車・鎌・手鎌・横刀・箱刀・小札）

茨城県教育財団文化財調査報告第243集

綱山遺跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

下巻

平成17(2005)年3月22日 印刷

平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所
〒970-8024 いわき市平北白土西ノ内13番地
TEL 0246-23-9051